

2023年度

医学部教育要項

名古屋市立大学

目 次

1	医学部医学科の皆さんへ	1
2	医学部の沿革	2
3	シラバスを読むにあたって	3
	(1) シラバスの意義	3
	(2) シラバスに記載されている項目の説明	3
4	医学部・医学部附属病院の理念と目的、基本方針	5
	(1) 医学部	5
	(2) 名古屋市立大学病院	5
	(3) 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター	5
	(4) 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	5
	(5) 名古屋名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院	6
	(6) 名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院	6
5	卒業時の到達目標と教育課程の可視化	7
	(1) 卒業時到達目標（卒業時コンピテンシー、ディプロマ・ポリシー）	7
	(2) カリキュラム・ポリシー	8
	(3) カリキュラム・マップ	9
	(4) カリキュラム・ツリー	10
6	履修要項	11
	(1) カリキュラムの特徴	11
	(2) 日程・時間割	13
	ア 学事日程	13
	イ 1年 授業時間割	14
	ウ 2年4月～12月 授業時間割	15
	エ 2年1月～12月 授業時間割	16
	オ 3年1月～4年12月 授業時間割	17
	カ 4年1月～5年10月 授業時間割	18
	キ 5年11月～6年 授業時間割	20
	(3) 授業時間・講義室	21
	(4) 専門教育授業科目	21
	ア 授業科目一覧	21
	イ 医学教育モデル・コア・カリキュラム対応一覧	23
	ウ 選択制コース	28
	(5) 試験・成績評価	29
	ア 出席要件	29
	イ 成績評価	29
	ウ 試験の種類別	30
	エ 成績疑問票	30
	オ 試験における不正行為の禁止	30
	カ レポート課題作成時の注意	31
	(6) 進級要件・卒業要件	31
	(7) 受講態度・講義資料について	32
	(8) 授業評価、学修成果の達成度評価	33
	(9) 暴風警報発令時等における授業・試験について	33
	(10) 実習参加資格にかかる抗体検査・ワクチン接種及び保険加入について	35
7	学生支援・指導体制	36
	(1) 学生委員会・学年担任	36
	(2) 連絡担当教員制度（M1・M2）	36
	(3) メンター制度（臨床実習学生）	37
8	その他の学生生活上の案内・注意事項	38
	(1) 医学部事務室について	38
	(2) 学生への連絡方法	38
	(3) 学生から事務室への連絡方法	38
	(4) 講義室、研修室の利用	38
	(5) ロッカーの利用	39
	(6) 学内無線LAN（ncuwifi）	39
	(7) 学生自治会・学生代表委員会について	39
	(8) 住所・氏名等の変更	39
	(9) 学生証について	40
	(10) 証明書、学割の発行について	40
	(11) 駐輪許可登録	40
	(12) 休学・復学・退学	40
	(13) 遺失物・拾得物	40
	(14) 自家用車の乗入れの禁止	40
9	専門教育科目の内容	41
	(1) 1年次	42
	総合医学コース	43
	社会医学コース	45
	(2) 基礎医学（2年次4月～12月）	48
	解剖学コース	49
	肉眼解剖学	49
	組織学・発生学・神経解剖学	49
	生化学コース	52
	物質と代謝	52
	分子と細胞	52
	生理学コース	55
	植物的機能系	55
	動物的機能系	57
	総合医学コース	58
	水平統合基礎	58

	行動科学・地域医療学コース	コミュニティ・ヘルスケア基礎	60
		行動科学	62
	研究能力養成コース	学術論文入門	64
(3)	臨床基礎医学（2年次1月～3年次12月）		66
	感染微生物コース	医動物学	67
		細菌学	69
		ウイルス学	71
	免疫学コース	免疫学	73
	病理学コース	病態病理／臨床病理	75
	薬理学コース	薬理学	77
	社会医学コース	法医学	79
		医学・医療倫理	81
	行動科学・地域医療学コース	神経科学	83
		疼痛科学	85
		コミュニティ・ヘルスケア応用	87
	研究能力養成コース	Scientific Writing and Presentation	89
		先端研究	91
		遺伝医学	93
	臨床能力養成コース	救命救急	95
	総合医学コース	水平統合病態	97
(4)	臨床医学（3年次1月～4年次12月）		100
	臨床医学コース	血液・造血器・リンパ系	101
		神経系（神経内科）	103
		（脳神経外科）	105
		皮膚系	107
		運動器系・リハビリテーション	109
		循環器系	111
		呼吸器系	113
		消化器系・内視鏡	115
		腎・尿路系（腎臓内科）	117
		（泌尿器科）	119
		生殖機能（泌尿器科）	121
		生殖機能（婦人科）	123
		妊娠と分娩	125
		乳房	127
		内分泌・栄養・代謝系	129
		眼・視覚系	131
		耳鼻・咽喉・口腔系	133
		精神系	135
		臨床感染症学	137
		成長と発達／発生	139
		麻酔科学・集中治療医学	141
		疼痛医学（痛みと行動科学）	143
		食事と栄養療法	145
		放射線等を用いる診断と治療	147
		輸血と移植	149
		膠原病	151
		臨床腫瘍学	153
		救急科	155
		漢方医学	157
		臨床処方学	159
	社会医学コース	予防医学基礎	161
	臨床能力養成コース	基本臨床技能実習	163
		臨床診断推論	165
	行動科学・地域医療学コース	コミュニティ・ヘルスケア発展	167
(5)	6年次		170
	社会医学コース	予防医学応用1	171
		予防医学応用2	173
		法医学	175
	※臨床実習・選択制臨床実習の内容については、「臨床実習の手引き」を参照すること。		
10	規程・資料集		177
	(1)	医学部履修規程（2022年1月発布版）	177
	(2)	医学教育モデル・コア・カリキュラム	188
	(3)	成績疑問票	190
	(4)	再（追）試験受験願・試験欠席届	192
	(5)	名古屋市立大学医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項	193
	(6)	共用試験についての留意事項	194
	(7)	卒業試験 総合客観試験について	195
	(8)	名古屋市立大学医学部 臨床実習資格基準	196
	(9)	名古屋市立大学医学部 医療系実習参加資格基準	196
	(10)	アンプロフェッショナルな行動・態度のみられた学生の評価と対応	197
	(11)	定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針	199
	(12)	SNS利用時の注意事項	201
	(13)	名古屋市立大学医学部学生代表委員会規約	202
11	キャンパスマップ		206
	(1)	桜山（川澄）キャンパス建物配置図	206
	(2)	医学部基礎教育棟	207
	(3)	医学研究棟	208
	(4)	西棟	209

1. 医学部医学科の皆さんへ

名古屋市立大学における医学部教育は文部科学省から公表されている医学教育モデル・コア・カリキュラムに沿う形で各講義・実習が構成されています。また、本学医学部が設定した学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）として①科学者としての医師、②臨床家としての医師、③社会における医師、④プロフェッショナルとしての医師、の4つを掲げています。これらのディプロマ・ポリシーに合わせた医師を育てるために、それぞれについて卒業時到達目標（卒業時コンピテンシー）を設定しています。医学部教育においては、これらの目標に到達できるような教育を提供することが教員の責務であり、学生諸君にとっては「何を教えられたか」ではなく、「何ができるようになったか」というものが大事であるということです。このような教育を学修成果基盤型教育と呼んでいます。カリキュラム自体は基礎医学から臨床医学へと徐々に積み上げる形で構成されていますが、大学受験で経験してきた詰め込み型学習ではなく、明確化された到達目標に合わせて何が理解できるようになったか、何が実施できるようになったかを常に意識しながら講義に臨んでいただきたいと思います。それらの学習目標については医学部教育要項 9 ページに卒業時到達目標として記載されていますので、ぜひ熟読しておいてください。

名古屋市立大学独自の教育プログラムとして「医薬看連携地域参加型学習」があります。これは医学部、薬学部、看護学部の医療系3学部を持つ特徴を生かした多職種連携教育カリキュラムで、3学部の1年生が混成した10～11人からなるグループを構成して、医療保健福祉施設、学校、学区連絡協議会、地域振興会などの地域コミュニティ機関を担当、あるいは山間部・離島などに出向いて地域における諸問題、ニーズを見出し、それらについて学生ならではの視点から課題解決に向けた活動を行うものです。この活動を通じて将来の医療チームの一員としての自覚、医師としての社会貢献、プロフェッショナリズムを修得することを目指しています。また、3年次には全員が基礎医学講座のいずれかに所属して、最先端の医学研究を経験する基礎自主研修が組まれています。基礎自主研修では、学生諸君が基礎研究に触れる事で研究のプロセスを理解し、自身の科学的思考力を鍛えることに重点を置いています。医学領域においてみられる種々の現象に対して疑問を感じ、それを解明するためにどのような解析を行えば良いのか、得られた結果をどのように解釈するのか、というプロセスを実践することで論理的な思考能力を鍛錬することができます。このような倫理的思考能力は将来臨床医として活躍する場においても常に必要とされるものです。

現在の医学教育では国際基準に合わせる形で臨床実習が72週間あります。臨床実習に臨むにあたって、十分な医学知識・技能・態度を有していることを判断するために共用試験である①医学知識を問うコンピューターを用いた試験（computer-based test, CBT）、②基本的な診察技能、患者に対する態度等を問う診療参加型臨床実習前客観的臨床能力試験（pre-clinical clerkship objective structured clinical examination, pre-CC OSCE）に合格して、student doctorの資格を得なければなりません。今年度からCBT、pre-CC OSCEは公的化（国家試験化）されます。すなわち、今までは各大学がそれぞれの合格基準を設定していましたが、今年度からは全大学で統一した合格基準で判定されることになります。また、卒業時には診療参加型臨床実習後 OSCE（Post-CC OSCE）に合格する必要があります。これらは全て、学生諸君が卒業後に行う臨床研修をスムーズに開始できるようにするために卒前の臨床実習を底上げする形で充実させることを目的に設定されています。

医師は患者の命を預かる重責のある職業であり、そのためにはヒトに対する優しさ、思いやりを持つと同時に診療のための優れた知識・技能が必須です。また、医学発展のための探究心も不可欠です。患者に信頼される優れた医師になるためにも、本学ディプロマ・ポリシーを常に意識しながら勉学に励んでくれることを期待します。

2023年3月

名古屋市立大学医学部長 高橋 智

2. 医学部の沿革

- 1943年4月 名古屋市立女子高等医学専門学校開校
- 1948年4月 名古屋女子医科大学開学
- 1949年10月 名古屋市議会において名古屋女子医科大学と名古屋薬科大学を統合して、名古屋市立大学とする決議案
- 1950年4月 名古屋市立大学設置(旧制医学部入学定員40名)
- 1951年3月 名古屋市立女子高等医学専門学校閉校
- 1952年4月 新制医学部医学科設置(入学定員40名)
- 1955年4月 医学部進学課程設置に伴い、同課程および薬学部一般教育系列の教育を行う教養部を設置
- 1958年9月 医学部を田辺キャンパスから川澄キャンパスに移転
- 1959年5月 旧制医学研究科に学位論文審査権附与
- 1960年11月 医学部図書館を附属病院内から川澄キャンパスへ移転
- 1961年3月 旧制医学部および同研究科廃止
- 1961年4月 大学院医学研究科(博士課程)設置
- 1963年4月 医学部医学科入学定員を60名に増員
- 1966年11月 附属病院を改築、新病院(川澄キャンパス)にて診療開始
- 1975年4月 医学部医学科入学定員を80名に増員
- 1975年9月 医学部図書館・講堂完成
- 1977年6月 基礎教育棟完成
- 1981年5月 附属病院増築工事完成
- 1987年4月 医学部分子医学研究所発足
- 1992年12月 医学研究科実験動物研究教育センター完成
- 1996年3月 医学研究科・医学部研究棟完成
- 2000年4月 医学研究科の専攻を再編し、入学定員を27名から52名に増員
- 2002年4月 大学院部局化
- 2004年1月 附属病院の病棟・中央診療棟が稼働開始
- 2006年4月 名古屋市立大学の独立行政法人化
- 2007年5月 附属病院の外来診療棟が稼働開始
- 2008年4月 医学研究科修士課程(入学定員10名)を設置
- 2009年4月 医学部の入学定員を92名に増員
- 2010年4月 医学部の入学定員を95名に増員
- 2012年5月 附属病院の東棟(喜谷記念がん治療センター)稼働開始
- 2014年11月 不育症研究センターを設置
- 2015年4月 医学部の入学定員を97名に増員
- 2015年10月 医学研究科・医学部未来プランを策定
- 2017年1月 先端医療技術イノベーションセンターを設置
- 2019年10月 脳神経科学研究所を開設
- 2021年4月 名古屋市立東部・西部医療センターを名古屋市立大学医学部附属病院化
- 2023年4月 名古屋市立緑市民病院、名古屋市厚生院附属病院を名古屋市立大学医学部附属病院化

3. シラバスを読むにあたって

(1) シラバスの意義

シラバスは、個々の授業科目の目的、内容、目標、予定、成績評価の方法など、授業の概要を示したものである。各授業科目は、医学部の教育理念・目標に沿って、年次ごとに開講されているが、6年間の教育課程における個々の授業科目の目的、学修内容、到達目標、成績評価基準等を明示することによって、教育課程の内容を保証するとともに、学生が、いつ、何を、何のために、どのようにして学び、どこまで到達するべきかを知る学修指針として重要な役割を果たす。以下の点を理解した上でシラバスを活用し、高い学修効果をあげるように心がけてほしい。

- ①各授業を受ける前に、シラバスには必ず目を通し、その内容を理解した上で臨むこと。
- ②シラバスの到達目標は、「能動的に学ぶ目標」であり、「受動的に教えられる」ものではない。意欲的な学修態度を持ち、自ら課題を発見し、解決する力を身につけることが必要である。授業で理解が十分できなければ、教員へ積極的に質問すること。
- ③「到達目標」として記載された事柄については、学生自らが説明でき、実践できることが求められる。学生が「良医」となるために身に付けなければならないものは、単なる知識にとどまらず、技能・態度を含めた多角的な能力である。
- ④示された評価法により、学生は「到達目標」に示された能力を身につけることができたかを測られる。各授業科目でどのような評価を受けるかを十分に理解すること。
- ⑤名古屋市立大学医学部の教育課程は、学生が「良医」となるために必要な能力、卒業時到達目標に示された17項目の能力を、6年間を通して身につけられるよう、一貫した形で編成されている。卒業時の到達目標に示された17項目の能力について、現在の自分がどこまで到達しているのかを確認しながら学修をすすめること。

(2) シラバスに記載されている項目の説明

授業目的・目標	当該授業科目を学ぶ目的と一般目標
キーワード	授業科目の概要を理解しやすくするための、授業で扱う主なトピックスに関するキーワード
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	当該授業科目が、4領域17項目の卒業時到達目標のどの目標の修得に関連しているかを示している。
学修到達目標	学生が、この授業科目を修得した時点で身につけておかなければならない能力とそのレベルを具体的に記述している。また、医学教育モデル・コア・カリキュラムの該当項目についても記載している。
成績評価基準	・秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上） ・合格／不合格 により成績を評価する。

授業概要	到達目標を踏まえた、授業の中で行うことの概要
授業計画	授業回ごとの授業内容や担当教員
授業時間外の学修	課題を課して次回までに提出するなど、授業時間外の学修として教員が学生に望むこと。
成績評価方法	小テスト、課題レポート、中間試験、期末試験、実習態度等、学修到達目標に対する達成度をどのように評価するか。
教科書・テキスト	指定の教科書、参考書。教科書を使用しない場合はその旨を記載。
参考文献	学修上の参考となる文献等
履修上の注意事項	受講する上での注意事項、授業中の態度や遅刻、途中退出の取扱い、資料の配布方法、課題提出のルール、持ち物、服装など。
履修者への要望事項	事前に学んでおくとい分野や、基礎知識を得るために読んでおくとい文献等、学生に望むこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、PBL、TBL、体験学習、ロールプレイなど、単なる講義でない授業方法を実施する場合の内容。
連絡先・オフィスアワー	学生が教員に質問・相談できる時間や、連絡先を記載。 ※教員を訪問する際には、原則として事前連絡を行うこと。
実務経験を生かした教育の取り組み	令和2年度から開始された「授業料減免及び給付型奨学金制度」で必要な実務経験のある教員による授業科目の配置。
備考	学生へのメッセージ、科目の補足情報等
関連 URL	履修にあたって参考になるウェブサイトの URL

4. 医学部・医学部附属病院の理念と目的、基本方針

本学医学部生が所属する名古屋市立大学医学部及びその附属3病院についての理念と目的、基本方針を示す。

(1) 医学部

教育研究上の目的

- (1) 人間味にあふれ、深い医学知識と技術を備えた医師を育成すること
- (2) 人類の未来に貢献する医学研究を行い、その成果を社会に還元すること
- (3) 名古屋都市圏の中核医育機関として地域住民の健康と福祉増進に貢献できる医師を育成すること

人材の養成に関する目的

- (1) 科学者としての医師を養成すること
- (2) 臨床家としての医師を養成すること
- (3) 社会における医師を養成すること
- (4) プロフェッショナルとしての医師を養成すること

(名古屋市立大学人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に関する規程)

(2) 名古屋市立大学病院

理念

- ・ 地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、高い専門性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成します

基本方針

- ・ 名古屋都市圏の中核医療機関として、高度先進かつ先端医療を提供し、市民の健康と福祉を増進します
- ・ 高度情報化のもとに開かれた医療を提供し、情報公開と医療安全に努めます
- ・ 救急・災害医療センターを開設し、救急・災害医療機能を強化します
- ・ 医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します
- ・ 優れた医学研究の推進を通じて、社会に貢献します

(3) 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター

基本理念

- ・ 安全かつ高度な医療を提供し、市民のいのちと健康を守るとともに優れた医療人を育成します

基本方針

- ・ 心臓血管・脳血管疾患などに対する高度・専門医療の充実に努めます
- ・ 救命救急センター・災害拠点病院としての機能を果たします
- ・ 第二種感染症指定医療機関としての機能を果たします
- ・ 地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します
- ・ 医学教育を充実し、優れた医療人を育成するとともに、医学の発展に寄与する研究及び情報発信を行います

(4) 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター

理念

- ・ 地域に根差した大学病院として高度かつ安心な医療を提供するとともに優れた医療人を育成します

基本方針

- ・ 公立大学病院の使命を自覚し、安心安全で質の高い医療を提供します
- ・ がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターとして、がん医療、小児・周産期医療の充実に努めます
- ・ 地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します
- ・ 充実した医学教育のもと、人間味豊かな優れた医療人を育成します
- ・ 医学研究を推進し、新しい医療の創出を進めます

(5) 名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院

理念

- ・地域の健康未来を創造する大学病院として、安全で高度な医療の提供とともに地域医療の持続的発展に貢献する医療人を育成します

基本方針

- ・急性期医療及び回復期医療をワンストップで提供し、「治し支える医療」を実践します
- ・安全で高度かつ先進的な医療の創出とともに、地域医療のニーズに的確・迅速に応えます
- ・地域包括ケアシステムの深化・発展に寄与し、地域との調和及び共生を目指します
- ・「地域を診る心」と「常に学ぶ心」を大切にする誠実で優れた医療人を育成します
- ・先制的かつ集学的な予防医学研究の推進により健康社会の実現に貢献します

(6) 名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院

理念

- ・「健康寿命日本一の名古屋」を目指す医療を地域と連携して提供するとともに、百寿社会に資する先端研究を行い、優れた医療人を育成します

基本方針

- ・横断的な診療を担うセンター機能の提供による先駆的な医療を提供します
- ・自立・自活や生活の質(QOL)の向上に向けて、心身機能回復・維持を目指した医療を提供します
- ・地域包括ケアの拠点として臨床・イノベーションを推進します
- ・高い専門性と倫理観を持ち、医療・介護を支える優れた人材を育成します
- ・健康長寿に資する臨床研究とデータサイエンスに取り組みます

5. 卒業時の到達目標と教育課程の可視化

(1) 卒業時到達目標（卒業時コンピテンシー、ディプロマ・ポリシー）

卒業時到達目標（卒業時コンピテンシー）とは、各学生が卒業時に身につけておくべき能力を示したものであり、同時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）として、この能力を身につけた者に学位を授与することを規定している。

本学医学部学生が卒業時点において身につけているべき能力を4領域に分けて示す。当学部のカリキュラムは、これらの4領域を各学年で学習し、4領域の能力が到着目標に向かってバランス良く向上することを目指している（卒業時コンピテンシー）。

医学部では、人間味にあふれ、深い医学知識と技術を備えた医師を養成するという教育上の目的に鑑み、以下の能力を有すると認められた者に対し、卒業を認定し、学士(医学)の学位を授与します（ディプロマ・ポリシー）。

領域Ⅰ 科学者としての医師

- a ヒトの正常な構造、機能、行動および疾病の病因・病態を理解、研究し、医学の発展に貢献することができる。
- b 臨床データや文献等の情報を吟味し、その妥当性や適用の有無を決定することができる。
- c 基本的な臨床手技を行うことができる。
- d 科学的知識や科学的理解の限界を認識し、全ての科学的知見は常に更新される性質のものであることを理解できる。

領域Ⅱ 臨床家としての医師

- a 患者・医師関係の意義を理解し、良好な関係を築くことができる。
- b 医療面接や系統的な身体診察によって臨床所見や兆候を捉え、それらを解釈し、適切な検査や治療法を選択できる。
- c 重要な医学的知見や医療情報を、さまざまな立場の人に対し適切に説明、発表することができる。
- d 医療情報の記録、管理を適切に行うことができる。
- e 医療における安全性を理解し、適切な危機管理ができる。

領域Ⅲ 社会における医師

- a 様々な生活環境や国および世界の健康、疾病の動向を評価し、対処できる。
- b 個人および集団の健康を規定する因子を考察し、健康増進、疾病予防の方策を立案できる。
- c 保健、医療、福祉に関する法や制度を社会的動向の中で理解し、活用することができる。
- d 多職種連携による地域包括ケアシステムの構築に貢献できる。

領域Ⅳ プロフェッショナルとしての医師

- a プロフェッショナルとして人間愛と倫理性に溢れ、かつ冷静な行動をとることができる。
- b 多職種と協調して行動し、必要な時にリーダーシップを発揮することができる。
- c 自分の身体的、精神的状況を把握し、ストレスに適切に対応して、必要な時には率直に支援を求めることができる。
- d 継続的に自身の医学知識、医療技術の向上に務めることができる。

(2) カリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーは、教育課程の編成・実施方針を示したものである。

ディプロマ・ポリシーで示した医師としての能力の以下の4領域

- I 科学者としての医師
- II 臨床家としての医師
- III 社会における医師
- IV プロフェッショナルとしての医師

を各学年で巡回しつつ学修します。これにより、各領域の能力をバランス良く徐々に高め、学修目標を達成します。

1年次では、領域Iとして豊かな人間性の陶冶と幅広い教養を身につけるため、教養教育科目および専門科目としての医学入門を通じて科学としての医学を学ぶための基礎を形成します。領域IIとして医薬看連携地域参加型学習を通じ医療者としての基本技能を修得します。領域IIIとして医薬看連携地域参加型学習を通じ地域医療での課題解決をテーマとする学修を行うとともに、医学情報学の学修により必要な情報処理能力を修得します。領域IVとして一般教養科目及び医学入門を通じて医師に相応しい素養を養います。

2～3年次では、領域Iとして基礎医学、臨床基礎医学を学びます。さらに3年次の基礎自主研修を通じて、医師に求められる科学者としての堅実な基盤と広い視野を形成します。また、医学英語を学び、科学者としての研究能力に必要な英語力を修得します。領域IIとして救急救命処置を学修します。領域IIIとして法医学、行動科学、コミュニティ・ヘルスケアを学ぶと共に、社会医学領域の実践的な活動を経験します。領域IVとして医学・医療倫理を学修します。

3年次後半から4年次では、領域Iとして臨床医学を学び、基本的な医学知識を診療活動に参加できるレベルまで高めます。領域IIとして基本医療技能をさらに高め、医療系大学間共用試験（CBT、OSCE）により診療実習に参加できるレベルを担保します。領域IIIとして社会医学を学び、社会と医学との関わりを理解します。領域IVとして医学・医療の様々な側面の学修を通じ、医師に求められる姿勢や態度を学びます。

4年次後半から5年、6年次では、すべての診療科における診療参加型臨床実習および社会医学実習、選択制の診療参加型臨床実習を行います。これらの実践を通じ、領域I～IVの能力をディプロマ・ポリシーが求めるレベルまで総合的に高めます。

実践

PBL・TBLなどのアクティブ・ラーニング方式を導入し、学生の主体的な学修を促します。

4年次後半から6年次では、学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら、医師としての職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な内容を学修する診療参加型臨床実習を行います。

学修成果の評価方法

必要とされる知識・技能・態度の評価は、筆記試験、レポート、ポートフォリオ、共用試験（CBT、OSCE、Post-CC OSCE）、中間発表等の形成的評価、ピア評価などを用いて実施します。

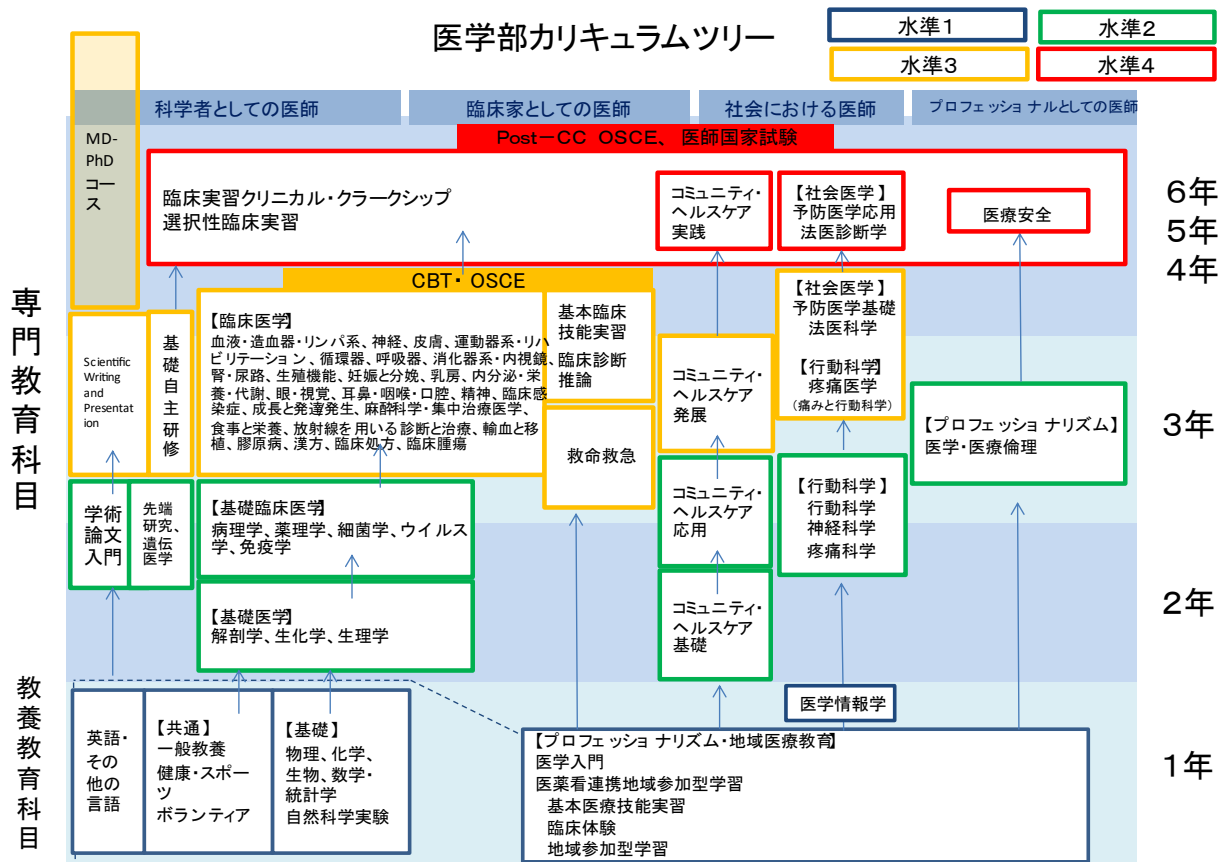
(3) カリキュラム・マップ

カリキュラム・マップは、各授業科目と卒業時到達目標に示した17項目の能力の対応を示したものである。

名古屋市立大学カリキュラムマップ																	
		医学部学士課程															
分類	科目名	I 科学者としての医師				II 臨床家としての医師				III 社会における医師				IV プロフェッショナルとしての			ナンバリング
		a ヒトの病原因・病態を理解し、研究し、医学の発展に貢献することができる。	b 臨床データや文献等の情報を吟味し、その妥当性や適用の有無を決定することができる。	c 重要な医学的知見や医療情報を、さまざまな立場の人に対し適切に説明・発表することができる。	d 科学的知識や科学的理解の限界を認識し、全体的な科学的知見を整理することができる。	a 患者・医師関係の意義を理解し、良好な関係を築くことができる。	b 医療面接や系統的な身体診察によって所見や病候を捉え、それらを解釈し、適切な検査や治療法を選択できる。	c 基本的な臨床手技を行うことができる。	d 医療情報の記録・管理を適切に行うことができる。	e 医療における安全性を理解し、適切な危機管理ができる。	a 個人および集団の健康を規定する因子を考察し、健康増進・疾病予防の方策を立案できる。	b 様々な生活環境や国および世界の健康、疾病の動向を評価し、対処できる。	c 社会的動向の中で理解し、活用することができる。	d 多職種連携による地域包括ケアシステムの構築に貢献できる。	a 倫理性に溢れ、かつ冷静な行動をとることができる。	b 多職種と協調して行動し、必要な時にリーダーシップを発揮することができる。	
関連する項目には○を、より強く関連する項目は◎を付している。																	
1学年 専門教育	医学入門				○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医学情報学		◎	○	○	○			○	○			○	○			○
2学年 専門教育	解剖学 (内眼解剖学)	◎		○	○												
	解剖学 (組織学・発生学・神経解剖学)	◎		○	○												
	物質と代謝	◎		○	○												
	分子と細胞	◎		○	○												
	植物の機能系	◎		○	○												
	動物の機能系	◎		○	○												
	水平統合基礎	◎		○	○												
	学術論文入門		◎	◎	○			○									○
	コミュニティ・ヘルスクエア基礎 (IPE)							○			○	○	○	◎	○	◎	○
	3学年 専門教育	病態病理/臨床病理	◎		○	○				○	○				○	○	○
薬理学	◎		○	○					○	○			○				
法医学	○		○	○								◎	◎			○	
神経科学	◎		○	○												○	
疼痛科学	◎		○	○					○	○						○	
医学・医療倫理				○	○		○		○	○		◎	◎			○	
コミュニティ・ヘルスクエア応用 (IPE)							○		○	○	○	◎	◎		○	○	
Scientific Writing & Presentation		◎	◎	○					○	○						○	
先端研究		○	◎	◎						○	○				◎	○	
救命救急	○	○	○	○				◎	○	○				◎	○	○	
水平統合病態	○	○	○	○				○	○	○	○	○		○	○	○	
4学年 専門教育	医動物学	◎	○	○	○												○
	細菌学	◎	○	○	○												○
	ウイルス学	◎	○	○	○												○
	免疫学	◎	○	○	○					○	○				○	○	○
	基礎自主研修	◎	◎	◎	◎												○
	遺伝医学	◎		○	○												○
	血液・造血器・リンパ系	◎	○	○	○					○					○		○
	神経系 (神経内科)	◎		○	○			◎	○	○							○
	神経系 (脳神経外科)	◎	○	○	○			◎	○	○					○		○
	皮膚系	◎		○	○			◎	○	○							○
	運動器系/リハビリテーション	◎		○	○			◎	○	○			○		○		○
	循環器系	◎		○	○			◎	○	○							○
	呼吸器系	◎		○	○			◎	○	○					○		○
	消化器系・内視鏡	◎		○	○			◎	○	○					○		○
	腎・尿路系 (腎臓内科)	◎	○	○	○			◎	○	○							○
	腎・尿路系 (泌尿器科)	◎	○	○	○			◎	○	○							○
	生殖機能 (泌尿器科)	◎	○	○	○			◎	○	○							○
	生殖機能 (婦人科)	◎	○	○	○			◎	○	○							○
	妊娠と分娩	◎	○	○	○			◎	○	○					○		○
	乳房	◎	○	○	○			◎	○	○							○
内分泌・栄養・代謝系	◎	○	○	○			◎	○	○							○	
5・6学年 専門教育	眼・視覚系	◎		○	○												○
	耳鼻・咽喉・口腔系	◎		○	○			◎									○
	精神系	◎	○	○	○			◎	○	○			○	○	○	○	○
	臨床感染症学									○	○						○
	成長と発達/発生	◎	○	○	○			◎	○	○					○		○
	麻酔科学・集中治療医学	◎		○	○			◎	○	○							○
	食事と栄養療法																○
	放射線を用いる診断と治療	◎							○	○	○						○
	輸血と移植										○						○
	膠原病								◎								○
	漢方医学		○		○			◎							○		○
	臨床処方学							◎	○	○							○
	臨床腫瘍学								○								○
	救急科			○	○									○			○
	疼痛医学 (痛みと行動科学)	○		○	○		◎							○			○
	臨床診断推論		○				◎										○
	予防医学基礎		○								○	◎	○	○	○	○	○
コミュニティ・ヘルスクエア発展 (IPE)							○					◎	◎	○	○	○	
基本臨床技能実習/OSCE							◎	◎	◎							○	
臨床実習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
コミュニティ・ヘルスクエア実践 (IPE)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
予防医学応用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
法医学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
選択性臨床実習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

(4) カリキュラム・ツリー

カリキュラム・ツリーは、6年間の医学教育の学修の順序や、授業科目間の系統性を図示したものである。



2021年12月改訂

6. 履修要項

(1) カリキュラムの特徴

ア. 学修成果基盤型教育

名古屋市立大学医学部では、医学生が卒業時に達成する学修成果を 4 領域・17 項目の能力として設定し、この能力を修得するために、各学年で 4 領域を巡回しつつ徐々に能力を目標水準に近づける構造のカリキュラムを実施している。このような「どれだけの能力を身につけたか」を重視する教育は、学修成果基盤型教育（Outcome Based Education）と呼ばれ、「どれだけの時間をかけた教育か」を重視するプロセス基盤型教育と対比される。

イ. 医学教育モデル・コア・カリキュラムへの準拠

医学教育モデル・コア・カリキュラムとは、全国医科大学・医学部共通で取り組むべき「コア」の教育内容を示したものであり、本学医学教育は、このモデル・コア・カリキュラムを基本としてカリキュラムを編成している。コアとなる内容はカリキュラム全体の概ね 3 分の 2 であり、残り 3 分の 1 は大学独自のカリキュラムであるが、その重要性は同等であることに留意する必要がある。

資料 医学教育モデル・コア・カリキュラム 参照

ウ. 医学教育分野別評価適合

医学・医療のグローバル化を背景に、医師が国境を超えて活動することが求められる現代においては、医学教育の質が国際基準に達しているかの保証が求められており、日本では全国の医科大学・医学部が日本医学教育評価機構（JACME）による「医学教育分野別評価」を受審することとされている。名古屋市立大学医学部は、2019 年に受審し、評価基準に適合していることが認定された。

エ. 診療参加型臨床実習

医学部 4 年 1 月から開始する臨床実習は、実際の医療現場に入り、臨床の各診療科で実際の患者さんの診察・治療を体験する。この臨床実習では、単に教員の実施している治療を見学するのではなく、学生が診療チームの一員となって、実際の診療業務を分担しながら、医師の職業的な知識・思考法・技能・態度を学ぶ。

オ. 学部横断型プログラム・

・コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム

エイジング・イン・プレイス（AIP）社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしての使命感と多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムである。本プログラムは、学部横断型プログラムとして看護学部生、薬学部生も受講することができる。本プログラムに含まれる授業科目は、下記のとおりである。

科目	配当年次	開設学部
医薬看連携地域参加型学習 （インタープロフェッショナル・ヘルスケア論）	1	教養教育
コミュニティ・ヘルスケア基礎	2	医学部専門教育
コミュニティ・ヘルスケア応用	3	
コミュニティ・ヘルスケア発展	4	
コミュニティ・ヘルスケア実践	4・5	

・慢性疼痛患者の生きる力を支える人材育成プログラム

「慢性的な痛み」に対して、通常の薬物療法などの身体的治療だけでなく、認知行動療法をはじめとする精神心理的介入と医師、看護師、心理士、理学療法士などによる多職種によるアプローチが有用であることから、慢性疼痛に関する統合的治療を学び、治療者・援助者としての能力を身につけるためのプログラムである。

本プログラムは、医学部・看護学部・薬学部及び人文社会学部が連携して実施し、学部横断型プログラムとして看護学部生、薬学部生も受講することができる。本プログラムに含まれる授業科目は、下記のとおりである。

科目	配当年次	開設学部
医薬看連携地域参加型学習 (インタープロフェッショナル・ヘルスケア論)	1	教養教育
疼痛科学	3	医学部専門教育
痛みと行動科学	3・4	
臨床実習 (いたみセンター実習)	5・6	

カ. 統合型カリキュラム

医療における問題解決には、様々な領域の知識・技術の活用が求められるため、1科目で複数の専門領域を統合して学ぶカリキュラムを設定している。領域別統合カリキュラム、臓器別統合カリキュラムを取り入れている科目は下記のとおりである。

科目名	配当年次
水平統合基礎	2
水平統合病態	3
神経科学	3
臨床医学コースに属する科目	4

(2) 日程・時間割

ア. 学事日程

区分	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	行事	
2023	1月		5日 授業開始 ガイダンス	6日 授業開始 ガイダンス	10日 実習開始	10日 実習再開		
	2月						推薦入試 前期入試	
	3月							
	4月	5日 入学式 6日 学部別ガイダンス 12日 授業開始	3日 ガイダンス 4日 授業開始	21日～ 春季休業	18日～ 春季休業	18日～春季休業 27日 実習再開	18日～春季休業 総合客観試験1 27日 実習再開	5日入学式
	5月							
	6月				セメスター2試験			
	7月			基礎自主研修 ガイダンス	セメスター3試験			
	8月	5日～ 夏季休業	25日～	19日～	29日～	5日～	29日～	夏オープンキャンパス
	9月	25日 授業開始	28日 授業開始	28日 授業開始 (基礎自主研修)	28日 授業開始 23, 24日 OSCE	21日 実習再開	総合客観試験1再試 28日 プライマリ・ケア実習 社会医学	
	10月		17日 解剖感謝式	基礎自主研修	21, 22日 OSCE予備日 (兼追再試験)	実習後半開始	7日 Post-CC OSCE	川澄祭 秋オープンキャンパス
	11月		基礎自主研修発表会	基礎自主研修 発表会	セメスター4試験 16日 CBT セメスター再試験		4日 Post-CC OSCE追再試験 総合客観試験2 国家試験出願手続	
	12月		進級判定 14日～	進級判定 12日～	CBT再試験 進級判定 臨床実習事前教育 白衣授与式 16日～	23日～		
2024	1月	10日 授業開始	5日 (予定) 授業開始	5日 (予定) 授業開始	9日 (予定) 実習開始	9日 (予定) 実習再開	卒業判定	
	2月						国家試験受験 推薦入試 前期入試	
	3月	進級判定					卒業式 卒業式	

イ. 1年 授業時間割

	月					火					水					木					金															
	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4											
前期	27					28					29					30					31															
	3	新入生合同ガイダンス				4	英語力調査				5	入学式				6	学部別ガイダンス				7															
	10	合宿オリエンテーション				11					12	教養教育				13	教養教育				14	医薬看連携地域参加型学習		15	教養教育											
	17					18					19	教養教育				20	教養教育				21	医薬看連携地域参加型学習		22	教養教育											
	24													25					26							27										
	1													2					3	憲法記念日				4	みどりの日				5	こどもの日						
	8					9					10					11					12	医薬看連携地域参加型学習		13	教養教育											
	15					16					17															18										
	22					23					24															25										
	29	教養教育				30	教養教育				31	教養教育				1	教養教育				2	医薬看連携地域参加型学習		3	教養教育											
	5					6					7					8																				
	12					13					14	教養教育				15	教養教育				16			教養教育												
	19					20					21					22					23	医薬看連携地域参加型学習		24	教養教育											
	26					27					28					29																				
	3					4					5					6																				
	10					11					12					13					14	医薬看連携地域参加型学習		15	教養教育											
	17	海の日(授業開講日)				18	教養教育				19	教養教育				20	教養教育				21			教養教育												
	24	教養教育				25	教養教育				26	教養教育				27	教養教育				28			教養教育												
	31	教養・前期期末試験				1	教養・前期期末試験				2	教養・前期期末試験				3	教養・前期期末試験				4	教養・前期期末試験														
	7	夏季休業(～9/24)				8	夏季休業				9	夏季休業				10	夏季休業				11	山の日														
	14																					15					16					17				
	21																					22					23					24				
	28																					29					30	前期追試験・再試験(8/30-9/1)				31	前期追試験・再試験(8/30-9/1)			
	4	夏季休業				5	夏季休業				6	夏季休業				7	夏季休業				8	夏季休業														
	11	夏季休業				12	夏季休業				13	夏季休業				14	夏季休業				15	夏季休業														
	18	敬老の日				19	夏季休業				20	夏季休業				21	夏季休業				22	夏季休業														
	25	教養教育		医薬看連携地域参加型学習			26	教養教育				27	教養教育				28	教養教育				29	医学入門		30	教養教育										
	2	スポーツの日(授業開講日)					3																			4					5					
9			10																						11					12						
16			17																						18					19						
23			24					25					26					27	文化の日(授業開講日)																	
30			31					1					2																							
6			7					8					9																							
13	教養教育		14					15					16					17	医学入門																	
20			21					22	補講日(通常授業なし)		23	勤労感謝の日				24	教養教育																			
27			28					29	教養教育				30	教養教育				1			医学入門															
4			5					6	教養教育				7	教養教育				8	教養教育																	
11			12					13	教養教育				14	教養教育				15	教養教育																	
18			19					20	教養教育				21	教養教育				22	教養教育																	
25	冬季休業				26	冬季休業				27	冬季休業				28	冬季休業				29	冬季休業															
1	冬季休業				2	冬季休業				3	冬季休業				4	冬季休業				5	冬季休業															
8					9					10					11					12	医学入門		13	共通テスト準備												
15	教養教育				16	教養教育				17	教養教育				18	教養教育				19			教養教育													
22					23					24					25					26			教養教育													
29	教養 後期期末試験				30	教養 後期期末試験				31	教養 後期期末試験				1	教養 後期期末試験				2	教養 後期期末試験															
5			医学情報		6			医学情報		7			医学情報		8					9	医入 試験															
12	振替休日				13					14					15					16																
19	後期追試験・再試験				20	後期追試験・再試験				21	後期追試験・再試験				22	後期追試験・再試験				23	天皇誕生日															
26					27					28					29					1	医入 再試															
3	4				5					6					7					8																

ウ. 2年4月～12月 授業時間割

	月				火				水				木				金								
	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4
4	27					28					29					30					31				
	3	M2オリエンテーション				4	組織	肉眼			5	入学式				6	組織	肉眼			7	組織実習	CHC		
	10	生理	生化			11	生化				12	組織	肉眼			13					14				
	17					18					19		骨実習			20					21				
	24					25					26		解剖実習			27			解剖実習		28			解剖実習	
5	1					2			解剖実習		3	憲法記念日				4	みどりの日				5	こどもの日			
	8					9					10	組織	解剖実習			11	生化	B肝検査			12	組織実習	解剖実習		
	15					16					17					18		解剖実習			19				
	22					23					24					25					26				
	29					30					31					1					2				
6	5					6					7	組織実習				8					9				
	12					13					14					15					16				
	19					20					21					22					23			B肝接種1	
	26					27					28					29					30			自習	
7	3	自習	解剖1本試			4		生理			5		生理			6		組織実習			7	生理			
	10	生理	生化			11					12					13					14	生理		自習	
	17	海の日				18	自習	生化1本試			19					20	生理	B肝接種2			21	自習			
	24	組織実習試験				25					26					27					28				
8	31					1					2					3					4				
	7					8					9					10					11	山の日			
	14					15					16					17					18				
	21					22					23					24					25				
9	28	自習	生理中間試験			29	生化	行動科学			30	生理	行動科学			31	生理	自習			1	自習	2解中間試験		
	4	生化実習				5	生化実習				6	生化実習				7	生化実習			8	生理				
	11	生理				12	生化実習	生化予備			13	生化実習	生化予備			14	生理			15					
	18	敬老の日				19	自習	生理			20	生理				21	生理実習			22	生理実習				
	25	生化実習				26	生化実習				27	生化実習				28	生化実習			29	生理	自習			
10	2	自習	解剖2本試			3	生化実習	生化予備			4	生化実習	生化予備			5	生理実習			6	生理実習				
	9	スポーツの日				10	生理	生理実習討論			11	生理	生理実習討論			12				13	生理予備	自習			
	16	自習	生化2本試			17	自習	解剖感謝式			18	生理実習				19				20	生理実習				
	23	生理実習討論	生理予備			24		水平統合			25	生理実習討論	自習			26	生理実習予備			27	川澄祭準備				
	30	川澄祭後片付け				31						1	論文入門	水平統合			2	水平統合	自習			3	文化の日		
6	自習	植物本試			7	アクティブ学習				8					9	アクティブ学習			10	水平統合予備	自習				
13		動物本試			14					15		アクティブ学習			16					17	論文入門	アクティブ学習			
11	20		解剖1再試			21					22	自習	生化1再試			23	勤労感謝の日			24	基礎自主研修成果発表会				
	27		解剖2再試			28	アクティブ学習	B肝接種3			29	論文入門	アクティブ学習			30	自習	生化2再試			1	論文入門	アクティブ学習		
	4	アクティブ学習				5	自習	植生再試			6					7	アクティブ学習			8	自習	動生再試			
	11	アクティブ学習	論文入門			12	アクティブ学習				13					14					15				

水平統合基礎：循環器系、呼吸器系、消化器系、腎泌尿器系、神経系、内分泌系

※アクティブ学習：論文入門における課題学習、自主学習を指す

エ. 2年1月～3年12月 授業時間割

	月				火				水				木				金								
	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4					
1	26					27					28					29					30				
	2					3					4					5	ウイルス	細菌			6	薬理		細菌	
	9	成人の日				10	ウイルス	法医			11	病理		病理		12					13				
	16	細菌		免疫		17					18			B肝検査		19					20				
	23					24					25			病理		26			細菌実習		27			細菌実習	
2	30					31					1					2					3				
	6					7					8					9					10				
	13					14					15					16					17				
	20					21	医動物				22	免疫	医動物			23	天皇誕生日				24			細菌	
	27	ウイルス実習				28	ウイルス実習				1	免疫		病理実習		2	免疫				3				
3	6	医動物				7	医動物	免疫	法医		8	病理				9	免疫		免疫実習		10				
	13		細菌本試			14	医動物				15	病理		病理実習		16	免疫実習				17				自習
	20	自習		薬理中間		21	春分の日				22					23					24				
	27					28					29					30					31				
	3					4					5	病理実習				6	救命救急	薬理実習			7	薬理		薬理	
4	10	法医	SciWriting			11	病理	法医			12	病理		病理		13					14				自習
	17	自習	ウイルス本試			18					19					20					21				薬理
	24	SciWriting	神経科学			25	病理実習				26			病理実習		27					28				自習
	3					4					5	病理実習				6	救命救急	薬理実習			7	薬理		薬理	
5	1	自習	免疫本試			2	自習				3	憲法記念日				4	みどりの日				5	こどもの日			
	8	細菌再試	神経科学			9	病理	法医実習			10	病理実習				11	先端研究	神経科学			12	薬理予備		CHC	
	15	SciWriting				16	病理実習				17	病理				18					19				
	22	ウイルス再試				23	病理				24	病理実習		病理実習		25					26	救命救急(M1実習)		自習	
6	29	自習	薬理本試			30	病理実習				31					1	自習				2			CHC	
	5	神経科学予備	SciWriting			6			先端研究		7			病理予備		8	疼痛科学				9			自習	
	12	自習	法医試験			13	病理	SciWriting			14	病理				15	病理実習	病理実習			16	病理予備		CHC	
	19	SciWriting	水平統合			20	病理予備	水平統合			21	病理実習	医療倫理			22			病理予備		23	医療倫理			
7	26	免疫再試	遺伝医学			27	医療倫理	遺伝医学			28	病理実習試験	水平統合予備			29	病理予備	遺伝医学			30			自習	
	3	自習	神経科学本試			4	病理実習試験	水平統合			5	自習	水平統合予備			6	自習	医療倫理試験			7	水平統合予備			
	10		病理2本試			11	基礎自主研修オリエン				12	基礎自主研修オリエン				13	自習				14	自習			
	17	海の日				18	病理1本試	自習			19					20					21				
8	24					25					26					27					28				
	31					1					2					3					4				
	7					8					9					10					11	山の日			
	14					15					16					17					18				
9	21					22			法医再試		23					24					25			薬理再試	
	28	基礎自主研修開始				29					30					31					1				
	4					5					6					7					8				
	11					12					13					14					15				
10	18	敬老の日				19					20					21					22				
	25					26					27					28					29				
	2					3					4					5					6				
	9	スポーツの日				10					11					12					13				
11	16					17					18					19					20				
	23					24					25					26					27				
	30					31					1					2					3	文化の日			
	6					7					8					9					10				
12	13					14					15					16					17				
	20					21					22					23	勤労感謝の日				24	基礎自主研修成果発表			
	27					28			病理2再試		29	レポート作成期間				30	レポート作成期間				1	医療倫理再試	レポート作成		
12	4					5			病理1再試		6					7					8	神経科学再試			
	11	レポート提出期限				12	進級判定				13					14					15				

オ. 3年1月～4年12月 授業時間割

		月				火				水				木				金				土				日										
		日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4
1	26	冬季休業					27	冬季休業					28	冬季休業					29	冬季休業					30	冬季休業										
	2	冬季休業					3						4	呼吸器				呼吸器	5	循環器				臨床推論	6	腎・尿				呼吸器	腎・尿					
	9	成人の日					10	急性期医療					11						12						13											
	16	腎・尿				循環器	17						18						19						20											
	23						24	救急				呼吸器	25	循環器					26						27											
2	30						31						1					基本臨床技能実習	2	救急				腎・尿	循環器	3										
	6						7	痛みと行動科学					8	腎・尿					9	呼吸器				救急	10											
	13	循環器					14						15						16	呼吸器					17	腎・尿				呼吸器	腎・尿					
	20						21	急性期医療					22					S1試験	23	天皇誕生日					24					S1試験						
	27	生殖機能					28	神経				乳房	1	食事と栄養療法					2	消化器					3	消化器										
3	6						7						8						9						10											
	13						14						15	消化器					16						17											
	20						21	春分の日					22	春期休業					23	春期休業					24	春期休業										
	27						28						29						30						31											
	3	生殖機能					4	神経				乳房	乳房	5	神経				CHC	6	神経				消化器	消化器	7	内分泌								
4	10						11					基本臨床技能実習	12					基本臨床技能実習	13						14	内分泌										
	17	各種機能				CHC	18						19						20						21											
	24	妊娠と分娩					25						26						27						28	神経										
	1						2						3	憲法記念日					4	みどりの日					5	こどもの日										
	8	妊娠と分娩					9	神経				基本臨床技能実習	10	神経				基本臨床技能実習	11	神経				基本臨床技能実習	12	社会医学										
5	15						16						17						18						19	内分泌				内分泌						
	22						23	処方学				社会医学	24	処方学					25	神経					26	社会医学										
	29	社会医学					30	社会医学					31						1					S2試験	2					S2試験						
	5	成長と発達				耳鼻	6	精神				成長と発達	7	眼・視覚					8	耳鼻				眼・視覚	9	社会医学				社会医学						
	12						13						14						15						16											
6	19						20						21						22						23											
	26						27						28	基本臨床技能実習					29	社会医学					30											
	3						4						5						6						7	社会医学										
	10						11						12						13						14											
	17	海の日					18	精神					19	成長と発達					20						21					成長と発達						
7	24	社会医学試験					25						26						27					S3試験	28					S3試験						
	31	夏季休業					1	夏季休業					2	夏季休業					3	夏季休業					4	夏季休業										
	7						8						9						10						11	山の日										
	14						15						16						17						18											
	21						22						23						24						25											
8	28	基本臨床技能実習					29	運動器・リハ				漢方	30	漢方					31	皮膚				膠原病	1	基本臨床技能実習										
	4	運動器・リハ				皮膚	5					輸血	6	血液・造血					7						8	放射線等を用いる診断と治療										
	11						12						13						14						15											
	18	敬老の日					19						20	技能実習				総復習	21	OSCE事前準備					22	OSCE事前準備										
	25	運動器・リハ				皮膚	26						27	血液・造血					28	皮膚				膠原病	29	皮膚				放射線等を用いる診断と治療						
9	2						3	運動器・リハ				輸血	4	腫瘍学					5	血液・造血				臨床推論	6	放射線等を用いる診断と治療										
	9	スポーツの日					10	腫瘍学					11	腫瘍学				感染	12	腫瘍学					13											
	16	腫瘍学					17	感染					18	感染					19	腫瘍学				血液・造血	20	CBT体験テスト				T-SPOT検査						
	23						24						25						26						27	川澄祭				川澄祭						
	30						31						1					S4試験	2					S4試験	3	文化の日										
10	6						7						8						9						10											
	13						14						15	(CBT事前準備)					16	C B T					17											
	20	セメスター1・2再試					21	セメスター1・2再試					22	セメスター1・2再試					23	勤労感謝の日					24											
	27	セメスター3・4再試					28	セメスター3・4再試					29	セメスター3・4再試					30						1											
	4						5						6	(CBT再試事前準備)					7	CBT追再試					8											
11	11	臨床実習事前教育					12	臨床実習事前教育・進級判定					13	電子カルテ講習					14	電子カルテ講習					15	白衣授与式										
	18	冬季休業					19	冬季休業					20	冬季休業					21	冬季休業					22	冬季休業										
	25						26						27						28						29											
	1						2						3						4						5											
	8	成人の日					9						10						11						12											

セメスター1

セメスター2

セメスター3

OSCE
セメスター4

力. 4年1月~5年10月 授業時間割

2023年1月~10月 (臨床実習前半 4年次1月~3月/5年次4月~10月)																												
2023年	月	火	水	木	金	肝 膵 化 器 内 科	消 化 器 外 科	呼 吸 器 外 科	呼 吸 器 内 科	心 臓 血 管 外 科	心 臓 血 管 内 科	脳 神 經 外 科	脳 神 經 内 科	産 婦 人 科	小 児 外 科	小 児 内 科	救 急 内 科	総 合 内 科	病 理 学 ・ 感 染 病 学 ・ 検 査 科	放 射 線 医 学 部 御 査 御 料								
01/02	~	01/06	01/02	01/03	01/04	01/05	01/06	冬季休業																				
01/09	~	01/13	01/09	01/10	01/11	01/12	01/13	A	B	C	D2	D1	E1	E2	F	G	H1	H2	I	1								
01/16	~	01/20	01/16	01/17	01/18	01/19	01/20	A	B	C	D2	D1	E1	E2	F	G	H1	H2	I	2								
01/23	~	01/27	01/23	01/24	01/25	01/26	01/27	A	B	C	D1	D2	E2	E1	F	G	H2	H1	I	3								
01/30	~	02/03	01/30	01/31	02/01	02/02	02/03	A	B	C	D1	D2	E2	E1	F	G	H2	H1	I	4								
02/06	~	02/10	02/06	02/07	02/08	02/09	02/10	I	A	B	C2	C1	D1	D2	E	F	G1	G2	H	5								
02/13	~	02/17	02/13	02/14	02/15	02/16	02/17	I	A	B	C2	C1	D1	D2	E	F	G1	G2	H	6								
02/20	~	02/24	02/20	02/21	02/22	02/23	02/24	I	A	B	C1	C2	D2	D1	E	F	G2	G1	H	7								
02/27	~	03/03	02/27	02/28	03/01	03/02	03/03	I	A	B	C1	C2	D2	D1	E	F	G2	G1	H	8								
03/06	~	03/10	03/06	03/07	03/08	03/09	03/10	H	I	A	B2	B1	C1	C2	D	E	F1	F2	G	9								
03/13	~	03/17	03/13	03/14	03/15	03/16	03/17	H	I	A	B2	B1	C1	C2	D	E	F1	F2	G	10								
03/20	~	03/24	03/20	03/21	03/22	03/23	03/24	春季休業																				
03/27	~	03/31	03/27	03/28	03/29	03/30	03/31	H	I	A	B1	B2	C2	C1	D	E	F2	F1	G	11								
04/03	~	04/07	04/03	04/04	04/05	04/06	04/07	H	I	A	B1	B2	C2	C1	D	E	F2	F1	G	12								
04/10	~	04/14	04/10	04/11	04/12	04/13	04/14	G	H	I	A2	A1	B1	B2	C	D	E1	E2	F	13								
04/17	~	04/21	04/17	04/18	04/19	04/20	04/21	G	H	I	A2	A1	B1	B2	C	D	E1	E2	F	14								
04/24	~	04/28	04/24	04/25	04/26	04/27	04/28	G	H	I	A1	A2	B2	B1	C	D	E2	E1	F	15								
05/01	~	05/05	05/01	05/02	05/03	05/04	05/05	GW																				
05/08	~	05/12	05/08	05/09	05/10	05/11	05/12	G	H	I	A1	A2	B2	B1	C	D	E2	E1	F	16								
05/15	~	05/19	05/15	05/16	05/17	05/18	05/19	F	G	H	I2	I1	A1	A2	B	C	D1	D2	E	17								
05/22	~	05/26	05/22	05/23	05/24	05/25	05/26	F	G	H	I2	I1	A1	A2	B	C	D1	D2	E	18								
05/29	~	06/02	05/29	05/30	05/31	06/01	06/02	F	G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D2	D1	E	19								
06/05	~	06/09	06/05	06/06	06/07	06/08	06/09	F	G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D2	D1	E	20								
06/12	~	06/16	06/12	06/13	06/14	06/15	06/16	E	F	G	H2	H1	I1	I2	A	B	C1	C2	D	21								
06/19	~	06/23	06/19	06/20	06/21	06/22	06/23	E	F	G	H2	H1	I1	I2	A	B	C1	C2	D	22								
06/26	~	06/30	06/26	06/27	06/28	06/29	06/30	E	F	G	H1	H2	I2	I1	A	B	C2	C1	D	23								
07/03	~	07/07	07/03	07/04	07/05	07/06	07/07	E	F	G	H1	H2	I2	I1	A	B	C2	C1	D	24								
07/10	~	07/14	07/10	07/11	07/12	07/13	07/14	D	E	F	G2	G1	H1	H2	I	A	B1	B2	C	25								
07/17	~	07/21	07/17	07/18	07/19	07/20	07/21	D	E	F	G2	G1	H1	H2	I	A	B1	B2	C	26								
07/24	~	07/28	07/24	07/25	07/26	07/27	07/28	D	E	F	G1	G2	H2	H1	I	A	B2	B1	C	27								
07/31	~	08/04	07/31	08/01	08/02	08/03	08/04	D	E	F	G1	G2	H2	H1	I	A	B2	B1	C	28								
08/07	~	08/11	08/07	08/08	08/09	08/10	08/11	夏季休業																				
08/14	~	08/18	08/14	08/15	08/16	08/17	08/18																					
08/21	~	08/25	08/21	08/22	08/23	08/24	08/25	C	D	E	F2	F1	G1	G2	H	I	A1	A2	B	29								
08/28	~	09/01	08/28	08/29	08/30	08/31	09/01	C	D	E	F2	F1	G1	G2	H	I	A1	A2	B	30								
09/04	~	09/08	09/04	09/05	09/06	09/07	09/08	C	D	E	F1	F2	G2	G1	H	I	A2	A1	B	31								
09/11	~	09/15	09/11	09/12	09/13	09/14	09/15	C	D	E	F1	F2	G2	G1	H	I	A2	A1	B	32								
09/18	~	09/22	09/18	09/19	09/20	09/21	09/22	B	C	D	E2	E1	F1	F2	G	H	I1	I2	A	33								
09/25	~	09/29	09/25	09/26	09/27	09/28	09/29	B	C	D	E2	E1	F1	F2	G	H	I1	I2	A	34								
10/02	~	10/06	10/02	10/03	10/04	10/05	10/06	B	C	D	E1	E2	F2	F1	G	H	I2	I1	A	35								
10/09	~	10/13	10/09	10/10	10/11	10/12	10/13	B	C	D	E1	E2	F2	F1	G	H	I2	I1	A	36								

(参考) 2023年10月～ 臨床実習スケジュール (予定)

2023年10月～24年9月 (臨床実習後半 5年次10月～3月/6年次4月～9月)							薬麻	リ整	膠	血	口耳	眼	小	泌	腎	形皮	乳	内	緩	精	臨選							
2023年		月	火	水	木	金	剤	ハ	原	液	腔	小	尿	臓	成	腺	分	和	神	床								
							部	ビ	病	内	鼻	兒	器	内	膚	糖	セ	ア	実	習								
							科	リ	内	科	咽	器	器	科	科	尿	ン	タ	科	制								
10/16	～	10/20	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I	37							
10/23	～	10/27	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I	38							
10/30	～	11/03	10/30	10/31	11/01	11/02	11/03	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I	39							
11/06	～	11/10	11/06	11/07	11/08	11/09	11/10	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I	40							
11/13	～	11/17	11/13	11/14	11/15	11/16	11/17	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F2	F1	G2	G1	H	41							
11/20	～	11/24	11/20	11/21	11/22	11/23	11/24	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F2	F1	G2	G1	H	42							
11/27	～	12/01	11/27	11/28	11/29	11/30	12/01	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F1	F2	G1	G2	H	43							
12/04	～	12/08	12/04	12/05	12/06	12/07	12/08	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F1	F2	G1	G2	H	44							
12/11	～	12/15	12/11	12/12	12/13	12/14	12/15	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G	45							
12/18	～	12/22	12/18	12/19	12/20	12/21	12/22	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G	46							
12/25	～	12/29	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	冬季休業																				
01/01	～	01/05	01/01	01/02	01/03	01/04	01/05																					
01/08	～	01/12	01/08	01/09	01/10	01/11	01/12	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G	47							
01/15	～	01/19	01/15	01/16	01/17	01/18	01/19	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G	48							
01/22	～	01/26	01/22	01/23	01/24	01/25	01/26	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F	49							
01/29	～	02/02	01/29	01/30	01/31	02/01	02/02	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F	50							
02/05	～	02/09	02/05	02/06	02/07	02/08	02/09	G	H	I1	I2	A1	A2	B	C	D1	D2	E1	E2	F	51							
02/12	～	02/16	02/12	02/13	02/14	02/15	02/16	G	H	I1	I2	A1	A2	B	C	D1	D2	E1	E2	F	52							
02/19	～	02/23	02/19	02/20	02/21	02/22	02/23	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E	53							
02/26	～	03/01	02/26	02/27	02/28	02/29	03/01	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E	54							
03/04	～	03/08	03/04	03/05	03/06	03/07	03/08	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E	55							
03/11	～	03/15	03/11	03/12	03/13	03/14	03/15	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E	56							
03/18	～	03/22	03/18	03/19	03/20	03/21	03/22	春季休業													3/21	3/22	総合客観試験1					
03/25	～	03/29	03/25	03/26	03/27	03/28	03/29	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D	57							
04/01	～	04/05	04/01	04/02	04/03	04/04	04/05	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D	58							
04/08	～	04/12	04/08	04/09	04/10	04/11	04/12	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D	59							
04/15	～	04/19	04/15	04/16	04/17	04/18	04/19	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D	60							
04/22	～	04/26	04/22	04/23	04/24	04/25	04/26	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C	61							
04/29	～	05/03	04/29	04/30	05/01	05/02	05/03	GW																				
05/06	～	05/10	05/06	05/07	05/08	05/09	05/10	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C	62							
05/13	～	05/17	05/13	05/14	05/15	05/16	05/17	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C	63							
05/20	～	05/24	05/20	05/21	05/22	05/23	05/24	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C	64							
05/27	～	05/31	05/27	05/28	05/29	05/30	05/31	休暇																				
06/03	～	06/07	06/03	06/04	06/05	06/06	06/07	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B	65							
06/10	～	06/14	06/10	06/11	06/12	06/13	06/14	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B	66							
06/17	～	06/21	06/17	06/18	06/19	06/20	06/21	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B	67							
06/24	～	06/28	06/24	06/25	06/26	06/27	06/28	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B	68							
07/01	～	07/05	07/01	07/02	07/03	07/04	07/05	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A	69							
07/08	～	07/12	07/08	07/09	07/10	07/11	07/12	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A	70							
07/15	～	07/19	07/15	07/16	07/17	07/18	07/19	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A	71							
07/22	～	07/26	07/22	07/23	07/24	07/25	07/26	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A	72							
07/29	～	08/02	07/29	07/30	07/31	08/01	08/02	夏季休業																				
08/05	～	08/09	08/05	08/06	08/07	08/08	08/09																					
08/12	～	08/16	08/12	08/13	08/14	08/15	08/16																					
08/19	～	08/23	08/19	08/20	08/21	08/22	08/23																					
08/26	～	08/30	08/26	08/27	08/28	08/29	08/30																					
09/02	～	09/06	09/02	09/03	09/04	09/05	09/06	プライマリ・ケア																				
09/09	～	09/13	09/09	09/10	09/11	09/12	09/13	社会医学																				
09/16	～	09/20	09/16	09/17	09/18	09/19	09/20																					
09/23	～	09/27	09/23	09/24	09/25	09/26	09/27																					
09/30	～	10/04	09/30	10/01	10/02	10/03	10/04																					
10/07	～	10/11	10/07	10/08	10/09	10/10	10/11																					
10/14	～	10/18	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18																					
10/21	～	10/25	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25																					
10/28	～	11/01	10/28	10/29	10/30	10/31	11/01																					
11/04	～	11/08	11/04	11/05	11/06	11/07	11/08																					
11/11	～	11/15	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15																					
11/18	～	11/22	11/18	11/19	11/20	11/21	11/22																					
11/25	～	11/29	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29																					
12/02	～	12/06	12/02	12/03	12/04	12/05	12/06																					
12/09	～	12/13	12/09	12/10	12/11	12/12	12/13																					
12/16	～	12/20	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20																					
12/23	～	12/27	12/23	12/24	12/25	12/26	12/27																					
12/30	～	01/03	12/30	12/31	01/01	01/02	01/03																					
01/06	～	01/10	01/06	01/07	01/08	01/09	01/10																					
01/13	～	01/17	01/13	01/14	01/15	01/16	01/17																					

キ. 5年11月～6年 授業時間割

2022年10月～23年7月 (臨床実習後半 5年次10月～3月 / 6年次4月～7月)							薬麻	リ整	膠	血	口	眼	小	形	乳	内	緩	精	臨									
							劑	ハ	原	液	腔	小	泌	皮	腺	分	和	痛	神	床								
							部	形	病	内	外	兒	尿	成	外	泌	糖	み	心	実								
							科	外	内	科	科	科	器	膚	科	尿	ア	セ	神	摺								
							科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	部	ン	タ	科	習							
							月	火	水	木	金																	
10/24	～	10/28	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I	37							
10/31	～	11/04	10/31	11/01	11/02	11/03	11/04	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I	38							
11/07	～	11/11	11/07	11/08	11/09	11/10	11/11	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I	39							
11/14	～	11/18	11/14	11/15	11/16	11/17	11/18	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I	40							
11/21	～	11/25	11/21	11/22	11/23	11/24	11/25	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F	G	H			41							
11/28	～	12/02	11/28	11/29	11/30	12/01	12/02	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F	G	H			42							
12/05	～	12/09	12/05	12/06	12/07	12/08	12/09	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F	G	H			43							
12/12	～	12/16	12/12	12/13	12/14	12/15	12/16	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F	G	H			44							
12/19	～	12/23	12/19	12/20	12/21	12/22	12/23	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G	45							
12/26	～	12/30	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	冬季休業																				
01/02	～	01/06	01/02	01/03	01/04	01/05	01/06																					
01/09	～	01/13	01/09	01/10	01/11	01/12	01/13	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G	46							
01/16	～	01/20	01/16	01/17	01/18	01/19	01/20	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G	47							
01/23	～	01/27	01/23	01/24	01/25	01/26	01/27	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G	48							
01/30	～	02/03	01/30	01/31	02/01	02/02	02/03	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F	49							
02/06	～	02/10	02/06	02/07	02/08	02/09	02/10	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F	50							
02/13	～	02/17	02/13	02/14	02/15	02/16	02/17	G	H	I1	I2	A1	A2	B	C	D1	D2	E1	E2	F	51							
02/20	～	02/24	02/20	02/21	02/22	02/23	02/24	G	H	I1	I2	A1	A2	B	C	D1	D2	E1	E2	F	52							
02/27	～	03/03	02/27	02/28	03/01	03/02	03/03	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E	53							
03/06	～	03/10	03/06	03/07	03/08	03/09	03/10	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E	54							
03/13	～	03/17	03/13	03/14	03/15	03/16	03/17	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E	55							
03/20	～	03/24	03/20	03/21	03/22	03/23	03/24	春季休業							3/23 3/24 総合客観試験1													
03/27	～	03/31	03/27	03/28	03/29	03/30	03/31	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E	56							
04/03	～	04/07	04/03	04/04	04/05	04/06	04/07	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D	57							
04/10	～	04/14	04/10	04/11	04/12	04/13	04/14	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D	58							
04/17	～	04/21	04/17	04/18	04/19	04/20	04/21	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D	59							
04/24	～	04/28	04/24	04/25	04/26	04/27	04/28	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D	60							
05/01	～	05/05	05/01	05/02	05/03	05/04	05/05	GW																				
05/08	～	05/12	05/08	05/09	05/10	05/11	05/12	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C	61							
05/15	～	05/19	05/15	05/16	05/17	05/18	05/19	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C	62							
05/22	～	05/26	05/22	05/23	05/24	05/25	05/26	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C	63							
05/29	～	06/02	05/29	05/30	05/31	06/01	06/02	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C	64							
06/05	～	06/09	06/05	06/06	06/07	06/08	06/09	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B	65							
06/12	～	06/16	06/12	06/13	06/14	06/15	06/16	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B	66							
06/19	～	06/23	06/19	06/20	06/21	06/22	06/23	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B	67							
06/26	～	06/30	06/26	06/27	06/28	06/29	06/30	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B	68							
07/03	～	07/07	07/03	07/04	07/05	07/06	07/07	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A	69							
07/10	～	07/14	07/10	07/11	07/12	07/13	07/14	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A	70							
07/17	～	07/21	07/17	07/18	07/19	07/20	07/21	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A	71							
07/24	～	07/28	07/24	07/25	07/26	07/27	07/28	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A	72							
07/31	～	08/04	07/31	08/01	08/02	08/03	08/04	夏季休業																				
08/07	～	08/11	08/07	08/08	08/09	08/10	08/11																					
08/14	～	08/18	08/14	08/15	08/16	08/17	08/18																					
08/21	～	08/25	08/21	08/22	08/23	08/24	08/25																					
08/28	～	09/01	08/28	08/29	08/30	08/31	09/01																					
09/04	～	09/08	09/04	09/05	09/06	09/07	09/08																					
09/11	～	09/15	09/11	09/12	09/13	09/14	09/15																					
09/18	～	09/22	09/18	09/19	09/20	09/21	09/22																					
09/25	～	09/29	09/25	09/26	09/27	09/28	09/29																					
10/02	～	10/06	10/02	10/03	10/04	10/05	10/06																					
10/09	～	10/13	10/09	10/10	10/11	10/12	10/13																					
10/16	～	10/20	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20																					
10/23	～	10/27	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27																					
10/30	～	11/03	10/30	10/31	11/01	11/02	11/03																					
11/06	～	11/10	11/06	11/07	11/08	11/09	11/10																					
11/13	～	11/17	11/13	11/14	11/15	11/16	11/17																					
11/20	～	11/24	11/20	11/21	11/22	11/23	11/24																					
11/27	～	12/01	11/27	11/28	11/29	11/30	12/01																					
12/04	～	12/08	12/04	12/05	12/06	12/07	12/08																					
12/11	～	12/15	12/11	12/12	12/13	12/14	12/15																					
12/18	～	12/22	12/18	12/19	12/20	12/21	12/22																					
12/25	～	12/29	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29																					
01/01	～	01/05	01/01	01/02	01/03	01/04	01/05																					
01/08	～	01/12	01/08	01/09	01/10	01/11	01/12																					
01/15	～	01/19	01/15	01/16	01/17	01/18	01/19																					

(3) 授業時間・講義室

授業時間は次のとおりとする。

1時限 9:00～10:30 2時限 10:40～12:10 3時限 13:00～14:30 4時限 14:40～16:10

ただし、授業科目によっては、開始・終了時刻が異なる場合がある。特に臨床実習については、開始時刻・終了時刻ともに各診療科によって異なる。担当教員の指示に従うこと。

専門教育における各学年の講義室は原則として以下のとおりとする。

学年	講義室
1年次	講義室 1
2年次（2年4月～12月）	講義室 2
3年次（2年1月～3年12月）	講義室 3
4年次（3年1月～4年12月）	講義室 A 又は B

※新型コロナウイルスへの対応等により、変更する場合がある。

(4) 専門教育授業科目

ア. 授業科目一覧

区分	授業科目		配当年次
	コース名	ユニット名	
基礎医学	解剖学コース	肉眼解剖学	2
		組織学・発生学・神経解剖学	2
	生化学コース	物質と代謝	2
		分子と細胞	2
	生理学コース	植物的機能系	2
		動物的機能系	2
臨床基礎医学	病理学コース	病態病理	3
		臨床病理	3
	薬理学コース	薬理学	3
		感染微生物コース	医動物学
	細菌学		3
	免疫学コース	ウイルス学	3
免疫学	免疫学	3	
社会医学	社会医学コース	予防医学基礎	4
		予防医学応用	6
		法医学	3
		法医診断学	6
		医学・医療倫理	3
		医学情報学	1
臨床医学	臨床医学コース	血液・造血器・リンパ系	4
		神経系（神経内科）	4
		神経系（脳神経外科）	4
		皮膚系	4
		運動器系・リハビリテーション	4
		循環器系	4
		呼吸器系	4
		消化器系・内視鏡	4
		腎・尿路系（腎臓内科）	4
		腎・尿路系（泌尿器科）	4
		生殖機能（泌尿器科）	4
		生殖機能（婦人科）	4
		妊娠と分娩	4
		乳房	4
内分泌・栄養・代謝系	4		

		眼・視覚系	4
		耳鼻・咽喉・口腔系	4
		精神系	4
		臨床感染症学	4
		成長と発達／発生	4
		麻酔科学・集中治療医学	4
		食事と栄養療法	4
		放射線等を用いる診断と治療	4
		輸血と移植	4
		膠原病	4
		臨床腫瘍学	4
		救急科	4
		漢方医学	4
		臨床処方学	4
臨床実習	臨床実習コース	臨床実習	4・5・6
		選択制臨床実習	5・6
統合教育	総合医学コース	医学入門	1
		水平統合基礎	2
		水平統合病態	3
	行動科学・地域医療学コース	行動科学	3
		神経科学	3
		疼痛科学	3
		疼痛医学（痛みと行動科学）	4
		コミュニティ・ヘルスケア基礎（IPE）	2
		コミュニティ・ヘルスケア応用（IPE）	3
		コミュニティ・ヘルスケア発展（IPE）	4
	コミュニティ・ヘルスケア実践（IPE）	4・5	
	研究能力養成コース	学術論文入門	2
		Scientific Writing and Presentation	3
		先端研究	3
		遺伝医学	3
	臨床能力養成コース	基礎自主研修	3
		救命救急	3
		臨床診断推論	4
	選択制コース	基本臨床技能実習	4
		MD-PhD コース	-
BRJ 活動		-	

・BRJ 活動

通常カリキュラムの枠を超えて、医師としての実践的なスキルを身につけるための活動として、BRJ (Beyond the Resident Project) 活動がある。活動の運営は学生が主体的に行い、教員の協力のもと胸部 X 線や心電図の読影、腹部超音波検査、臨床推論などを学んでいる。単にスキルの修得だけでなく、その過程における指導医や先輩、共に学ぶ仲間と過ごす時間の中から、医師としてのプロフェッショナルリズムやキャリア意識の醸成までを目標としている。名古屋市立大学医学部では、カリキュラムにおける選択制科目の一つとして位置付け、活動を支援している。

(5) 試験・成績評価

ア. 出席要件

次のいずれかを満たさない授業科目については、原則として失格とし、試験その他の評価を受けることができない。

- ① 実習については、その授業時間数のすべてに出席すること
- ② 実習以外の講義等については、その授業時間数の7割以上出席すること

やむを得ない理由※により授業を欠席した場合には、「特別欠席届」を記入し、担当教員の確認・押印を受けた上で、医療人育成課事務室に提出すること。その際には、原則として、診断書や病院を受診した際の領収書、事故証明等、理由を証明する書類を添えること。

ただし、欠席届を提出しても出席したことにはならない。担当教員の判断により、補講・追加実習の受講、レポート課題の提出等の補完を求めることがある。

欠席届を提出しない場合は、いかなる理由であっても「やむを得ない理由」とは認められない。

※やむを得ない理由の例

病気、ケガ、天災、公共交通機関の途絶、冠婚葬祭、その他のやむを得ない事情

(令和4年1月より実習出席要件を改定)

イ. 成績評価

授業科目の成績は、試験やレポート課題等を 100 点満点とした点数により採点し、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とし、原則として次のように表示する。

評点	評価	判定	内容
90 点以上	秀	合格	学修到達目標を越えたレベルを達成している
80 点以上	優	合格	学修到達目標を十分に達成している
70 点以上	良	合格	学修到達目標を達成している
60 点以上	可	合格	学修到達目標を最低限達成している
60 点未満	不可	不合格	学習到達目標を達成できていない

なお、科目により、合否のみの評価となることがある。

再試験による成績評価は、最高 60 点を限度として採点する。

臨床実習の評価については、別に定める。

ウ. 試験の種別

・定期試験・随時試験

定期試験は、授業科目を終了するときに行う。ただし、科目により、中間試験等、随時試験を行うことがある。試験日程については、時間割及び各授業科目の予定表を参照。

・第4学年における試験

第4学年では、通常の試験の他に「セメスター試験（臨床実習資格認定試験）」、「共用試験 OSCE・CBT」を実施する。詳細は、資料「名古屋市立大学医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項」を参照。

・卒業試験

第6学年では、卒業試験として、「共用試験 Post-CC OSCE」と「総合客観試験」を行う。総合客観試験については、資料「卒業試験 総合客観試験について」を参照。

・追試験

疾病その他やむを得ない理由により試験当日出席できない者は、追試験を願い出ることができる。担当教員の許可を受けた上で、事務室に「追試験受験願」及び「試験欠席届」を提出すること。その際、欠席の理由を証明する書面を添えること（資料「再（追）試験受験願・試験欠席届」）。

・再試験

試験に不合格となった科目については、担当教員の許可を受けて、再試験受験願を提出することにより、再試験を1回受けることができる（資料「再（追）試験受験願・試験欠席届」）。

エ. 成績疑問票

成績評価について疑問のある場合に、その評価の内容を知ることができる制度である。

成績評価に関して疑問のある学生は、成績発表後1週間以内に、成績疑問票を医療人育成課事務室に提出すること。ただし、安易に成績の再考や救済を求める内容のものは提出できない（資料「成績疑問票」）。

学生から提出された成績疑問票は、受け付けてから原則1週間以内に担当教員が回答し、医療人育成課事務室に提出される。医療人育成課事務室は、提出された回答を速やかに学生に提示する。

オ. 試験における不正行為の禁止

試験にあたっては、以下の点に留意し、試験監督者の指示に従って厳正に受験すること。

- ①学生証を試験監督者が見やすい、机上の場所に置くこと。
※学生証を忘れた場合は、事務室で身分証明書を提示し、臨時の「仮身分証明証」の発行を受ける。
- ②机中には、事前に許可されているものを除き、原則として筆記用具（鉛筆又はシャープペンシル、消しゴム）以外の用具を置いてはいけない。
- ③携帯電話・スマートフォン等の電子機器は必ず電源を切り、収納すること。
- ④遅刻は原則として認められない。交通機関の遅れなど正当な理由がある場合は試験監督者に申し出ること。
- ⑤試験開始後30分経過後は理由の如何にかかわらず入室できない。
- ⑥試験監督者の注意に違反した者には、退場を命ずることがある。

不正行為が発覚した場合は、懲戒処分（戒告、停学、退学）等の対象とする。また、その学年における全ての科目の履修及び成績を無効にする等、相応の措置がとられる。

資料「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」

カ. レポート課題作成時の注意

レポートは、自分で調べたことや考えたこと等を自分の文章で記述するものである。他の文献等を調べ学ぶことは非常に重要であるが、それを引用する場合にはルールがある。引用する場合は、引用した部分とそれに関する自分の考えの部分をはっきりと区別して示す必要がある。他人の文章、図表をあたかも自分のオリジナルであるかのように利用することは、「剽窃」（盗作）であり、定期試験等に代わるレポート課題に関しては、「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」に基づき、試験におけるカンニングと同様に不正行為とみなされ処分等の対象となる。授業においても指導されるレポート作成に当たってのルールを守ってレポートを提出すること。

(6) 進級要件・卒業要件

ア. 教養教育科目については所定の単位を取得できない者、専門教育科目については各年次で配当された授業科目を1科目でも修得できない者は、進級または卒業できない。

各年次における進級判定・卒業判定の対象科目及び実施時期は、下記のとおりとする。

対象年次	判定の対象となる授業科目	判定時期
1年	1年次に配当される教養教育科目及び専門教育科目	3月
2年	2年次4月～12月の配当科目	12月
3年	2年次1月～3年次12月の配当科目	12月
4年	3年次1月～4年次12月の配当科目及び 共用試験 OSCE・CBT	12月
5年	4年次1月～5年次11月の配当科目 ※	12月
6年	5年次11月～6年次の配当科目及び 卒業試験（共用試験 Post-CC OSCE、総合客観試験）	1月

イ. 2年次及び3年次については、前項の規定にかかわらず下記のとおり仮進級制度を定める。

1. 目的：原則として各学年の必修科目修了者を進級とするが、教育的効果を考慮し条件を満たした学生に限り仮進級制度を適用し進級を許可する。
2. 対象となる学年：M2、M3
3. 対象となる科目：M2、M3の各分野の主要科目（ただし社会医学は試験（M4の7月に実施）からCBTまでの期間が短いため対象外とする）
4. 対象となる学生：各学年修了時に未修了科目が2科目までの者
5. 仮進級制度の適用：条件を満たす全ての学生に適用される。学生は仮進級と原級留置を選択することはできない。
6. 仮進級時の修了期限：前学年の未修了科目は当該学年の修了時までには修了すること。M3修了時までには全てのM2未修了科目を修了できなかった場合はM3で原級留置とする。M4修了時までには全てのM3未修了科目を修了できなかった場合はM4で原級留置とし、OSCE及びCBTを受験することはできない。

7. 仮進級時の未修了科目の履修について：未修了科目が履修できない場合、各分野の責任で学生の学力向上を目的とした指導（例：課題を課す、補講を行うなど）を行う。仮進級後に次学年で原級留置になった場合（注に示された例）は、原則は未修了科目を履修とする。
8. 仮進級時の未修了科目の試験について：試験の時期は担当講座に一任するが、試験は各学年で2回を上限とする。
- ウ. 臨床実習については、4年次1月～5年次11月を前半、5年次11月～6年次を後半とし、前半が終了した段階で合格判定を行う。合格基準は下記の通り（臨床実習の手引き参照）
- ア. 臨床実習前半の診療科をすべて合格していること
- イ. 「アンプロフェッショナルな評価・態度のみられた学生の評価と対応」により原級留置との評価を受けていないこと
- 不合格となった場合は原級留置となり、下級学年の1月から実習をやり直す。
- 資料：「アンプロフェッショナルな評価・態度のみられた学生の評価と対応」
- エ. 6年次に原級留置となった場合、臨床実習、共用試験 Post-CC OSCE、総合客観試験などの科目で不合格になったかによるが、判定が出た時点でできるだけ速やかに下級学年の実習に合流することとする。
- オ. 原級留置となった場合、専門教育科目については、原則として、当該学年で配当された全科目を再履修しなければならない。ただし、教授会の議を経て、学部長より指定された科目については再履修を要しない。
- カ. 共用試験については、合格していても原級留置となった場合は再受験しなければならない（共用試験結果を次年度に持ち越すことはできない）。
- キ. 次に該当する者は除籍となる。
- ①入学あるいは進級後3年に至っても、次年次に進級できない場合
 - ②在学年数が入学後8年に至っても、5年次に進級できない場合
 - ③在学年数が12年に至っても卒業要件を満たさない場合

(7) 受講態度・講義資料について

- ①授業中は、名古屋市立大学医学部の学生として規律正しい態度で受講すること。
- ②私語、居眠り、途中入室、途中退室等は、他の学生の迷惑となるだけでなく、教員に対しても学生としての礼を欠く行為である。
- ③特に臨床実習では、診療に参加するにあたり患者さんに対して失礼のないよう、身だしなみ等に十分注意すること。
- ④講義資料の撮影、録画、スクリーンショットの保存は禁止とする。必要な場合は教員の許可を得ること。講義資料の無断配布、ネット上への公開も同様に厳禁とする。

(8) 授業評価、学修成果の達成度評価

ア. 学生による授業評価

各授業科目が効果的に実施されているか、学生自身が授業に対し意欲的に取り組んでいるかを評価し、授業科目の改善に役立てるため、授業科目の中間時点、終了時点で「学生による授業評価アンケート」を実施する。学務情報システムを通じて、必ず回答すること。

イ. 学修成果の達成度自己評価

前述のように、医学教育課程は、4領域 17 項目の卒業時到達目標の獲得に向けて編成されている。学生は、学年が進む中で、自らの能力がどの段階にあるかを確認することが必要である。主に各学年のオリエンテーションの場で、「学修成果の達成度自己評価」を実施する。

(9) 暴風警報発令時等における授業・試験について

ア. 暴風警報・暴風雪警報発令時における授業・試験について

名古屋地方気象台から、「愛知県西部」又は「尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部のいずれかの区域」又は「名古屋市」に暴風警報・暴風雪警報が発令された場合の授業・試験についての取り扱いは、以下のとおりとする。

ただし、所属学部又は担当教員から特別な指示がある場合は、この限りではない。電話での問い合わせは受け付けないので、ラジオ・テレビ等の報道で確認のうえ、各自判断すること。

① 授業・試験の開始前に発令された場合

解除の時刻	区分	休講または試験が中止となる時限	授業または試験を行う時限
午前7時まで		なし（開講する）	通常どおり
午前7時から午前10時まで		第1時限及び第2時限	第3時限以降
午前10時すぎ		当日実施予定の全ての時限	実施しません

② 授業・試験の開始後に発令された場合

原則として授業は休講とし、試験は中止とするが、状況によっては続行することもある。
なお、中止となった試験については、各学部の指示に従うこと。

③ 居住地または通学経路内に発令された場合

居住地又は通学経路内に発令されている間は、登校しないこと。

ただし、愛知県西部、尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部、名古屋市のいずれにも発令されていなければ、授業・試験は通常どおり行う。

これに該当し、授業・試験を欠席する学生は、「特別欠席届」を後日すみやかに医療人育成課事務室に提出するなど所定の手続きを行うこと。欠席した日の気象状況については、日本気象協会ホームページの警報発表履歴で確認する。

④ その他の気象警報が発令された場合

暴風警報・暴風雪警報に限らず、その他の気象警報（大雨警報、大雪警報等）発令時において、学長、副学長等が必要と判断した場合は、授業・試験を中止することがある。その場合の学生への周知は、大学ホームページやポータルサイトより行う。

イ. 公共交通機関運休時の対応について

① 大雨・強風・大雪等の気象状況による公共交通機関の運休の場合

通学経路に係る公共交通機関が運休している場合、無理な登校はしないで下さい。

ただし、愛知県西部、尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部、名古屋市のいずれにも暴風警報・暴風雪警報が発令されていないければ、授業・試験は通常どおり行われています。

これに該当し、授業・試験を欠席する学生は、「特別欠席届」を後日すみやかに各学部事務室又は山の畑事務室に提出するなど所定の手続きを行って下さい。その場合、運休の事実を証明する書類が必要となります。

② 交通ストの場合

名古屋市営交通、東海旅客鉄道（JR東海）、名古屋鉄道（名鉄）の3社のうち2社以上がストライキを行った場合の授業・試験の取扱は、「授業・試験の開始前に発令された場合」で掲げた表に準ずるものとします。

③ その他の事由による公共交通機関の運休の場合

事故等により、公共交通機関が運休し、授業・試験に出席できなかった場合は、「大雨・強風・大雪等の気象状況による公共交通機関の運休の場合」に準じて各学部事務室又は山の畑事務室にて、所定の手続きを行って下さい。

ウ. 「南海トラフ地震に関する情報」が発表された場合における授業・試験等について

平成29年11月1日に「南海トラフ地震に関連する情報」の運用が開始され、これに伴い、現在、東海地震のみに着目した「東海地震に関連する情報」の発表は行われなくなりました。

授業等の実施中に「南海トラフ地震に関する情報」が発表された場合は、大学からの指示に従って行動してください。また、登校前や登校途中の場合は、安全な場所で待機するとともに各自で情報収集に努め、安全を確保してください。

〔参考〕南海トラフ地震に関連する情報の種類と発表条件（気象庁ホームページ）

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/index.html>

「南海トラフ地震に関連する情報」は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、この情報の種類と発表条件は以下のとおりです。

情報の種類	情報の発表条件
南海トラフ地震に関連する情報（臨時）	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ・観測された現象を調査した結果、南海トラフ地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合 ・観測された現象を調査した結果、南海トラフ地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではないと評価された場合
南海トラフ地震に関連する情報（定例）	・「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合において評価した調査結果を発表する場合

○本情報の運用開始に伴い、東海地震のみに着目した情報（東海地震に関連する情報）の発表は行っていません。

○南海トラフ沿いで異常な現象が観測されず、本情報の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。

〔参考〕地震発生時の行動について

名古屋市立大学滝子キャンパス「ポケット防災」（滝子キャンパス自主防災委員会作成）

(10) 実習参加資格にかかる抗体検査・ワクチン接種及び保険加入について

ア. 抗体検査・ワクチン接種

医学部では、1年次から附属病院をはじめ、医療機関での実習を行う。学生自身の感染予防及び患者等への感染拡大防止のため、下記の抗体検査、ワクチン接種を義務付けている。

	実施時期	備考
四種抗体 (麻疹、風疹、ムンプス、水痘)	1年次	入学前に抗体検査結果を各自実施し、「医薬看連携地域参加型学習」の講義時に検査結果及び過去の接種歴を提出する。抗体がないもしくは基準値に満たない場合は、6月末までに各自ワクチン接種を行った上で、接種記録を事務室に提出する。 ※詳細は入学時資料及びオリエンテーションで指示する。
B型肝炎	2年次	抗体検査の結果、陰性であった場合には、3回の接種及び接種後の抗体検査を行う。検査・接種は医学部で実施する。
結核免疫検査 (T-SPOT)	4年次	結核感染の有無を臨床実習開始前に検査する。検査は医学部で実施する。

また、インフルエンザ予防接種については、接種を推奨する。

イ. 保険加入について

臨床現場等、教育活動中の学生が怪我をしたり、相手に怪我をさせたりする危険がある。また、実習・実験中は針刺し事故などの接触感染のおそれがある。そのような事故に備えて、医学部生には、下記の保険への加入を義務付けている。

傷害保険	学生教育研究災害傷害保険 (学研災)	教育研究活動中に生じた事故によって身体に被る傷害を補償するもの。
	接触感染予防保険金支払特約	臨床実習中の接触感染に対する感染症予防措置を受けた場合の補償。
賠償保険	医学生教育研究賠償保険 (Cコース：医学賠)	教育研究活動中に、他人にケガを負わせた場合、他人の財物を損壊した場合等により、法律上の損害賠償責任を負担することにより被る損害を補償するもの。 ※Cコースは、医療系関連学部での活動を補償

ただし、さらに補償が手厚い保険（学研災付帯学生生活総合保険、大学生協の学生総合共済保険等）への加入を妨げるものではない。

保険に関する手続きは、「学生生活のてびき」と学生課学生支援係、大学生協で確認すること。

ウ. 実習参加要件について

上記ア、イは、医療系実習及び臨床実習の参加要件の一部である。

資料「名古屋市立大学医学部 臨床実習資格基準」「名古屋市立大学医学部 医療系実習参加資格基準」参照のこと。

7. 学生支援・指導体制

(1) 学生委員会・学年担任

医学部では、学生支援のための組織として、「学生委員会」を設置している。

学生委員会は、学生の修学、厚生福祉、保健、課外活動、学生団体、その他の学生生活に関する事項を扱う組織である。学生委員会では、学生からの相談に応じるため、相談窓口となる学年担任を置いている。相談事がある場合は、学年担任へ連絡をとること。

※担当教員の詳細は、オリエンテーション等で周知する。

学生委員会

学年	委員	所属
委員長	1名	副医学部長（教育担当）
精神科教員教員	1名	精神・認知・講堂医学分野教員
各学年担任	各学年2名	基礎系分野教授3名 臨床系分野教授3名 准教授・講師・助教 3名で構成 M1～M3は基礎系分野教員 M4～M6は臨床系分野教員が担当する。

(2) 連絡担当教員制度（M1・M2）

上記の学年担任に合わせて、M1・M2では、学生を4・5名のグループに振り分け、各グループを基礎系

分野教員が担当することで、幅広く相談できる体制を整えている。学業や学生生活、将来の方向性など、何か気になることがあれば、決められた担当分野の連絡担当教員に気軽に相談してほしい。

※グループ分け・担当教員は、4月に発表する。

連絡担当教員を担当する基礎系分野

統合解剖学	機能組織学	神経生化学	細胞生化学	細胞生理学
脳神経生理学	実験病態病理学	臨床病態病理学	免疫学	細菌学
薬理学	環境労働衛生学	公衆衛生学	法医学	ウイルス学
病態モデル医学	医学・医療教育学	神経発達症遺伝学	神経毒性学	神経発達・再生医学
認知症科学				

(3) メンター制度（臨床実習学生）

臨床実習に入った M4・5・6 の学生については、「メンター制度」を整備している。メンター制度は、臨床系講師以上の教員が、「臨床実習の相談役」として、学生 1～2 名を担当し、臨床実習ポートフォリオの評価・指導を通じて、①教員・学生間の信頼関係を深める、②医師としてのロールモデルを示し、学生のプロフェッショナリズム醸成を助ける、③学生の不安を軽減し、学習意欲を高めることを目的としている。

学生は、定められた時期にポートフォリオの内容確認のためメンター教員と面談を行うこと。また、実習中の学習や生活で不安に思うことがあれば、随時メンター教員に相談すること。

※詳細は「臨床実習の手引」を参照すること。

8. その他の学生生活上の案内・注意事項

学生生活上の案内・注意事項については、下記とともに、「学生生活のてびき」を参照すること。

(1) 医学部事務室について

部署名	医療人育成課 医学教育係
場所	桜山キャンパス 医学研究棟 1階
執務時間	平日 8:30～17:00
メールアドレス	medkyomu@sec.nagoya-cu.ac.jp
電話番号	052-853-8545

(2) 学生への連絡方法

- ・以下の連絡方法で、教員・事務室から連絡を行うので、必ず確認すること。
- ・連絡を見なかったことによる不利益は学生の責任となるので、注意すること。

連絡方法	備考
掲示板	・研究棟 1階（事務室前） 事務連絡、授業・試験関係 ・研究棟 2階（ロッカー前） 各種案内 ・基礎教育棟 1階 各種案内
学年代表を通じた連絡	・M2以降は、学年代表（3名）を通じても学年全体へ連絡事項を周知する。学生間での連絡網を構築し参加すること。
学務情報システム	・全学からの一般的な事務連絡、教養教育、一部の専門教育では、学務情報システムを通じて連絡する。
メール連絡	・学生個別の重要な連絡は、大学から付与されたアドレスに連絡する。 < c学籍番号@ed.nagoya-cu.ac.jp > ・学務情報システムで、普段利用しているアドレスへ転送設定する等必ず受信し確認できる環境を整えること。
電話	・緊急時は、直接個人の携帯電話に連絡する場合がある。

(3) 学生から事務室への連絡方法

- ・原則窓口対応とする。
- ・事務室からの連絡に対する返信や緊急の場合は、上記メールアドレス、電話へ連絡すること。
- ・その際、必ず「所属学年、学籍番号、氏名」を伝えること。

(4) 講義室、研修室の利用

- ・自主学習の環境として下表の部屋を使用可能としている。以下を守って利用すること。

- ①利用時間を厳守すること。
- ②共用の学習スペースであることを認識し、学生どうしで譲り合い、節度をもって利用すること。
- ③使用後は、消灯、エアコンの電源を消すなど原状復帰を行うこと。ゴミは持ち帰ること。
- ④授業、試験、団体活動等で利用できない場合がある。
- ⑤部活動等で利用する場合は、他の利用学生に十分配慮すること。

場所	利用時間	備考
基礎教育棟 講義室 1・2・3	平日 講義終了後 24時まで 土日祝日 7時～24時まで	
西棟 3階 研修室 1～12	平日 7時～24時まで 土日祝日 7時～24時まで	病院施設のため、病院スタッフが勤務している。廊下等での私語、スマートフォンの利用等は控えること。

- ・6年生には、医師国家試験対策のため、基礎教育棟5階、厚生会館2階を勉強部屋として貸与している。

(5) ロッカーの利用

- ・各人にロッカーを貸与する。

学年	場所
第1～3学年	基礎教育棟 1階
第4～6学年	研究棟 2階

- ・盗難を防止するため、貴重品は厳重に管理し、必ず各人で鍵を取り付けること。
- ・整理整頓を心がけること。放置されている物品は予告なく処分することがある。
- ・各人の責による破損等は、学生の負担により原状復帰をする必要がある。
- ・第6学年の卒業後に、第3学年の学生のロッカー移動を行う。

(6) 学内無線 LAN (ncuwifi)

以下の場所で利用可能である。接続方法は、大学ホームページで確認すること。

	設置場所
基礎教育棟	1階 ロビー
	2階 講義室 1・2
	5階 講義室 3、M6 勉強部屋
研究棟	1階 ロビー
	11階 講義室 A・B
西棟	1階 シミュレーションセンター 多目的室、周産期・新生児室、研修室 1、内視鏡室、模擬病室
	3階 研修室 1～12、多目的研修室

(令和3年9月現在)

※厚生会館食堂は、キャリアの無線 LAN が利用可能

(7) 学生自治会・学生代表委員会について

医学部学生の自治組織として、「医学部学生代表委員会」がある。医学部学生全員を構成員として、学生間の交流を深め、大学教職員と連携してよりよい学生生活を送るための活動を行うものである。

医学教育に関しては、学生代表委員のカリキュラム担当学生が、医学部の教務委員会（カリキュラム企画・運営委員会）に委員として参加し、学生目線から教職員と連携して医学教育の改革に取り組む体制としている。

資料：名古屋市立大学医学部学生代表委員会規約 参照

(8) 住所・氏名等の変更

- ・住所、氏名、電話番号、メールアドレス等が変更になった場合は、学務情報システム上で更新すること。

- ・氏名が変更になった場合は「改正（名）届」を記入し、戸籍抄本等とともに提出すること。

(9) 学生証について

- ・常に携行すること。詳細は「学生生活のてびき」参照。
- ・紛失した場合の再発行の手続きは、学生課学生支援係（滝子キャンパス3号館1F）にて行う。

(10) 証明書、学割の発行について

各種証明書、学割は、総合情報センター川澄分館（図書館）1階に設置されている「証明書自動発行機」で発行できる。

発行可能な証明書	
在学証明書	
学業成績証明書	
卒業見込証明書	※第6学年のみ
学割証	
健康診断受検証明書	

※自動発行機のメンテナンス等で自動発行できない場合は、医療人育成課窓口で対応する。
事務室で発行する場合は即時発行ができないため、余裕をもって申請すること。

(11) 駐輪許可登録

医学部生が桜山キャンパスに自転車で通学する場合は、駐輪許可が必要である。事務室で申請を行い、許可シールを自転車に貼り付けること。他学部生は原則として許可シールの発行はできない。

(12) 休学・復学・退学

休学	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病その他の理由で3ヶ月以上就学が困難な状況が見込まれる場合は、「休学届」（疾病による場合は診断書の添付が必要）を記入作成の上、事務室へ提出し、学長の許可を得る必要がある。 ・休学期間は在学年数には参入されない。 ・休学できる期間は、通算して3年である。 ・なお、休学にあたっては、事前に学生委員と面談し、休学の理由および休学によって生じる修学上の問題について十分に相談する必要がある。
復学	<ul style="list-style-type: none"> ・休学している学生が、休学許可期間の途中または満了時に復学を希望する場合は、復学願を事務室へ提出すること。
退学	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病その他の理由で学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、「休学届」を記入作成の上、事務室へ提出し、学長の許可を得る必要がある。 ・退学にあたっては、事前に学生委員と面談し、退学理由、将来の進路等について十分に相談すること。

(13) 遺失物・拾得物

- ・学内での遺失物に関する問い合わせ、拾得物の届出は、下記防災センターに問い合わせること。
 - ①医学部防災センター 研究棟1階
 - ②病院防災センター 附属病院中央診療棟 1階

(14) 自家用車の乗入れの禁止

- ・学生が、自家用車で桜山キャンパス内に乗り入れることは厳禁とする。

9. 専門教育科目の内容

(1) 1 年次

開講年度	2023年度
科目名	総合医学コース・医学入門ユニット
専門・教養	専門
担当教員	
講義期間・曜日・時限	

授業目的・目標	<p>医師は科学者であり、その仕事は、病気に苦しむ患者さんの精神的・肉体的な治療にとどまらず、その発症の予防法や原因の探究、医療制度の改革、ヒトを含む生物の真理探究など、考える以上にそのカバーする領域は広く、M1学生は卒業後に様々な分野で活躍することが期待されている。活躍する人材には、その基盤となる分子生物学を含む知識と人間力が求められる。</p> <p>本コースでは、分子生物学の基礎知識の一部を学ぶとともに、様々な分野の第一線で活躍中の医師から、その仕事の内容を学び、また将来に対するアドバイスをいただき、“将来どんな医者として社会貢献していくのか”を考えるキャリアパスのための講義である。特に、各分野で活躍する医師の“人柄”を感じていただき、人間力を磨ききっかけとしていただきたい。</p>
キーワード	医療制度、禁煙教育、矯正医療、キャリアパス、分子生物医学の基礎
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1d, 2a, 2e, 3a, 3c, 4a, 4d
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容の分子生物学基礎と医学知識を理解できる。 ・第一線で活躍する医師の仕事を学び、共通する“人柄”を感じ人間力を高めるきっかけとする。 ・基本的な医学専門用語を日本語・英語で理解し、正確に記載できる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 A-1), A-2), A-6), A-7), A-9), B-1-4), B-1-5), B-1-7), B-1-8), B-1-9), B-4-1), C-5-8), D-9, E-2</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	講義テーマごとの講義
授業計画	<p>学長、医学研究科長・病院長経験者、厚生労働省医系技官などを含む、各分野の第一線で活躍中の医師によるその専門分野の紹介、その仕事内容と経験に基づくM1学生へのメッセージを含んだ総論講義、分子生物学の基本を理解する講義を行う。</p> <p>また、性行為感染症、タバコの害、Basic Life Supportなどの医学生として知っておくべき内容の講義も実施する。</p> <p>さらに、英語化されたグローバル時代に対応すべく医学英語の課題を自主学習し、単語試験により確認する。</p>
授業時間外の学修（準備学習を含む）	講義内容を、教科書や図書書籍によって自己学習することが求められる。
成績評価方法	<p>70%以上の出席をもって本試験を受験することができる。ただし欠席・遅刻の場合には事前連絡すること。正当な理由なく欠席・遅刻の場合には本試験の受験資格を与えない。</p> <p>また、本試験に先立ち英単語試験を実施し、95%以上の得点をもって本試験の受験資格者とする。また復習試験も随時実施し、良好な成績者は本試験を免除する。本試験は、講義内容の理解度と自己学習能力を論述試験から判定する。</p>
教科書・テキスト	<p>1 新・大学生物学の教科書 第2巻分子遺伝学 ブルーバックス<講談社> 2,200円</p> <p>2 医学生のための(必須)医学英語 <金芳堂> 3,300円</p> <p>3 名市大ブックス 第11巻 <中日新聞社> 1,000円</p>
参考文献	
履修上の注意事項	初回の講義で全体のオリエンテーションを行い、その際に医学英語の課題を提示する。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	各講義の内容について、自主勉強が求められる
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	「医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。」
備考	試験は教養試験期間とは別に行う、日程は改めて1月下旬に知らせる
関連URL	

医学入門ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
学長	浅井 清文 (元小児科医／基礎研究者)
厚生労働省・医系技官	大森 豊録 (元学長特別補佐)
蒲郡市民病院CEO	城 卓志 (消化器代謝内科学・前教授、名誉教授)
学習院女子大・教授	土屋 有里子 (専門：日本文化、死生学)
公衆衛生学・教授	鈴木 貞夫
細胞生化学・教授	加藤 洋一
細胞生化学・講師	嶋田 逸誠
西部医療センター・教授 (診療担当)	尾崎 康彦
脳神経生理学・教授	飛田 秀樹

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容 (仮題)	担当者
10	6	金	1	ガイダンス／医学情報処理 (図書館 (文献検索) 実習)	飛田 秀樹
	6	金	2	ガイダンス／医学情報処理 (図書館 (文献検索) 実習)	川澄分館職員
10	13	金	1,2	プロフェッショナルリズム1：(タイトル未定)	浅井 清文
10	20	金	1	大学生の生物学1：セントラルドグマ1 (教科書10.2, 11.1, 11.2, 11.3)	嶋田 逸誠
			2	大学生の生物学2：セントラルドグマ2 (教科書11.4, 11.5, 11.6)	嶋田 逸誠
10	27	金	1	プロフェッショナルリズム2：AEDの原理と実践	飛田 秀樹
		金	2	休講 (川澄祭準備)	
11	10	金	1,2	大学生の生物学3：遺伝子発現の制御1 (教科書13.1, 13.2, 13.3)	加藤 洋一
				大学生の生物学4：遺伝子発現の制御2 (教科書13.4, 13.5)	加藤 洋一
11	17	金	1	自習	
		金	2	プロフェッショナルリズム4：禁煙	鈴木 貞夫
11	24	金	1,2	保健医療1：この国の医療と福祉のかたちをつくる	大森 豊録
12	1	金	1,2	保健医療2：①「排卵予知法と妊娠診断法」②「STOP THE STD!」	尾崎 康彦
12	8	金	1,2	予備日	
12	15	金	1	大学生の生物学5：DNAの複製 (教科書10.3, 10.4, 10.5)	
			2	大学生の生物学6：遺伝子変異と疾患 (教科書12.1, 12.2, 12.3, 12.4, 12.5)	
12	22	金	1	中間試験 (医学英語および講義内容)	
		金	2	保健医療3：監察医制度について	法務省名古屋管区
1	12	金	1,2	保健医療4：未来の医療に向けて	城 卓志
1	19	金	1	プロフェッショナルリズム5：医学の歴史と生命倫理	飛田 秀樹
		金	2	プロフェッショナルリズム6：日本人の死生観	土屋 有里子
1	26	金	1,2	予備日	
2	1	金		教養試験期間	
2	9	金	1,2	本試験 (医学英語および講義内容)	

- # 教科書 新・大学生物学の教科書 第2巻分子遺伝学 ブルーボックス<講談社> 2,200円
11hi 名古屋市大ブックス第11巻 いきいき心臓とはつつ生活<中日新聞社> 1100円
英語単語 医学生のための (必須) 医学英語 <金芳堂> 3,300円

開講年度	2023年度
科目名	医学情報学
専門・教養	専門
担当教員	佐藤泰正（大須病院院長、内科）、井出政芳（北津島病院内科）、片野広之（医学医療情報管理学准教授、情報管理教育センター、脳神経外科）、早川富博（厚生連足助病院名誉院長、内科）、岸 真司（日赤愛知医療センター名古屋第二病院医療情報管理センター長、小児科）、佐野芳彦（作曲家、ト・ヘン取締役）＜順不同・敬称略＞
講義期間・曜日・時限	2024/2/5-13、月・火・水曜日、3～4限

授業目的・目標	【授業目的】医学とは、疾病の予防・診断および治療を目的として、研究を行う学問であり、このために医学は多くの情報を収集し意志決定を行うという情報処理過程を含んでいる。従って、基礎医学、臨床医学、社会医学を問わず、医学にはその基盤として情報科学が存在する。医学情報学は、一般の情報科学の医学的応用にとどまらず、医学と一体となってその基礎を形作っている固有の科学である。 【授業目標】「医学情報学」の講義を通して、専門化が進んだ医学・医療の総合化、医療を行う上での効率化、医学・医療の中で必要とされるあらゆる意志決定の基礎を理解する。
キーワード	情報管理/保険制度/カルテ論/機械学習/地域医療/解の探索/情報伝達
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域I-b, c, d, II-a, d, e, III-c, d, IV-a, d
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 医学・医療情報管理学（医学情報学）の基本理念と概略を総論として理解できる。 2. 将来の医療の担い手として必要な情報の入手、管理、利用および提供などに関する知識、実務、倫理を医学情報学の基礎として習得する。 3. 実際の臨床現場での応用について、診療情報の扱い方、地域医療、保険制度などを含め様々なテーマから習得する。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-1-1, 2, A-2-1, A-4-1, 2, A-7-1, B-1-7, 8, 9, B-2-2, B-3-1, B-4-1, B-5-1, 2, 8
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1年後期 16時間 1. 医学・医療情報管理学（医学情報学）総論 2. 医学情報学の基礎と応用 3. 情報セキュリティ・保険制度 4. 記号論・知識ベース・地域医療・遺伝的アルゴリズム・医用画像情報 5. 情報伝達・音情報・ユニバーサルデザイン
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、下記参考文献などの関連箇所を参考にして該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。また、各講義の感想、自分の意見などを400字程度にまとめたものを提出すること（小レポート、出席点 5x8=40）。
成績評価方法	講義は出席度、参加態度、質問頻度、質問内容および出席後の小レポートの提出、内容などで評価する（配分40%）。全講義終了後の医学情報に関する本レポート（テーマは自由選択。講義で扱ったテーマや、その他医学情報学に関するものであれば可。A4で3枚程度。配分60%）は単位認定試験の代替として医学部履修規程第15条に準ずる。（従って出席要件を満たさないものはレポート提出資格を失う。）レポートは内容の妥当性、独自性、適切な文献・資料の引用、自分の意見・論理の展開などで評価する。なお、講義中の私語など授業態度不良者、および指定したレポート提出期限を守らない者はすべて単位認定不可とする。
教科書・テキスト	特に指定しない
参考文献	医療情報「医学・医療編」「医療情報システム編」「情報処理技術編」日本医療情報学会 篠原出版社（図書館にあります。）
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。講義内容変更あり得るので、掲示に注意。講義中私語は厳禁。（守れない者は退室させる。授業態度不良者は単位認定不可とする。）
履修者への要望事項	特になし。
アクティブ・ラーニング	最後に学生と各講師との質疑応答・意見交換（ディベート）を行うので、積極的に発言すること。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	主に医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

令和5年度 第1学年

医学情報学ユニット 担当教員(順不同)

所属・職名	氏名
大須病院院長、内科	佐藤泰正
厚生連足助病院名誉院長、内科	早川富博
医学医療情報管理学准教授、脳神経外科	片野広之
回精会 北津島病院 内科	井出政芳
日赤愛知医療センター名古屋第二病院 医療情報管理センター長、小児科	岸 真司
作曲家、ト・ヘン取締役	佐野芳彦

R6(2024)年 医学情報学授業計画(予定*)

月	日	曜日	時限	内 容(仮)	担当者(敬称略)
2024.2	5	月	3	医学情報学総論・情報セキュリティ	片野広之
2	5	月	4	解の探索(遺伝的アルゴリズム)	岸 真司
2	6	火	3	医学情報とナッジ	片野広之
2	6	火	4	中山間部医療・医療福祉とICT	早川富博
2	7	水	3	医療保険制度	片野広之
2	7	水	4	医療記号論とエスノメソドロジー	井出政芳
2	13	火	3	知識ベース・高血圧処方支援システム～機械学習	佐藤泰正
2	13	火	4	音楽のユニヴァーサルデザイン	佐野芳彦

2024.2.5-13 第3限 13:00-14:30 第4限 14:40-16:10

講義会場: 病院3階大ホール

* 講義内容変更あり得ますので、掲示に注意してください。

** 講義中私語厳禁。守れない人は退出させます。

(2) 基礎医学 (2 年次 4 月~12 月)

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	解剖学コース 肉眼解剖学ユニット/組織学・発生学・神経解剖学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	植木孝俊、井上浩一、菊島健児、森本浩之（以上、統合解剖学） 鶴川真也、植田高史、熊本奈都子、柴田泰宏、島田昌一、石田雄介（以上、機能組織学）
講義期間・曜日・時間	解剖学講義および実習予定表を参照

授業目的・目標	<p>【授業目的】 解剖学の目的は、人体の構造を明らかにし、形態の上から生命の本態を追究することにある。解剖学は、肉眼によって剖出と観察を行う「肉眼解剖学（系統解剖学）」と顕微鏡を用いて人体の微細な構造を明らかにする「顕微解剖学（組織学）」とに大別され、両方を学ぶ必要がある。さらに、「骨学」で、人体の骨格の成り立ちと、その機能を骨格本で学ぶとともに、「発生学」を学び、人体の発生・成熟過程を知る必要がある。これらの学問は、医学・医学研究の礎となるものであり、十分な学習と知識の習得が必要である。また、特に、「肉眼解剖学実習」においては、ご献体への接し方を通じ、医療者に必要とされる倫理観、服務態度を涵養するほか、実習場で解剖を際なく実施するための医療チーム内の信頼関係の構築、意思疎通の円滑化の術を習得する。さらに、「実習オリエンテーション」、「解剖感謝式」にて、ご献体下さった方のご遺志に触れ、ご遺族と交流することにより、医療者の社会的責務を理解、認識する。</p> <p>【授業目標】 人体の構造・発生に関して、巨視的・微視的に説明できる能力を身につける。医療者に必要とされる倫理観、服務態度、チームワークを円滑に実施するためのコミュニケーション能力、リーダーシップを涵養、習得する。また、医療人としての社会的責務を理解、認識する。</p>
キーワード	肉眼解剖学、骨学、組織学、発生学、神経解剖学、ご献体
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域1a、1c、1d、1Va、1Vb、1Vc、1vd
学習到達目標	<p>近年、新しい研究方法の導入によって、解剖学の上に新しい知識が限りなく加えられつつある。特に、超微細構造の研究は、細胞生物学を中心とする生化学分野での研究領域拡大と相まって生体内における諸種構造の機能的意義の解明を一層促進しており、今日では、形態と機能を互いに分離して論ずることは不可能である。すなわち、解剖学では、新しい研究成果は歴史的に築き上げられた膨大な基礎的事実の上に加えられる。その結果、解剖学の講義内容は日ごとに増加している。しかも、それは、学生が自ら解剖し、あるいは模倣し、よく考えることによってはじめて生きた知識となるのであって、解剖学を正しく理解するには、ただ単に各部位の名称を受動的に暗記するのではなく、人体の精巧な構造と機能に興味を抱き、探究心に導かれた自主的な学習態度が必要である。</p> <p>一方、学生が卒業後に医療の現場で患者に接し、多職種連携によるチーム医療をリーダーシップをとりながら円滑に実施するためには、高い倫理観と社会的責務の認識に裏付けられた医療者としての適切な服務態度を身に付けることが必要である。解剖学では、特にご献体での実習において、実習場で作業する中で、それら医療者に必須な倫理観、服務態度、コミュニケーション能力、リーダーシップの涵養と習得、および、社会的責務の理解と認識を促す。</p> <p>学習到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 基礎医学の十分な知識を有する。 <ol style="list-style-type: none"> 細胞の基本構造を説明できる。 各組織・各臓器の構造と位置関係を肉眼・光学顕微鏡・電子顕微鏡レベルで説明できる。 臓体と器官が形成される発生過程を説明できる。 医療者に必要とされる倫理観を概説できる。 医療者に求められる服務態度について概説できる。 医療者の社会的責務について概説できる。 チームワークを円滑に遂行するための信頼関係の構築、意思疎通ができる。 チームワークを主導し目標を達成することができる。 <p>該当するモデル・コア・カリキュラム A-1、A-2、A-4、A-5、A-8、A-9、B-3、B-4、C-1、C-2、D-1-1、D-2-1、D-3-1、D-4-1、D-5-1、D-6-1、D-7-1、D-8-1、D-9-1、D-10-1、D-11-1、D-12-1、D-13-1、D-14-1、E-7、E-8、E-9</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学習到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学習到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学習到達目標を達成している） 可：60点以上（学習到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<p>（講義）</p> <ol style="list-style-type: none"> 序論 発生学 組織学総論 運動器系 循環器系 消化器系 呼吸器系 泌尿生殖器系 内分泌系 神経系 感覚器系 <p>（実習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 肉眼解剖学実習（実習オリエンテーション、実習、解剖感謝式） 骨学実習 組織学実習 脳実習
授業計画	講義および実習予定表を参照のこと。随時、必要に応じて指示する。
授業時間外の学修（準備学習を含む）	予定表を確認の上、参考図書該当箇所を予習してから講義に臨むこと。神経解剖学の教科書に関しては、間違った記述が散見されるので、最低3種類は目を通すことが望ましい。講義終了後は、知識を定着させるため、復習すること。実習には、事前に教科書を熟読し、手順を把握してから臨むこと。また、実習終了後、観察事項について復習すること。
成績評価方法	各ユニットごとに、筆記試験、レポートなどの課題、講義と実習への出席状況、受講態度、実習達成度評価（実習スケッチ、口頭試験、実習態度、実習レポートなどにより評価）などにより総合的に判定し、60%以上の学習習得度を達成したと判断した場合に合格とする。また、肉眼解剖学ユニットにおいては、実習達成度評価が第1点（達成度60%）に達しないと判断されたときは、本試験の受験を認めない場合がある。
教科書・テキスト	<p>（解剖学、肉眼解剖学実習、骨学実習） 教科書 解剖学講義 伊藤著（南山堂） 解剖実習の手引き 寺田春水・藤田恒夫著（南山堂） 骨学のすゝめ 中野隆著（南山堂） ネット解剖学アトラス 原書第7版 または 同電子書籍付セット版（南山堂） 参考書 イラスト解剖学（第10版） 松村謙児著（中外医学社） 入門組織学 牛木辰男著（南山堂）</p> <p>（発生学） ムーア人体発生学（第11版）：K.L.Mooreら 著 大谷 浩 監訳（医歯薬出版） ラングマン人体発生学（第11版）：T.W.Sadler 著 安田延生ら 訳（医学書院） ギルバート発生生物学：Scott F.Gilbert 著 阿形清和・高橋淑子 監訳（MEDSI）</p> <p>（神経解剖学） 神経解剖学講義ノート：寺島俊雄 著（金芳堂） マーティン神経解剖学 ― テキストとアトラス（第4版）：野村 峰ら 監訳（西村書店） ハインズ神経解剖学アトラス（第5版）：Duane E.Haines 著 佐藤二美 訳（MEDSI） 機能解剖で斬る神経系疾患（第2版）：中野 隆 編著（メディカルプレス）</p> <p>（組織学） 標準組織学（総論・各論）（第6版）：藤田尚男・藤田恒夫 著（医学書院） 現代の組織学（改訂第3版）：山田安正 著（金原出版） 新編カラーアトラス組織・細胞学：岩永敏彦・木村俊介・小林純子 著（医歯薬出版） ジュンケイラ組織学（第5版）：坂井健雄・川上達人 監訳（丸善出版） 組織細胞生物学（原書第3版）：内山安男 翻訳（南山堂）</p>
参考文献	テキストや参考図書の中で挙げられている参考文献。講義時間中にも紹介する。
履修上の注意事項	講義資料は、原則、当日配布。
履修者への要望事項	肉眼解剖学実習、解剖感謝式には、華美な服飾（イヤリング、ネイルなど）、髪染めをせずに臨むこと。
アクティブ・ラーニング	肉眼解剖学実習においては臨床医学系教員による病態に関連する実習課題の提示と、課題の実習グループによる検討を行う。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

解剖学コース 肉眼解剖学ユニット 担当教員

所属・職名
 統合解剖学分野 教授
 統合解剖学分野 准教授
 統合解剖学分野 講師
 統合解剖学分野 博士研究員

氏名
 植木 孝俊
 井上 浩一
 菊島 健児
 森本 浩之

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
4	4	火	3	解剖学ガイダンス、代謝内分泌系	植木
4	4	火	4	循環器系1	植木
4	6	木	3	循環器系2	植木
4	6	木	4	呼吸器系	植木
4	11	火	3	運動器系1	菊島
4	11	火	4	運動器系2	菊島
4	12	水	3	運動器系3	菊島
4	12	水	4	運動器系4	森本
4	13	木	3	運動器系5	森本
4	13	木	4	運動器系6	森本
4	18	火	3	消化器系1	井上
4	18	火	4	消化器系2	井上
4	19	水	3	骨学実習1 (基礎教育棟3階組織実習室)	解剖学1全教員
4	19	水	4	骨学実習2 (基礎教育棟3階組織実習室)	解剖学1全教員
4	20	木	3	消化器系3	井上
4	20	木	4	泌尿器系	井上
4	25	火	3	生殖器系1	菊島
4	25	火	4	生殖器系2	菊島
4	26	水	3・4	肉眼解剖学実習1 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
4	27	木	3・4	肉眼解剖学実習2 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
4	28	金	3・4	肉眼解剖学実習3 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	2	火	3・4	肉眼解剖学実習4 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	9	火	3・4	肉眼解剖学実習5 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	10	水	3・4	肉眼解剖学実習6 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	12	金	3・4	肉眼解剖学実習7 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	16	火	3・4	肉眼解剖学実習8 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	17	水	3・4	肉眼解剖学実習9 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	18	木	3・4	肉眼解剖学実習10 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	19	金	3・4	肉眼解剖学実習11 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	23	火	3・4	肉眼解剖学実習12 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	24	水	3・4	肉眼解剖学実習13 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	25	木	3・4	肉眼解剖学実習14 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	26	金	3・4	肉眼解剖学実習15 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	30	火	3・4	肉眼解剖学実習16 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	31	水	3・4	肉眼解剖学実習17 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	1	木	3・4	肉眼解剖学実習18 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	2	金	3・4	肉眼解剖学実習19 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	6	火	3・4	肉眼解剖学実習20 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	7	水	3・4	肉眼解剖学実習21 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	8	木	3・4	肉眼解剖学実習22 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	9	金	3・4	肉眼解剖学実習23 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	13	火	3・4	肉眼解剖学実習24 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	14	水	3・4	肉眼解剖学実習25 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	15	木	3・4	肉眼解剖学実習26 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	16	金	3・4	肉眼解剖学実習27 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	20	火	3・4	肉眼解剖学実習28 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	21	水	3・4	肉眼解剖学実習29 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	22	木	3・4	肉眼解剖学実習30 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	27	火	3・4	肉眼解剖学実習31 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学2全教員
6	28	水	3・4	肉眼解剖学実習32 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学2全教員
6	29	木	3・4	肉眼解剖学実習33 (納棺) (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
7	3	月	3・4	本試験	
10	17	火	3・4	解剖感謝式 (さくら講堂)	
11	20	月	3・4	再試験	

解剖学コース 組織学・発生学・神経解剖学ユニット 担当教員

所属・職名
 機能組織学分野 教授
 機能組織学分野 准教授
 機能組織学分野 講師
 機能組織学分野 助教
 大阪大学大学院 医学系研究科 教授
 東北医科薬科大学 医学部 教授

氏名
 鶴川 真也
 植田 高史
 熊本 奈都子
 柴田 泰宏
 島田 昌一
 石田 雄介

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
4	5	水	1・2	組織学総論(1)・(2)	柴田 泰宏
	6	木	1	組織学総論(3)	柴田 泰宏
	6	木	2	組織学総論(4)	熊本 奈都子
	7	金	1・2	組織学実習(1)	全教員
	12	水	1	神経解剖学(1)	熊本 奈都子
	12	水	2	感覚器(1)	熊本 奈都子
	13	木	1	発生学総論(1)	植田 高史
	13	木	2	神経解剖学(2)	鶴川 真也
	14	金	1・2	組織学実習(2)	全教員
	19	水	1	発生学総論(2)	植田 高史
	19	水	2	神経解剖学(3)	鶴川 真也
	20	木	1	発生学各論(1)	植田 高史
	20	木	2	神経解剖学(4)	鶴川 真也
	21	金	1・2	組織学実習(3)	全教員
	26	水	1	発生学各論(2)	植田 高史
	26	水	2	神経解剖学(5)	鶴川 真也
	27	木	1	感覚器(2)	鶴川 真也
	27	木	2	神経解剖学(6)	鶴川 真也
	28	金	1・2	組織学実習(4)	全教員
5	10	水	1・2	感覚器(3)・(4)	石田 雄介
	12	金	1・2	組織学実習(5)	全教員
	17	水	1・2	神経解剖学(7)・(8)	島田 昌一
	19	金	1・2	組織学実習(6)	全教員
	24	水	1	発生学各論(3)	植田 高史
	24	水	2	神経解剖学(9)	鶴川 真也
	26	金	1・2	組織学実習(7)	全教員
	31	水	1	発生学各論(4)	植田 高史
	31	水	2	神経解剖学(10)	鶴川 真也
6	2	金	1・2	組織学実習(8)	全教員
	7	水	1・2	組織学実習(9)	全教員
	9	金	1・2	組織学実習(10)	全教員
	14	水	1・2	組織学実習(11)	全教員
	16	金	1・2	組織学実習(12)	全教員
	21	水	1・2	組織学実習(13)	全教員
	23	金	1・2	組織学実習(14)	全教員
	27	火	3・4	肉眼解剖学実習(31)	全教員
	28	水	1・2	組織学実習予備日	
	28	水	3・4	肉眼解剖学実習(32)	全教員
	30	金	1・2	組織学実習予備日	
7	5	水	1・2	組織学実習(15)	全教員
	6	木	3・4	組織学実習(16)	全教員
	12	水	1・2	組織学実習(17)	全教員
	13	木	3・4	組織学実習(18)	全教員
	19	水	1・2	組織学実習(19)	全教員
	24	月	AM・PM	組織学総論・各論・実習試験	全教員
9	1	金	3・4	中間試験	全教員
10	2	月	3・4	本試験	全教員
	17	火	PM	解剖感謝式	
11	27	月	3・4	再試験	全教員

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	生化学コース・物質と代謝／分子と細胞ユニット
専門・教養	専門
担当教員	1) 物質と代謝ユニット：(医学部)加藤洋一、鄭 且均、藤嶋、辻田麻紀 非常勤講師：(国立長寿医療センター) 里 直行、(国立長寿医療センター) 渡辺 研、道川 誠 2) 分子と細胞ユニット：(医学部)加藤洋一、嶋田造誠、二宮裕将、横本 寛、今井優樹、志馬寛明 非常勤講師：(医学部)岡本 尚、(東京大学)中西 真、(愛知県医療療養総合センター)中西圭子、(岐阜医療科学大学)石黒啓司
講義期間・曜日・時限	生化学講義および実習予定表を参照

授業目的・目標	卒業時コンピテンシー：領域1 1) 細胞を構成する細胞膜、細胞小器官の構造と機能を理解するとともに、遺伝子からタンパクへの流れに基づく生命現象を学び、遺伝子工学の手法と応用やヒトゲノムの解析を理解する。 2) 細胞の共通の属性である細胞周期、細胞骨格、タンパク質および脂質の細胞内輸送、さらには神経細胞等の特殊化した細胞機能を理解する。さらに、細胞表面から核内にある情報伝達経路について詳細な分子機構を理解する。 3) 生体における脂質・糖質・タンパク質、酵素、ビタミン等の物質の構造と機能を学び、さらにこれらがどのように代謝と呼ばれる、合成・分解・変換の反応を受け、エネルギーを発生させ、生体の機能を発現させるのかを理解する。
キーワード	細胞膜、細胞小器官、遺伝子、細胞周期、代謝、糖質、脂質、タンパク質、酵素、ビタミン
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】領域1a, 1c, 1d
学習到達目標	【細胞の構造と機能 (C-1-1, C-2-1)】 1) 細胞の構造と細胞小器官の機能を説明できる。 2) 細胞内のエネルギー変換を説明できる。 3) 細胞骨格の構造と機能を概説できる。 4) アクチンフィラメント系による細胞運動を説明できる。 5) 細胞同士の接着と結合様式を説明できる。 6) 細胞膜の構造と細胞膜を介する物質の能動・受動輸送過程を概説できる。 7) 細胞膜を介する分泌と吸収の過程を説明できる。 8) 細胞内輸送システムを説明できる。 9) 受容体を介する細胞内シグナル伝達の過程と機能を概説できる。 10) 細胞周期と細胞死の過程を概説できる。 【遺伝的多様性と疾患 (C-4-1)】 1) Mendelの法則、ミトコンドリア遺伝、インプリンティング及び多因子遺伝の説明、ならびに遺伝型と表現型の関係を説明できる。 2) 染色体の構造を概説し、ゲノムと染色体及び遺伝子の構造と関係性、体細胞分裂及び減数分裂における染色体の挙動を説明できる。 3) 遺伝病についてその遺伝形式と病因を説明できる。 4) デオキシリボ核酸(DNA)からリボ核酸(RNA)への転写、タンパク質合成に至る翻訳を含む遺伝情報の発現及び調節(セントラルドグマ)を説明できる。 5) デオキシリボ核酸の複製と修復を概説できる。 6) 体分析・DNA配列決定を含むゲノム解析技術を概説できる。 【生体物質の代謝(C-2-5)】 1) 酵素の機能と調節を説明できる。 2) 解糖の経路と調節機構を説明できる。 3) クエン酸回路を説明できる。 4) 電子伝達系と酸化的リン酸化を説明できる。 5) 糖新生の経路と調節機構を説明できる。 6) グリコーゲンの合成と分解の経路を説明できる。 7) 五炭糖リン酸回路の意義を説明できる。 8) 脂質の合成と分解を説明できる。 9) リポタンパクの構造と代謝を説明できる。 10) タンパク質の合成と分解を説明できる。 11) アミノ酸の異化と尿素合成の経路を概説できる。 12) ヘム・ホルフィリンの代謝を説明できる。 13) スクワレノイドの合成・異化・再利用経路を説明できる。 14) 酸化ストレス(フリーラジカル、活性酸素)の発生と作用を説明できる。 15) ビタミンの種類と作用を説明できる。 16) エネルギー代謝(エネルギーの定義、食品中のエネルギー値、エネルギー消費量、推定エネルギー必要量)を理解し、空腹(飢餓)時、食後(過食時)と運動時における代謝を説明できる。 【代謝障害(C-4-3)】 1) 糖・タンパク質・アミノ酸、脂質代謝異常の病態を説明できる。 2) 核酸・スクワレノイド代謝異常の病態を説明できる。 3) ビタミン、微量元素の代謝異常の病態を説明できる。 4) 肥満に起因する代謝障害の病態を説明できる。 【加齢と老化(E-8)】 加齢と老化によって伴う神経変性疾患であるアルツハイマー病を説明できる。
成績評価基準	秀：90点以上(学習到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学習到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学習到達目標を達成している) 可：60点以上(学習到達目標を最低限度達成している)
授業概要	1. 細胞の構造と機能 (C-1-1, C-2-1) 2. 遺伝的多様性と疾患 (C-4-1) 3. 生体物質の代謝 (C-2-5) 4. 代謝障害 (C-4-3) 5. 加齢と老化 (E-8)
授業計画	1) 物質と代謝ユニット：ガイダンス1、タンパク質7、糖質8、脂質6、酵素3、生体酸化2、ビタミン3、スクワレノイド代謝1。 2) 分子と細胞ユニット：総論2、核酸1、遺伝学1、DNA複製1、染色体分配1、DNA複製1、転写と遺伝子発現2、RNAエディティング・マイクロナRNA1、翻訳2、ゲノム科学1、ハイオインフォマティクス1、膜輸送1、細胞内輸送2、細胞間情報伝達2、エネルギー変換1、細胞骨格1、細胞周期1、免疫基礎2、実験技術1、疾患4、学生発表4。 ※講義の一部を学生による講義形式の発表とし、相互に研鑽した内容について質疑を行う。また、論文抄読により学生が自ら研鑽・理解した内容につきディスカッションする。
授業時間外の学習(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の内容を事前に予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	各ユニットごとに、筆記試験、実習口頭試問、実習レポートにより総合判定し、60%の理解度を達成したものを合格とする。
教科書・テキスト	教員より配布されるプリントが各講義の中心となる。参考テキストとして適宜、以下の生化学・分子生物学のテキストを利用すること。 (物質と代謝) ハーパー・生化学 丸善出版事業部 デブリン生化学-臨床の理解のために 丸善出版事業部 レーニンジャー・生化学 廣川書店 ヴォート・生化学 東京化学同人 ストライヤー生化学 東京化学同人 イラストレイテッド生化学 丸善出版事業部 (分子と細胞) 細胞の分子生物学(ニュートンプレス) 羊土社 診療・研究にダイレクトにつながる遺伝医学 羊土社
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要項事項	生化学は、分子生物学を含む広範な領域をカバーしているため暗記中心では対応できない。内容の理解を第一に。理解できないことは積極的に教員に質問すること。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。「物質と代謝」ユニットでは、学生グループがテーマについてプレゼンテーションを行う。「分子と細胞」ユニットでは、学生一人一人がテーマについて数分間のプレゼンテーションを行う。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。授業時間外の学習について、講義内容を十分に理解するために、配布されたプリントや上に記載したテキスト等にあたり、授業に関連した箇所を掘り下げて学習すること。
関連URL	

生化学コース 物質と代謝ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 細胞生化学分野・教授	加藤 洋一
医学研究科 神経生化学分野・准教授	鄭 且均
医学研究科 神経生化学分野・准教授	鄒 鞆
医学研究科 神経生化学分野・講師	辻田 麻紀
非常勤講師	道川 誠
国立長寿医療研究センター・客員教授	里 直行
国立長寿医療研究センター・客員教授	渡辺 研

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	10	月	3	ガイダンス	鄭
4	10	月	4	タンパク質1(アミノ酸とペプチド、タンパク質の構造)	道川
4	11	火	1	酵素1(酵素の分子構造と機能、レーニンジャー新化学第5版(上)、p267-p283参考、授業日までに予習しておく)	鄭
4	11	火	2	糖質1(代謝概観と糖質の消化・吸収、カラー生化学p315-323、イラストレイテッド生化学p101-107)	鄒
4	17	月	3	タンパク質2(タンパク質の分離・精製・解析法)	道川
4	17	月	4	タンパク質3(アミノ酸、タンパク質の合成、輸送)	道川
4	18	火	1	脂質1(リッピンコト・イラストレイテッド生化学(LC)、15章)	辻田
4	18	火	2	酵素2(酵素の反応速度と阻害物質1、レーニンジャー新化学第5版(上)、p283-p338参考、授業日までに予習しておく)	鄭
4	24	月	3	タンパク質4(タンパク質の機能1)	道川
4	24	月	4	タンパク質5(タンパク質・アミノ酸の分解、尿素回路)	道川
4	25	火	1	糖質2(解糖、イラストレイテッド生化学p111-131)	鄒
4	25	火	2	脂質2(ハーバー・イラストレイテッド生化学(IH)、22,23,25章)(LC、16章)	辻田
5	1	月	3	酵素3(酵素の反応速度と阻害物質2、レーニンジャー新化学第5版(上)、p283-p338参考、授業日までに予習しておく)	鄭
5	1	月	4	脂質3(LC、16章)(IH、22、23章)	辻田
5	2	火	2	脂質4(IH、24章)(LC、17章)	辻田
5	8	月	3	糖質3(TCA回路、イラストレイテッド生化学p133-141、p89-95)	鄒
5	8	月	4	ビタミン1(ビタミン一般論、ハーバー生化学第30版、p633-p653、授業日までに予習しておく)	鄭
5	9	火	1	タンパク質6(タンパク質の機能2)	渡辺(客員教授)
5	11	木	1	ビタミン2(水溶性ビタミン、ハーバー生化学第30版、p633-p653、授業日までに予習しておく)	鄭
5	11	木	2	タンパク質7(タンパク質代謝と老化・疾患)	里(客員教授)
5	15	月	3	糖質4(糖新生と血糖の調節、イラストレイテッド生化学p146-153、ハーバー生化学p194-203)	鄒
5	15	月	4	ビタミン3(脂溶性ビタミン、ハーバー生化学第30版、p633-p653、授業日までに予習しておく)	鄭
5	18	木	1	糖質5(グリコーゲン代謝と単糖、二糖の代謝、イラストレイテッド生化学p155-177)	鄒
5	18	木	2	生体酸化1(医科生化学 4章1-4)	辻田
5	22	月	3	糖質6(ペントースリン酸経路とNAPDH、イラストレイテッド生化学p179-191)	鄒
5	22	月	4	脂質5(IH、26章)(LC、18章)	辻田
5	23	火	2	ヌクレオチド代謝	加藤
5	25	木	1	糖質7(グリコサミノグリカン、イラストレイテッド生化学p193-201)	鄒
5	25	木	2	生体酸化2(医科生化学 4章5)	辻田
5	29	月	3	糖質8(糖タンパク質、イラストレイテッド生化学p201-209)	鄒
5	29	月	4	脂質6(ヴォート生化学、25章)	辻田
5	30	火	1	学生発表	全教員
5	30	火	2	学生発表	全教員
7	18	火	3	生化学 物質と代謝ユニット 筆記試験	
11	22	水	3	生化学 物質と代謝ユニット 筆記試験(再試験)	

月	日	曜日	時限		担当者
8	29	火	1		鄭
9	4	月	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	5	火	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	6	水	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	7	木	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	12	火	1, 2	タンパク質化学実習ーディスカッションまたは予備日	全教員
	13	水	1, 2	タンパク質化学実習ーディスカッションまたは予備日	全教員
	25	月	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	26	火	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	27	水	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	28	木	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
10	3	火	1, 2	タンパク質化学実習ーディスカッションまたは予備日	全教員
	4	水	1, 2	タンパク質化学実習ーディスカッションまたは予備日	全教員

生化学コース 分子と細胞ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
細胞生化学分野・教授	加藤洋一
細胞生物学分野・講師	二宮裕将
細胞生物学分野・講師	嶋田逸誠
細胞生物学分野・助教	橋本寛
免疫学・教授	山崎小百合
免疫学・講師	志馬寛明
非常勤講師(名市大・医・名誉教授)	岡本尚
非常勤講師(東大医科研・教授)	中西真
非常勤講師(愛知県医療療育総合センター)	中西圭子
非常勤講師(岐阜医科大・保・教授)	石黒啓司

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	1	木	1	分子生物学総論	加藤
	1	木	2	核酸とその構造	中西(圭)
	5	月	3	クロマチン構造と基本転写因子	二宮
	5	月	4	遺伝子発現制御機構・転写の活性化と抑制	二宮
	6	火	1	予備日	
	6	火	2	スプライシング・RNAエディティング・マイクロRNA	加藤
	8	木	1	翻訳1	橋本
	8	木	2	翻訳2および翻訳後修飾	橋本
	12	月	3	ゲノム科学	岡本
	12	月	4	バイオインフォーマティクス	岡本
	13	火	1	DNAの複製と再構成	加藤
	13	火	2	DNA修復機構	加藤
	15	木	1	基礎遺伝学	加藤
	15	木	2	染色体分配	加藤
	19	月	3	病気と遺伝子	石黒
	19	月	4	病気と遺伝子	石黒
	20	火	1	細胞生物学総論	加藤
	20	火	2	細胞周期と細胞死	加藤
	22	木	1	膜構造と膜輸送	加藤
	22	木	2	細胞骨格	加藤
	26	月	3	ガンと生化学	中西(真)
	26	月	4	ガンと生化学	中西(真)
	27	火	1	細胞内タンパク輸送(小胞体、ゴルジ体、エンドサイトーシス、エキソサイトーシス)	嶋田
	27	火	2	細胞内タンパク輸送(核、ミトコンドリア)	嶋田
	29	木	1	エネルギー変換:ミトコンドリア	加藤
	29	木	2	シグナルと転写	加藤
7	4	火	1	免疫学の基礎(1)	山崎
	4	火	2	免疫学の基礎(2)	志馬
	6	木	1	情報伝達と発生	加藤
	6	木	2	組換えDNA 実験法の原理	加藤
	10	月	3	学生発表	全教員
	10	月	4	学生発表	全教員
	11	火	1	学生発表	全教員
	11	火	2	学生発表	全教員
	13	木	1	予備日	
	13	木	2	予備日	

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	29	火	2	生化学実習(分子生物学編) 総論と各論	全教員
9	4	月	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	5	火	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	6	水	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	7	木	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	12	火	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	13	水	1,2,3,4	予備日	全教員
	25	月	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	26	火	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	27	水	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	28	木	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
10	3	火	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	4	水	1,2,3,4	予備日	全教員

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	16	月	3,4	分子と細胞ユニット 筆記試験	
11	30	木	3,4	分子と細胞ユニット 再試験	

開講年度	2023年度
科目名	生理学コース・植物的機能系／動物的功能系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	飛田秀樹、橋谷 光、田尻直輝、清水健史、三井 烈、高野博充、中森裕之、上野新也、瀬尾由広、中里浩一、福田道雄、富永真琴、田中謙二、近藤高史
講義期間・曜日・時限	

授業目的・目標	生理学では、生体の正常な機能を細胞、組織、器官の各レベルで理解し、それらが統合され個体として機能している仕組みを学習する。断片的な知識習得にとどまることなく系統的に学習することにより、生体機能制御系が有機的に連関していることを理解し、生命現象の精巧かつ巧妙な仕組みを実感してもらいたい。臨床医学で学ぶ様々な疾病は、正常な生体機能が損なわれた状態であることから、生理学は臨床医学を理解するために不可欠な基盤となっている。
キーワード	細胞リズム、筋肉の多様性、情動形成、運動機構
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1c, 1d
学習到達目標	講義の各項目で学習する生理機能について、分子、細胞、組織、器官それぞれのレベルで理解し、説明できるようにする。その上で、各生理機能の生命機能の中での位置づけや役割などを考察し、他の生理機能との関連や生命体としての統合を説明できるようにする。 【該当するモデルコアカリ】 C-1-1, C-2-1, C-2-3, C-2-4, C-5-1, C-5-2, C-5-3, C-5-4, C-5-5, C-5-7, D-1, D-4, D-5, D-6, D-7, D-8, D-9, D-10, D-12, D-13, D-14, E-7
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	
授業計画	動物的功能系ユニットと植物的機能系ユニットに分け、講義・実習を行う。 講義： パワーポイント、配布資料、板書などにより生理機能を解説する。 実習： 全体を8グループに分け、各グループが全て8項目について実習(終日)を行い、日を改めて実習内容についての発表・討議を行い、レポートを提出する。 4月以降順次講義を行い、実習関連項目の講義終了後(9月以降)に実習を行う。講義は、生理学の主要な分野について概説し、自主学習するための指針を与える。実習では、生体および摘出標本を用いて生理活動を体験しながら、講義で学修した内容の理解を深める。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義： 授業計画表を確認の上、あらかじめテキスト(参考文献)で該当項目を予習してから受講することが不可欠であり、講義終了後には小テストを実施して理解度を確認する。質問は講義後速やかに行き問題点を解決し、復習して学修内容を定着させることが重要である。 実習： 対応する講義内容を十分に復習、理解してから参加する必要がある。実習から討論まで、討論からレポート提出までの期間に各人およびグループで十分な考察と討議を行うことにより、理解を深めて定着させることが可能となる。
成績評価方法	夏休み明けに実施する両ユニット合同中間試験、講義・実習終了後に実施する各ユニット毎の期末試験を実施する。おおよその配点比率は出席・実習態度(10%程度)、中間試験(30%程度)、期末試験(60%程度)とするが、これらを総合的かつ客観的に判定し、M2における生理学について、必要な学習理解度と学習姿勢に達成した者を合格とする。
教科書・テキスト	標準生理学 第9版 医学書院 Textbook of Medical Physiology 13th Edition Guyton & Hall, Elsevier 2018
参考文献	
履修上の注意事項	実習は実験動物や人体を使用し、補講が困難である。従って、受講できない場合や実習態度に問題がある場合は、翌年に再受講(留年)することになるので真摯な態度で実習に臨むこと。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

植物的機能系ユニット 担当教員

所属・職名

細胞生理学 教授
 脳神経生理学 教授
 細胞生理学 講師
 脳神経生理学 講師
 細胞生理学 助教
 細胞生理学 助教
 循環器内科 教授
 日本体育大学 教授
 増子クリニック 副院長

氏名

橋谷 光
 飛田秀樹
 三井 烈
 清水健史
 高野博充
 中森裕之
 瀬尾由広
 中里浩一
 福田道雄

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	10	月	1	オリエンテーション	飛田
4	17	月	1	腎1	高野
4	24	月	1	腎2	高野
5	1	月	1	腎3	高野
5	8	月	1	腎4	高野
5	15	月	1	酸塩基1	高野
5	22	月	1	酸塩基2	高野
5	29	月	1	心臓1	橋谷
6	5	月	1	心臓2	橋谷
6	12	月	1	心臓3	橋谷
6	19	月	1	心臓4	橋谷
6	26	月	1	微小循環	三井
7	4	火	3	循環1	橋谷
7	5	水	3	循環2	橋谷
7	7	金	2	血管	三井
7	7	金	3	呼吸1	清水
7	7	金	4	呼吸2	清水
7	10	月	1	呼吸3	清水
7	11	火	3	特殊循環	三井
7	12	水	3	平滑筋1	三井
7	12	水	4	血液1	三井
7	14	金	2	平滑筋2	三井
7	19	水	3	血液2	橋谷
7	19	水	4	血液3	中森
7	20	木	1	自律神経	飛田
8	28	月	3~4	生理学 中間試験	全教員
8	30	水	1	内分泌1	飛田
8	30	水	2	消化管1	中森
8	31	木	1	内分泌2	飛田
8	31	木	2	消化管2	中森
9	8	金	1	内分泌3	飛田
9	8	金	2	消化吸収1	中森
9	11	月	1	内分泌4	飛田
9	11	月	2	消化吸収2	中森
9	14	木	1	排尿機能	橋谷
9	14	木	2	内分泌5	飛田
9	15	金	1	実習説明	全教員
9	15	金	2	細胞リズム	橋谷
9	15	金	3	特別講義(心臓)	瀬尾
9	15	金	4	特別講義(腎臓)	福田
9	20	水	1~4	実習1	全教員
9	21	木	1~4	実習2	全教員
9	22	金	1~4	実習3	全教員
9	29	金	1	実習討論1	全教員
9	29	金	2	実習討論2	全教員
10	5	木	1~4	実習4	全教員
10	6	金	1	(予備日)	
10	10	火	3	実習討論3	全教員
10	10	火	4	実習討論4	全教員
10	11	水	1~4	実習5	全教員
10	12	木	1~4	実習6	全教員
10	18	水	1~4	実習7	全教員
10	19	木	1~4	実習8	全教員
10	20	金	1	実習討論5	全教員
10	20	金	2	実習討論6	全教員
10	20	金	3	筋肉と代謝・循環	橋谷
10	20	金	4	特別講義(加齢と筋肉)	中里
10	23	月	3	実習討論7	全教員
10	23	月	4	実習討論8	全教員
10	25	水	1~4	(実習 予備日)	全教員
10	26	木	1~2	(実習討論 予備日)	全教員
11	6	月	3~4	植物生理 本試験	全教員
12	5	火	3~4	植物生理 再試験	全教員

動物の機能系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
脳神経生理学 教授	飛田秀樹
細胞生理学 教授	橋谷 光
脳神経生理学 准教授	田尻直輝
脳神経生理学 講師	清水健史
細胞生理学 講師	三井 烈
脳神経生理学 助教	上野新也
細胞生理学 助教	高野博充
細胞生理学 助教	中森裕之
自然科学研究機構 生理学研究所 教授	富永真琴

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	10	月	1	オリエンテーション／膜	飛田
4	10	月	2	興奮1	清水
4	17	月	2	興奮2	清水
4	24	月	2	チャネル	田尻
5	1	月	2	シナプス	上野
5	8	月	2	骨格筋1	橋谷
5	15	月	2	骨格筋2	橋谷
5	22	月	2	体性感覚	飛田
5	29	月	2	視覚1	田尻
6	5	月	2	視覚2	田尻
6	12	月	2	視覚3	田尻
6	19	月	2	運動1	飛田
6	26	月	2	運動2	飛田
7	4	火	4	聴覚	田尻
7	5	水	4	平衡覚	田尻
7	7	金	1	脳機能	上野
7	10	月	2	運動3	飛田
7	11	火	4	基底核	上野
7	14	金	1	小脳	上野
7	20	木	2	味覚・嗅覚	上野
8	28	月	3～4	生理学 中間試験	全教員
9	8	金	3	脳の発生	清水
9	8	金	4	大脳皮質	上野
9	11	月	3	視床下部	飛田
9	11	月	4	辺縁系	飛田
9	14	木	3～4	特別講義1	富永
9	15	金	1	実習説明	全教員
9	19	火	3	記憶	飛田
9	19	火	4	概日リズム	田尻
9	20	水	1～4	実習1	全教員
9	21	木	1～4	実習2	全教員
9	22	金	1～4	実習3	全教員
9	29	金	1	実習討論1	全教員
9	29	金	2	実習討論2	全教員
10	5	木	1～4	実習4	全教員
10	6	金	2	体温調節	田尻
10	6	金	3～4	特別講義2	(未定)
10	10	火	3	実習討論3	全教員
10	10	火	4	実習討論4	全教員
10	11	水	1～4	実習5	全教員
10	12	木	1～4	実習6	全教員
10	18	水	1～4	実習7	全教員
10	19	木	1～4	実習8	全教員
10	20	金	1	実習討論5	全教員
10	20	金	2	実習討論6	全教員
10	23	月	1～2	脳研究	飛田
10	23	月	3	実習討論7	全教員
10	23	月	4	実習討論8	全教員
10	25	水	1～4	(実習 予備日)	全教員
10	26	木	1～2	(実習討論 予備日)	全教員
11	13	月	3～4	動物生理 本試験	全教員
12	8	金	3～4	動物生理 再試験	全教員

開講年度	2023年度
科目名	総合医学コース・水平統合基礎ユニット
専門・教養	専門
担当教員	飛田秀樹、橋谷 光、加藤洋一、植田高史、井上浩一、高野博充、片岡洋望、松川則之、伊藤 剛、島野泰暢
講義期間・曜日・時限	11月上旬から実施

授業目的・目標	生体の正常な構造と機能を、解剖学・生化学・生理学の講義と実習を通じて概ね理解できたM2終盤の時期に、臨床医学で学ぶ様々な疾病が、正常な生体機能が損なわれた状態であることを念頭に置きながら、生体機能が有機的に関連していることを横断的に理解する。
キーワード	虚血性心疾患治療の基礎的根拠、消化器疾病病態、人工透析のメカニズム、脳神経疾患の基礎
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1c, 1d
学習到達目標	臨床で重要となる疾患を視野に入れつつ、解剖・生化学・生理学で学んだ知識を統合的に理解することを学習到達目標とする。 【該当するモデルコアカリ】 C-1-1, C-2-1, C-2-3, C-2-4, C-5-1, C-5-2, C-5-3, C-5-4, C-5-5, C-5-7, D-1, D-4, D-5, D-6, D-7, D-8, D-9, D-10, D-12, D-13, D-14, E-7
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	循環器系、消化器系、呼吸器系、内分泌系、腎泌尿器系、脳神経系に絞り、臨床で重要となる疾患のより深い理解に繋げるための解剖・生化学・生理の統合的講義を行う。
授業計画	循環器系では、虚血性心疾患を理解するための解剖生理を統合的に講義する。消化器系では、消化器疾患の病態を理解するための解剖生理を統合的に講義する。呼吸器系では、気管支ぜんそくを中心とする呼吸器疾患を理解するための解剖生理を講義する。内分泌障害では、バセドウ病と痛風に焦点を当て生化学の統合的講義をする。腎泌尿器系では、透析治療を理解するための解剖生理の統合的講義を行う。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	
成績評価方法	動物生理ユニットの試験と同じ日程時間内で、講義における理解度を試験する。これにより到達目標を達成した者を合格とする。
教科書・テキスト	各講義に於いて紹介される
参考文献	
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	なし
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2023年10月～2023年11月 第2学年

水平統合基礎ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
脳神経生理学 教授	飛田 秀樹
細胞生理学 教授	橋谷 光
細胞生化学 教授	加藤 洋一
機能組織学 准教授	植田 高史
統合解剖学 准教授	井上 浩一
細胞生理学 助教	高野 博充
消化器・代謝内科学 教授	片岡 洋望
脳神経内科学 教授	松川 則之
循環器内科学 講師	伊藤 剛
五条川リハビリテーション病院 院長	島野 泰暢

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	24	火	3	内分泌／代謝系（バセドウ病と痛風の病態理解）	加藤 洋一
	24	火	4	呼吸器系（呼吸器疾患の理解のための解剖・生理）	井上 浩一
10	31	火	3	脳神経系（脳神経疾患の理解のための解剖・生理）	飛田 秀樹
	31	火	4	脳神経系（脳神経疾患の臨床病態：脳卒中と神経変性疾患）	松川 則之
11	1	水	3	腎泌尿器系（透析治療を理解するための解剖・生理）	高野 博充
	1	水	4	腎泌尿器系（透析治療の基礎的根拠）	島野 泰暢
11	2	木	1	循環器系（虚血性心疾患を理解するための解剖・生理）	橋谷 光
	2	木	2	循環器系（虚血性心疾患治療の基礎的根拠）	伊藤 剛
11	8	水	3	予備日	
	8	水	4	予備日	
11	10	金	1	消化器系（消化器疾患を理解するための解剖・生理）	植田 高史
	10	金	2	消化器系（消化器疾患病態のメカニズム）	片岡 洋望

開講年度	2023年度
科目名	コミュニティヘルスケア卒前教育 行動科学・地域医療学コース コミュニティ・ヘルスケア基礎（IPE）ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：赤津裕康、川出義浩、渋谷恭之、村上里奈 看護学部：金子典代 非常勤講師：五島明
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2023/4/7～2023/4/21）、第1,2,3金曜日、3～4限目

授業目的・目標	【授業目的】 超高齢社会が進む中で今後の医療を取り巻く地域社会を理解するため 【授業目標】 地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における多職種連携、認知症サポーターの重要性を理解する
キーワード	地域包括ケアシステム, 多職種連携
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	2b, 3a, 3b, 3c, 3d, 4a, 4b
学習到達目標	【学習到達目標】 1. コミュニティヘルスケアの概念、歴史的背景等を理解し、地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における保健・医療・福祉・介護の分野間および行政を含む多職種間の連携の必要性を説明できる。 2. 多職種の医療・保健・福祉専門職、患者・利用者、その家族、地域の人々など、様々な立場の人が違った視点から医療現場に関わっていることを理解する。 3. 在宅療養と入院または施設入所との関係について、総合的な考察ができる。 4. 認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人や家族を支援することができる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-7-1)、B-1-7) 地域医療への貢献、 B-4-1) 医師に求められる社会性、E-8-1) 老化と高齢者の特徴
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	本科目は、エイジング・イン・プレイス（AIP）社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムの一環である。 講義は6コマであるが、1時間毎で講師は8名で対応する。授業時間内に名古屋市認知症サポーター養成講座を受講し、オレンジリングを取得する。
授業計画	2023年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	準備学習は特に必要ない。幅広い教養に基づいて、将来を見据えた医師像を自分なりに形成出来る様、各方面の読書に励んでほしい。
成績評価方法	毎回授業後に記載提出するレスポンスカードを採点：各10点満点、7コマ計70点とする。最終講義の最後20分（10問程度）で30点満点の試験を行う。合計100点で評価する。
教科書・テキスト	
参考文献	地域医療学入門（診断と治療社）
履修上の注意事項	名古屋市立大学では本科目を医学部・薬学部・看護学の専門科目に位置づける（学部によって必修・選択・自由科目のいずれかとなる）。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	本講座は座学主体でアクティブ・ラーニングの形式はとらない
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	平成25年度入学者から適用 「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア基礎」「コミュニティ・ヘルスケア応用」「コミュニティ・ヘルスケア発展」「コミュニティ・ヘルスケア実践」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。なお、「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」は教養教育科目「医薬看護連携地域参加型学習」として履修する。プログラム履修についての詳しい内容は担当教員に確認すること。
関連URL	

2023年度 第2学年

コミュニティ・ヘルスケア基礎ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
地域医療教育学 教授(診療担当)	赤津 裕康
名古屋市緑保健センター 所長	五島 明
地域医療教育学 特任准教授	川出 義浩
口腔外科学 教授	渋谷 恭之
看護学部 国際保健看護学 准教授	金子 典代
リハビリテーション医学 助教	村上 里奈
瑞穂区東部いきいき支援センター分室	小林 紀子

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	7	金	3-4	コミュニティ・ヘルスケア概論	赤津 裕康
				少子高齢化社会での行政と保健所の役割	五島 明
				病院・地域における薬剤師の役割	川出 義浩
4	14	金	3-4	病院・地域における看護師・保健師の役割	金子 典代
				病院・地域における歯科医師、歯科衛生士の役割	渋谷 恭之
				病院・地域におけるリハビリテーションの役割	村上 里奈
4	21	金	3-4	認知症サポート養成講座	いきいき
				認知症の基本	赤津 裕康
				試験	

開講年度	2023年度1月～2023年12月
科目名	行動科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	上島通浩、植田典浩、榎原毅、柿崎真沙子
講義期間・曜日・時限	2023/8/29～2023/8/30

授業目的・目標	【授業目的】人間の行動と心理の決定要因を理解し、治療的または予防的な介入効果を評価して患者・集団・社会の行動変容を引き出す力は医師に求められる資質のひとつである。このことを理解し、各科目を履修する上での意識付けを行う。 【授業目標】人間の行動の法則性を探求する行動科学の全体像や心理学的側面とともに、その各構成要素を医学専門課程のどこで学ぶかを、理解する。
キーワード	行動、動機付け、生涯発達、個人差、対人コミュニケーション、行動変容
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰc、領域Ⅱa、領域Ⅲb、領域Ⅳc
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 卒業までの各学年、各科目で行動科学のどのような構成要素に関する授業が行われるか、理解する。 2. 健康と疾病に関する行動を形作る、生涯発達の過程を説明できる。 3. 医師としての行動決定はどのような科学的根拠に基づくべきであることを説明できる。 4. 個人の違いにあわせて集団や個人の健康行動への変容を引き出す方法論があることを理解できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2-1) 課題探求・解決能力、A-2-2) 学修の在り方、A-4-1) コミュニケーション、A-4-2) 患者と医師の関係、B-1-5) 生活習慣とリスク、B-1-6) 社会・環境と健康、B-4-1) 医師に求められる社会性、C-5-1) 人の行動、C-5-2) 行動の成り立ち、C-5-3) 動機付け、C-5-4) ストレス、C-5-5) 生涯発達、C-5-6) 個人差、C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション、C-5-8) 行動変容における理論と技法、E-8-1) 加齢と老化
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 医師に行動科学が必要な理由と卒業までに学ぶ内容の全体像と各構成要素を説明する。 2. 生まれてから死ぬまでに人がたどる発達の過程を考察する。 3. 医師としての行動決定に必要な科学的根拠の評価について解説する。 4. 人や集団の健康行動や行動変容がどのように生じるか、公衆衛生学的視点から解説する。
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、本科目で授業を行う単元に相当する箇所の内容を、下記の参考書等で自習すること。
成績評価方法	成績評価は定期試験100%とし、動物生理の試験時間枠の中で行う（行動科学として100点満点、所要10～15分程度、多肢選択式または正誤問題）。行動科学の基礎的概念が理解できているかを評価する。
教科書・テキスト	特に指定しません。
参考文献	「行動医学テキスト」（日本行動医学会編）、「Behavioral Science」(B. Fedem)、「健康行動学：その理論、研究、実践の最新動向」（木原雅子ら訳）
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	授業の中でグループディスカッションを行う場合がある。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験または専門家としての社会実装経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	
関連URL	

2023年度 第2学年

行動科学ユニット 担当教員

所属・職名
環境労働衛生学・教授
医学・医療教育学・講師
医療人育成学・講師
産業医科大学・教授

氏名
上島通浩
植田典浩
柿崎真沙子
榎原 毅

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	29	火	3	行動科学ガイダンス	上島通浩
			4	生涯発達	植田典浩
8	30	水	3	健康情報とリテラシー	柿崎真沙子
			4	行動変容における理論と技法	榎原 毅
11	13	月	3・4	試験(動物生理の試験時間の中で実施)	

開講年度	2022年度
科目名	研究能力養成コース・学術論文入門ユニット
専門・教養	専門
担当教員	植木孝俊、鶴川真也、加藤洋一、飛田秀樹、大石久史、酒々井真澄、山川 和弘、澤本和延、齋藤貴志、鄭 且均、三井 烈、深町勝巳
講義期間・曜日・時限	9月下旬から12月上旬にかけ実施、不定期のため別紙日程表を参照

授業目的・目標	計10コマ程度の輪読会を実施する。期間内に、学術論文の検索法、科学的論文の読み方、実験手法の原理の理解、学術内容の論理的思考法を学ぶ。
キーワード	先端研究の理解、実験手法の理解、論理性的理解
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1b, 1c, 1d, 2d, 4d
学習到達目標	興味をもった医学の先端科学的内容を知ることを中心に、英語原著論文を抵抗なく手に取り、その内容を理解する為の基本的姿勢や知識を身につける。 【該当するモデルコアカリ】 B-1-1), B-1-3), C-1
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	教員が提示するテーマの中から一つを選び、8~9人のグループに分かれ、そのテーマに関する総説および英語原著論文を輪読する。
授業計画	先ず最初に、図書館での文献検索やPubMedを用いた文献検索する事を学ぶ。その後、提示された中から興味をもったテーマを選び、担当教員のもとに8~9人のグループに分かれ、そのテーマに関する総説および英語原著論文を輪読する。最終的に、一つの論文を読み、その内容についてレポートを作成する。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	論文を読み調べ、事前に内容を軽く理解する必要がある
成績評価方法	ユニット終了後に関連論文を読み、その内容をまとめたレポートを作成する。レポート提出などを含めた総合判定を担当教員およびユニット責任者で行い、到達目標を達成した者を合格とする。
教科書・テキスト	各教員により、総説または原著論文が随時提示される
参考文献	
履修上の注意事項	教員の都合により実施日が変更される可能性がある。その際には、教員と学生との話し合いの中で別途日程を調整することになる。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション
連絡先・オフィスアワー	研究棟7階(脳神経生理学 飛田:853-8136) および 各担当教員
実務経験を活かした教育の取組	
備考	各グループ初回授業において、予習・復習について指示するので、その指示に従うこと。
関連URL	

2023年11月～2023年12月 第2学年

学術論文入門ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
統合解剖学	植木 孝俊
機能組織学	鷗川 真也
神経生化学	辻田 麻紀
細胞生化学	加藤 洋一
細胞生理学	三井 烈
脳神経生理学	飛田 秀樹
病態モデル医学	大石 久史
神経毒性学	酒々井 真澄
神経毒性学	深町 勝巳
神経発達症遺伝学	山川 和弘
神経発達・再生医学	澤本 和延
認知症科学	齋藤 貴志

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
11	1	水	1, 2	導入説明・文献検索法	飛田・川澄分館
11	8	水	1, 2	論文読解1	全教員
11	15	水	1, 2	論文読解2	全教員
11	17	金	1, 2	論文読解3	全教員
11	29	水	1, 2	論文読解4	全教員
12	1	金	1, 2	論文読解5	全教員
12	6	水	1, 2	論文読解6	全教員
12	11	月	3, 4	論文読解7	全教員
12	13	水	1, 2	予備日	全教員

(3) 臨床基礎医学 (2年次1月~3年次12月)

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	感染微生物コース・医動物学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	奥野友介（ウイルス学分野・教授）、濱田太立（ウイルス学分野・講師）、長谷川忠男（細菌学分野・教授）、山崎小百合（免疫学分野・教授）、改正恒康（和歌山県立医科大学・教授）、谷口（塩田）裕子（九段病院皮膚科・部長）
講義期間・曜日・時限	2023年2月21日～3月14日

授業目的・目標	医動物学は人の感染症の原因となる原生動物および動物とそれによる疾病を研究する学問である。原虫および蠕虫感染症を取り扱う寄生虫学と、節足動物や脊椎動物が直接的、間接的に関与する主として取り扱う衛生動物学とからなる。本科目では寄生虫という生き物を理解するように努めると共に寄生虫疾患の病理、発症機序、診断、治療、疫学およびその予防に関する知識を習得する。また寄生虫疾患は発展途上国では重要な地位を占めており、今後いっそう重要となる発展途上国の医療に対する我が国の関わりの仕方やグローバル化に伴う輸入感染症の問題についても理解を深める。
キーワード	原虫類、蠕虫類、人獣共通寄生虫症、感染経路、治療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a-d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原虫類・蠕虫類の分類および形態学的特徴を理解している。 2. 寄生虫の生活史、感染経路と感染疫学的意義を理解している。 3. 寄生虫感染宿主の生体防御の特徴を理解している。 4. 日和見寄生虫症と寄生虫症の重症化を理解している。 5. 各臓器・器官の主な寄生虫症を理解している。 6. 人獣共通寄生虫症を理解している。 7. 寄生虫症の診断、治療と予防の概要を理解している。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>C-3-1) 生体と微生物、C-3-2) 免疫と生体防御、C-4-5) 炎症と創傷治療、D-7 消化器系、D-3) 皮膚系、E-2 感染症、E-3 腫瘍、E-4 免疫・アレルギー</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	2023年度医動物学講義予定を参照
授業計画	2023年度医動物学講義予定を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。理解が不完全であった項目については、繰り返し復習して修得に努めること。講義・アクティブラーニング：予習・復習を各自でしっかりと行うこと
成績評価方法	<p>筆記試験(100)点満点</p> <p>*筆記試験60点未満の場合、アクティブラーニング、授業参加度、授業態度、レポートを参考とする。全てを総合的に検討し、必要な理解度と学習姿勢に達した者を合格とする。</p>
教科書・テキスト	寄生虫学テキスト 上村清、木村英作、金子明ら著 文光堂
参考文献	<p>標準医動物学 石井明、鎮西康雄、太田伸生編、医学書院</p> <p>図説人体寄生虫学 吉田幸雄著、南山堂</p> <p>熱帯医学 竹田美文編、南山堂</p> <p>国際保健医療学 日本国際保健医療学会編、杏林書院</p>
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。実技実習がある場合は白衣を忘れないようにすること。講義の録画、録音、写真撮影等をしないこと。講義資料は授業に出席している学生さんのためのものであるため、SNS、オンラインなどで拡散をしないこと。
履修者への要望事項	医動物学は臨床の現場でも遭遇するので、将来患者様の力になれるように積極的に真面目に学ぶこと。
アクティブ・ラーニング	新型コロナウイルス感染対策を取りつつ、各講義中に可能な範囲でアクティブラーニングを口行う（対面またはオンライン）。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員または免疫学を専門とする研究者としての経験を持つ教員が担当する。
備考	質問などがある場合は、必ず事前に上記の連絡先にオフィスアワーに連絡をとること。
関連URL	https://yusukeokuno.com/

2023年1月～2023年12月 第3学年

医動物学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
ウイルス学分野 教授	奥野 友介
ウイルス学分野 講師	濱田 太立
細菌学分野 教授	長谷川 忠男
免疫学分野 教授	山崎 小百合
和歌山県立医科大学 教授	改正 恒康
九段坂病院皮膚科 部長	谷口（塩田） 裕子

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
2	21	火	1	医動物学総論	奥野
2	21	火	2	医動物学各論(1)線虫、幼虫移行症	濱田
2	22	水	2	臨床現場の医動物	谷口（塩田）・山崎
3	6	月	1	医動物学各論(2)マラリア、トキソプラズマ	長谷川
3	6	月	2	医動物学各論(3)条虫、吸虫	改正・山崎
3	7	火	1	(予備)	-
3	14	火	1-2	医動物学各論アクティブラーニング	教室員全員

開講年度	2023年度
科目名	感染微生物コース・細菌学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	長谷川忠男、立野一郎、南 正明、井坂雅徳
講義期間・曜日・時限	1月5日から3月3日・月曜日・1-2限、木金曜日・3-4時限

授業目的・目標	(目的)病原微生物のヒトへの侵襲を防ぎ、感染症の予防および診断、治療に役立てることができるようになるため。 (目標)感染症が医学全般の中で占める位置および臨床医学との関連性を理解し、ヒトへの侵襲起こす病原微生物の基礎知識を修得する。
キーワード	細菌の生理、細菌の病原性、病原細菌の取り扱い、病原因子
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I
学習到達目標	1. 独立した生物である細菌そのものについて理解し説明できる。 2. これら細菌の病原性発現において発現してくる生物学的現象について理解し説明できる。 3. 感染症の診断、治療(抗菌剤)や予防(滅菌・消毒、ワクチン)について理解し説明できる。 4. 細菌の培養、形態観察、性状検査などについて理解し実施できる。 5. 病原性の強い細菌や真菌を含めて多くの病原体を使用して慎重な取扱法を習得する。 6. 学生各自の検体から菌を分離させて、身近な常在菌について認識する。 7. 生体に感染した場合に発生する複雑な現象について理解し説明できる。 8. 病原微生物のヒトへの侵襲すなわち感染症の治療について理解し説明できる。 【該当するモデルコアカリ】C-3-1)、D-3、D-6、D-7、E-2-1)、E-2-2)、E-2-4)、F-2-3)
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	(講義要目) 1. 細菌学総論 細菌の形態と微細構造、細菌の増殖と代謝 細菌の変異および遺伝子の伝達機構、細菌の病原性因子と生体の感染防御機構 抗菌薬の作用機構と薬剤耐性機構、常在細菌叢の役割と日和見感染症 臨床材料の採取法と細菌学的診断法 2. 細菌学各論 病原細菌の諸性質と感染症との関係 (実習要目) 1. 細菌学の実習 光学顕微鏡による細菌の形態観察、培地の作製法と純培養法・分離培養法 細菌の性状検査と分離同定法、抗菌薬の作用
授業計画	2023年度細菌学授業予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、参考図書の該当箇所を予習してから講義に臨むこと。 日頃から新聞や雑誌に掲載された細菌感染症(食中毒や院内感染を含む)に関する記事を読んでおくこと。記事の内容に不明な点がある場合は、参考図書等を利用して調べること。
成績評価方法	筆記試験
教科書・テキスト	なし
参考文献	病原微生物学 荒川宜親・神谷 茂・柳 雄介編、東京化学同人 標準微生物学 中込 治・神谷 茂編、医学書院 医科細菌学 笹川千尋・林 哲也編、南江堂 ブラック微生物学 Jacquelyn G. Black、丸善 標準感染症学 齋藤 厚・那須 勝・江崎孝行編、医学書院 現代微生物入門 南嶋洋一・水口康雄・中山宏明著、南山堂 細菌の逆襲 吉川昌之介著、中公新書 人はなぜ病院で感染するのか? 太田美智男著、NHK出版 微生物 vs. 人類 加藤延夫著、講談社現代新書 戸田新細菌学 吉田真一・柳 雄介・吉開泰信編、南山堂 新しい微生物学 大野尚仁・笹津備規編、廣川書店 微生物学 今井康之・増澤俊幸編、南江堂 微生物学 神谷 茂・河野 茂監訳、medical science international
履修上の注意事項	講義時に資料を配布する。遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	予備日に講義等を振り替えることがあるので、掲示に注意すること
アクティブ・ラーニング	実習の中で、それぞれの課題についてグループディスカッションをさせている。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	なし
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

感染微生物コース・細菌学ユニット担当教員

所属・職名
細菌学分野・教授
細菌学分野・講師
細菌学分野・講師
細菌学分野・学内講師

氏名
長谷川 忠男
立野 一郎
南 正明
井坂 雅徳

感染微生物コース・細菌学ユニット授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	5	木	3	細菌の構造、分類、増殖	長谷川
			4	細菌感染、常在菌、細菌感染症の検査と診断	長谷川
	6	金	3	細菌の遺伝学(1)	立野
			4	細菌の遺伝学(2)	立野
	12	木	3	抗生物質の作用機構と耐性菌	井坂
			4	生体防御機構と生体の反応	長谷川
	13	金	3	細菌の病原因子	長谷川
			4	院内感染、消毒・滅菌、食中毒、感染症予防法	長谷川
	16	月	1	細菌学各論(1): グラム陽性球菌(ブドウ球菌)	長谷川
			2	細菌学各論(2): グラム陽性球菌(レンサ球菌)	長谷川
	19	木	3	細菌学各論(3): 有芽胞菌、グラム陽性無芽胞桿菌	長谷川
			4	細菌学各論(4): 放線菌とその関連細菌	長谷川
	20	金	3	細菌学各論(5): グラム陰性通性嫌気性桿菌Ⅰ	立野
			4	細菌学各論(6): グラム陰性通性嫌気性桿菌Ⅱ	立野
	23	月	1	細菌学各論(7): スピロヘータ、レプトスピラ、らせん菌	井坂
			2	細菌学各論(8): マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア	井坂
	26	木	3	実習(1) 培地作成・純培養法 1班	長谷川・井坂
			4	実習(2) 手指・毛髪に付着細菌の培養 1班	立野・長谷川
1	27	金	3	実習(3) グラム染色及び観察 1班	井坂・立野
			4	実習(4) 手指・毛髪に付着細菌の染色及び観察 1班	長谷川・井坂

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	30	月	1	細菌学各論(9): 無芽胞偏性嫌気性グラム陰性桿菌	井坂
			2	細菌学各論(10): グラム陰性球菌	井坂
2	2	木	3	実習(5) 培地作成・純培養法 2班	長谷川・井坂
			4	実習(6) 手指・毛髪に付着細菌の培養 2班	立野・長谷川
	3	金	3	実習(7) グラム染色及び観察 2班	井坂・立野
			4	実習(8) 手指・毛髪に付着細菌の染色及び観察 2班	長谷川・井坂
	6	月	1	細菌学各論(11): グラム陰性通性嫌気性桿菌Ⅲ	立野
			2	細菌学各論(12): グラム陰性好気性桿菌	立野
	9	木	3	実習(9) ブドウ球菌・レンサ球菌の分離培養 1班	立野・長谷川
			4	実習(10) 鼻腔のブドウ球菌等の培養、環境菌の観察 1班	井坂・立野
	10	金	3	実習(11) ブドウ球菌・レンサ球菌観察 1班	長谷川・井坂
			4	実習(12) 鼻腔分離菌の観察・グラム染色試験 1班	立野・長谷川
	13	月	1	ワクチン	井坂
			2	真菌	長谷川
	16	木	3	実習(13) ブドウ球菌・レンサ球菌の分離培養 2班	立野・長谷川
			4	実習(14) 鼻腔のブドウ球菌等の培養、環境菌の観察 2班	井坂・立野
	17	金	3	実習(15) ブドウ球菌・レンサ球菌観察 2班	長谷川・井坂
			4	実習(16) 鼻腔分離菌の観察・グラム染色試験 2班	立野・長谷川
2	20	月	1	細菌感染症(1)	南
			2	細菌感染症(2)	南
	24	金	3	細菌感染症(3)	南
			4	細菌感染症(4)	南
3	3	金	3	総括	長谷川
			4	総括	長谷川

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	ウイルス学
専門・教養	専門
担当教員	奥野友介（ウイルス学分野・教授）、濱田太立（ウイルス学分野・講師）、田中靖人（熊本大学・消化器内科学講座・教授）、岡本尚（名古屋市立大学・細胞分子生物学分野・名誉教授）、小原道法（東京都医学総合研究所・感染制御プロジェクト・特別客員研究員）、五十川正記（国立感染症研究所・治療薬・ワクチン開発研究センター・第二室・室長）、佐藤好隆（名古屋大学・ウイルス学・准教授）、川田潤一（名古屋大学・小児科学・准教授）、渡辺崇広（名古屋大学・ウイルス学・助教）、三宅康之（名古屋大学・ウイルス学・助教）、鳥居ゆか（名古屋大学・小児科学・助教）
講義期間・曜日・時限	2023年1月5日～2月28日

授業目的・目標	<p>【授業目的】</p> <p>ウイルスは、日常臨床で最も高頻度に遭遇する疾患である感染症を引き起こすことに加えて、難病やがんの原因にもなる。ウイルスとそれが引き起こす代表的な疾患を理解することで、臨床医学を学ぶための基盤を構築する。</p> <p>【授業目標】</p> <p>ウイルスは、遺伝情報を有するが自己増殖できない感染性の構造体である。生物である他の病原体とは異なるウイルスの特有的な性質を理解する。ヒトの疾患の原因となるウイルスを中心に、その分類・多様性や、予防法・治療法を学習する。なお、プリオンはウイルスではないが、ウイルス学の範囲で扱う。</p>
キーワード	ウイルス、感染予防、ワクチン、抗ウイルス薬、プリオン
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域I a, d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ウイルスの種類と特徴を理解している。 2. ウイルスの増殖の仕方を理解している。 3. ウイルスに関連する疾患の性質と特徴を理解している。 4. ワクチンと抗ウイルス薬を理解している。 5. プリオンについて理解している。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>C-3-1) 生体と微生物 C-3-2) 免疫と生体防御 E-2 感染症</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	（講義）2023年度感染微生物コース-ウイルス学授業予定表を参照 （実習）ウイルスの分離培養と同定
授業計画	2023年度感染微生物コース-ウイルス学授業予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。実習：事前にどのように実験を進めていくか教科書を熟読した上で、実習に臨むこと。また、実験終了後、得られた実験結果について、よく考察すること。
成績評価方法	筆記試験（100点満点） 筆記試験60点未満の場合、レポート提出率、授業参加度、授業態度などにより加点評価することがある。
教科書・テキスト	なし。講義資料をよく整理してください。
参考文献	「微生物学」畑中正一、嶋田甚五郎 編（文光堂） 「標準微生物学」平松啓一 監修（医学書院） 「医科ウイルス学」高田賢蔵 編（南江堂） これらに加え、テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	現時点では予定がありませんが、検討中。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	講義終了時に、復習を兼ねた小テストを行うことがある。
関連URL	https://yusukeokuno.com/

ウイルス学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
ウイルス学分野 教授	奥野 友介
ウイルス学分野 講師	濱田 太立
熊本大学 消化器内科学講座 教授	田中 靖人
名古屋市立大学 細胞分子生物学分野 名誉教授	岡本 尚
東京都医学総合研究所 感染制御プロジェクト 特別客員研究員	小原 道法
国立感染症研究所 治療薬・ワクチン開発研究センター 第二室 室長	五十川 正記
名古屋大学 ウイルス学 准教授	佐藤 好隆
名古屋大学 小児科学 准教授	川田 潤一
名古屋大学 ウイルス学 助教	渡辺 崇広
名古屋大学 ウイルス学 助教	三宅 康之
名古屋大学 小児科学 助教	鳥居 ゆか

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	5	木	1-2	ウイルス学入門	奥野
1	10	火	1-2	DNAウイルスとヘルペスウイルス	渡辺
1	12	木	1	神経病原性ウイルス	濱田
1	12	木	2	(予備)	-
1	17	火	1-2	RNAウイルス	三宅
1	19	木	1	ウイルスの多様性	五十川
1	19	木	2	ウイルスと免疫	五十川
1	24	火	1	ウイルス発がん	奥野
1	24	火	2	ウイルス感染症の検査・診断	奥野
1	26	木	1-2	小児期のウイルス感染症	川田
1	31	火	1	ウイルスを利用した治療薬開発	濱田
1	31	火	2	レトロウイルスとAIDS	岡本
2	2	木	1-2	肝炎ウイルス	田中
2	7	火	1	(予備)	-
2	7	火	2	ATLとその他のヒトレトロウイルス	岡本
2	9	木	1	先天性感染症	鳥居
2	9	木	2	新型コロナウイルス感染症	小原
2	14	火	1	下痢症ウイルス	佐藤
2	14	火	2	ワクチンと抗ウイルス薬	佐藤
2	16	木	1-2	(予備)	-
2	27	月	1-2	ウイルスの分離培養と同定	教室員全員
2	28	火	1-4	ウイルスの分離培養と同定	教室員全員
4	17	月	3-4	本試	教室員全員
5	22	月	1-2	再試	教室員全員

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	免疫学コース・免疫学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	山崎小百合(免疫学 教授)、今井優樹(免疫学 講師)、志馬寛明(免疫学 講師) 非常勤講師：西川博嘉(名古屋大学教授・国立がんセンター分隊長)、 改正恒康(和歌山県立医大 教授)、築地 信(星薬科大学 准教授) Guido Ferlazzo(メッシーナ大学 教授)、Mikael Karlsson(カロリンスカ研究所 教授)
講義期間・曜日・時限	2023年1月16日(月)～3月16日(木)月曜3-4時限 水曜1-2時限 木曜1-4時限

授業目的・目標	(目的) 免疫とは生体にとって不可欠な生体防御機構である。免疫がどのように維持、調節されているのかを学ぶ。 (目標) 生体防御反応における免疫系の分子の基礎、細胞免疫学的基礎を学び、それらの制御不全による病態の理解や疾病の治療に対処しうる知識を身につける。
キーワード	自然免疫、獲得免疫、樹状細胞、制御性T細胞、免疫学的自己寛容
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a-d, II a, III a, b, IV a-d
学習到達目標	【学習到達目標】 ① 免疫系の一般特性：生体防御機構における免疫系の特徴(特異性、多様性、寛容、記憶)を説明できる。免疫反応における組織と細胞を説明できる。免疫学的自己寛容とその破壊を説明できる。自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。 ② 免疫反応の調節機構：抗原レセプターからのシグナルの調節機構を説明できる。サイトカイン、ケモカインの特徴を説明できる。 ③ 自己と非自己の識別に関与する分子とその役割：MHCクラスIとクラスIIの構造、抗原提示経路が説明できる。抗体、BCR、TCRの構造と反応様式を説明できる。T細胞活性化における副刺激分子の役割を説明できる。遺伝子再構成に基づく、多様性獲得の機構を説明できる。免疫寛容、免疫抑制を概説できる。 ④ 疾患と免疫：ウイルス、細菌、寄生虫に対する免疫応答の特徴を説明できる。先天性および後天性免疫不全症を概説できる。自己免疫疾患の発症を概説できる。アレルギー発症の機構を概説できる。腫瘍免疫の特徴を概説できる。移植免疫の特徴を概説できる。最新の免疫学研究と治療の関わりを概説できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-3-1) 生体と微生物、C-3-2) 免疫と生体防御、C-4-5) 炎症と創傷治療、C-4-6) 腫瘍、 D-1) 血液・造血器・リンパ系、D-3) 皮膚系、D-14) 耳鼻・咽喉・口腔系、 E-2) 感染症、E-3) 腫瘍、E-4) 免疫・アレルギー、E-8) 加齢と老化
成績評価基準	秀：90点以上(学習到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学習到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学習到達目標を達成している) 可：60点以上(学習到達目標を最低限達成している)
授業概要	講義(全26回) ①免疫序論・概念・歴史・リンパ組織・免疫反応概論 ②生体防御機構1 ③生体防御機構2 補体系 ④自然免疫系・TLR ⑤免疫担当細胞1(マクロファージ・顆粒球) ⑥樹状細胞 ⑦免疫担当細胞2(T、B、NK、NKT) ⑧抗原提示・MHC・副刺激分子 ⑨B細胞の基礎・抗体産生 ⑩自己寛容 Treg ⑪T細胞の機能とシグナル伝達・T細胞分化 ⑫自己免疫疾患 ⑬サイトカインの機能とシグナル伝達・接着分子 ⑭B細胞の機能とシグナル伝達・B細胞レパトア ⑮獲得免疫系・抗体の多様性・遺伝子再構成 ⑯アレルギー ⑰腫瘍免疫 ⑱移植免疫 ⑲粘膜免疫・膵管免疫 ⑳感染症免疫 ㉑NK細胞・自然リンパ球 ㉒遺伝子改変マウス・樹状細胞サブセット ㉓マクロファージ・B細胞 ㉔炎症とがん ㉕アポトーシス・オートファジー・異物排除 ㉖皮膚免疫 実習(全2回) ①抗原抗体反応1・2 ②免疫細胞1・2・3・まとめ
授業計画	新型コロナウイルス感染対策を取り、可能な範囲でアクティブラーニングを行う(海外の講師以外は対面の予定であるが、状況によりオンラインも)。2023年度免疫学授業計画表を参照。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義・アクティブラーニング：予習・復習を各自でしっかりと行うこと。2023年度免疫学授業計画表を確認の上、教科書・テキストの該当箇所を予習して、講義に臨むことが望ましい。 実習：授業の復習を行い、どのように実験を進めていくか理解をしておくこと。得られた実験結果について、よく考察すること。
成績評価方法	・定期試験 ・出席状況(実習は全2回なので、全て参加が必須であるが、新型コロナウイルス感染対策のため体調不良の場合は考慮するので必ずimmunol@med.nagoya-cu.ac.jpと事務に連絡すること。) ・アクティブラーニング・授業・実習へ積極的かつ誠実に参加をしているか ・レポートへの取組姿勢 ・免疫学主催の講演会への参加など 全てを総合的に検討し、M3免疫学について必要な理解度と学習姿勢に達した者を合格とする。
教科書・テキスト	教科書：授業中に教員が使用する資料には下記の書籍を用いる。 JANEWAY'S IMMUNOBIOLOGY Kenneth Murphy & Casey Weaver著、南江堂 免疫生物学 笹月健彦・吉開素信監訳、南江堂(上記の日本語版) 免疫学―基礎と臨床―(東京化学同人) 稲葉カヨ訳
参考文献	参考図書： 感染と免疫 入村達郎、築地信 他(東京化学同人) スタンダード免疫学 小林芳郎他編、大谷真志、築地信他著 エッセンシャル免疫学 笹月健彦監訳、メディカルサイエンスインターナショナル 医系免疫学 矢田純一著、中外医学社 Cellular and Molecular Immunology Abul Abbas著、南江堂 シンプル免疫学 中島泉・高橋利忠・吉開素信共著、南江堂 免疫ペディア 熊ノ郷淳編集、羊土社 もっとよくわかる免疫学 河本宏著、羊土社 免疫学コア講義 熊ノ郷淳・阪口薫雄・竹田潔・吉田裕樹編集、南山堂 ゼロから実践する 遺伝統計学セミナー～疾患とゲノムを結びつける 岡田陸象著、羊土社 免疫の守護者 制御性T細胞とはなにか(ブルーバックス) 坂口志文著、講談社
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。実習実習がある場合は白衣を忘れないようにすること。 講義の録音、録音、写真撮影等をしないこと。講義資料は授業に出席している学生さんのためのものであるため、SNS、オンラインなどで拡散をしないこと。
履修者への要望事項	免疫学は臨床医学の広い分野に関連する。 将来患者様の力になれるように積極的に真面目に学ぶこと。
アクティブ・ラーニング	新型コロナウイルス感染対策を取りつつ、各講義中に可能な範囲でアクティブラーニングを行う(対面またはオンライン)。
連絡先・オフィスマワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員または免疫学を専門とする研究者としての経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	質問などがある場合は、必ず事前に上記の連絡先にオフィスマワーに連絡をとること。
関連URL	

免疫学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
免疫学分野・教授	山崎 小百合
免疫学分野・講師	今井 優樹
免疫学分野・講師	志馬 寛明
名古屋大学・教授・ 国立がん研究センター免疫TR分野・分野長	西川 博嘉
和歌山医大・教授	改正 恒康
星薬科大学・准教授	築地 信
メッシーナ大学・教授	Guido Ferlazzo
カロリンスカ研究所・教授	Mikael Karlsson

免疫学 授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
1	16	月	3	免疫学序論・概念・歴史・リンパ組織・免疫反応概論	山崎
			4	生体防御機構1	今井
	23	月	3	生体防御機構2 補体系	今井
			4	自然免疫系・TLR	志馬
	30	月	3	免疫担当細胞1(マクロファージ、顆粒球)	志馬
			4	樹状細胞I	山崎
2	6	月	3	免疫担当細胞2(T、B、NK、NKT)	今井
			4	抗原提示・MHC・副刺激分子	山崎
	13	月	3	B細胞の基礎・抗体産生	今井
			4	自己寛容 Treg	山崎
	20	月	3	T細胞の機能とシグナル伝達・T細胞分化	今井
			4	自己免疫疾患	山崎
	22	水	1	サイトカインの機能とシグナル伝達・接着分子	志馬
			2	(医動物谷口先生講義・3/7(火)2限目志馬先生の講義といれかえ)	
	27	月	3	B細胞の機能とシグナル伝達・B細胞レパトア	築地
			4	獲得免疫系・抗体の多様性・遺伝子再構成	築地
3	1	水	1	アレルギー	山崎
			2	腫瘍免疫	西川
	2	木	1	移植免疫	山崎
			2	粘膜免疫・腸管免疫	志馬
			3	感染免疫	今井
			4	NK細胞・自然リンパ球	山崎/Ferlazzo(オンライン)
	6	月	3	遺伝子改変マウス・樹状細胞サブセット	改正
			4	マクロファージ・B細胞	山崎/Karlsson(オンライン)
	7	火	2	炎症とがん (2/22(水)2限目医動物 谷口先生の講義といれかえ)	志馬
	9	木	1	アポトーシス・オートファジー・異物排除	志馬
			2	皮膚免疫・神経免疫・老化と免疫・免疫不全症	山崎
			3	実習 抗原抗体反応1	全教員
			4	実習 抗原抗体反応2	全教員
	16	木	1	実習 免疫細胞1	全教員
			2	実習 免疫細胞2	全教員
			3	実習 免疫細胞3	全教員
			4	実習 免疫細胞まとめ	全教員
5	1	月	3-4	本試験	全教員
6	26	月	1-2	再試験	全教員

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	病理学コース 病態病理・臨床病理
専門・教養	専門
担当教員	<p>実験病態病理学（病理学第1講座） 教授 高橋 智、福熊 真悟（東部医療センター）、渋谷 恭之（口腔外科学） 准教授 内木 隼 講師 加藤 寛之 助教 小村 理行 非常勤講師 津田 洋幸、小川 久美子、山下 聡</p> <p>臨床病態病理学（病理学第2講座） 教授 福垣 宏 准教授 村瀬 貴幸（病院病理部） 准教授 正木 彰子 助教 津田 香那 助教 藤井 慶一郎 非常勤講師 岩崎靖、服部日出雄</p>
講義期間・曜日・時限	2023年1月11日(水)～7月18日(火) 火曜日 1限-2限、水曜日 1限-4限 木曜日1-4限

授業目的・目標	<p>生物には形態と機能の両面がある。この二つの面が有機的に統合され個体の生命現象が営まれている。人間の疾病も病的な機能状態（臨床症状）とその形態像（病理所見）により規定されることが多く、絶えず両者の対比検討が行われている。</p> <p>病理学はこれらの探求のため病理形態を基礎とし疾病の起こり方、原因、進展の様相、治療効果の判定等に至るまで考究する。従って病理学では疾患の形態学的所見を詳細に観察し、克明に記載する訓練と疾病を相互関連性の上になつて総合する力を養うことが必要である。</p> <p>これらの目的のため、疾患臓器を肉眼的に観察し、その組織学的変化を顕微鏡によって観察し記録することにより疾病の形態像を有機的に把握する。また、その背後の超微形態像、分子生物学的変化についても学ぶ。</p>
キーワード	<p>実験病態病理学（病理学第1講座） 腫瘍学 消化器 肝・胆・膵 乳腺 皮膚 腎・泌尿器 口腔 臨床病態病理学（病理学第2講座） 循環器 血液 呼吸器 神経 骨・軟部</p>
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I-a, d、II-d, e、III-a, b、IV-a, b, d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】 病理形態を基盤として、疾患の成り立ち、種類、その原因を系統的に理解できるようにする。</p> <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-4-2)細胞傷害・変性と細胞死、C-4-3)代謝障害、C-4-4)循環障害、臓器不全、C-4-5)炎症と創傷治癒、C-4-6)腫瘍、D-1 血液・造血器・リンパ系、D-2 神経系、D-3 皮膚系、D-4 運動器（筋骨格）系、D-5 循環器系、D-6 呼吸器系、D-7 消化器系、D-8 腎・尿路系、D-9 生殖機能、D-11 乳房、D-12 内分泌・栄養・代謝系、D-14 耳鼻・咽喉・口腔系、E-2 感染症、E-3 腫瘍、E-4 免疫・アレルギー、E-5 物理・化学的因子による疾患、E-6 放射線の生体影響と放射線障害、E-8 加齢と老化、E-9 人の死</p>
成績評価基準	<p>秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している</p>
授業概要	<p>医学部3年（2022年1月より実施） ・病理学総論 ・病理学各論 【講義】 【実験病態病理学】 口腔、咽喉、頸部、消化管・腹膜、肝臓、胆嚢、膵臓、泌尿器、男性生殖器、女性生殖器、乳腺、皮膚、小児病理 【臨床病態病理学】 循環器、呼吸器、縦隔組織、造血器、リンパ組織、内分泌臓器、中枢神経系、骨軟部組織、細胞診断 【実習】 肉眼病理学（必要に応じて行う）、組織病理学</p>
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	<p>授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施することもあるので、復習しておくこと。</p>
成績評価方法	<p>実験病態病理学（病理学第1講座） 実習試験 不合格者は本試験より10点減点（6割以上で合格） 本試験 60点以上合格</p> <p>臨床病態病理学（病理学第2講座） 本試験90% 実習試験10%を基準に評価する。</p>
教科書・テキスト	
参考文献	<p>参考文献） 標準病理学第6版、北川昌伸編集、医学書院、2019 ロビンス基礎病理学原書10版、Vinay Kumar他、丸善出版、2021 Robbins Basic Pathology10th ed.、Vinay Kumar他、W.B. Saunders Company、2018 カラー Robbins 病理学－臨床医学への基盤－ E.ルービン他編著 西村書店 2017 組織病理アトラス第6版、深山正久他、文光堂、2015 病理組織の見方と鑑別診断カラーアトラス第6版、吉野正他、医歯薬出版、2018</p>
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	実習授業ではグループで臨床を検討することもある。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

病理学コース 担当教員

所属・職名(第1病理)	氏名
実験病理学分野・教授	高橋 智
実験病理学(東部医療センター)・教授	稲熊 真悟
口腔外科学分野・教授	洪谷 恭之
実験病理学分野・准教授	内木 綾
実験病理学分野・講師	加藤 寛之
実験病理学分野・助教	小村 理行
名古屋市立大学・特任教授	津田 洋幸
国立医薬品食品衛生研究所・病理部・部長	小川 久美子
前橋工科大学・情報・生命工学群・教授	山下 聡

所属・職名(第2病理)	氏名
臨床病理学分野・教授	稲垣 宏
臨床病理学分野(病院病理部)・准教授	村瀬 貴幸
臨床病理学分野・准教授	正木 彩子
臨床病理学分野・助教	津田 香那
臨床病理学分野・助教	藤井 慶一郎
愛知医科大学・医学部・教授	岩崎 靖
名古屋徳州会病院 病理診断部長	服部 日出雄

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者		
1	11	水	1	病理学入門	2 稲垣		
			2	実験病理学入門	1 高橋		
			3	腫瘍病理学-1(腫瘍の概念と特徴・原因)	1 加藤		
			4	腫瘍病理学-2(転移・進展)	1 加藤		
1	18	水	1	先天異常・奇形	1 高橋		
			2	消化器病理-唾液腺・食道	1 加藤		
1	25	水	1	傷害に対する組織反応-1	2 稲垣		
			2	傷害に対する組織反応-2	2 稲垣		
			3	代謝障害	2 藤井		
			4	循環器病理(総論)	2 正木		
2	1	水	1	縦隔の病理	2 村瀬		
			2	循環器病理(心)	2 村瀬		
			3	感染症	2 藤井		
			4	免疫病理学	2 正木		
2	8	水	1	血液病理-1	2 稲垣		
			2	血液病理-2	2 稲垣		
			3	消化器病理-胃1	1 小村		
			4	消化器病理-胃2	1 小村		
2	15	水	1	呼吸器病理-1	2 村瀬		
			2	呼吸器病理-2	2 村瀬		
			3	毒性病理学-1	1 津田(注)		
			4	毒性病理学-2	1 津田(注)		
2	22	水	3	脳腫瘍の病理	2 津田		
			4	運動器・膠原病の病理	2 津田		
			3	1	3	実習(消化器-1)	① 小村
			4	実習(消化器-2)	① 小村		
3	8	水	1	消化器病理-腸1	1 稲熊		
			2	消化器病理-腸2	1 稲熊		
			3	内分泌病理の病理	2 津田		
			4	自習(予備日)			
3	15	水	1	肝臓の病理-1	1 内木		
			2	肝臓の病理-2	1 内木		
			3	実習(循環器-1)	② 第2病理全員		
			4	実習(循環器-2)	② 第2病理全員		
4	5	水	1	実習(内分泌-1)	② 第2病理全員		
			2	実習(内分泌-2)	② 第2病理全員		
			3	実習(消化器-3)	① 小村		
			4	実習(消化器-4)	① 小村		
4	11	火	1	神経病理-1	2 岩崎		
			2	神経病理-2	2 岩崎		
4	12	水	1	自習(予備日)			
			2	自習(予備日)			
			3	病理遺伝子診断	2 藤井		
			4	骨・軟部腫瘍の病理	2 津田		
4	18	火	1	神経病理-3	2 岩崎		
			2	神経病理-4	2 岩崎		
4	19	水	1	泌尿器病理-1(腎臓-1)	1 高橋		
			2	泌尿器病理-2(腎臓-2)	1 高橋		
			3	リンパ組織病理-1	2 正木		
			4	リンパ組織病理-2	2 正木		
4	25	火	1	実習(神経-1)	② 岩崎		
			2	実習(神経-2)	② 岩崎		
4	26	水	1	肝臓病理-3	1 加藤		
			2	生殖器病理-1(前立腺・精巣)	1 高橋		
			3	膵臓の病理-1(含む胆道)	1 内木		
			4	膵臓の病理-2	1 内木		
5	9	火	1	細胞診断学	2 服部		
			2	泌尿器病理-3(膀胱)	1 内木		
5	10	水	1	実習(消化器-5)	① 稲熊		
			2	実習(消化器-6)	① 稲熊		
			3	実習(呼吸器-1)	② 第2病理全員		
			4	実習(呼吸器-2)	② 第2病理全員		

月	日	曜日	時限	内容	担当者
5	16	火	1	実習(肝臓-1)	① 加藤
			2	実習(肝臓-2)	① 加藤
5	17	水	1	乳腺病理	1 高橋
			2	皮膚・感覚器病理	1 小川
			3	実習(血液-1)	② 第2病理全員
			4	実習(血液-2)	② 第2病理全員
5	23	火	1	小児病理	1 稲熊
			2	腫瘍の分子病理学	1 山下
5	24	水	1	肺癌の病理	2 村瀬
			2	循環器病理(血管)	2 正木
			3	実習(呼吸器-3)	② 第2病理全員
			4	実習(呼吸器-4)	② 第2病理全員
5	30	火	1	実習(乳腺・生殖器-1)	① 加藤
			2	実習(乳腺・生殖器-2)	① 加藤
5	31	水	1	実習(肺癌・縦隔腫瘍-1)	② 第2病理全員
			2	実習(肺癌・縦隔腫瘍-2)	② 第2病理全員
			3	実習(血液-3)	② 第2病理全員
6	6	火	4	実習(血液-4)	② 第2病理全員
			1	実習(皮膚-1)	① 小村
6	7	水	2	実習(皮膚-2)	① 小村
			1	実習(泌尿器-1)	① 高橋
			2	実習(泌尿器-2)	① 高橋
			3	自習(予備日)	
6	13	火	4	自習(予備日)	
			1	歯、口腔病理-1	1 渋谷
			2	歯、口腔病理-2	1 渋谷
			1	生殖器病理-2(子宮)	1 小村
6	14	水	2	生殖器病理-3(胎盤・卵管・卵巣)	① 高橋
			3	自習(予備日)	
			4	自習(予備日)	
			1	実習(骨軟部-1)	② 第2病理全員
6	15	木	2	実習(骨軟部-2)	② 第2病理全員
			3	実習(リンパ組織-1)	② 第2病理全員
			4	実習(リンパ組織-2)	② 第2病理全員
			1	実習(胆道・膵臓-1)	① 内木
6	20	火	2	実習(胆道・膵臓-2)	① 内木
			1	実習(泌尿器-3)	① 加藤
6	21	水	2	実習(泌尿器-4)	① 加藤
			3	自習(予備日)	
			4	自習(予備日)	
			1	実習(生殖器-3)	① 内木
6	22	木	2	実習(生殖器-4)	① 内木
			3	自習(予備日)	
			4	自習(予備日)	
			1	自習(予備日)	
6	27	火	1	自習(予備日)	
			1	実習試験(2病)	
6	28	水	2	実習試験(2病)	
			1	実習試験(1病)	
7	4	火	2	実習試験(1病)	
			3	病理2本試験	
7	10	月	4	病理2本試験	
			1	病理1本試験	
			18	火	
			2	病理1本試験	

開講年度	2023年1月～2023年5月
科目名	薬理学コース・薬理学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	大矢 進、鬼頭 宏彰、山口 陽平、遠藤 京子、齊藤 貴志、野村 洋、今井 優樹、伊藤 猛雄、山崎 大樹
講義期間・曜日・時限	前期(1/6～5/12)・木曜日3・4限目、金曜日1・2限目、または3・4限目

授業目的・目標	【授業目的】薬物と生体の相互作用について理解し、安全かつ適切な薬物療法を行うための基本的な学識を身につけるため。 【授業目標】最新の薬物療法に対応できる基礎的知識を修得し、治療薬適用の具体例や薬物療法の展望について理解する。
キーワード	中枢神経系作用薬、自律神経系作用薬、循環器系作用薬、消化器系作用薬、免疫、呼吸器系作用薬
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域1a, 1d
学習到達目標	1. 薬理作用の基本的概念とその定量的表現、薬物の副作用と毒性、薬物の長期反復投与の問題点について説明できる。 2. 各種病態における薬物の生体調節作用を理解し、基本的かつ重要な薬物についてその薬理作用、作用機序、副作用および薬物代謝を説明できる。 3. 種々の薬物の臨床適応の具体例を挙げ、実際の薬物療法について説明できる。 4. 薬物投与方法と薬物の体内動態について説明できる。 5. 薬物相互作用、薬物反応の個人差について、具体例を挙げ、説明できる。 【該当するモデルコアカリ】C-3-3)、C-5-6)、D-1-4)、D-2-4)、D-5-4)、D-6-4)、D-7-4)、D-9-4)、D-12-4)、D-13-4)、E-3-3)、E-4-3)
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している） ※ 履修規程のとおり、評価する。
授業概要	講義（全30回） 1. 総論 2. 自律神経系作用薬 3. 体性神経系作用薬 4. 中枢神経系作用薬 5. 循環器系作用薬 6. 消化器系作用薬 7. 代謝・内分泌系作用薬 8. 免疫・炎症系作用薬 9. 血液系作用薬 10. 呼吸器系作用薬 11. 抗がん薬 実習（全4回） 1. 薬物の吸収・分布・排泄 2. 自律神経系作用薬 3. 循環器作用薬（シミュレーション学習） 4. 末梢性筋弛緩薬 演習（アクティブラーニング）（全1回、180分）
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	講義：学修内容が多いため、教科書を予習すること（1週当たり60分程度）。また、解剖学及び生理学で学修した関連知識を復習すること。講義中に実施する演習問題等で修得の到達度を各自確認し、学修内容を復習すること（1週当たり60分程度）。 実習：事前に実習書（実習ガイダンス時に配布予定）を熟読し、使用する薬物の薬理作用について理解すること。
成績評価方法	筆記試験（中間試験40%、期末試験40%）、実習レポート（20%） 実習レポートでは、特に独自性を評価の対象とする（実習ガイダンスにて説明）。アクティブラーニングにおける取組姿勢や発表・参加の態度についても適宜評価する。
教科書・テキスト	「薬がみえる」 vol. 1-4、メディックメディア
参考文献	「詳解 薬理学」香月博志、成田 年、川畑篤史 編著 廣川書店 「NEW薬理学 改訂第7版」田中千賀子、加藤隆一、成宮 周 編集 南江堂 「Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics」, ed. Brunton, L.L., Chabner, B.A., Knollman, B.C. (eds) McGraw-Hill
履修上の注意事項	講義資料は、講義前にWebにアップロードする。履修規程を理解しておくこと。
履修者への要望事項	講義前に生理学、生化学、解剖学で学修した関連知識について復習すること。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングでは、10名程度を1グループとして、事前に指定した課題（疾患）に関してグループディスカッションした内容をまとめる。口頭発表によりプレゼンテーションし、質疑応答を行う。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	特にありません。
備考	中間試験、期末試験の試験範囲はそれぞれ全体の半分ですが、再試験の試験範囲は、全体になります。
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/

薬理学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
薬理学分野・教授	大矢 進
薬理学分野・講師	鬼頭 宏彰
薬理学分野・助教	山口 陽平
薬理学分野・助教	遠藤 京子
認知症科学分野・教授	齊藤 貴志
認知機能病態学分野・教授	野村 洋
免疫学分野・講師	今井 優樹
名誉教授	伊藤 猛雄
国立医薬品食品衛生研究所・薬理部・第二室長	山崎 大樹

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	6	金	1	薬理学総論(1)	大矢
1	6	金	2	薬理学総論(2)・薬物依存	大矢
1	13	金	1	末梢性・中枢性筋弛緩薬(1)	鬼頭
1	13	金	2	末梢性・中枢性筋弛緩薬(2)	鬼頭
1	20	金	1	副交感神経刺激薬	大矢
1	20	金	2	副交感神経遮断薬	大矢
1	27	金	1	交感神経刺激薬	大矢
1	27	金	2	交感神経遮断薬・緑内障治療薬	大矢
2	3	金	1	消化器系疾患治療薬(1)	大矢
2	3	金	2	消化器系疾患治療薬(2)	大矢
2	10	金	1	呼吸器系・内分泌系疾患治療薬	大矢
2	10	金	2	脂質異常症・高尿酸血症治療薬	鬼頭
2	17	金	1	認知症治療薬	齊藤
2	17	金	2	パーキンソン病治療薬・片頭痛治療薬	大矢
2	24	金	1	糖尿病治療薬	伊藤
2	24	金	2	抗がん薬(化学療法薬)	鬼頭
3	3	金	1	免疫・炎症・アレルギー系疾患治療薬(1)	今井
3	3	金	2	免疫・炎症・アレルギー系疾患治療薬(2)	今井
3	10	金	1	血液系疾患治療薬	遠藤
3	10	金	2	心不全治療薬	山口
3	17	金	1	抗不整脈薬	山口
3	17	金	2	利尿薬・実習ガイダンス	鬼頭
3	20	月	3	中間試験	
4	6	木	3,4	薬理学実習(1)	大矢、鬼頭、山口、遠藤
4	7	金	1	睡眠薬・抗不安薬	大矢
4	7	金	2	抗てんかん薬	大矢
4	7	金	3	全身麻酔薬・鎮痛薬	遠藤
4	7	金	4	狭心症治療薬	鬼頭
4	13	金	3,4	薬理学実習(2)	大矢、鬼頭、山口、遠藤
4	14	金	1	高血圧・低血圧治療薬	鬼頭
4	14	金	2	血管拡張薬	鬼頭
4	20	木	3,4	薬理学実習(3)	大矢、鬼頭、山口、遠藤
4	21	金	1	統合失調症治療薬	野村
4	21	金	2	気分障害治療薬	大矢
4	21	金	3	ヒトiPS心筋細胞の創薬応用と新規 <i>in vitro</i> 試験法開発におけるヒト外挿性	山崎
4	21	金	4	予備	
4	27	木	3,4	薬理学実習(4)	大矢、鬼頭、山口、遠藤
4	28	金	1	薬理学演習(アクティブラーニング)	大矢、鬼頭、山口、遠藤
4	28	金	2	薬理学演習(アクティブラーニング)	大矢、鬼頭、山口、遠藤
5	12	金	1	予備	
5	12	金	2	予備	
5	29	月	3	期末試験	
8	25	金	3	再試験	

開講年度	2023年度
科目名	社会医学コース・法医学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	青木康博、加藤秀章、菅野さな枝、福田真未子 非常勤講師：安達 登、三枝 聖、山田良広
履修期間・曜日・時限	2022年1月～2022年5月・火曜・3～4限、4月10日（月）1～2限

授業目的・目標	授業目的：法医学の専門領域に対する医学・医療および社会からの要請を理解する。 授業目標：法病理学、法中毒学、法医人類学等に関する基礎的知識を習得し、法医学的諸問題について、臨機応変かつ確に案件処理ができる能力を修得する。
キーワード	法病理学、法中毒学、法医遺伝学、法医人類学、法歯学
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ia, Ic, IIIb, IIIc, IVd
学習到達目標	1. 法医学が果たすべき社会的義務について説明できる。 2. 生活反応、死後変化の原因・鑑別法を説明できる。 3. 各種損傷の成因および特徴的所見を説明できる。 4. 窒息死体の所見および死に至る機序を説明できる。 5. 異常環境における死について所見を説明できる。 6. 突然死、内因性急死の医学的・社会的問題について説明できる。 7. 小児の死に関連する法的・医学的問題について説明できる。 8. 死因の概念を説明できる。 9. 個人識別の基本原則を説明できる。 10. DNA多型、血液型についてその生化学的・遺伝学的背景を説明できる。 11. 大規模災害時の法医学活動の概要を説明できる。 12. 有機リン剤、有機塩素剤による中毒死の死体所見と機序が説明できる。 13. 有毒ガスによる中毒死の死体所見の特徴と機序が説明できる。 14. 堂せい剤中毒の機序が説明できる。 15. 薬物に対する精神的依存および身体的依存について説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 B-2-1) 死と法、B-2-2) 診療情報と諸明書、E-9 人の死 F-1-37) 外傷・熱傷
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	講義項目 1. 法病理学 1) 死後経過時間 a. 死体現象 b. 昆虫学的証拠による推定 2) 損傷（鈍器損傷、鋭器損傷、銃器損傷、交通事故損傷） 3) 窒息、致命的頸部圧迫 4) 内因性急死 5) 小児法医学 6) 異常環境による死 2. 法中毒学 1) アルコールの法医学 2) 有毒ガスによる中毒 3) 農薬 4) 乱用薬物 5) 工業化学物質、その他 3. 個人識別 1) 法歯学的個人識別 2) 遺伝形質による個人識別およびヒトの系統解析 3) 骨検査 4) 大規模災害時の法医学活動 (実習) 1. 血液型、2. 法中毒学的検査、3. DNA多型、4. 血痕検査 具体的な講義・実習日程については別表を参照されたい。
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	事前に配布される資料がある場合、それを用いて予習しておくこと。 特に実習書については、事前に目を通し、実習の目的および手順について理解しておくこと。また、実験終了後に得られた実験結果について、よく考察すること。
成績評価方法	筆記試験 100%（但し全実習の出席を要件とする） 筆記試験においては、法医学の各分野に関する基礎的知識や解釈だけでなく、問題解決能力も評価のポイントとする。また特に実習内容の理解度については、個別の項目ごとに評価する。
教科書・テキスト	特に教科書を指定しないが、法医学に関し系統的に記載された下記の成書等を利用して学習されたい。 「法医学 改訂4版」福島弘文監修 南山堂 2022年 「標準法医学 第8版」池田典昭・木下博之編 医学書院 2022年 「NEWエッセシャル法医学 第5版」高取健彦監修 医歯薬出版 2019年 「死体検査ハンドブック 第4版」近藤稔和・木下博之編 金芳堂 2020年 「Knight's Forensic Pathology 4th ed」Saukko P, Knight B. CRC Press 2016年
参考文献	講義ノートなどをLiveCampus上にて公開する 「薬物乱用・中毒百科-覚醒剤から咳止めまで」内藤裕史著 南江堂 2011年 「死体検案マニュアル2017」日本法医学会編 日本法医学会 2017年
履修上の注意事項	一部の講義資料はLive Campus 経由で配布する。
履修者への要望事項	生化学、解剖学、病理学、薬理学等で得た知識と連関付けて内容を理解するように努められたい。
アクティブ・ラーニング	症例検討など問題解決型授業を行う。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	法医実務（解剖鑑定・法中毒学的検査等）の経験を有する教員が全講義・実習を担当する。
備考	第6学年法医学診断学にて、発展的な演習を行う。
関連URL	http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/legal_dir/

2023年1月～2023年12月 第3学年

法医科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科法医学分野 教授	青木康博
医学研究科法医学分野 准教授	加藤秀章
医学研究科法医学分野 准教授	菅野さな枝
医学研究科法医学分野 助教	福田真未子
山梨大学 教授	安達 登
岩手医科大学准教授	三枝 聖
神奈川歯科大学 教授	山田良広

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	10	火	3	法医学総論	青木康博
			4	死体現象・死後経過時間	青木康博
1	17	火	3	損傷総論	青木康博
			4	鈍器損傷	青木康博
1	24	火	3	鋭器損傷	青木康博
			4	銃器損傷	青木康博
1	31	火	3	臓器別損傷・損傷死死因	青木康博
			4	窒息総論	青木康博
2	7	火	3	頸部圧迫	青木康博
			4	溺水・水中死体	青木康博
2	14	火	3	法医人類学特講	安達 登
			4	法昆虫学	三枝 聖
2	21	火	3	交通事故損傷I	青木康博
			4	交通事故損傷II	青木康博
3	7	火	3	焼死/寒冷死・感電	加藤秀章
			4	内因性急死	加藤秀章
3	14	火	3	虐待	加藤秀章
			4	嬰兒殺	加藤秀章
4	10	月	1	法中毒学総論（遠隔授業）	菅野さな枝
			2	法中毒学各論（遠隔授業）	菅野さな枝
4	11	火	3	骨検査	青木康博
			4	血液型	青木康博
4	18	火	3	DNA多型	福田真未子
			4	個人識別・大規模災害	青木康博
4	25	火	3	法歯学	山田良広
			4	DNA鑑定	福田真未子
5	9	火	3	実習I 法医学の物体検査	全教員
			4	実習I 法医学の物体検査	全教員
5	16	火	3	実習II 法医学の物体検査	全教員
			4	実習II 法医学の物体検査	全教員
5	23	火	3	実習III 法中毒学の検査	全教員
			4	実習III 法中毒学の検査	全教員
5	30	火	3	実習IV 法中毒学の検査	全教員
			4	実習IV 法中毒学の検査	全教員

開講年度	2023年度
科目名	社会医学コース・医学・医療倫理ユニット
専門・教養	専門
担当教員	齋藤伸治、杉浦真弓、神谷 武、戸澤啓一、鈴木伸宏、岡本 尚、内田 恵、青木康博
講義期間・曜日・時限	6月21日(水)3・4限、23日(金)1・2限、27日(火)1・2限、30日(金)1・2限

授業目的・目標	医療を行い、あるいは医学の研究開発を行う上ではさまざまな倫理的な問題と向き合う必要があり、またその普遍的倫理を基盤とした法的な制約、規制等がある。本講義では臨床実務上および臨床研究実施上生ずる諸問題につき検討することを通じ、医学・医療倫理に関する基礎的知識や思考法をさまざまな側面から学び、理解する。
キーワード	医学研究倫理、インフォームド・コンセント、医療倫理、終末期医療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1c, 11a, 11d, 11e, 111c, 11Va
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学・医療の発達に伴って生ずる倫理的諸問題を指摘できる。 2. ベルモント三原則、ヘルシンキ宣言について説明できる。 3. 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」「臨床研究法」について概説できる。 4. 医学研究、臨床試験、治研の目的やデザインについて、法的規制と関連付けて説明できる。 5. 医学研究におけるデュアルユース問題と対策について概説できる。 6. 生殖医療の現状およびその倫理的問題について、法的規制と関連付けて説明できる。 7. 遺伝子診断・遺伝医療の基本的事項を指摘し、遺伝カウンセリングのあり方について概説できる。 8. 患者の自己決定権や患者-医師関係に関する原則および具体的対応手順について説明できる。 9. 終末期医療およびその倫理的・法的問題について概説できる。 10. 医療事故の発生要因を理解し、医療の安全を確保するシステム・制度のあり方を概説できる。 11. 守秘義務に関する医療倫理と刑事司法との関係について概説できる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 A-1-1) 医の倫理と生命倫理, A-1-2) 患者中心の視点, A-1-3) 医師としての責務と裁量権, A-4-1) コミュニケーション, A-4-2) 患者と医師の関係, A-6-1) 安全性の確保, A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防, B-2-1) 死と法, B-2-2) 診療情報と諸証明書, B-3-1) 倫理規範と実践倫理, B-4-1) 医師に求められる社会性, E-1-1) 遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性, E-9-1) 生物的死と社会的死, F-2-16) 緩和ケア, F-3-3) 診療録(カルテ)</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学研究に関する倫理的原則やそれに基づく指針について、具体的に学習する。 2. 医学研究、臨床試験、治研に関する制度、倫理的・法的規制について学習する。 3. 生殖医療、遺伝子診断、遺伝医療および遺伝カウンセリングの現状、倫理的問題、法的規制について学習する。 4. あるべき患者-医師関係に根ざした患者の自己決定権の上に成り立つ医療のイメージを学習する。 5. 医療の安全確保に関する制度設計や基本原則について学習する。 6. 医療倫理と法規制との相互関係について、具体的に学習する。
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	下記参考文献を参照し、予・復習をされたい。
成績評価方法（令和元年度までの項目名称「成績評価基準」）	規定以上の出席を前提に、定期試験の結果で評価する。
教科書・テキスト	・各講義において資料を配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」 http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1443_01.pdf ・日本学術会議「提言：病原体研究に関するデュアルユース問題」 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t184-2.pdf ・日本医師会「医師の職業倫理指針」 http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20161012_2.pdf ・インフォームドコンセントの在り方に関する検討会報告書(1995年) http://www.umin.ac.jp/inf-consent.htm ・厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」 https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10802000-Iseikyoku-Shidouka/0000197701.pdf
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業を取り入れる。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての実務経験を有する教員が全講義を担当する。
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年

医学・医療倫理ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
新生児・小児医学分野 教授	齋藤伸治
産科婦人科学分野 教授	杉浦真弓
次世代医療開発分野 教授	神谷 武
医療安全学分野 教授	戸澤啓一
共同教育研究センター 准教授	鈴木伸宏
名誉教授(前細胞分子生物学分野 教授)	岡本 尚
緩和ケア部 助教	内田 恵
法医学分野 教授	青木康博

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	21	水	3	医学研究倫理	齋藤伸治
6	21	水	4	生殖医療とヒトゲノム倫理	杉浦真弓
6	23	金	1	臨床研究・治験と医療倫理	神谷 武
6	23	金	2	インフォームド・コンセント	戸澤啓一
6	27	火	1	遺伝カウンセリング	鈴木伸宏
6	27	火	2	医学研究とデュアルユース問題: 研究倫理をどのように担保すべきか	岡本 尚
6	30	金	1	ターミナル・ケア	内田 恵
6	30	金	2	刑事司法と医療倫理	青木康博

開講年度	2023年度
科目名	神経科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	松川則之、飛田秀樹、鶴川真也、澤本和延、植木美乃、野村 洋、服部光治、福田敦夫、和氣弘明、佐野裕美
講義期間・曜日・時限	2023年5月8日（月）から6月5日（月）

授業目的・目標	脳機能を支える分子基盤を理解し、神経疾患の原因、治療、予防などを理解するための基本知識を得るために、神経科学領域の分子、細胞レベルでの基礎知識を習得するとともに、神経疾患の病因の分子基盤を理解する。
キーワード	神経最先端研究、新研究手法、神経科学
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1a, 1d, 4d
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系を構成する細胞の特性を説明できる。 2. 神経系の発生を説明できる。 3. 神経伝達物質の種類、シナプスの種類と構造、シナプス伝達の機序を説明できる。 4. 神経系におけるトランスポーターの機能を説明できる。 5. 神経系にみられる可塑性、記憶、学習の分子基盤について説明できる。 6. 神経の変性と再生の機序を理解する。 7. 神経疾患および精神疾患の分子基盤を理解する。 <p>【該当するモデルコアカリ】 A-8-1) 医学研究への志向の涵養 A-9-1) 生涯学習への準備 C-2-2)-(1) 組織・各臓器の構造と機能 C-2-3)-(1) 情報伝達の基本 C-2-3)-(2) 神経による情報伝達の基礎</p>
成績評価基準	合格：60点以上（学修到達目標を達成している）
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・動物的機能と情動の生後発達 2. 神経再生医学 3. 感覚器の分子生物学 4. 脳内出血後の神経回路シフト 5. 記憶・学習の神経機構 6. 神経変性疾患の分子生物学 7. パーキンソン病の病態と先端研究 8. 大脳基底核の最先端研究 9. 光を利用した最先端研究（グリアと神経病態） 10. 神経・精神疾患とクロライドホメオダイナミクス 11. 神経細胞移動の分子機構とその疾患 12. 脳の中の自己ニューロンと他者ニューロン
授業計画	2023年度 神経科学ユニット授業計画を参照のこと
授業時間外の学修（準備学習を含む）	
成績評価方法	筆記試験
教科書・テキスト	
参考文献	参考文献 "Principles of Neural Science" Eric R.Kandel et al., McGraw-Hill Publishing Co. "Basic Neurochemistry" George Siegel et al., Raven Press
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	2年で学習した解剖学、生理学、生化学における関連項目を復習の上（予習に相当）講義に臨むこと。最新の研究内容についての講義は、配布プリントを元に復習すること。
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

神経科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	
脳神経内科学 教授	松川 則之	
脳神経生理学 教授	飛田 秀樹	責任者
機能組織学 教授	鵜川 眞也	
神経発達・再生医学 教授	澤本 和延	
リハビリテーション医学 教授	植木 美乃	
認知機能病態学 教授	野村 洋	
薬学部 病態生化学 教授	服部 光治	
浜松医科大・神経生理学 特命研究教授	福田 敦夫	
生理学研究所 認知行動発達研究部門 教授	磯田 昌岐	
名古屋大学・第一解剖学 教授	和氣 弘明	
藤田医科大 精神神経病態解明センター 准教授	佐野 裕美	

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
5	8	3	月	オリエンテーション・動物的機能と情動の生後発達	飛田 秀樹
		4	月	神経再生医学	澤本 和延
5	11	3	木	感覚器の分子生物学	鵜川 眞也
		4	木	脳内出血後の神経回路シフト	飛田 秀樹
5	15	3	月	記憶・学習の神経機構	野村 洋
		4	月	神経変性疾患の分子生物学	松川 則之
5	18	3	木	パーキンソン病の病態と先端研究(仮)	植木 美乃
		4	木	大脳基底核の最先端研究(仮)	佐野 裕美
5	22	3	月	予備日	
		4	月	予備日	
5	25	3	木	光を利用した最先端研究(仮)	和氣 弘明
		4	木	神経・精神疾患とCI homeodynamics	福田 敦夫
6	1	3	木	神経細胞移動の分子機構とその疾患との関連	服部 光治
		4	木	脳の中の自己ニューロンと他者ニューロン	磯田 昌岐
6	5	1	月	予備日	
		2	月	予備日	

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	行動科学・地域医療学コース・疼痛科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	祖父江和哉、植木孝俊、大澤匡弘、杉浦健之
講義期間・曜日・時限	6月8日（木）

授業目的・目標	疼痛に関する基礎医学的知識を断片的ではなく、科目横断的に理解し、習得する。
キーワード	痛み、行動科学、中枢神経、末梢神経
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1d, 2d, 3a, 4d
学習到達目標	疼痛に関する基礎医学的知識を学習し、将来、質の高い疼痛管理を様々な診療科や医療チームのなかで提供するための基礎知識を習得する。 【該当するモデルコアカリ】 A-8-1) 医学研究への志向の涵養 C-2-3)-(2) 神経による情報伝達の基礎
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	痛みの神経科学 動物モデルを用いた行動科学の研究 痛みと中枢神経系イメージング 動物モデルを使用した慢性疼痛に関する研究
授業計画	2022年度 疼痛科学ユニット授業計画を参照のこと
授業時間外の学修（準備学習を含む）	講義内容の予習と復習を行うこと
成績評価方法	客観試験（神経科学試験の一部として行います）
教科書・テキスト	各講義にて配布される資料を参照すること
参考文献	
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	2年生で学習した解剖学、生理学、生化学、感染微生物学などを前もって復習した上で講義に臨むこと
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師・薬剤師としての臨床経験を持つ教員や痛みに関する基礎研究を行っている教員が講義を担当する。
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

疼痛科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
麻酔科学・集中治療医学分野・教授	祖父江和哉
麻酔科学・集中治療医学分野疼痛科学部門・教授	杉浦健之
統合解剖学分野・教授	植木孝俊
非常勤講師(薬学研究科神経薬理学・准教授)	大澤匡弘

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	8	木	1	行動科学と動物モデル	大澤
			2	動物モデルを使用した慢性疼痛に関する研究	大澤
			3	痛みと中枢神経系イメージング	植木
			4	痛みの神経科学	杉浦

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	コミュニティヘルスケア卒前教育 行動科学・地域医療学 コース コミュニティ・ヘルスケア応用 (IPE) ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学研究科：植田典浩、高桑 修、酒々井眞澄、大石久史、川出義浩、柿崎真沙子、村上里奈 薬学研究科：鈴木 匡、坂下真大、青木啓将 看護学研究科：明石恵子、金子典代
講義期間・曜日・時限	2023年5月12日(金)～2023年6月23日(金)
授業目的・目標	【授業目的】医療系の学生として、人に対する理解を深め、コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。 【授業目標】医療を提供するための基盤を修得し、医療者になることへの自覚を深めるのを目標としている。地域在住高齢者の日常生活環境を認識し、健康維持や療養・介護のニーズを調査することにより、将来に向けての提案書を作成する。
キーワード	コミュニティ、ヘルスケア、国際生活機能分類 (ICF)、エイジング・イン・プレイス (AIP)、多職種連携教育 (IPE)
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰの c 領域Ⅱの b, d 領域Ⅲの a, b, c, d 領域Ⅳの a, c
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 老化と高齢者の特徴、超高齢社会における医療の課題について理解している。 2. 国際生活機能分類 (ICF) の基本的概念を理解し、個人の生活上の課題を適切に評価できる。 3. 疾病予防や健康増進の必要性を理解している (マイルストーン111-1(1) レベルB) 4. 地域社会におけるコミュニティヘルスケアの仕組みと役割を理解している (マイルストーン111-1(2) レベルB) 5. 相手の心理・背景を理解し、誠実な態度で信頼関係を築くことができる (マイルストーン11-2(1) レベルA) 6. 他者との関係形成には相手の立場や気持ちへの理解と配慮が必要であることを理解している (マイルストーン11-2(2) レベルA) 7. グループ学習において、必要な情報共有しつつグループ内の信頼関係を構築できる (マイルストーン11-2(3) レベルB) 8. グループ実習において、構成員間の意見の相違を調整し、円滑で効果的活動に協力できる (マイルストーン11-3(3) レベルB) 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2-1) 課題探求・解決能力、A-2-2) 学修の在り方、A-4-1) コミュニケーション、A-4-2) 患者と医師の関係、A-7-1) 地域医療への貢献、B-1-6) 社会・環境と健康、B-1-7) 地域医療・地域保健、B-4-1) 医師に求められる社会性、C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション、E-8-1) 加齢と老化、F-2-14) リハビリテーション、F-2-15) 在宅医療と介護、F-3-2) 医療面接
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	エイジング・イン・プレイス (AIP) 社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムの一環である。 地域高齢者を対象とする調査実習と、そのための準備としての講義、実習の成果をまとめるグループワークで構成されている。
授業計画	詳細については、授業計画表を参照。 講義・グループワーク：全6回 (5/12 3-4限、6/2 3-4限、6/23 3-4限) 調査実習：2回、5/19と6/16、5月12日 (金) 4限目に説明会を行う。 調査実習については下記のように予定しているが、コロナ感染の状況などにより変更となる場合がある。 13:00に講義室に集合し連絡事項等を確認。OHCセンター等に移動し、グループ毎に高齢者から生活や健康状態についての話を聞き取りを行う。 グループおよび個人の課題として、①健康と暮らしのプロファイル、②国際生活機能分類 (ICF) 整理チャート、③エイジング・イン・プレイス (AIP) に向けた提案書、等を作成する。
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、医療系学生チーム訪問実習マニュアル (オリエンテーション時に配布) を予習した上で、実習に臨むこと。 国際生活機能分類 (ICF) の基本的概念について自己学習すること。 エイジング・イン・プレイス (AIP) の基本的概念について自己学習すること。
成績評価方法	原則として全日程への出席を求める。特に実習・グループワークについては原則遅刻、早退は認めない。特段の理由なく欠席の場合および課題が提出されない場合は、総括評価 (含否評価) の対象としない。 総括評価 (含否評価) ①学修到達目標1～4 (50%)：グループおよび個人の課題を評価する ②学修到達目標5～8 (50%)：グループ・調査実習時の態度や姿勢等からルーブリック表を用いて評価する。特に調査実習において医学生として不適切な態度や行動がみられる場合は指導のうえ欠席扱いとする場合がある。 ①②がいずれも合格基準を満たす場合に合格とする。
教科書・テキスト	医療系学生チーム訪問実習マニュアル (オリエンテーション時に配布)
参考文献	講義時間中に紹介します。
履修上の注意事項	名古屋市立大学では本科目を医学部・薬学部・看護学の専門科目に位置づける (学部によって必修・選択・自由科目のいずれかとなる)。 学外実習中にトラブルや懸念事項が生じたときは、自分たちだけで判断せず担当教員に報告し相談すること (各チームに1人の担当教員が割り当てられる)。 集合時間、提出期限は厳守すること。
履修者への要望事項	第1回目の講義までに2年時に履修したコミュニティ・ヘルスケア基礎で学んだ超高齢社会の課題について、自分なりの考えをまとめておいてほしい。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師、薬剤師、看護師、としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	平成25年度入学者から適用 「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア基礎」「コミュニティ・ヘルスケア応用」「コミュニティ・ヘルスケア発展」「コミュニティ・ヘルスケア実践」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。なお、「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」は、教養教育科目「医療連携地域参加型学習」として履修する。プログラム履修についての詳しい内容は担当教員に確認すること。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年

CHC応用ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 医学・医療教育学 教授	高桑 修
医学研究科 医学・医療教育学 講師	植田典浩
医学研究科 神経毒性学 教授	酒々井眞澄
医学研究科 病態モデル医学 教授	大石久史
医学研究科 地域医療教育学 特任准教授	川出義浩
医学研究科 医療人育成学 特任講師	柿崎真沙子
医学研究科 リハビリテーション医学 助教	村上里奈
薬学研究科 臨床薬学教育研究センター 教授	鈴木 匡
薬学研究科 臨床薬学教育研究センター 講師	坂下真大
薬学研究科 病態解析学 助教	青木啓将
看護学研究科 クリティカルケア看護学 教授	明石恵子
看護学研究科 国際保健看護学 教授	金子典代

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
5	12	金	3	講義:超高齢社会の課題／加齢と老化	植田
5	12	金	4	オリエンテーション:訪問実習から何を学ぶか?	担当教員
5	19	金	3-4	第1回調査実習	担当教員
6	2	金	3-4	グループワーク:ニーズを調査するための計画をたてる	植田
6	16	金	3-4	第2回調査実習	担当教員
6	23	金	3	国際生活機能分類(ICF)の作成 家庭訪問実習で学んだことの共有	植田
6	23	金	4	グループワーク:「エイジング・イン・プレイス に向けた提案書」の作成	担当教員

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	行動科学・地域医療学コース Scientific Writing and Presentationユニット
専門・教養	専門
担当教員	授業計画表を参照
履修期間・曜日・時限	月曜日1-2限(4/24, 5/15, 6/19)、月曜日3-4限(4/10, 6/5)、火曜日3-4限(6/13)

授業目的・目標	医学領域の調査・研究成果を世界の研究者に適切に伝えられるようになるために、英語による科学的文書の作成とプレゼンテーションの基本知識と技法、倫理、科学的な文章を作成することの醍醐味や面白さを学ぶ。
キーワード	科学統計解析、科学作文技術、プレゼンテーション、論文投稿、研究倫理
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰの b, c, d 領域Ⅱの d 領域Ⅳの d
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 原著論文の役割と意義、構造、倫理を理解することで、医学研究の文献等の情報を吟味してその基本的な妥当性を評価できるようになる。 2. 研究結果から、英文で Title, Abstract, Figure, Table からなる報告を作成する基本的な技術を修得する。医学的知見や医療情報を英語で説明し、国際的に発表することができるようになる。 3. 科学論文の作成の方法、発表における倫理、公表のルールを理解することで、医学論文から得られる科学的知識や科学的理解には限界があり、またそれらは常に更新されていることを理解する。 4. 医学研究の意義、方法、醍醐味を知ること、生涯にわたって継続的に医学知識の向上に務める基本的な姿勢を身につけることができる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2-2、A-8-1、A-7-2
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	Mini lecture と 個人作業 の繰り返しによる授業を行う。科学的記述では、General to Specific を基本構造として、Research question と Answer を明確にしたParagraph writing を行う事を授業全体を通じて学習する。科学的報告の作成技術を学び、国際標準に沿ったGraphics(図表)の作成技術およびプレゼンテーションの技法を習得する。授業で学んだ研究データのまとめ方と英文abstractの書き方を基に、与えられたデータから Graphics および Abstract を作成し、教員による査読を経て、受理(accept)されることをもって合格とする。
授業計画	授業計画表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業で学んだ研究データのまとめ方と英文abstractの書き方を基に、 ①与えられたデータから Graphics(図表) および Abstract を作成し、onlineで査読者(匿名教員)に提出する。 ②査読者からonlineで返送される査読コメントに基づいて、必要な改訂を行い再提出する。 ③査読者によって受理されるまで②③を繰り返す。
成績評価方法	①演習で作成する プロダクト(図や文章など) と 小テスト(dictation) の回答をもって出席とする。 ②指定されたデータを基に、Graphics(図表) および Abstract を作成し、提出すること。 ③提出された Graphics および Abstract に対して電子メールで返送される査読結果に基づき必要な改訂を行い、2週間以内にメールで再提出すること。 ④Graphics および Abstract が9月30日までに受理されること。 ⑤査読に対する改訂版と返事を2週間以内に提出しなかった場合は、毎回、追加課題が課される。その場合は④とともに全ての追加課題を9月30日までに終了することが求められる。 以上、①による出席と、②～⑤を全て満たすことを持って合格とする。 Abstract提出先: ncuswp@gmail.com メールの件名: Abstract_学籍番号_氏名 ←学籍番号を記載すること。(出席番号は不可) Abstract file名: Abstract_学籍番号_氏名.docx
教科書・テキスト	参考書 ・ A practical guide to the use of scientific English : a skeleton approach for written and oral presentation in the medical field Malcolm A. Moore and Hiroyuki Tsuda, APOCP ・ ライフ・サイエンスにおける 英語論文の書き方 市原 A. エリザベス、共立出版 ・ 科学論文のセンスを磨く 鈴木英次、化学同人
参考文献	
履修上の注意事項	①宿題をもとにしたdictationの小テストを授業開始時に毎回行うので、遅刻をしないこと。 ②指定された形式を守らない Graphics(図表) および Abstract は査読されず、正しい形式での再提出を求められます。 ③Graphics および Abstract は合格水準に達するまで再提出が求められます。 ④Graphics および Abstract の修正を指示された時は修正した点を明記して2週間以内に再提出してください。 ⑤再提出が期限より遅れた場合は追加課題が課されます。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	授業で学んだ研究データのまとめ方と英文abstractの書き方を基に、下記のようにアクティブ・ラーニングを行う。 ①個人作業により、Graphics(図表) および Abstractを作成する。 ②査読者から返送される査読コメントに基づいて、必要な修正を行い2週間以内に再提出する。 ③査読者によって受理されるまで②③を繰り返す。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	研究者として一線で研究活動を行っている教員が授業・実習、アクティブ・ラーニングにおける査読者を担当する。
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年

Scientific Writing and Presentationユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 医学・医療教育学 講師	植田 典浩
至学館大学 教授	三浦 裕
名古屋大学 環境医学研究所 特任助教	加藤 耕治
医学研究科 循環器内科学 助教	中須賀 公亮
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 視覚科学 教授	野崎 実穂
医学研究科 神経発達症遺伝学 学内講師	金澤 智
医学研究科 神経生化学 講師	辻田 麻紀
医学研究科 リハビリテーション医学 助教	村上 里奈
医学研究科 細胞生化学 講師	嶋田 逸誠

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
4	10	月	3	Orientation / Good slide presentation	植田 典浩
4	10	月	4	Why scientific writing?	三浦 裕
4	24	月	1	Statistical analysis of data	加藤 耕治
4	24	月	2	Graphics for scientific reports	中須賀 公亮
5	15	月	1-2	Create your graphics.	全教員
6	5	月	3	Which color shall we choose?	野崎 実穂
6	5	月	4	Structure of scientific reports	金澤 智
6	13	火	3	Title and body of abstract	辻田 麻紀
6	13	火	4	Ethics; scientific misconduct	村上 里奈
6	19	月	1-2	Write your abstract!	全教員

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	先端研究ユニット
専門・教養	専門
担当教員	酒々井眞澄、山川和弘、齊藤貴志、深町勝巳、澤田雅人、尾崎智也
講義期間・曜日・時限	2022年5月11日（木）から 6月6日（火）

授業目的・目標	脳神経科学研究所を中心に行われている研究について学び、基礎医学研究について理解を深める。
キーワード	脳科学・腫瘍・創薬
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1b, 1d, 3a, 3b, 4d
学習到達目標	基礎医学の知識をもとに、先端的な医学研究について理解するとともに、それぞれの研究における成果についても説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 A-8-1) 医学研究への志向の涵養, A-9-1) 生涯学習への準備, B-1-6) 社会・環境と健康, C-2-3) 個体の調節機構とホメオスタシス, C-4-1) 遺伝的多様性と疾患, C-4-2) 細胞傷害・変性と細胞死, C-4-6) 腫瘍, D-2-3) 神経系症候, D-2-4) 神経系疾患, E-5-2) 物理・化学的因子による疾患症候
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	1. 発がん動物モデルとその応用 2. 発達障害とてんかんの分子遺伝学 3. 嗅覚とニューロン新生 4. 認知症・アルツハイマー病研究の最前線 5. 神経再生を阻害する分子 6. リード化合物と創薬科学
授業計画	
授業時間外の学修（準備学習を含む）	毎回講義の最後に講義のポイントアンケートを実施するので、これまでの講義や実習で学習した内容の概要を予習しておくこと
成績評価方法	出席、講義のポイントアンケート、レポートなどを総合的に評価する
教科書・テキスト	各講義にて配布される資料を参照すること
参考文献	各講義にて配布される資料を参照すること
履修上の注意事項	講義参加度、受講態度、提出物の期限厳守
履修者への要望事項	これまでの講義や実習で学習した内容をふまえた上で受講すること
アクティブ・ラーニング	必要に応じて適宜実施する
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年

先端研究ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
神経毒性学分野 教授	酒々井眞澄
神経発達症遺伝学分野 教授	山川和弘
認知症科学分野 教授	齊藤貴志
神経毒性学分野 講師	深町勝巳
神経発達・再生医学分野 講師	澤田雅人
神経毒性学分野 助教	尾崎智也

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
5	11	木	1	発がん動物モデルとその応用	深町勝巳
5	11	木	2	発達障害とてんかんの分子遺伝学	山川和弘
5	18	木	1	嗅覚とニューロン新生	澤田雅人
5	18	木	2	認知症・アルツハイマー病研究の最前線	齊藤貴志
5	25	木	1	神経再生を阻害する分子	尾崎智也
6	6	火	4	リード化合物と創薬科学	酒々井眞澄

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・遺伝医学
専門・教養	専門
担当教員	新生児・小児医学分野 教授 齊藤伸治、 神経発達症遺伝学分野 教授 山川和弘、 産科婦人科学 病院教授 鈴木伸宏、
講義期間・曜日・時限	6月26日(3,4限)、6月27日(3,4限)、6月29日(3,4限)

授業目的・目標	【授業目的】 遺伝医学の基礎および最近の動向について学ぶ。 【授業目標】 遺伝医学の基礎および最近の動向について通じる。
キーワード	遺伝医学、ゲノム、遺伝子、遺伝疾患、遺伝子診断
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a IVa
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 遺伝医学の知識をもとに、先端的な遺伝医学研究についても理解する。 2. それぞれの研究における課題を説明できる。 3. 研究の持つ臨床応用の可能性について説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-1-1) 医の倫理と生命倫理 A-4) コミュニケーション能力 A-8) 科学的探求 A-9) 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 B-1) 集団に対する医療 B-3) 医学研究と倫理 C-1) 生命現象の科学 C-2) 個体の構成と機能 C-3) 個体の反応 C-4) 病因と病態 C-5) 人の行動と心理 D) 人体各機関の正常構造と機能、病態、診断、治療 E) 全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療 C-4-1) 遺伝的多様性と疾患 E-1) 遺伝医療・ゲノム医療
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	臨床医学と関連の深い基礎医学（臨床基礎分野）の理解がほぼ終了した者を対象に、各領域でのトピックスもしくは研究の最前線となっている事について講義を行う。これにより、それぞれの領域が密接に関連していることや、狭い領域にとらわれない幅広い知識・思考が現在の医学を理解する上で重要であることを学ぶ。
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	レポート、小テスト、授業態度などにより判定する
教科書・テキスト	トンブソン&トンブソン遺伝医学 第2版 メディカル・サイエンス・インターナショナル
参考文献	
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	特になし。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験もしくは基礎研究実績を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業外の学習について ①授業計画を確認の上、教科書の該当分野を予習したうえで、講義に臨むこと
関連URL	研究室ホームページ： http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/neurogenet/

2023年1月～2023年12月 第3学年

遺伝医学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
新生児・小児医学分野 教授	齊藤伸治
神経発達症遺伝学分野 教授	山川和弘
共同研究教育センター 病院教授	鈴木伸宏

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	26	月	3	ヒトゲノムの多様性と変異・疾患	齊藤伸治
			4	ヒトゲノムの多様性と変異・疾患	齊藤伸治
6	27	火	3	疾患の遺伝的背景・原因遺伝子	山川和弘
			4	疾患の遺伝的背景・原因遺伝子	山川和弘
6	29	木	3	遺伝カウンセリングと倫理的社会的課題	鈴木伸宏
			4	遺伝カウンセリングと倫理的社会的課題	鈴木伸宏

開講年度	2023年度
科目名	基本診療能力コース・救急救命
専門・教養	専門
担当教員	服部友紀・山岸庸太・宮崎ゆか・矢島つかさ・村上里奈
講義期間・曜日・時限	4月6, 13, 20, 27日(講義・実習)、5月19, 26日, 6月2, 9日(新一年生へのBLS指導) いつれの日も1, 2時限(午前)

授業目的・目標	授業目的；救急救命処置の学習を通じ、技能を修得する。医学生として必要な救急蘇生法・応急手当を修得する。新しく改定されたガイドライン2020に基づいた最新の1次救命処置(BLS)を指導するための知識、コミュニケーション能力を身につける 授業目標；BLSの修得と後輩への指導ができるようになること
キーワード	一次救命処置(BLS)、応急手当、災害医療、低体温症、インストラクション
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1a, 1c, 2c, 2e, 4a, 4b, 4d
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 蘇生の必要な成人・小児・乳児に対して適切な一次救命処置を行うことができる 一般的な応急手当法を施すことができる 災害時に医学生としてできることを知る 一次救命処置を(新一年生に)指導することができる <p>【該当するモデルコアカリキュラム】 A-3-1) 全人的実践能力、A-4-1) コミュニケーション、A-7-1) 地域医療への貢献、 B-1-7) 地域医療・地域保健 B-4-1) 医師に求められる社会性、C-4-4) 循環障害・臓器不全、E-9) 人の死 F-3-6)-4) 基本的臨床主義・救命処置</p>
成績評価基準	秀：90点以上；学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：80点以上；学修到達目標を十分に達成している 良：70点以上；学修到達目標を達成している 可：60点以上；学修到達目標を最低限達成している
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 1年次に学習した一次救命処置(BLS)実技を完全に修得する。 窒息者に対する気道の異物除去法や創傷処置など応急手当の方法を学習する。 医学生として災害時にすべきことを学習する。 医学部・薬学部・看護学部1年生へ一次救命処置(BLS)を指導する(ことを通じてBLSを深く学ぶ)。
授業計画	授業計画表(別資料)に記載
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義については特に予習の必要はないが、講義後に復習しCPR、応急手当を実践できるようになること 1年生へのBLS指導については、講義で学ぶ通り「人に教える」重要性を認識して、講義資料をしっかりと復習・修得して望むこと
成績評価方法	講義の参加とBLS動画の提出を持って合格とする(動画提出については変更の可能性あり)
教科書・テキスト	救急蘇生法の指針2020(市民用)(厚生労働省)、JRC蘇生ガイドライン2020
参考文献	追加資料は講義の際に配布
履修上の注意事項	節度ある態度で望むこと
履修者への要望事項	講義・実習について、遅刻欠席の場合には理由を付して連絡すること。
アクティブ・ラーニング	BLSの講義はシミュレーターを用いて行う。 BLS講義後にシナリオを付与するので行なったBLSを動画に収める 1年生へBLSについてインストラクションする
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	第1回目の授業までに、1年次に学習したBLSの手順を十分に復習しておくこと。 BLSの一連の手順等についてビデオ撮影しファイル提出する(コロナ感染症の流行によっては中止となる可能性あり) 詳細は初回の講義の際に説明する
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第2学年・第3学年

救急救命ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 先進急性期医療学 教授	服部友紀
名古屋市立大学病院 災害医療センター長	山岸庸太
名古屋市立大学病院 助教	宮崎ゆか
名古屋市立大学病院 助教	矢島つかさ

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	6	木	1	一次救命処置（BLS）の重要性の理解と習得	服部友紀
			2	小児・乳児のBLS	宮崎ゆか
4	13	木	1	医学生として知っておくべき応急手当	矢島つかさ
			2	医学生として知っておくべき応急手当	矢島つかさ
4	20	木	1	BLS・応急手当（実習）	宮崎・矢島
			2	BLS・応急手当（実習）	宮崎・矢島
4	27	木	1	災害現場での実際の医療活動について	山岸庸太
			2	災害時に医学生としてどう行動すべきか	山岸庸太
5	19	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部・宮崎・矢島
5	26	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部・宮崎・矢島
6	2	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部・宮崎・矢島
6	9	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部・宮崎・矢島

開講年度	2023年度
科目名	総合医学コース・水平統合病態ユニット
専門・教養	専門
担当教員	細菌学分野 教授 長谷川忠男、ウイルス学分野 教授 奥野友介、臨床病態病理学分野 教授 稲垣 宏、実験病態病理学分野 教授 高橋 智、薬理学分野 教授 大矢 進、法医学分野 教授 青木康博、神経毒性学分野 教授 酒々井真澄、免疫学分野 教授 山崎小百合、
講義期間・曜日・時限	2023年6月19日(月)～7月7日(水)
授業目的・目標	感染・免疫、臓器障害の二つのテーマについて基礎医学を中心とする立場から授業を行う。
キーワード	臓器障害、中毒、感染、免疫、薬剤、ゲノム、遺伝子
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰ-a, b, c, d、Ⅱ-d, e、Ⅲ-a, b, c、Ⅳ-a, b, d
学習到達目標	1. 臨床基礎医学の知識をもとに、先端的な医学研究について理解する。 2. それぞれの研究における課題を説明できる。 3. 研究の持つ臨床応用の可能性について説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 C-3-1) 生体と微生物, C-3-2) 免疫と生体防御, C-3-3) 生体と薬物, C-4-6) 腫瘍
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	臨床医学と関連の深い基礎医学(臨床基礎分野)の理解がほぼ終了した者を対象に、各領域でのトピックスもしくは研究の最前線となっている事について講義を行う。これにより、それぞれの領域が密接に関連していることや、狭い領域にとらわれない幅広い知識・思考が現在の医学を理解する上で重要であることを学ぶ。
授業計画	8分野の講師による講義
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、これまでの基礎の講義を復習の上講義に臨むこと。 授業内容をテキストや参考図書を参考にして復習しておくこと。
成績評価方法	レポート、小テスト、授業態度などにより判定する
教科書・テキスト	講義担当教員の所属する分野が推奨するテキストなど
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	これまでの基礎の講義と異なる観点からの授業ですので、今後の臨床医学の講義の理解が深まると思います。
関連URL	

水平統合病態ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
細菌学分野 教授	長谷川忠男
ウイルス学分野 教授	奥野友介
臨床病態病理学分野 教授	稲垣 宏
免疫学分野 教授	山崎小百合
神経毒性学分野 教授	酒々井真澄
実験病態病理学分野 教授	高橋 智
薬理学分野 教授	大矢 進
法医学分野 教授	青木康博

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	19	月	3	感染・免疫 ① 細菌学	長谷川忠男
			4	感染・免疫 ② 臨床病態病理学	稲垣 宏
6	20	火	3	感染・免疫 ③ ウイルス学	奥野友介
			4	感染・免疫 ④ 免疫学	山崎小百合
6	28	水	3	予備	
			4	予備	
7	4	火	3	臓器障害－副作用と毒性－①	高橋 智
			4	臓器障害－副作用と毒性－②	酒々井真澄
7	5	水	3	臓器障害－副作用と毒性－③ 中毒病態へ法医学的アプローチ	青木康博
			4	臓器障害－副作用と毒性－④	大矢 進
7	7	金	1	予備	
			2	予備	

(4) 臨床医学 (3 年次 1 月~4 年次 12 月)

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・血液・造血器・リンパ系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	飯田真介 小松弘和 楠本茂 李政樹 成田朋子 鈴木智貴 亀井美智 正木彩子 木下史緒理 伊藤康彦 金森貴之 非常勤講師：松下 正
講義期間・曜日・時限	セメスター4 (2023/9/6～2023/10/19)

授業目的・目標	血液・リンパ系疾患患者の診療に必要な基本的知識や集学的治療の重要性を理解するために(目的)、血液・リンパ系疾患の疫学、病態、診断学、標準的治療法に関する基礎的知識を習得する(目標)。さらに血液疾患の学習を通して、新しい分子標的治療、再生医療等、先端医療における臨床応用についての理解を深める(目標)。
キーワード	貧血、リンパ節腫大、発熱(不明熱)、造血器腫瘍、分子標的療法
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	I a, I b, I c, II a, III a, IV a
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液・リンパ系器官の解剖と細胞の形態学的特徴を説明できる。 2. 血液・リンパ系器官の正常機能と病的異常の概論を説明できる。 3. 血液・リンパ系疾患の(分子)病態や遺伝・環境要因についての概要を説明できる。 4. 造血幹細胞の分化・機能について説明できる。 5. 造血器腫瘍の病理診断、遺伝子診断の特徴とその限界について説明できる。 6. 造血器腫瘍に対する化学療法の基本理論、作用機序、主な副作用と支持療法を説明できる。 7. 血液・リンパ系疾患に対する分子標的療法の特徴、種類、開発法について説明できる。 8. 造血細胞移植療法の理論と適応、実際について説明できる。 9. 出血性疾患・血栓性疾患の病態、診断、治療について説明できる。 10. 貧血の定義、病態、主要疾患についての診断、治療について説明できる。 11. 急性白血病、慢性白血病の違いを形態、分子機構、治療法の観点から説明できる。 12. 骨髄増殖性疾患の分類と分子機序、及び診断、治療、予後について説明できる。 13. 悪性リンパ腫の分子機序及び治療法につき、病理学及び病期分類に基づいて説明できる。 14. 多発性骨髄腫の診断、治療、さらには最近の分子標的治療の進歩について説明できる。 15. 小児の血液疾患・腫瘍性疾患の病態を理解し、治療法と予後について説明できる。 <p>【該当するモデルコアリ：D-1, F-1-1, F-1-26, F-1-27】”</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している)</p> <p>優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している)</p> <p>良：70点以上(学修到達目標を達成している)</p> <p>可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 造血幹細胞分化とサイトカイン、細胞表面抗原解析 2. 先天性血栓傾向と播種性血管内凝固症候群 3. 血友病と類縁疾患 4. 血小板減少症(ITP/TTP)と機能異常症 5. 鉄欠乏性貧血・二次性貧血と巨赤芽球性貧血 6. 溶血性貧血と造血不全 7. 血液像・骨髄像の見方 8. 小児血液・腫瘍(1) 9. 小児血液・腫瘍(2) 10. 急性白血病 11. 骨髄異形成症候群 12. 骨髄増殖性疾患・慢性骨髄性白血病 13. 悪性リンパ腫(成人T細胞性白血病リンパ腫を含む) 14. 形質細胞腫瘍 15. 造血幹細胞移植療法 16. 造血器疾患合併感染症
授業計画	血液・造血器・リンパ系授業予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、教科書(参考文献)の該当箇所を予習した上で、講義に望むこと
成績評価方法	セメスター試験(80)点満点、アクティブラーニング(発表10、参加態度10、計20)点満点 本試は以上2項目の合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。”
教科書・テキスト	カラーテキスト血液病学 第2版 中外医学社 造血器腫瘍アトラス 改訂第5版 日本医事新報社 Up To Date (https://www.uptodate.com/contents/search) Wintrobe's Clinical Hematology WHO Classification Tumours of Haematopoietic and Lymphoid Tissues (IARC) ”
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。 小児血液・腫瘍学(日本小児血液・がん学会編)診断と治療社
履修上の注意事項	連絡のない遅刻・欠席をしないこと。
履修者への要望事項	アクティブ・ラーニングまでに、貧血、リンパ節腫大、発熱(不明熱)の鑑別診断に関する基礎知識を予習しておくことが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

血液・造血器・リンパ系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
血液・腫瘍内科学 教授	飯田真介	新生児・小児医学 助教	亀井美智
臨床腫瘍部 教授	小松弘和	臨床病態病理学 准教授	正木彩子
血液・腫瘍内科学 准教授	楠本 茂	西部医療センター小児科 教授	伊藤康彦
輸血・細胞療法部 講師	李 政樹	西部医療センター血液・腫瘍内科 助教	金森貴之
血液・腫瘍内科学 講師	成田朋子	外来講師(名古屋大学)	松下 正
血液・腫瘍内科学 助教	鈴木智貴		
臨床腫瘍部 助教	木下史緒理		

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	6	水	1	鉄欠乏性・二次性貧血と巨赤芽球性貧血	小松弘和
9	6	水	2	血友病と類縁疾患	伊藤康彦
9	6	水	3	悪性リンパ腫(成人T細胞性白血病リンパ腫を含む)	楠本 茂
9	6	水	4	急性白血病	成田朋子
9	13	水	1	血小板減少症(ITP/TTP)と機能異常症	李 政樹
9	13	水	2	小児血液・腫瘍(小児血液疾患①)	亀井美智
9	13	水	3	造血幹細胞移植療法	李 政樹
9	13	水	4	造血器疾患合併感染症	木下 史緒理
9	27	水	1	溶血性貧血と造血不全	鈴木智貴
9	27	水	2	小児血液・腫瘍(小児血液疾患②)	亀井美智
9	27	水	3	骨髄異形成症候群	金森 貴之
9	27	水	4	骨髄増殖性疾患・慢性骨髄性白血病	成田朋子
10	4	水	1	造血幹細胞分化とサイトカイン、細胞表面抗原解析	正木彩子
10	4	水	3	Active Learning	鈴木・他1名
10	4	水	4	Active Learning	鈴木・他1名
10	5	木	1	形質細胞腫瘍	飯田真介
10	5	木	2	血液像・骨髄像の見方	飯田真介
10	19	木	2	先天性血栓傾向と播種性血管内凝固症候群	松下 正

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・神経系ユニット（神経内科学）
専門・教養	専門
担当教員	松川則之、大村真弘、大喜多賢治、川嶋将司、水野将行、藤岡哲平、佐藤豊大 （非常勤講師）望月秀樹、加藤大輔
講義期間・曜日・時限	セメスター3（2023/2/28～2023/5/25）、火・水・木曜日、1・2限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】 本コースでは中枢神経疾患、末梢神経疾患、骨格筋疾患の診断と治療を習得するため、その理解に必要な神経系の解剖学、生理学、病理学、薬理学などの基礎医学領域を復習しながら概説する。</p> <p>【授業目標】 各疾患の病態を理解した上で、診断と治療に至る流れを習得してもらう。</p>
キーワード	神経診察、高位診断、脳血管障害、神経変性疾患
ディプロマ・ポリシー （卒業時コンピテンシー） との関連	領域1a, 1d, 2b, 2c, 4d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】 神経系の解剖、生理、機能について説明できる。 神経症候から病巣を推定することができ、その理由を説明できる。 神経系の病態（炎症、血管障害、変性など）について説明できる。 神経系の検査の適応、意義、結果の解釈について説明できる。 神経内科疾患の診断、病態生理、治療について説明できる。</p> <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-2 神経系、F-1-8 けいれん、F-1-19 嚥下困難・障害、F-1-32 もの忘れ F-1-33 頭痛、F-1-34 運動麻痺・筋力低下、F-3-5 神経、G-4-4（10）腰椎穿刺</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系総論 2. 脳血管障害（虚血性、出血性） 3. 神経変性疾患（認知症、脊髄小脳変性症、パーキンソン症候群、運動ニューロン病） 4. 機能的疾患（てんかん、頭痛） 5. 筋疾患・末梢神経疾患・脊髄疾患 6. 脱髄疾患（中枢、末梢） 7. 神経系代謝性疾患・中毒
授業計画	<p>神経系コース（神経内科）授業計画表を参照。 神経系コース46時限の23時限分を神経内科が担当。 理解を深めるための小テストを、講義中と終わりに行い、提出する。 アクティブラーニングとして、3回のグループ発表も予定。（ただしweb講義の場合は中止）</p>
授業時間外の学修 （準備学習を含む）	講義後に該当領域を教科書などで復習、再確認しておくこと。
成績評価方法	講義ごと小テスト結果、アクティブラーニングの発表内容とその取り組み・参加態度を評価する。 評価配分は、セメスター試験80%、小テスト・アクティブラーニングを20%とする。
教科書・テキスト	<p>「病気がみえる7 脳・神経」 MEDIC MEDIA 「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭、斎藤佳雄編 南山堂</p>
参考文献	「神経内科ハンドブック」 水野美邦編 医学書院
履修上の注意事項	講義途中での入退室は原則認めない。
履修者への要望事項	基礎医学で学んだ神経解剖学、神経生理学の教科書を適宜見直すことと理解しやすい。
アクティブ・ラーニング	事前に提示された課題をグループごとに調べて発表する。 （グループワークとプレゼンテーション） 計3回を予定、ただしweb講義の場合は行わない。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	http://ncu-shinkeinaika.jp

神経系ユニット（脳神経内科） 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 神経内科学教授	松川 則之
医学研究科 神経内科学講師	大村 眞弘
医学研究科 神経内科学講師	大喜多 賢治
医学研究科 神経内科学助教	川嶋 将司
医学研究科 神経内科学助教	水野 将行
医学研究科 神経内科学助教	藤岡 哲平
医学研究科 神経内科学病院助教	佐藤 豊大
名古屋大学医学研究科 分子細胞学助教	加藤 大輔
大阪大学大学院医学系研究科・医学部 情報統合医学講座 神経内科学教授	望月 秀樹

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
2	28	火	1	神経機能解剖学と症候学（1）	松川 則之
			2	神経機能解剖学と症候学（2）	松川 則之
3	7	火	1	神経系の検査法（1）	小テスト提出 大喜多 賢治
			2	神経系の検査法（2）	小テスト提出 大喜多 賢治
	14	火	1	虚血性脳血管障害	大村 眞弘
			2	出血性脳血管障害	大村 眞弘
4	4	火	1	脳血管内治療	課題の発表 大村 眞弘
			2	アルツハイマー型認知症	松川 則之
	5	水	1	運動ニューロン病	小テスト提出 大喜多 賢治
			2	脊髄疾患	水野 将行
	6	木	1	パーキンソン病	川嶋 将司
			2	脱髄性疾患	藤岡 哲平
	11	火	1	神経系の代謝・中毒疾患	水野 将行
			2	その他の認知症	課題の発表 松川 則之
	12	水	1	末梢神経・自律神経疾患	佐藤 豊大
			2	機能的疾患（頭痛、てんかん）	小テスト提出 大喜多 賢治
	13	木	1	パーキンソン症候群	課題の発表 藤岡 哲平
			2	脊髄小脳変性症	川嶋 将司
	18	火	1	生体イメージングで明らかにする神経内科疾患の病態	加藤 大輔
	19	水	1	意識障害	小テスト提出 大喜多 賢治
			2	筋疾患	佐藤 豊大
	20	木	1	高次脳機能障害・復習	小テスト提出 大喜多 賢治
2			「特別講義」	望月 秀樹	

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・神経系ユニット（脳神経外科）
専門・教養	専門
担当教員	間瀬 光人、片野 広之、谷川 元紀、山田茂樹、岡 雄一、西川 祐介、内田充、山中 智康 非常勤講師：大蔵 篤彦
講義期間・曜日・時限	セメスター2 神経20、25～46

授業目的・目標	本コースでは中枢神経疾患、末梢神経疾患、骨格筋疾患の診断・治療およびその理解に必要な神経解剖学、神経生理学、神経病理学、神経薬理学、神経化学などの基礎知識についても復習しながら学んでもらう。これらの疾患について、主に脳神経外科的視点から解説する。自己学習の時間も設けて、自ら疑問に思ったことを自ら調べ、科学的に多角的に判断する姿勢を身につける。
キーワード	脳、脊髄、血管、腫瘍、小児
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 I a、II b
学習到達目標	神経系の解剖、生理、機能について説明できる。 神経症候から病巣を推定することができ、その理由を説明できる。 神経系の病態（炎症、血管障害、腫瘍、変性など）について説明できる。 神経系の検査の適応、意義、結果の解釈について説明できる。 脳神経外科疾患の診断、病態生理、手術適応、手術法について説明できる。 【該当するモデルコアカリキュラム】 A-2-2学修の在り方、B-1-5生活習慣とリスク、C-4-2細胞障害・変性と細胞死、C-4-3代謝障害、C-4-4循環障害、臓器不全、C-4-5炎症と創傷治癒、C-4-6腫瘍、F-1-33 頭痛、D-2神経系
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	中枢神経疾患、末梢神経疾患、骨格筋疾患の診断・治療およびその理解に必要な神経解剖学、神経生理学、神経病理学、神経薬理学、神経化学などの基礎知識をもとに、主に脳神経外科的視点から解説する。
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	セメスター試験 90点満点 + アクティブラーニング 10点満点 (アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする)
教科書・テキスト	ニュースタンダード脳神経外科学 第3版 三輪書店 標準脳神経外科学 第14版 医学書院 脳卒中治療ガイドライン2015 協和企画 ベッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献など
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	1つの講義に1班5名程度の学生を割り当て、1班ずつ試験問題と解説を作成する 作成した試験問題は、専用のメールアドレス (nsbsl@med.nagoya-cu.ac.jp)宛にWORD文書またはテキストファイルに入力したものを添付して送信する。 講義の最終日に学生が作成した問題で試験を行い、学生が1班1問ずつ回答と解説を発表する。 注1 この学生が作成する問題はセメスター試験の問題とは異なるものである。 注2 脳神経内科の講義内容は学生が試験問題を作成する範囲に含まれません。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://noge.med.nagoya-cu.ac.jp

神経系ユニット（脳神経外科） 担当教員

所属・職名	氏名
脳神経外科 教授	間瀬光人
医学・医療情報学 准教授	片野広之
脳神経外科 講師	谷川元紀
脳神経外科 外部講師（名古屋市立大学医学部附属西部医療センター）	大蔵篤彦
脳神経外科 講師	山田茂樹
脳神経外科 病院講師	岡 雄一
脳神経外科 助教	西川祐介
脳神経外科 助教	内田充
脳神経外科 助教	山中智康
脳神経外科 病院助教	藤浪亮太

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	18	火	2	脳神経外科オリエンテーション 脳循環代謝・脳浮腫、頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア	間瀬光人
4	25	火	1	くも膜下出血・脳動脈瘤	内田充
4	25	火	2	脳血管内治療 硬膜動静脈瘻・静脈洞血栓症	間瀬光人
4	26	水	1	水頭症（小児）	片野広之
4	26	水	2	水頭症（成人）	山田茂樹
4	27	木	1	脳虚血の外科（1）（頸動脈病変・EC-ICバイパス）	片野広之
4	27	木	2	脳虚血の外科（2）（もやもや病など）	西川祐介
4	27	木	3	脳虚血の外科（3）（血栓回収療法）	西川祐介
4	27	木	4	脳出血の外科（高血圧性脳出血、脳動静脈奇形、海綿状血管腫など）	西川祐介
5	9	火	1	小児脳神経外科（中枢神経の発達と奇形）	片野広之
5	9	火	2	脳腫瘍総論	谷川元紀
5	10	水	1	神経上皮系腫瘍（1）（神経膠腫など）	坂田知宏
5	10	水	2	神経上皮系腫瘍（2）（胎児性腫瘍など）	坂田知宏
5	11	木	1	間葉系腫瘍・末梢神経腫瘍	谷川元紀
5	11	木	2	傍鞍部腫瘍	谷川元紀
5	16	火	1	松果体部腫瘍（胚細胞腫瘍など）	谷川元紀
5	16	火	2	頭部外傷	山中智康
5	17	水	1	転移性脳腫瘍・悪性リンパ腫など	藤浪亮太
5	17	水	2	パーキンソン病の外科	岡 雄一
5	18	木	1	脊椎椎間板障害	大蔵篤彦
5	18	木	2	脊髄腫瘍・脊髄血管奇形・脊髄外傷・ITB療法	大蔵篤彦
5	25	木	1	機能的疾患の外科（神経圧迫症候群、てんかん、不随意運動）	岡 雄一
5	25	木	2	学生による模擬試験と解説	間瀬光人

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・皮膚系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	森田、鳥山、加藤、中村、井汲、榎原（非常勤医師）、澤田（非常勤講師）、西尾（非常勤講師）、西田（非常勤講師）、古橋（非常勤医師）
講義期間・曜日・時限	セメスター4（2023/8/31～2023/10/2）（月曜3～4限、木曜1～2限、金曜1～2限）

授業目的・目標	皮膚科学は単なる皮膚に原因する疾患を対象とするだけの学問ではなく、身体他の部分からの異常を背景として生じる疾患をも含む広い範囲を追求する科学である。したがって皮膚コースではいわゆる「皮膚病」を学ぶのではなく、皮膚に生じた変化を全身を基盤としてどのように考えて行くか（目標）、実際的には皮膚に起こっている変化（皮疹のみかた）を正確にとらえ、その原因をどのように追求していくか、どのような検査を行うべきか、その結果どのような背景を考えるべきか、治療はどのようにして行くべきか、などの考え方を深める。
キーワード	皮膚の組織構造、皮膚検査法、湿疹・皮膚炎、治療
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域Ⅱb, c及び領域Ⅳd
学習到達目標	皮膚の構造と機能を理解する(C-2-2, E-8)。 皮膚の検査の基本を理解し、説明できる(D-3, F-2-4)。 皮膚の疾患の各論に関して理解して、重要なポイントを説明できる(D-3, F-1-12, F-1-37)。 皮膚疾患の治療の考え方を理解し、基本的な治療方法を説明できる(C-4-5, C-4-6, D-3, F-2-9, 一般手技2), 3), 外科手技1)-6)。
成績評価基準	秀：90点以上 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	（講義要目） 皮膚の組織構造・細胞・生理 皮膚検査法・皮膚アレルギー検査法・微生物検査法 湿疹・皮膚炎 皮疹からみた膠原病 蕁麻疹、薬疹、紅斑症 感染症 皮膚良性腫瘍・悪性腫瘍 水疱症 炎症性角化症・角化症 潰瘍治療
授業計画	担当教員・講義予定表を参照（各講義において実習形式や実際の検査用機械などに触れる体験を行う）
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	セメスター試験
教科書・テキスト	チャート式カラー皮膚科（医学評論社）、あたらしい皮膚科学（中山書店）、皮膚病アトラス
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

皮膚系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
加齢環境皮膚科・教授	森田明理
形成外科・教授	鳥山和宏
加齢環境皮膚科・准教授	加藤裕史
加齢環境皮膚科・講師	中村元樹
加齢環境皮膚科・助教	井汲今日子
市立西部医療センター・臨床教授（非常勤講師）	澤田啓生
旭ろうさい病院・部長（非常勤講師）	榊原代幸
豊川市民病院・部長（非常勤講師）	西尾栄一
岡崎市民病院・統括部長（非常勤講師）	西田絵美
春日井市民病院・医長（非常勤講師）	古橋卓也

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	31	木	1	皮膚の組織構造・細胞・生理	森田
8	31	木	2	皮膚検査法・皮膚アレルギー検査法・微生物検査法	森田
9	4	月	3	光線治療・レーザー治療	森田
9	4	月	4	皮疹からみた膠原病	森田
9	7	木	1	蕁麻疹・薬疹・紅斑症・紅皮症・皮膚免疫	西尾（非常勤講師）
9	7	木	2	皮膚良性腫瘍・母斑・母斑症	古橋（非常勤講師）
9	11	月	3	皮膚形成外科	鳥山
9	11	月	4	紫斑・血流障害・血管炎	榊原（非常勤講師）
9	14	木	1	水疱症・膿疱症	森田
9	14	木	2	乾癬と角化症	森田
9	25	月	3	皮膚症状から考える皮膚科疾患への治療アプローチ	井汲
9	25	月	4	湿疹・皮膚炎	澤田（非常勤講師）
9	28	木	1	感染症1 梅毒・性病・HIV感染症・動物性皮膚疾患	中村
9	28	木	2	感染症2 細菌感染症・ウイルス感染症・皮膚結核	加藤
9	29	金	1	褥瘡・熱傷治療、潰瘍治療	加藤
9	29	金	2	皮膚悪性腫瘍（上皮系・メラノーマ）	加藤
10	2	月	3	皮膚のリンパ腫・皮膚間葉系腫瘍	井汲
10	2	月	4	感染症3 色素異常・皮膚形成異常・代謝異常表在性・深在性真菌症・ハンセン病	西田（非常勤講師）

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・運動器系／リハビリテーションユニット
専門・教養	専門
担当教員	整形外科：村上英樹、岡本秀貴、鈴木伸幸、野崎正浩、木村浩明、吉田雅人（運動器スポーツ先進医学寄附講座）、加藤賢治、武長徹也、川口洋平、河 命守、八木 清、福島裕晃、武田真輔（緑市民病院） リハビリテーション：植木美乃、黒柳 元、村上里奈、松原弘記、青山公紀 非常勤講師：和田郁雄、多和田 忍
講義期間・曜日・時限	Semester 4 (2023/8/29～2022/10/4) 、月・火曜日、1～2限目

授業目的・目標	【授業目的と目標】 骨、軟骨、筋肉および靭帯など、運動器系の正常構造と機能を理解し、主な運動器疾患の原因、症候、診断と治療について学び、臨床実習に必要な基礎知識を習得する。 リハビリテーションの基本について学ぶ。
キーワード	スポーツ整形、外傷、関節疾患、脊椎疾患、骨軟部腫瘍、小児整形、手の外科、リハビリ
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	Ia, Ic, IIb, IIc, IIIb, IIIc, IVb, IVd
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 骨折、関節脱臼やスポーツ障害の診断や治療について理解する。 2. 先天性股関節脱臼など小児に特有の疾患や先天異常について理解する。 3. 関節リウマチや変形性関節症など各種関節疾患の原因、診断、治療について理解する。 4. 腰椎椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症や脊髄損傷など脊椎の疾患や外傷について理解する。 5. 四肢の絞扼性神経障害について理解する。 6. 骨粗鬆症の病態とそれに伴う障害について理解する。 7. リハビリテーションの概念と適応を理解する。 8. リハビリテーション・チームの構成を理解し、医師の役割を説明できる。 9. 理学療法、作業療法と言語聴覚療法を概説できる。 10. 主な歩行補助具、車椅子、義肢（義手、義足）と装具を概説できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2) 医学知識と問題対応能力、A-3) 診療技能と患者ケア、A-6) 医療の質と安全管理、A-5-1) 患者中心のチーム医療、B-1-4) 疫学と予防医学、B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度、C-2-2) 組織・各臓器の構成、機能と位置関係、C-4-6) 腫瘍、D-4) 運動器（筋骨格）系、E-7) 成長と発達、F-1-34) 運動麻痺・筋力低下、F-1-35) 腰部疼痛、F-1-36) 関節痛・関節腫脹、F-1-37) 外傷・熱傷、F-2-14) リハビリテーション
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. リハビリテーション総論 2. 摂食嚥下障害のリハビリテーション 3. 小児のリハビリテーション 4. 運動器・内部障害のリハビリテーション 5. 義肢・装具とリハビリテーション 6. 中枢神経のリハビリテーション 7. 整形外科総論 8. 救急外傷（骨折、脱臼、捻挫） 9. 骨粗鬆症 10. 頸椎、腰椎疾患、脊柱変形 11. 骨軟部腫瘍 12. 小児整形外科 13. 脊椎・脊髄の外傷、スポーツ障害 14. 感染性疾患 15. 手の外科、末梢神経障害 16. 膝の変性疾患 17. 膝のスポーツ障害 18. 肩・肘のスポーツ障害 19. 関節リウマチ 20. 股関節疾患
授業計画	2023年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、参考文献や事前配布資料などで予習した上で、講義に臨むこと。授業後は、講義資料を用いて復習し、内容の習得に努めること。
成績評価方法	本試はSemester試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 ※再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングについては参考とし、成績には加味しない。
教科書・テキスト	なし
参考文献	病気がみえるvol. 11 運動器・整形外科 医療情報科学研究所編集，メディックメディア ¥4,180 標準整形外科学 井樋 栄二著，医学書院 ¥10,340 標準リハビリテーション医学 津山直一監修，医学書院 ¥7,480
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	「小児のリハビリテーション」では対話型授業を行う予定です。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	整形外科ホームページ https://www.ncu-ortho.jp/ リハビリテーション医学ホームページ https://ncu-rehab.jp/

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

運動器系・リハビリテーションユニット 担当教員

所属・職名	氏名
整形外科学分野 教授	村上英樹
整形外科学分野 准教授	岡本秀貴
整形外科学分野 講師	鈴木伸幸
整形外科学分野 講師	野崎正浩
整形外科学分野 講師	木村浩明
運動器スポーツ先進医学寄附講座 講師	吉田雅人
整形外科学分野 助教	加藤賢治
整形外科学分野 助教	武長徹也
整形外科学分野 助教	川口洋平
整形外科学分野 助教	河 命守
運動器スポーツ先進医学寄附講座 助教	八木 清
整形外科学分野 病院助教	福島裕晃
緑市民病院 整形外科学分野 准教授	武田真輔
リハビリテーション医学 教授	植木美乃
リハビリテーション医学 講師	黒柳 元
リハビリテーション医学 助教	村上里奈
リハビリテーション医学 助教	松原弘記
リハビリテーション医学 非常勤講師	和田郁雄
リハビリテーション医学 非常勤講師	多和田忍
名古屋市立大学医学部附属東部医療センターリハビリテーション科 講師	青山公紀

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	29	火	1	リハビリテーション総論	植木美乃
8	29	火	2	摂食嚥下障害のリハビリテーション	松原弘記
9	4	月	1	小児のリハビリテーション	多和田忍
9	4	月	2	運動器・内部障害のリハビリテーション	村上里奈
9	5	火	1	中枢神経のリハビリテーション	植木美乃
9	5	火	2	義肢・装具とリハビリテーション	和田郁雄
9	11	月	1	整形外科総論	村上英樹
9	11	月	2	救急外傷（骨折、脱臼、捻挫）	武田真輔
9	12	火	1	骨粗鬆症	鈴木伸幸
9	12	火	2	頚椎疾患、腰椎疾患、脊柱変形	加藤賢治
9	19	火	1	骨軟部腫瘍	木村浩明
9	19	火	2	小児整形外科	河 命守
9	25	月	1	脊椎・脊髄の外傷、スポーツ障害	八木 清
9	25	月	2	肩・肘の変性疾患	武長徹也
9	26	火	1	手の外科、末梢神経障害	岡本秀貴
9	26	火	2	膝の変性疾患	福島裕晃
10	2	月	1	膝のスポーツ障害	野崎正浩
10	2	月	2	肩・肘のスポーツ障害	吉田雅人
10	3	火	1	関節リウマチ	川口洋平
10	3	火	2	股関節疾患	黒柳 元

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床実習コース・循環器内科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	学内：瀬尾由広、後藤利彦、北田修一、伊藤 剛、村井俊介、菊池祥平(中央臨床検査部)、横井雅史、山本惇貴、河田侑、新谷康広、溝口達也、森賢人 学外：東部医療センター/西部医療センター/豊川市民病院/蒲都市民病院の指導医資格を有する教育担当臨床教員
講義期間・曜日・時限	セメスター1 (2022年1月4日～2022年2月21日) 月・水・木曜日：1・2・3・4時限)

授業目的・目標	【目的】小児から成人に至る多様な循環器疾患や循環動態を理解し、基礎的な臨床能力を養成する。 【目標】循環器に関わる生理・解剖・病理・薬理の知識を習得し、疾患の診断技術と検査結果の評価について学習し、薬物や手術などによる基本的治療戦略への理解を深め、演習などを通して臨床実習の準備を行う。
キーワード	循環器、心臓、血管、成人、小児
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 Ia, Ib, Ic, Id, IIb, IIc, II d
学習到達目標	1. 生理学、解剖学、生化学の基礎知識を再学習し、循環器疾患が理解できる (Ia, Ib)。 2. 心不全や循環不全の原因を列挙し、諸検査から循環を評価できる (Ia, Ib)。 3. 心電図を理解し、心電図の記録ならびに不整脈や病態を診断できる (Ia, Ib, IIc)。 4. 発生学や構築学の見地から先天性心疾患を理解し、手術法が選択できる (Ia, Ib, IIb)。 5. 弁膜疾患の病態を理解し、内科と外科による治療の選択と評価ができる (Ia, Ib, IIb)。 6. 虚血性心疾患を理解し、適切な治療戦略が選択できる (Ia, Ib, IIb)。 7. 動脈硬化の成因と病態を理解し、各種疾患の治療法を列挙し選択できる (Ia, Ib, IIb)。 8. 血圧異常の病態を理解し、多様な治療法について説明できる (Ia, Ib, IIc)。 9. 心筋疾患、心膜疾患、心臓腫瘍について理解できる (Ia, Ib, IIb)。 10. 循環器疾患を急性期と慢性期から捉え、治療法を説明できる (Ib, Ic, Id, II d)。 11. 循環器疾患と生活習慣の関連を学び、予防法と指導内容を説明できる (Ib, Ic, Id, II d)。 【該当するモデルコアカリ】 B-1-5, C-4-4, D-5, F-1-10, F-1-11, F-1-16, F-1-17, F-1-18
成績評価基準	秀：90点以上 (学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上 (学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上 (学修到達目標を達成している) 可：60点以上 (学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	本科目は小児と成人の循環器疾患に対する内科的、外科的な立場からの講義と心電図診断など演習からなる。多様な循環器疾患の病態生理、心機能・循環動態を学び治療戦略を考察する。
授業計画	2023年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義・演習は2023年度循環器コース授業計画表に基づいて行う。授業時間外学習として、第1回授業までにM3病態生理の講義で配布した心機能・心電図に関する資料およびM3薬理学の講義で配布した心不全と不整脈・抗不整脈薬に関する資料を復習しておくこと。各講義毎にその日の復習すべき事項を明示するので次回講義までに確実に復習すること。
成績評価方法	セメスター試験 100点満点 本試験はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試験は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングとその他項目については参考とし、成績には加味しない。
教科書・テキスト	日本循環器学会編：循環器病ガイドラインシリーズ (日本循環器学会ホームページ) Braunwald's Heart Disease 第11版 Mann/Zipes/Libby/Bonow編, Elsevier出版 図解心電図テキスト 村川祐二訳, 文光堂 ハーバード大学テキスト心臓病の病態生理 Leonard S. Lilly編、川名正敏他, MEDSi社 心不全治療に心エコーを活かす 瀬尾由広他著, MWDICAL VIEW社 臨床発達心臓病学 第3版 高尾篤良他編, 中外医学社 新心臓血管外科テキスト 安達秀雄他編, 中外医学社 心臓外科チームのための基本手術マニュアル 三石績著, ヘルス出版
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	真摯な態度で取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	レポート提出、ショートテスト、プレゼンテーションなどを取り入れた授業を行う。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	循環器内科ホームページ http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/inter3_dir/ 循環器病ガイドラインシリーズ https://www.j-circ.or.jp/guideline/guideline-series/

循環器系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
循環器内科学 教授	瀬尾由広	心臓血管外科学 教授	須田久雄
循環器内科学 准教授 (東部)	山下純世	心臓血管外科学 講師	齋藤雄平
循環器内科学 講師	後藤利彦	心臓血管外科学 講師	板谷慶一
循環器内科学 講師	北田修一	心臓血管外科学 助教	山田敏之
循環器内科学 講師	伊藤 剛		
中央臨床検査部 助教	菊池祥平		
循環器内科学 助教	中須賀公亮	新生児 小児医学 助教	鈴木一孝
循環器内科学 助教	森 賢人	新生児 小児医学 助教	篠原 務
循環器内科学 助教	横井雅史		
循環器内科学 助教	山本惇貴		
循環器内科学 助教	溝口達也		
循環器内科学 助教	河田侑		

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	5	木	1	循環器内科症候論/心音・心雑音	瀬尾教授
	5	木	2	循環器外科学総論	須田教授
	12	木	1	心エコー・心臓核医学	菊池助教
	12	木	2	心電図・波形診断	中須賀助教
	16	月	3	心臓発生と先天性心疾患	鈴木助教
	16	月	4	臨床心機能	瀬尾教授
	19	木	1	心臓カテーテル検査・治療	横井助教
	19	木	2	不整脈(I) 頻脈性不整脈	中須賀助教
	23	月	3	胎児循環と先天性心疾患	鈴木助教
	23	月	4	急性心不全	北田講師
	25	水	1	高血圧の診断と治療	溝口助教
	25	水	2	不整脈(II) 徐脈性不整脈	後藤講師
	26	木	1	心房細動	中須賀助教
	26	木	2	慢性心不全	瀬尾教授
	30	月	3	僧帽弁疾患	河田助教
	30	月	4	大動脈弁疾患	瀬尾教授
2	1	水	1	不整脈デバイス治療	後藤講師
	1	水	2	動脈硬化の成因	山下准教授
	2	木	3	慢性冠動脈疾患	伊藤講師
	2	木	4	心電図波形・不整脈演習	森助教
	6	月	3	肺高血圧と右心不全	山本助教
	6	月	4	末梢閉塞性動脈疾患、静脈血栓塞栓症	伊藤講師
	9	木	3	急性冠症候群	伊藤講師
	9	木	4	小児先天性心疾患の外科	板谷講師
	13	月	1	小児の後天性心疾患 (川崎病・心筋症・肺高血圧)	篠原助教
	13	月	2	弁膜症の外科	齋藤講師
	13	月	3	二次性心筋症	北田講師
	13	月	4	虚血性心疾患の外科	山田助教
	16	木	3	成人先天性心疾患の外科	板谷講師
	16	木	4	心筋炎・特発性心筋症	北田講師
	20	月	1	心膜疾患	瀬尾教授
	20	月	2	感染性心内膜炎・心臓腫瘍	菊池助教
	20	月	3	末梢血管・静脈疾患の外科	齋藤講師
	20	月	4	大動脈瘤・大動脈解離の外科	須田教授

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・呼吸器系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	新実彰男、奥田勝裕、中村 敦、羽田裕司、伊藤 稔、前野 健、近藤知史、大久保仁嗣、横田圭右、立松 勉、田尻智子、上村剛大、福田悟史、金光禎寛、小田梨紗、加藤 晋、野村孝泰、中村龍二 非常勤講師：樋田豊明、横山多佳子、森山悟、加藤文典
講義期間・曜日・時限	

授業目的・目標	呼吸器疾患に対する理解を深め、これに対応できる能力を身につけるため、呼吸器疾患の病態、診断、治療、予防に関して学ぶ。
キーワード	呼吸器、肺、縦隔、感染症、アレルギー、腫瘍
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	I a, I b, I c, II b, III b
学習到達目標	代表的な呼吸器疾患の病態を理解する。 臨床データを基に診断ができる。 実例について内科的あるいは外科的な治療方針を説明できる。 呼吸器稀少疾患について説明できる。 環境要因、生活習慣による呼吸器疾患の予防について説明できる。 【該当するモデルコアカリ】D-6 呼吸器系、E-2 感染症、E-3 腫瘍、E-4 免疫・アレルギー、E-7 成長と発達
成績評価基準	マークシート試験 秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	呼吸器の機能と症候、呼吸器の検査、喘息、慢性閉塞性肺疾患、慢性咳嗽、肺癌、縦隔腫瘍、感染症、びまん性肺疾患、胸膜疾患、重症筋無力症、小児呼吸器疾患、小児呼吸器外科、胸部外傷、その他
授業計画	担当教員・講義予定表を参照。深い理解と効率的な知識習得のため、テキスト及び参考文献などで授業時間外に学習することをすすめる。 一部の授業においては、課題や症例が提示され、関連する臨床医学の情報を種々の手段で調べ診断と治療法を個々およびグループで見出す。その結果を発表し、討論しながら問題点を整理する形式で行われる。
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点 *セメスター試験が60点未満の場合、講義の参加態度を参考とする。
教科書・テキスト	新臨床内科学（医学書院）、ハリソン内科学 第4版 pp1805-1899（メディカル・サイエンス・インターナショナル）、フレイザー呼吸器病学エッセンス（西村書店）、呼吸器外科学（南山堂）、General Thoracic Surgery（Shields編、Lippincott Williams & Wilkins）、縦隔の外科-手術手技アトラス（南山堂）、呼吸器外科手術書（金芳堂）、肺癌診療ガイドライン（日本肺癌学会編）
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	講義中の私語、出入りは慎むこと
履修者への要望事項	講義中の私語、出入りは慎むこと
アクティブ・ラーニング	講師の先生の裁量でアクティブラーニングを行う。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

呼吸器系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
呼吸器・免疫アレルギー内科学 教授	新実彰男
呼吸器・小児外科学 教授	奥田勝裕
臨床感染制御学 教授	中村 敦
名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 教授	羽田裕司
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	伊藤 稜
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	前野 健
呼吸器・小児外科学 病院准教授	近藤知史
呼吸器・免疫アレルギー内科学 講師	大久保仁嗣
呼吸器・小児外科学 講師	横田圭右
呼吸器・小児外科学 講師	立松 勉
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	田尻智子
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	上村剛大
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	福田悟史
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	金光禎寛
呼吸器・小児外科学 助教	小田梨紗
新生児・小児医学 助教	加藤 晋
新生児・小児医学 助教	野村孝泰
呼吸器・小児外科学 病院助教	中村龍二
非常勤講師(中部国際医療センター)	樋田豊明
非常勤講師(旭労災病院)	横山多佳子
非常勤講師(トヨタ記念病院)	森山 悟
非常勤講師(豊橋市民病院)	加藤文典

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	4	水	1	呼吸器疾患の診断と検査	上村剛大
1	4	水	2	肺癌(症候・診断)	上村剛大
1	4	水	3	縦隔(総論)	小田梨紗
1	4	水	4	呼吸器感染症(抗酸菌感染症以外)	中村敦
1	6	金	2	呼吸器疾患の特徴と魅力、総論・症候	新実彰男
1	6	金	3	気管支喘息	新実彰男
1	11	水	1	呼吸器外科手術術前術中術後管理	横田圭右
1	11	水	2	びまん性肺疾患(総論)	福田悟史
1	11	水	3	縦隔(各論)	立松勉
1	11	水	4	小児呼吸器外科 中枢気道疾患	近藤知史
1	13	金	2	胸部エックス線・呼吸不全	前野健
1	13	金	3	じん肺と石綿(アスベスト)関連疾患	横山多佳子
1	18	水	1	新生児呼吸生理	加藤文典
1	18	水	2	新生児呼吸疾患	加藤文典
1	18	水	3	胸膜疾患(内科)	田尻 智子
1	18	水	4	小児呼吸器外科 末梢気道疾患	近藤知史
1	20	金	2	喘息以外のアレルギー性呼吸器疾患、COPD	新実彰男
1	20	金	3	肺癌(総論、疫学)	羽田裕司
1	24	火	4	気道疾患・喘息(小児)	野村孝泰
1	25	水	3	気管支拡張症・嚢胞性肺疾患	大久保仁嗣
1	25	水	4	びまん性肺疾患(各論)	金光禎寛
1	27	金	2	肺癌(化学療法)	樋田豊明
1	27	金	3		
2	3	金	2	胸部外傷(各論)	中村龍二
2	3	金	3		
2	9	木	1	肺実質、横隔膜疾患(小児)	加藤晋
2	10	金	2	肺癌外科治療1	奥田勝裕
2	10	金	3	肺癌外科治療2	奥田勝裕
2	16	木	1	抗酸菌感染症	伊藤稜
2	16	木	2	胸膜疾患(外科)	森山悟
2	17	金	2	肺癌に対する集学的治療(個別化治療)	奥田勝裕
2	17	金	3	慢性咳嗽	新実彰男

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・消化器系・内視鏡ユニット
専門・教養	専門
担当教員	(内科)片岡洋望、谷田諭史、林 香月、藤原 圭、久保田英嗣、内藤 格、志村貴也、 松浦健太郎、尾関啓司、吉田道弘、田中 守 (外科)瀧口修司、松尾洋一、高橋広域、小川 了、森本 守、田中達也、志賀一慶、 佐川弘之、齊藤健太、大久保友貴、今藤裕之、牛込 創 (口腔外科)横井基夫、竹本 隆、 (次世代医療開発学)神谷 武、 (地域医療教育研究センター)野尻俊輔 (非常勤講師)中沢貴宏、祖父江聡
講義期間・曜日・時限	セメスター2 (3月3日～4月7日) 計30コマ

授業目的・目標	消化器系の解剖、機能を把握し、主要な消化器系疾患の病態生理、診断、治療を学び、臨床実習に必要な基礎的知識を習得することを目的とする。
キーワード	口腔、食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆道、膵臓、腹部救急、腹部手術
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	領域 I a
学習到達目標	1. 消化器系の正常構造と機能を理解する。 2. 主要な消化器系疾患の病因について理解する。 3. 正確な診断方法を選択し、鑑別すべき疾患を理解する。 4. 最適な治療法について理解する。 5. 消化器内視鏡の適応、診断、治療方法について理解する。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-4-2)患者と医師の関係、B-4-1)医師に求められる社会性、 D-7)人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療構造と機能、消化器系、 E-3)全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療、腫瘍、 F-1-20) 腹痛、F-2-6)内視鏡を用いる診断と治療
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 口腔疾患と治療法 2. 食道疾患の診断と治療 3. 胃疾患の診断と治療 4. 小腸・大腸疾患の診断と治療 5. 肝疾患の診断と治療 6. 胆道・膵疾患の診断と治療 7. 腹部救急疾患の診断と治療
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	筆記試験80%、出席及び授業態度20%
教科書・テキスト	
参考文献	Bock's Gastroenterology 5th ed. Haubrich ed, Saunders 1995 Textbook of Gastroenterology 5th ed. Yamada ed, John Wiley & Sons 2011 内視鏡所見のよみ方と鑑別診断 上部消化管 第2版・下部消化管 第2版 医学書院 カラー版消化器病学基礎と臨床 西村書店 2013 消化管内視鏡診断テキスト1.2.3 文光堂 2008 消化器内視鏡ガイドライン 第3版 医学書院 2006 消化器外科手術のための解剖学 食道、胃・十二指腸、腹壁・ヘルニア メジカルビュー社 1999 オクルージョンの臨床 第2版 Peter E. Dawson, 1993 歯科衛生士のための口腔外科学 2011年
履修上の注意事項	体調管理に努め、発熱・感冒症状などある場合は申し出ること。遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	講義のなかで、実際の症例提示を行い、検査、診断、治療などについて考えさせる。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

消化器系・内視鏡ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
消化器・代謝内科学 教授	片岡洋望	消化器外科学 教授	瀧口修司
次世代医療開発学 教授	神谷 武	消化器外科学 教授 (診療担当)	松尾洋一
地域医療教育研究センター 教授	野尻俊輔	消化器外科学 准教授	高橋広城
消化器・代謝内科学 准教授	谷田諭史	消化器外科学 講師	小川 了
消化器・代謝内科学 准教授	林 香月	消化器外科学 講師	森本 守
消化器・代謝内科学 准教授	久保田英嗣	消化器外科学 助教	田中達也
消化器・代謝内科学 講師	藤原 圭	消化器外科学 助教	志賀一慶
消化器・代謝内科学 講師	内藤 格	消化器外科学 助教	佐川弘之
消化器・代謝内科学 講師	志村貴也	消化器外科学 助教	大久保友貴
消化器・代謝内科学 講師	松浦健太郎	消化器外科学 助教	齊藤健太
消化器・代謝内科学 講師	尾関啓司	消化器外科学 助教	今藤裕之
消化器・代謝内科学 講師	吉田道弘	消化器外科学 助教	牛込創
消化器・代謝内科学 助教	田中 守		
非常勤講師 (中田内科クリニック)	中沢貴宏	口腔外科学・名誉教授	横井基夫
消化器内科・高度医療教育センター教授 (西部医療センター)	妹尾恭司	口腔外科学・地域医療教育研究センター教授	竹本 隆
非常勤講師 (春日井市民病院)	祖父江 聡		

授業計画

月日	曜日	時限	授業項目	授業内容	担当	教官
3月2日	木	1	口腔	舌の診かたについて	口外	横井基夫
		2	食道、胃	消化器疾患と消化管内視鏡	内科	久保田英嗣
		3	内視鏡	胃食道逆流症、機能性消化管疾患	内科	神谷 武
		4	内視鏡	ピロリ感染症	内科	片岡洋望
3月3日	金	1	胆道	胆道外科	外科	齊藤健太
		2	肝臓	肝臓外科	外科	森本 守
		3	膵臓	膵炎	内科	内藤 格
		4	肝臓	肝癌の内科的治療	内科	松浦健太郎
3月9日	木	1	肝臓	肝硬変と合併疾患	内科	野尻俊輔
		2	肝臓	ウイルス性肝疾患	内科	祖父江聡
		3	口腔	口腔所見と病態	口外	竹本 隆
		4	胆道	胆道1	内科	中沢貴宏
3月10日	金	1	膵臓	膵腫瘍	内科	吉田道弘
		2	大腸	炎症性腸疾患	内科	谷田諭史
		3	胆道	胆道2	内科	林 香月
		4	大腸	大腸癌 ¹ 、大腸癌	内科	志村貴也
3月15日	水	1	胃	胃腫瘍	内科	田中 守
		2	内視鏡	小腸・大腸疾患	内科	尾関啓司
		3	小腸・ヘルニア	小腸外科・ヘルニア	外科	田中達也
		4	外科総論	外科総論	外科	瀧口修司
3月16日	木	1	食道	食道外科	外科	小川 了
		2	直腸・肛門	大腸外科1 (直腸・肛門)	外科	高橋広城
		3	膵臓	膵臓外科	外科	松尾洋一
		4	腹部外傷	腹部外傷	外科	大久保友貴
3月17日	金	1	食道、胃	食道腫瘍	内科	妹尾恭司
		2	肝臓	肝機能検査、画像診断	内科	藤原 圭
		3	急性腹症	急性腹症	外科	今藤裕之
		4	胃	胃外科	外科	佐川弘之
4月6日	木	3	結腸	大腸外科2 (結腸)	外科	志賀一慶
		4	腹腔鏡手術	腹腔鏡手術	外科	牛込創

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・腎・尿路ユニット
専門・教養	専門
担当教員	濱野高行、水野晶菜、小野水面、村島美穂、友斉達也、春日井貴久 非常勤講師：猪阪善隆(大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学)
講義期間・曜日・時限	セメスター1 (2020/1/16～2020/2/17) 月曜日 1・2限目、火曜日 4限目、水曜日 1・2限目 金曜日 1限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】 腎臓は尿を作ることで体内環境を維持し、また血圧や貧血の調整に関わる重要臓器である。臨床腎臓病学全般について学ぶとともに、腎症候学・診断学、一次性・二次性糸球体疾患、ネフローゼ症候群、急性腎障害(AKI)、慢性腎臓病(CKD)、慢性腎不全・血液透析および腹膜透析療法について実際の臨床症例を用いて講義を行う。</p> <p>【授業目標】 腎・尿路の役割を理解するために、糸球体・間質疾患、体液・電解質異常などを理解し、腎臓の視点からプライマリケアにも役立つ診察、診断、治療に必要な知識を習得する。症例検討会ではディスカッション能力を高める。医師国家試験に準じた臨床問題にもチャレンジする。</p>
キーワード	腎臓、電解質、利尿薬、酸塩基平衡、尿検査、間質尿管疾患、糸球体疾患、急性腎障害、慢性腎臓病、腎臓病理、腎代替療法
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a、I b、II b
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腎・尿路系の解剖、機能、生理について述べるができる。 2. 尿所見・尿検査について診断的意義や鑑別点を述べるができる。 3. 体液・電解質・血圧異常について、その病態、治療を述べるができる。 4. 糸球体疾患、間質疾患について、その病態、治療を述べるができる。 5. 腎不全について、その病態、治療を述べるができる。 6. 腎臓病をきたす全身性疾患について病態、治療を述べるができる。 7. シェント手術で手洗い・ガウンテクニック・介助・皮膚縫合・創部ドレッシングを修得。 7. 腎代替療法について、適応を述べるができる。 8. 症例検討会において学生同士での提示、議論ができる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 C-2-2組織・各臓器の構成、機能と位置関係、C-2-3個体の調節機能とホメオスタシス、D-8腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)、F-1-4体重減少・体重増加、F-1-10脱水、F-1-11浮腫、F-1-28尿量・排尿の異常、F-1-29血尿・タンパク尿、F-2-3臨床検査、F-2-4病理診断、F-2-8薬物治療の基本原則、F-2-11食事・栄養療法と輸液療法、F-2-12医療機器と人工臓器</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している)</p> <p>優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している)</p> <p>良：70点以上(学修到達目標を達成している)</p> <p>可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 尿検査の実際(血尿・蛋白尿)、腎機能の見方(24時間尿・eGFR) 2. 酸塩基平衡とK代謝異常 3. CKD-MBD 4. 血液透析、移植 5. 水・Na代謝・利尿薬 6. ネフローゼ症候群 7. 糸球体疾患の腎病理 8. 急性腎障害、急性血液浄化 9. 遺伝性腎疾患(多発性のう胞腎、Fabry病、Alport症候群) 10. 二次性腎症 11. 二次性高血圧 12. CKDと腎性貧血 13. DKD、腎硬化症 14. 間質尿管疾患 15. 腹膜透析
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	<p>セメスター試験(100)点満点</p> <p>*セメスター試験が60点未満の場合、アクティブラーニングを10点を上限としてプラスする。アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする。</p>
教科書・テキスト	<p>教科書は指定はしないが、下記参考に講義資料を作成し配布する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床腎臓内科学 編集 安田隆 平和伸二 小山雄太 発行 南山堂 2. プロフェッショナル腎臓病学 編者 南学正臣 発行 中外医学社 3. Clinical Physiology of Acid-Base and Electrolyte Disorders (5th Ed) McGraw-Hill 4. Heptinstall's Pathology of the Kidney (6th Ed) Lippincott Williams & Wilkins
参考文献	<p>腎臓内科レジデントマニュアル 改訂第8版 編者 今井園裕 発行 診断と治療社</p> <p>腎生検診断Navi 改訂第2版 編者 片渕律子 発行 メディカルビュー社</p> <p>腎生検病理アトラス 改訂版 編集 日本人病理協会/日本腎臓学会 発行 東京医学社</p> <p>Brenner & Rector's the Kidney, 11th ed., in 2 vols. 著者: A. S. L. Yu, G. M. Chertow, V. A. Luyckx, et al. 出版 ELSEVIER</p>
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

腎・尿路系ユニット（腎臓内科）担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 腎臓内科学 教授	濱野 高行
医学研究科 腎臓内科学 助教	水野 晶紫
医学研究科 腎臓内科学 助教	小野 水面
医学研究科 腎臓内科学 助教	村島 美穂
医学研究科 腎臓内科学 助教(学生指導担当)	友斉 達也
医学研究科 腎臓内科学 病院助教	春日井 貴久

非常勤講師(大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学 教授) 猪阪 善隆

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
1	16	月	1	水・Na代謝・利尿薬	猪阪 善隆
1	16	月	2	尿検査の実際(血尿・蛋白尿)、腎機能の見方(24時間尿・eGFR)	友斉 達也
1	23	月	1	DKD、腎硬化症、慢性糸球体腎炎の診断・治療	春日井 貴久
1	23	月	2	酸塩基平衡とNa/K代謝異常(+Active Learning)	友斉 達也
1	30	月	1	糸球体疾患の腎病理	春日井 貴久
1	30	月	2	急性腎障害、急性血液浄化(+Active Learning)	村島 美穂
1	31	火	4	ネフローゼ症候群(+Active Learning)	水野 晶紫
2	2	木	2	CKDと腎性貧血	濱野 高行
2	6	月	1	遺伝性腎疾患(ADPKD、Alport症候群 Fabry病)	友斉 達也
2	6	月	2	二次性高血圧症	村島 美穂
2	8	水	1	二次性腎症(SLE、アミロイドーシスなど)	水野 晶紫
2	8	水	2	CKD-MBD	濱野 高行
2	15	水	1	間質尿細管疾患	小野 水面
2	15	水	2	血液透析・腎移植	小野 水面
2	17	金	1	腹膜透析	村島 美穂

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・腎・尿路系ユニット（泌尿器科）
専門・教養	専門
担当教員	安井孝周、林 祐太郎、丸山哲史、河合憲康、岡田淳志、水野健太郎、安藤亮介、濱本周造、内木 拓、田口和己・恵谷俊紀
講義期間・曜日・時限	セメスターI 1月6日～2月17日 11コマ

授業目的・目標	【授業目的】腎・泌尿器の役割を理解するために、腎実質・腎盂・尿管・膀胱・尿道の解剖と機能の関する知識を確認し、それらに特有の病態、疾患などを理解し、診断から手術に至る様々な知識を総合的に習得する。 【授業目標】超高齢化社会において、泌尿器癌・排尿障害を正確に診断し治療に結びつけることは医師としての素養である。また救急における尿路結石・血尿・尿路の対応、少子化における男子不妊症の取扱い、腎移植に対する知識・対応を習得することを目標とする。
キーワード	副腎・腎・尿管・発生
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域1a-d, 11a-e, 111b, 1va, d
学習到達目標	1. 腎・泌尿器の解剖・発生、症候・検査について、述べるができる。 2. 腎・泌尿器の先天異常、発生について、述べるができる。 3. 尿路結石の成因・治療を述べるができる。 4. 副腎疾患・腎腫瘍について、その病態、治療を述べるができる。 5. 腎盂・尿管・膀胱腫瘍について、その病態、治療を述べるができる。 6. 腎・泌尿器の炎症と外傷について、その病態、治療を述べるができる。 7. 腎不全、腎移植について、その病態、治療を述べるができる。 【該当するモデルコアカリ】 C-2-4) 個体の発生 D-8 腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む) D-12-4)-(3) 副甲状腺疾患とカルシウム代謝異常 D-12-4)-(4) 副腎皮質・髄質疾患 F-1-11) 浮腫 F-1-25) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤、F-1-28) 尿量・排尿の異常、 F-1-29) 血尿・タンパク尿、F-1-37) 外傷・熱傷
成績評価基準	秀: 90点以上(学習到達目標を越えたレベルを達成している) 優: 80点以上(学習到達目標を十分に達成している) 良: 70点以上(学習到達目標を達成している) 可: 60点以上(学習到達目標を最低限達成している)
授業概要	1. 腎・泌尿器の解剖・生理、症候・検査 2. 腎・泌尿器の発生 3. 腎・泌尿器の炎症と外傷 4. 腎・泌尿器の先天異常 5. 尿路結石の成因 6. 尿路結石の治療 7. アクティブラーニング(結石、感染、炎症、外傷) 8. 腎不全・腎移植 9. 副腎疾患・腎腫瘍 10. 腎盂・尿管・膀胱腫瘍 11. アクティブラーニング(副腎・腎・尿路上皮腫瘍、腎移植) ※「2. 腎・泌尿器の発生」「4. 腎・泌尿器の先天異常」についてのアクティブラーニングは、生殖機能コースでの範囲となります。 ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって対面形式もしくはZoomによる実施となります。
授業計画	授業予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	初回の講義までに、教科書・テキストなどで予習しておくこと。 アクティブラーニングはTBL(team-based learning)形式で行い、講義始めに小テストがあります。 アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。 ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。
成績評価方法	セメスター試験 80%、アクティブラーニング 20% ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。
教科書・テキスト	教科書: 標準泌尿器科学 第9版 医学書院 病気がみえる vol8 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA 参考資料: 講義配布プリント
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	講義開始時間の1分前までに着席していること。 スマホでの講義撮影・動画撮影・録音は禁止する。 講義の途中入室・途中退室は特別な事情がある場合に、 講師の許可 を得たものに限る。 講義中に不在が判明した場合、いかなる理由であっても欠席扱いとします。 アクティブラーニングの小テストで不正が発覚した場合は、本試験の受験資格を含めて剥奪する。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングはTBL(team-based learning)形式で行い、講義始めに小テストがあります。 アクティブラーニングの小テストは、本試験の20%に相当する。 アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。 アクティブラーニングの小テストで不正が発覚した場合は、本試験の受験資格を含めて剥奪する。 ※「2. 腎・泌尿器の先天異常」「4. 腎・泌尿器の発生」についてのアクティブラーニングは、生殖機能コースでの範囲となります。 ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	臨床現場に出た際に必要となる知識を学ぶ1度切りの機会です。 また講義をする医師は、20年後の自分たちの姿であると認識し、礼節をもって講義に臨んで下さい。
関連URL	教室HP https://ncu-uro.jp/ 教室facebookページ https://www.facebook.com/ncunephrourology

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

腎・尿路ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
腎・泌尿器科学分野・教授	安井 孝周
小児泌尿器科学分野・教授	林 祐太郎
医学研究科 腎・泌尿器科学 東部医療センター教授	丸山 哲史
地域医療研究教育センター・教授	安藤 亮介
腎・泌尿器科学分野・准教授	河合 憲康
腎・泌尿器科学分野・准教授	岡田 淳志
小児泌尿器科学分野・准教授	水野 健太郎
腎・泌尿器科学分野・講師	濱本 周造
腎・泌尿器科学分野・講師	内木 拓
腎・泌尿器科学分野・講師	田口 和己

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	6	金	1	腎・泌尿器の解剖・生理、症候・検査	安井 孝周
1	6	金	4	腎・泌尿器の発生	林 祐太郎
1	13	金	1	腎・泌尿器の炎症と外傷	丸山 哲史
1	13	金	4	腎・泌尿器の先天異常	水野 健太郎
1	20	金	1	尿路結石の成因	田口 和己
1	20	金	4	尿路結石の治療	濱本 周造
1	27	金	1	アクティブラーニング(結石、感染、炎症、外傷)	岡田・恵谷
1	27	金	4	副腎疾患・腎腫瘍	河合 憲康
2	3	金	1	腎不全・腎移植	安藤 亮介
2	3	金	4	腎盂・尿管・膀胱腫瘍	内木 拓
2	17	金	4	アクティブラーニング(副腎・腎・尿路上皮腫瘍、腎移植)	岡田・恵谷

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・生殖機能ユニット（泌尿器科）
専門・教養	専門
担当教員	安井孝周、林 祐太郎、戸澤啓一、梅本幸裕、窪田泰江、河合憲康、水野健太郎、野々村祝夫
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2023年2月27日～4月17日）月曜日・3,4限（ただし4月17日のみ2限）

授業目的・目標	【授業目的】 下部尿路・男性生殖器の役割を理解するために、膀胱・前立腺・尿道・精巣の解剖と機能に関する知識を確認し、それらに特有の病態、疾患などを理解し、診断から手術に至る様々な知識を総合的に習得する。 【授業目標】 超高齢化社会において、下部尿路・男性生殖器疾患を正確に診断し治療に結びつけることは医師としての素養であるので、このための知識を習得する。
キーワード	男性生殖器・前立腺・精巣・男子不妊症
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域1a-d, 11a-e, 111b, 1vd
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 生殖腺の構造と機能、性周期について正しく理解し、説明できる。 2. 不妊症について理解し、説明できる。 3. 生殖器腫瘍の診断・治療について理解し、説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-9 生殖機能 E-3 腫瘍
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 男性生殖器の機能、症候と検査 2. 性分化疾患の診断・治療 3. 男性生殖器の先天異常 4. EDの診断と治療・STI 5. 男性不妊症の系統診断と治療 6. 前立腺癌 7. 精巣腫瘍 8. 前立腺肥大症・下部尿路通過障害 9. Female Urology/神経因性膀胱 10. アクティブラーニング（小児・先天異常・不妊） 11. アクティブラーニング（前立腺・尿道・精巣腫瘍・排尿）
授業計画	2023年度 生殖機能コース授業予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	初回の講義までに、教科書・テキストなどで予習しておくこと。 アクティブラーニングは、TBL (team-based learning) 形式で行い、講義始めに小テストがあります。 アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。
成績評価方法	セメスター試験 80%、アクティブラーニング 20% ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。
教科書・テキスト	教科書：標準泌尿器科学（第9版）医学書院 病気がみえる vol18 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA 参考資料：講義配布プリント
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	講義開始時間の1分前までに着席していること。講義の途中入室・途中退室は特別な事情がある場合に限るものとする。 スマホでの講義撮影・動画撮影・録音は禁止します。
履修者への要望事項	特にありません
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングは、TBL (team-based learning) 形式で行い、講義始めに小テストがあります。 アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。 ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	臨床現場に出た際に必要となる知識を学ぶ1度切りの機会です。 また講義をする医師は、20年後の自分たちの姿であると認識し、礼節をもって講義に臨んで下さい。
関連URL	教室HP https://ncu-uro.jp/ 教室facebookページ https://www.facebook.com/ncunephrourology

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

生殖機能系ユニット(泌尿器科) 担当教員

所属・職名	氏名
腎・泌尿器科学分野・教授	安井 孝周
小児泌尿器科学分野・教授	林 祐太郎
医療安全管理学分野・教授	戸澤 啓一
医学部附属西部医療センター・教授	梅本 幸裕
看護学部先端医療看護学・教授	窪田 泰江
腎・泌尿器科学分野・准教授	河合 憲康
小児泌尿器科学分野・准教授	水野 健太郎

非常勤講師

大阪大学大学院医学研究科泌尿器科・教授	野々村祝夫
---------------------	-------

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
2	27	月	3	男性生殖器の機能、症候と検査口	安井 孝周
2	27	月	4	男性生殖器の先天異常	林 祐太郎
3	6	月	3	性分化疾患の診断・治療	水野健太郎
3	6	月	4	前立腺癌	野々村 祝夫
3	13	月	3	Female Urology・神経因性膀胱	窪田 泰江
3	13	月	4	アクティブラーニング(小児・先天異常)	水野健太郎
4	3	月	3	男性不妊症の系統診断と治療	梅本 幸裕
4	3	月	4	EDの診断と治療・STI	梅本 幸裕
4	10	月	3	精巣腫瘍	戸澤 啓一
4	10	月	4	前立腺肥大症・下部尿路通過障害	河合 憲康
4	17	月	2	アクティブラーニング(前立腺・尿道・精巣腫瘍・排尿)	未定

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・生殖機能ユニット（婦人科）
専門・教養	専門
担当教員	杉浦真弓、荒川敦志、佐藤 剛、後藤志信、西川隆太郎
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2023年2月27日～4月17日）月曜日 1,2限

授業目的・目標	【授業目的】女性生殖器および生殖に関わる疾患を扱う医師にとって必要となる、基本的知識、技術について理解し、修得するため。 【授業目標】女性生殖器の発生、構造、機能について正しく理解し、さらにその疾患の原因、病理、形態、症候、病態生理を正確に把握し、診断や治療法の基本を正しく理解することを目標とする。
キーワード	性分化、生殖内分泌、月経異常、不妊症、婦人科腫瘍
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 Ia, Ib, Ic, Id, IIb, IIe, IIIb, IVd
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 女性生殖器の発生、構造、機能について正しく理解している。 2. 女性の正常な性分化およびその異常について正しく理解している。 3. 女性の生殖内分泌機構や排卵の機序およびその破綻の結果生じる月経異常や不妊症について正しく理解している。 4. 婦人科腫瘍の検査・診断、良悪性の鑑別、治療について正しく理解している。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-2-4) 個体の発生、C-4-1) 遺伝的多様性と疾患、C-4-6) 腫瘍、D-9生殖機能、E-3腫瘍、E-7-4) 成長と発達（思春期）、E-8-1) 加齢と老化、F-1-20) 腹痛、F-1-30) 月経異常、F-2-4) 病理診断、F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療、F-2-6) 内視鏡を用いる診断と治療、F-2-7) 超音波を用いる診断と治療、F-2-9) 外科的治療と周術期管理
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 女性生殖器の構造と機能・発生と性分化・内外生殖器の先天異常 2. 性周期発現と排卵の機序・性腺刺激ホルモンとステロイド 3. 月経異常の診断と治療 4. 女性不妊症の系統診断と治療 5. 婦人科腫瘍学総論 6. 子宮頸癌 7. 子宮体癌・絨毛性疾患 8. 卵巣腫瘍・化学療法 9. 子宮内膜症・子宮筋腫 10. アクティブラーニング：婦人科内分泌疾患 11. アクティブラーニング：婦人科腫瘍
授業計画	2023年度 生殖機能（婦人科） 授業計画を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 講義内容を正しく修得できるよう、テキストや参考図書および講義での配付資料により復習し理解を深める。さらに講義では触れられなかった講義内容に関わる項目についても自己学習により知識を広め、理解・修得に努めること。
成績評価方法	セメスター試験：80点満点 アクティブラーニング：参加態度10+提出物10=20点満点 本試験は以上2項目の合計点を100点満点とし、泌尿器科領域の配点と合算し6割未満を不合格とする。再試験は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	テキスト：「プリンシプル産科婦人科学 婦人科編」メディカルビュー 第3版、「病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科」MEDIC MEDIA 第4版
参考文献	テキストにあげられている参考文献
履修上の注意事項	講義の途中入室・途中退室は、原則認めない。特別な事情がある場合は、必ず講義担当者に申し出ること。病欠の場合は教育研究課に連絡すること。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	TBL(team-based learnig)形式で行い、全員参加型である。積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	講義での疑問点や十分な理解に至らなかった事項については、そのまましておかず、教員への積極的な質問・確認や自己学修により解決するよう努めること。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

生殖機能系ユニット(婦人科) 担当教員

所属・職名	氏名
産科婦人科学分野 教授	杉浦真弓
名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 教授(診療担当)	荒川敦志
産科婦人科学分野 准教授	佐藤 剛
産科婦人科学分野 講師	後藤志信
産科婦人科学分野 助教	西川隆太郎

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
2	27	月	1	女性生殖器の構造と機能・発生と性分化・内外生殖器の先天異常	杉浦真弓
2	27	月	2	性周期発現と排卵の機序・性腺刺激ホルモンとステロイド	杉浦真弓
3	6	月	1	月経異常の診断と治療	杉浦真弓
3	6	月	2	女性不妊症の系統診断と治療	佐藤 剛
3	13	月	1	子宮内膜症・子宮筋腫	後藤志信
3	13	月	2	アクティブラーニング(婦人科内分泌疾患)	佐藤 剛
4	3	月	1	婦人科腫瘍学総論	西川隆太郎
4	3	月	2	子宮頸癌	西川隆太郎
4	10	月	1	子宮体癌・絨毛性疾患	荒川敦志
4	10	月	2	卵巣腫瘍・化学療法	荒川敦志
4	17	月	1	アクティブラーニング(婦人科腫瘍)	西川隆太郎

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・妊娠と分娩 ユニット
専門・教養	専門
担当教員	杉浦真弓、尾崎康彦、鈴森伸宏、佐藤 剛、北折珠央、後藤志信
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2023年4月24日～5月22日）月曜日 1, 2, 3, 4 限

授業目的・目標	基礎医学の中で修得した女性の解剖、生理、病理の理解をもとに、基本的な知識の修得を目標とし、さらに分子細胞生物学の著しい進歩による新しい知見も含めて理解することを目的とする。具体的には基本的産科知識（正常妊娠、正常分娩）を正確に習得し、異常妊娠・分娩・産褥について病態やリスクの程度を理解し、その管理法を学習する。また胎児心拍モニタリングや超音波断層法などの医療工学機器により得られた胎児情報についてその原理と結果の評価について理解し、得られるデータに対する適切な臨床的判断を学習・修得することを目標とする。
キーワード	妊娠、分娩、産褥、胎児、産科麻酔
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 Ia, Ib, Ic, Id, IIb, IIe, IIIb, IVd
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 妊娠の生理を理解している。 2. 異常妊娠・合併症妊娠について理解している。 3. 産科検査法を理解している。 4. 胎児の状態に関する検査法とその評価について理解している。 5. 正常分娩経過について理解している。 6. 異常分娩とその管理について理解している。 7. 産科手術について理解している。 8. 産科危機的出血、産科DIC等の産科救急について理解している。 9. 産科麻酔について理解している。 10. 正常な産褥経過およびその異常について理解している。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-2-4) 個体の発生、D-9 生殖機能、D-10 妊娠と分娩、E-1 遺伝医療・ゲノム医療、E-7-1) 成長と発達（胎児・新生児）、F-1-5) ショック、F-1-20) 腹痛、F-1-21) 悪心・嘔吐、F-1-30) 月経異常、F-1-31) 不安・抑うつ、F-2-7) 超音波を用いる診断と治療、F-2-9) 外科的治療と周術期管理、F-2-10) 麻酔
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 妊娠の診断と妊娠・分娩に伴う解剖学的・生理学的変化 2. 異常妊娠（流産・異所性妊娠・多胎妊娠・胎児体勢異常） 3. 胎児の発達・産科超音波検査法・出生前診断法 4. 胎児-胎盤機能検査法・胎児心拍数モニタリング 5. 妊娠合併症（耐糖能異常・血液凝固障害・内分泌疾患・妊娠高血圧症候群） 6. 切迫早産の治療法・陣痛の調整法 7. 胎盤位置異常・常位胎盤早期剥離 8. 正常分娩 9. 異常分娩 10. 産科手術・産科麻酔 11. 産科出血・産科DIC 12. 産褥期（子宮復古不全・産褥熱・乳腺疾患・メンタルケア） 13. アクティブラーニング1, 2
授業計画	2023年度 妊娠と分娩 授業計画を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 講義内容を正しく修得できるよう、テキストや参考図書および講義での配付資料により復習し理解を深める。さらに講義では触れられなかった講義内容に関わる項目についても自己学習により知識を広め、理解・修得に努めること。
成績評価方法	セメスター試験：80点満点 アクティブラーニング：参加態度10+提出物10=20点満点 本試は以上2項目の合計点を100点満点とし6割未満を不合格とする。再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	テキスト：「プリンシプル産科婦人科学 産科編」メディカルビュー 第3版、「病気がみえる vol.10 産科」MEDIC MEDIA 第4版
参考文献	テキストにあげられている参考文献
履修上の注意事項	講義の途中入室・途中退室は、原則認めない。特別な事情がある場合は、必ず講義担当者に申し出ること。 病欠の場合は医療人育成課に連絡すること。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	TBL(team-based learnig)形式で行い、全員参加型である。積極的に議論へ参加すること。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	講義での疑問点や十分な理解に至らなかった事項については、そのまましておかず、教員への積極的な質問・確認や自己学習により解決するよう努めること。
関連URL	

妊娠と分娩ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
産科婦人科学分野 教授	杉浦真弓
名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 教授(診療担当)	尾崎康彦
産科婦人科学分野 病院教授	鈴木伸宏
産科婦人科学分野 准教授	佐藤 剛
産科婦人科学分野 講師	北折珠央
産科婦人科学分野 講師	後藤志信

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	24	月	1	妊娠の診断と妊娠・分娩に伴う解剖学的・生理学的変化	佐藤 剛
4	24	月	2	胎児の発達・産科超音波検査法・出生前診断法	鈴木伸宏
4	24	月	3	胎児-胎盤機能検査法・胎児心拍数モニタリング	鈴木伸宏
4	24	月	4	切迫早産の治療法・陣痛の調整法	北折珠央
5	8	月	1	異常妊娠(流産・異所性妊娠・多胎妊娠・胎位体勢異常)	杉浦真弓
5	8	月	2	胎盤位置異常・常位胎盤早期剥離	鈴木伸宏
5	8	月	3	妊娠合併症1(耐糖能異常・血液凝固障害・内分泌疾患)	北折珠央
5	8	月	4	妊娠合併症2(妊娠高血圧症候群)	北折珠央
5	15	月	1	正常分娩1	尾崎康彦
5	15	月	2	正常分娩2	尾崎康彦
5	15	月	3	アクティブラーニング1	鈴木伸宏
5	15	月	4	産褥期(子宮復古不全・産褥熱・乳腺疾患・メンタルケア)	北折珠央
5	22	月	1	産科出血・産科DIC	佐藤 剛
5	22	月	2	異常分娩	尾崎康彦
5	22	月	3	産科手術・産科麻酔	後藤志信
5	22	月	4	アクティブラーニング2	尾崎康彦

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・乳房ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：遠山竜也、髙淵友美、藤田崇史、浅野倫子 非常勤講師：愛知県がんセンター：岩田広治、神奈川県立がんセンター：山下年成
講義期間・曜日・時限	Semester 2 (2021/2/28～2021/4/4) 火曜日、3・4限目

授業目的・目標	授業目的：乳房の疾患領域における医学、医療、福祉に関し、乳腺専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るため 授業目標：乳房の解剖、生理、病態、疾患、標準的治療法に関して基礎的知識を修得し、乳房診療特有の検査などを実施する。
キーワード	乳房、乳がん、胸部
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	領域 I b、I c、II a、II b
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 乳房の構造と機能、および女性ホルモンの正常乳腺組織および乳がんへの影響について説明できる 2. 乳がんの疫学と診断方法が説明できる 3. 乳がんに対する手術療法が説明できる 4. 乳がんに対する薬物療法（内分泌療法、化学療法、分子標的療法、免疫療法）が説明できる 5. がんに対する臨床試験について説明できる 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-11、F-3-5)-4)
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	乳がんの基礎：乳癌とホルモン 乳がんの疫学・診断 乳がんの手術療法 乳がんの薬物療法 がん治療 ―標準治療と臨床試験― 乳房コース：総括講義
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	“授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと”
成績評価方法	“セメスター試験（100）点満点 *セメスター試験が60点未満の場合、最初の講義時のレポートを10点を上限としてプラスする。”
教科書・テキスト	
参考文献	1. 「病気がみえる vol.9:婦人科・乳腺外科」医療情報科学研究所（編集） 2. 「乳腺腫瘍学」日本乳癌学会（編集）金原出版 3. 「乳癌診療ガイドライン」日本乳癌学会（編集）金原出版
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特になし。
アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業を一部行う
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げてください。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

乳房ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
乳腺外科学分野 教授	遠山竜也
乳腺外科学分野 講師	鰐淵友美
乳腺外科学分野 講師	藤田崇史
神奈川県立がんセンター 乳腺内分泌外科 部長	山下年成
愛知県がんセンター病院 副院長・乳腺科部長	岩田広治

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
2	28	火	3	乳がんの基礎:乳がんとホルモン	遠山竜也
2	28	火	4	乳がんの薬物療法1(ホルモン療法・免疫療法)	遠山竜也
3	7	火	3	乳がんの疫学・診断	山下年成
3	7	火	4	がん治療—標準治療と臨床試験—	岩田広治
3	14	火	3	乳がんの薬物療法2(化学療法・分子標的療法)	鰐淵友美
3	14	火	4	乳がんの手術療法	藤田崇史
4	4	火	3	乳房コース:総括講義	遠山竜也

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・内分泌・栄養・代謝系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	田中智洋、青谷大介、小山博之、服部 麗、今枝憲郎、高木博史、青山幸平、野尻俊輔 非常勤講師：伊藤哲哉、加藤岳史、小川浩平、水野達央
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2023年4月7日～2023年5月19日）

授業目的・目標	【授業目的】 内分泌・代謝疾患の診断・治療のための基本となる知識と考え方を学ぶ 【授業目標】 (1)人体の動的恒常性維持機構の基盤となる内分泌・栄養・代謝システムを理解する。(2)恒常性の破綻としての内分泌・代謝疾患の疾病概念と病態生理を理解し、診断と治療の基本を修得する。(3)内分泌・代謝学の理解を通して内科診断学・治療学の基本を学ぶ。
キーワード	糖尿病、代謝、視床下部・下垂体、副腎、甲状腺、副甲状腺
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	1a, b, c, d, 2c, 3a, b
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 内科学における中心的分野、内分泌・代謝学の学習を通して内科学の基本となる考え方を身につけ、診断・治療を実践するための基礎を修得する。 2. 解剖学・生理学・生化学・遺伝学などの基礎医学知識を動員して、個々の患者に即した病態生理の理解と説明ができる。 3. 内分泌・代謝疾患領域における臨床推論のプロセスを体験し、診断や治療方針の策定や予後予測について人に説明できる。 4. 次年度以降のBSLにおいて担当患者の診療プロセスにスムーズに参加し、症例に基づいたレポートの作成に支障のないレベルの知識と考え方を身につける。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-12) 内分泌・栄養・代謝系
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	総論（内分泌疾患、栄養疾患、代謝疾患についての基本的考え方）と各論（各疾患の疫学、疾病概念、病態生理、診断学、治療学）の学習を通して、臨床研修の前段階としてのBSLに必須の知識を修得する。
授業計画	1. 内分泌・代謝内科学総論・特論 2. 糖尿病とは何か 病態生理、慢性合併症・治療目標 3. 糖尿病治療論 4. 肥満、やせ、メタボリックシンドローム 5. ビタミン欠乏症と過剰症 6. 脂質代謝異常 7. 代謝性肝疾患 8. ミネラル代謝異常、骨代謝異常、副甲状腺疾患 9. 消化管ホルモンおよび産生腫瘍 10. 糖尿病の急性合併症・意識障害 11. 1型糖尿病特論 12. 高アンモニア血症・アミノ酸代謝異常 13. 先天性糖代謝異常症・ライソゾーム病 14. 視床下部・下垂体 15. 副腎口 16. 甲状腺 17. 小児の甲状腺疾患 18. 小児の成長ホルモン治療 19. アクティブラーニング（症例に即したグループワーク・プレゼンテーション）
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。配布資料を活用しての復習を实践されたい。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点 *ただし、セメスター試験が60点未満の場合、授業・アクティブラーニングへの積極的参加の評価を10点を上限としてプラスする。授業・アクティブラーニングは、質問・一部講義における問いかけへの返答・発表・参加態度を参考とし評価する。
教科書・テキスト	病気がみえる③ 糖尿病・代謝・内分泌 メディックメディア 糖尿病治療ガイド 日本糖尿病学会編、南江堂 最新内分泌代謝学 診断と治療社 小児内分泌疾患を楽しく学ぶ 診断と治療社
参考文献	内科学書 改訂第9版 Vol.5 内分泌疾患、代謝・栄養疾患 中山書店 Williams Textbook of Endocrinology 14th edition Elsevier Standards of Medical Care in Diabetes-2021 (https://care.diabetesjournals.org/content/44/Supplement_1)
履修上の注意事項	特に無し
履修者への要望事項	質問をすることで学びを深めることができます。講義期間中に1人1問の質問を目指して積極的に質問を。「求めよ、さらば与えられん」。
アクティブ・ラーニング	10名前後の学生グループに分かれ、それぞれのグループで各1モデル症例を担当、グループ内で必要な情報と検査、鑑別すべき疾患、鑑別プロセス、臨床診断、治療方針の決定、長期予後の予測や考察を行う。これらをパワーポイント（PDFも可）の資料にまとめ、全員に対してプレゼンテーションする。同級生からの質問に答えることで議論を通して互いに理解を深める。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	内分泌代謝・糖尿病内科専門医・指導医を初め、内分泌・代謝内科診療、肝臓病診療、小児内分泌診療のエキスパートが、臨床医学としての内分泌・代謝学の基本的考え方、基礎知識から実症例を題材とした診療の実際までを解説する。
備考	内科学の中核的領域である内分泌・代謝内科学の学習を通して、内科診療のための基礎知識、基本的考え方と実践を学ぼう。
関連URL	https://ncu-shotai.ac/

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

内分泌・栄養・代謝系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
消化器・代謝内科学分野 准教授	田中智洋
消化器・代謝内科学分野 講師	青谷大介
消化器・代謝内科学分野 助教	小山博之
消化器・代謝内科学分野 病院助教	服部 麗
新生児・小児医学分野 助教	青山幸平
医学部附属西部医療センター 消化器・代謝内科学分野 教授	今枝憲郎
医学部附属東部医療センター 消化器・代謝内科学分野 講師	高木博史
地域医療教育研究センター 教授	野尻俊輔
藤田医科大学 小児科 教授	伊藤哲哉
豊川市民病院 糖尿病内分泌内科 部長	加藤岳史
旭労災病院 糖尿病内分泌内科 部長	小川浩平
刈谷豊田総合病院 糖尿病・内分泌内科 部長	水野達央

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	7	金	1	内分泌・代謝内科学総論	田中智洋
4	7	金	2	糖尿病とは何か 病態生理・慢性合併症・治療目標	田中智洋
4	7	金	3	糖尿病治療論	青谷大介
4	7	金	4	肥満、やせ、メタボリックシンドローム	水野達央
4	13	木	3	ビタミン欠乏症と過剰症	小山博之
4	13	木	4	脂質代謝異常	加藤岳史
4	14	金	1	代謝性肝疾患	野尻俊輔
4	14	金	2	ミネラル代謝異常、骨代謝異常、副甲状腺疾患	青谷大介
4	14	金	3	消化管ホルモンおよび産生腫瘍／アクティブラーニングオリエンテーション	小山博之
4	14	金	4	糖尿病の急性合併症・意識障害	小川浩平
4	20	木	3	1型糖尿病特論	服部麗
4	20	木	4	高アンモニア血症・アミノ酸代謝異常	伊藤哲哉
4	21	金	1	副腎1	田中智洋
4	21	金	2	先天性糖代謝異常症・ライソゾーム病	伊藤哲哉
4	21	金	3	視床下部・下垂体 1	高木博史
4	21	金	4	視床下部・下垂体 2	高木博史
4	28	金	1	副腎2	田中智洋
4	28	金	2	内分泌・代謝内科学特論／アクティブラーニング準備	田中智洋
4	28	金	3	甲状腺1	今枝憲郎
4	28	金	4	甲状腺2	今枝憲郎
5	19	金	1	アクティブラーニング発表	田中智洋ほか
5	19	金	2	アクティブラーニング発表	田中智洋ほか
5	19	金	3	小児の甲状腺疾患	青山幸平
5	19	金	4	小児の成長ホルモン治療	青山幸平

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・眼・視覚系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	安川力 平野佳男 加藤亜紀 木村雅代 森田裕 小椋俊太郎 桑山創一郎 小南あおい 野崎実穂 中沢陽子
講義期間・曜日・時限	セメスター3 (2023/6/5～2023/7/6)、水曜日 1～4限目、木曜日 3,4限目

授業目的・目標	【授業目的】 眼球とその付属器および視覚系の疾患について、その原因、病態、症候、診断、治療に関する知識を習得し、最新の眼科治療法、症候から診断に至るプロセスを学ぶ。 【授業目標】 学生自ら考えながら問題解決に到達できることを目標とする。
キーワード	眼球、眼付属器、視路
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 1a, c, IVd
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 眼球とその付属器および視路についての解剖、生理について説明できる。 2. 解剖は豚眼を実際に解剖することでよりいっそう理解を深める。 3. 眼科検査について説明できる。 4. 直像鏡ではお互い眼底を観察しあい、患者への対応の仕方、患者のを気持ちを理解すると共に、より眼球の構造を理解する。 5. 眼、視覚疾患の病因、病態について説明できる。 6. 眼疾患の治療について説明できる。 7. 患者の症候、検査所見から診断、治療にいたるプロセスを述べられる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-13 眼・視覚系
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	(講義) 1視覚系の構造と機能 2眼科検査法 3外眼部疾患 4緑内障 5水晶体 6網膜硝子体疾患 7ぶどう膜炎疾患 8神経眼科 9小児眼科 10全身疾患と眼 11眼の外傷・救急 12眼科治療学 13眼科臨床診断学 14眼科のtranslational research (実習) 眼局所解剖（豚眼解剖実習）、直像鏡を用いた眼底実習、眼科疾患PBL
授業計画	2023年度 担当教員・徐行計画表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	1) 授業計画表を確認の上、参考文献の該当箇所を予習した上で講義に臨むこと。 2) 各授業において教科書以外の予習・復習について指示することがあるので、その指示に従うこと。
成績評価方法	セメスター試験 90点 *アクティブラーニング 10点。アクティブラーニングは、発表・参加態度を評価とする。
教科書・テキスト	
参考文献	“現代の眼科学” 監修 所 敬、編集 吉田 晃敏/谷原 秀信、金原出版 “Ophthalmology : An illustrated colour text 4th edition”, M. Batterbury, B. Bowling, Elsevier/Churchill, Livingstone, 2018
履修上の注意事項	豚眼解剖実習の際には白衣を持参すること。解剖実習、眼底実習は2グループに分けて行う。PBL1回目、2回目は前の講義が終わり次第開始するので前の講義に出席できない際には注意すること。
履修者への要望事項	特になし。
アクティブ・ラーニング	眼球解剖1時間、眼底実習1時間、眼科疾患PBL5時間を行う。PBLでは積極的に議論に参加すること。実習でお互いに協力し合うこと。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	「医師」としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

眼・視覚系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
視覚科学・教授	安川 力
視覚科学・准教授	平野 佳男
視覚科学・講師	加藤 亜紀
視覚科学・講師	木村 雅代
視覚科学・助教	森田 裕
視覚科学・助教	小椋 俊太郎
視覚科学・助教	桑山 創一郎
視覚科学・病院助教	小南 あおい
東部医療センター 教授	野崎 実穂
西部医療センター 准教授	中沢 陽子
客員教授	玉井 一司

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	7	水	1	オリエンテーション、視覚系の構造と機能	安川
	7	水	2	眼科検査法	木村
	7	水	3	眼科実習1解剖	木村
	7	水	4	眼科実習2解剖	木村
	8	木	3	水晶体疾患	野崎
	8	木	4	緑内障	野崎
	14	水	1	ぶどう膜疾患	加藤
	14	水	2	網膜硝子体疾患1	森田
	14	水	3	網膜硝子体疾患2	平野
	14	水	4	神経眼科	玉井
	15	木	3	外眼部・角結膜疾患(60分)	桑山
	15	木	4	PBL1	桑山
	21	水	1	眼科実習2 直像鏡	桑山・小南
	21	水	2	眼科実習3 直像鏡	桑山・小南
	21	水	3	眼科のtranslational research	安川
	21	水	4	小児眼科	中沢
	22	木	3	全身疾患と眼(60分)	小南
	22	木	4	PBL2	小南
	29	木	3	眼科救急(60分)	小椋
	29	木	4	PBL発表準備	小椋
7	6	木	3	PBL発表・総括	加藤・小椋
	6	木	4	PBL発表・総括	加藤・小椋

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・耳鼻・咽喉・口腔系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	岩崎真一、鳥山和宏、鈴木元彦、讃岐徹治、川北大介、佐藤慎太郎、江崎伸一、蒲谷嘉代子、的場拓磨、南方寿哉、有馬菜千枝、佐藤秀吉、竹本直樹 非常勤講師：高橋真理子、中村善久、花井信広
講義期間・曜日・時限	セメスター3（2022/6/5～2023/7/10）、月・木曜日、1～4限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の専門領域における医学、医療、福祉に関しこの分野の専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るため</p> <p>【授業目標】 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学が扱う領域の解剖、生理、病態、疾患、標準的治療法に 関して基礎的知識を修得し、耳鼻咽喉科特有の検査などを実習する。さらに頭蓋底外科、嚥下障害の診断と治療といった他科との境界領域、人工内耳をはじめとする先端的治療法、全身疾患と耳鼻咽喉科などに対する理解を深める。</p>
キーワード	耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頭頸部
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	領域 I a、II b
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の概念を理解し説明できる 2. 耳科学、神経耳科学に関する構造と機能ならびに検査法を説明できる 3. 外耳・中耳・内耳・顔面神経の代表疾患の疫学・病態・治療を説明できる 4. 鼻副鼻腔の構造と機能、検査法を説明できる 5. 鼻副鼻腔の代表疾患につき疫学・病態・治療を説明できる 6. 口腔咽頭・喉頭の構造と機能ならびに検査法を説明できる 7. 口腔咽頭・喉頭の代表疾患につき疫学・病態・治療を説明できる 8. 耳鼻咽喉科救急疾患について理解し、治療法を説明できる 9. 頭蓋底外科、人工内耳、人工中耳、について理解し説明できる 10. 全身疾患と耳鼻咽喉科との関わりについて理解し説明できる <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-14、E-1, 2, 3, 4, 6, 7, 8、F-1-1, 9, 15, 19, 27、F-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 14、G-2-9, 19, 27</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の役割と魅力 2. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の構造と生理 3. 病態、代表的疾患とその診断 4. 標準的治療法 5. 感覚器の検査と新しい治療方法 6. 救急疾患 7. 全身疾患と耳鼻咽喉科 8. 側頭骨、頭蓋底外科 9. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科のリハビリ 10. 形成外科
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。講義後には知識を定着させ、理解を深めるために復習をしておくこと。
成績評価方法	<p>セメスター試験 90点満点 アクティブラーニング 10点満点 合計 100点満点 *アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする。</p>
教科書・テキスト	<p>新耳鼻咽喉科学 切替一郎ほか、南山堂 標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科類 大森孝一ほか、医学書院 病気が見える13耳鼻咽喉科 松村譲児ほか、メディックメディア</p>
参考文献	<p>Head and Neck Surgery Naumann HH, Georg Thieme Verlag 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 森山寛ほか、医学書院 新 図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 全5巻 メジカルビュー社 耳鼻咽喉科 診療プラクティス 文光堂 症状から一発診断耳鼻咽喉科専門医はこう見立てる 村上信五ほか、総合医学社</p>
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	リハビリテーションの実践やグループワークを取り入れた授業を行う。 リハビリテーション、グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	http://ncu-ent.umin.jp/

耳鼻・咽喉・口腔系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 教授	岩崎真一
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 教授	鈴木元彦
形成外科学 教授	鳥山和宏
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 准教授	讃岐徹治
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 准教授	川北大介
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 講師	佐藤慎太郎
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 講師	江崎伸一
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 講師	蒲谷嘉代子
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	的場拓磨
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	南方寿哉
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	有馬菜千枝
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	竹本直樹
形成外科学 助教	佐藤秀吉
愛知学院大学歯学部外科学(耳鼻咽喉科) 准教授	高橋真理子
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 耳鼻咽喉科部長	中村善久
愛知県がんセンター頭頸部外科部長	花井信広

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
6	5	月	3	耳鼻咽喉科の役割・総論	岩崎真一
6	5	月	4	睡眠 基礎と臨床	有馬菜千枝
6	8	木	1	めまいの基礎と検査	岩崎真一
6	8	木	2	聴覚:解剖・生理・疾患、聴覚検査	蒲谷嘉代子
6	12	月	3	喉頭:解剖と疾患、音声外科	讃岐徹治
6	12	月	4	鼻副鼻腔:解剖・生理・疾患、アレルギー疾患	鈴木元彦
6	15	木	1	鼻副鼻腔腫瘍、嗅覚、味覚	中村善久
6	15	木	2	外耳・中耳:解剖・生理・疾患、顔面神経	南方寿哉
6	19	月	3	めまいの臨床とアクティブラーニング	蒲谷嘉代子
6	19	月	4	嚥下障害の臨床とアクティブラーニング	讃岐徹治
6	22	木	1	全身疾患との関連	高橋真理子
6	22	木	2	救急疾患(異物、外傷、気管食道)	的場拓磨
6	26	月	3	口腔咽頭1:解剖・生理 炎症性疾患と睡眠時無呼吸症候群	佐藤慎太郎
6	26	月	4	口腔咽頭2:疾患、唾液腺疾患	江崎伸一
7	3	月	3	頸部の解剖、頭頸部悪性腫瘍1	川北大介
7	3	月	4	頭頸部悪性腫瘍2	花井信広
7	10	月	3	形成外科総論	鳥山和宏
7	10	月	4	頭頸部再建	佐藤秀吉

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・精神系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：明智龍男、東 英樹、山田敦朗、久保田陽介、中口智博、内田 恵、白石 直、渡辺孝文、利重裕子 西部医療センター：奥山 徹、持田圭仁、大学院人間文化研究科：小川 成、南山大学：中野有美、南知多病院：仲秋秀太郎
履修期間・曜日・時限	セメスター3（2023/6/6～2023/7/18）、火曜日、1～2限目

授業目的・目標	【授業目的】 先進国では病気による国民のQOL損失の最大の原因は精神疾患によるものであることが示唆されていることに加え、身体疾患患者やプライマリーケアを受診する患者においても、高頻度に抑うつ、不安などの精神症状が認められることが示されている。従って、本コースでは専門科を問わず、全ての医師に求められる、精神症状および精神疾患に関する基本的な認識を得ることを目的とする 【授業目標】 広く精神疾患についての診断や治療法の基本に関して理解を深めることを目標とする。
キーワード	気分障害、統合失調症、不安障害、認知行動療法、コンサルテーション
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 1a, 1b, 1c, 1d, 2a, 2b, 2d, 3a, 3b, 3c, 3d, 3d, 4a, 4b, 4c, 4d
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 精神医学の概念および疾病分類学を理解し説明できる。 2. 心理検査、症状評価法などの精神医学的検査法について説明できる。 3. 精神疾患に対する薬物療法について説明できる。 4. 認知行動療法などの精神療法について説明できる。 5. 児童および青年期にみられる精神疾患について説明できる。 6. 一般身体疾患による精神障害、コンサルテーション精神医学について説明できる。 7. 統合失調症およびその他の精神病性障害について説明できる。 8. 抑うつ症状群について説明できる。 9. 双極性障害について説明できる。 10. 不安症群、強迫症、摂食障害について説明できる。 11. 認知症その他老年期の精神疾患について説明できる。 12. 心的外傷およびストレス関連障害群、解離症群、身体症状症について説明できる。 13. 日本における精神保健福祉の法規と制度について説明できる。 14. 睡眠覚醒障害群、てんかんについて説明できる。 15. 精神作用物質関連障害 について説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-15)精神系、F-1-3)食思(欲)不振、F1-1-4)体重減少・増加、F-1-8)けいれん、F-1-17)動悸、F-1-31)不安・抑うつ
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 精神医学総論 2. 精神科検査法 3. 薬物療法 4. 精神療法 5. 児童精神医学 6. 症状精神病・コンサルテーション精神医学 7. 統合失調症 8. 抑うつ障害群 9. 双極性障害 10. 不安症群、強迫症、摂食障害 11. 認知症その他老年期の精神疾患 12. PTSD、解離症群、身体症状症 13. 精神保健福祉法 14. てんかん、睡眠-覚醒障害群 15. 精神作用物質関連障害
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の際に過去の授業の内容について質問されても答えられるよう、復習しておくこと。
成績評価方法	セメスター試験（100点満点）
教科書・テキスト	カプラン臨床精神医学テキスト 第3版 メディカルサイエンスインターナショナル 標準精神医学 第8版 尾崎紀夫、三村将他編、医学書院 精神科診察・診断学 古川壽亮、神庭重信編著、医学書院 精神科における予診・初診・初期治療 笠原嘉、星和書店 内科医のための精神症状の見方と対応 宮岡等、医学書院 DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 日本精神神経学会監修、医学書院
参考文献	
履修上の注意事項	精神腫瘍学(サイコオンコロジー)については、臨床腫瘍学コースで講義する
履修者への要望事項	最終的な講義計画は初回の講義時に配布する。 外部講師による特別講義が予定されている場合には必ず出席すること。
アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	http://www.ncpsychiatry.com/

精神系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
精神・認知・行動医学分野 教授	明智龍男
精神・認知・行動医学分野 講師	東 英樹
精神・認知・行動医学分野 講師	山田敦朗
精神・認知・行動医学分野 助教	中口智博
精神・認知・行動医学分野 助教	利重裕子
精神・認知・行動医学分野 助教	白石 直
精神・認知・行動医学分野 助教	渡辺孝文
緩和ケア部 講師	内田 恵
西部医療センター精神科・児童精神科 教授	奥山 徹
西部医療センター精神科・児童精神科 准教授	持田圭仁
医療政策・経営科学 講師	久保田陽介
名古屋市立大学 大学院人間文化研究科 教授	小川 成
南山大学 人文学部心理人間学科 教授	中野有美
南知多病院 診療部長	仲秋秀太郎

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	6	火	1	精神医学総論	明智龍男
6	6	火	2	精神科治療:精神療法(認知行動療法を中心に)	中野有美
6	13	火	1	精神科治療:薬物療法および身体的治療法	渡辺孝文
6	13	火	2	精神科検査法:心理検査、症状評価尺度、画像検査、生理検査	利重裕子
6	20	火	1	気分障害(1)	奥山 徹
6	20	火	2	気分障害(2)	持田圭仁
6	27	火	1	不安症群、強迫症および関連症群、食行動障害および摂食障害群	小川 成
6	27	火	2	統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群	白石 直
7	4	火	1	神経発達症群その他児童・思春期の精神疾患	山田敦朗
7	4	火	2	認知症その他老年期の精神疾患	仲秋秀太郎
7	11	火	1	心的外傷およびストレス因関連障害群、解離症群、身体症状症および関連症群	中口智博
7	11	火	2	医学的疾患による精神障害およびコンサルテーション精神医学	内田 恵
7	18	火	1	精神保健福祉法、睡眠-覚醒障害群、てんかん	東 英樹
7	18	火	2	精神作用物質関連障害	久保田陽介

開講年度	2023年度
科目名	臨床医学コース・臨床感染症学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	担当教員・講義予定表を参照
講義期間・曜日・時限	担当教員・講義予定表を参照

授業目的・目標	<p>【授業目的】 感染症学の理解には、これまで勉強してきた微生物学、薬理学、解剖学等の基礎医学と内科学、外科学等の臨床医学、さらには公衆衛生学などの知識が必要である。これらの知識をもとに、実際の感染症に対する予防法や診断治療方法について学ぶ。特にプライマリケアにおける感染症を中心とした各臓器別に実践的な学習（症例提示）を行う。</p> <p>【授業目標】 診断から治療、感染予防対策まで幅広く学び、医師として最低限の感染症の知識を習得し、臨床実習に備える。</p>
キーワード	感染症、感染経路、検査、治療、予防
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	III-a, b, d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】 感染症の病態を理解し、診断・治療の合理的解釈ができる。実際の各種感染症に対する予防法や診断治療方法を習得する。</p> <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2) 医学知識と問題対応能力 C-3-1) 生体と微生物 E-2) 感染症</p>
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	輸入感染症 プライマリケアにおける感染症（呼吸器領域） プライマリケアにおける感染症（耳鼻科領域） プライマリケアにおける感染症（消化器領域） 婦人科領域の感染症（性感染症含む） 泌尿器科領域の感染症（性感染症含む） 小児感染症 中枢神経系感染症 外科・周術期感染症 日和見感染症と院内感染 感染症の臨床検査 抗菌薬の適正使用 感染予防対策
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。理解が不完全であった項目については、繰り返し復習して修得に努めること。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点；出席率が70%未満の場合は、本試験の受験資格なし。 *セメスター試験が60点未満の場合は不合格のため再試験。
教科書・テキスト	<p>【要点整理】： クエスチョン・バンクCBT 2019 vol.3 プール問題 臨床後編 メディックメディア STEP内科2 血液・感染症 海馬書房 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 メディックメディア 新・病態生理でできた内科学9 感染症 医学教育出版社 iMedicine 第10巻 感染症 リプロ・サイエンス(発刊予定)</p> <p>【成書】： 標準感染症学 医学書院 標準微生物学 医学書院</p> <p>【臨床】： レジデントのための感染症診療マニュアル 医学書院 New専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 11 感染症 日本医事新報社 【基礎医学】： ブラック微生物学 丸善 微生物学250ポイント 金芳堂</p>
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介する。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特になし。
アクティブ・ラーニング	該当なし。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	臨床経験を持つ医師・医療専門職員が講義を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/kansen/

臨床感染症学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
臨床感染制御学 教授	中村 敦
東部医療センター感染症科教授	長谷川千尋
地域医療教育研究センター 教授	谷田諭史
産科婦人科・周産期母子医療センター 病院教授	鈴木伸宏
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	伊藤 穰
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 講師	江崎伸一
腎・泌尿器科学 講師	恵谷俊紀
小児科・分べん成育先端医療センター 助教	伊藤孝一
消化器外科学 助教	柳田 剛
脳神経内科学 助教	川嶋将司
感染制御室 副室長・主査	小川綾花
診療技術部 臨床検査技術科 微生物検査係長	近藤周平
薬剤部・感染制御室 専従薬剤師	和知野千春

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	11	水	3	輸入感染症	長谷川千尋
10	11	水	4	感染症の臨床検査	近藤周平
10	17	火	1	抗菌薬の適正使用	和知野千春
10	17	火	2	プライマリケアにおける感染症(呼吸器領域)	伊藤 穰
10	17	火	3	プライマリケアにおける感染症(耳鼻科領域)	江崎伸一
10	17	火	4	プライマリケアにおける感染症(消化器領域)	谷田諭史
10	18	水	1	婦人科領域の感染症(性感染症含む)	鈴木伸宏
10	18	水	2	予備日	
10	18	水	3	小児感染症	伊藤孝一
10	18	水	4	中枢神経系感染症	川嶋将司
10	24	火	1	泌尿器科領域の感染症(性感染症含む)	恵谷俊紀
10	24	火	2	感染予防対策	小川綾花
10	24	火	3	日和見感染症と院内感染	中村 敦
10	24	火	4	外科・周術期感染症	柳田 剛

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	成長と発達／発生
専門・教養	専門
担当教員	≪小児科≫ 齋藤伸治（教授）、岩田欧介（准教授）、服部文字（准教授）、野村孝泰（講師）、伊藤孝一（講師）、青山幸平（助教）、亀井美智（助教）、津田兼之介（助教）、根岸豊（助教）、神農英雄（助教）、岩田幸子（病院助教）、横井暁子（病院助教）、大橋圭（病院助教） ≪非常勤講師≫ 藤田直也、宮地泰士、岩田直美、戸川貴夫 ≪小児外科≫ 近藤知史（病院准教授）高木大輔（病院講師） ≪救急科≫ 今井一徳（東部医療センター講師）
講義期間・曜日・時限	別紙参照

授業目的・目標	1. 一般医として各専門領域で小児患者を診療する場合に欠かせない小児病態生理を学習する。2. 救急医療やプライマリケアで小児科を診療する上で必須となる発育・発達、生理的特性を理解する。3. 小児の病態生理、診断、治療法、そして重症児のトリアージ基準を理解する。4. 家族の中でのこどもの幸せを実現するための幅広い見方・考え方を習得する。
キーワード	発育・発達・呼吸循環・免疫・神経・代謝、小児によく見られる外科的疾患
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰ a, b, c and d 領域Ⅲ a, b, c and d 領域Ⅳ a and d
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 小児特有の生理と病態の概念を理解し説明できる 2. 疾病を有する小児の初期評価・トリアージ方法について理解し説明できる 3. 小児の代表的内科疾患の疫学・病態・治療を理解し説明できる 4. 小児期の代表的な外科疾患の疫学・病態・手術法を含めた治療を理解し説明できる 5. 小児期の疾病予防およびワクチン接種について理解し、その意義について説明できる 6. 早産児及び病的成熟新生児の呼吸循環のトランジションについて理解し説明できる 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-1-1, A-1-2, A-1-3, A-2-1, A-2-2, A-3-1, A-4-1, A-4-2, A-5-1, A-6-1, A-7-1, A-7-2, A-8-1, A-9-1, B-1-3, B-1-4, B-1-5, B-1-6, B-1-7, B-1-8, B-1-9, B-2-1, C-4-5, C-4-6, C-5-5, C-5-6, C-5-7, D-6, D-7, E-3, E-7-1, E-7-2, E-7-3, E-7-4, F-1-1, F-2-2, F-3-1, F-3-2, F-3-3, F-3-4, F-1-15, F-1-20, F-1-21, F-1-22, F-1-23, F-1-24, F-1-25, F-1-27, F-2-9, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-6, F-3-6, F-3-6, G-1-1, G-1-1, G-2-1, G-2-2, G-2-3, G-2-4, G-2-5, G-2-6, G-2-7, G-2-8, G-2-9, G-2-10, G-2-11, G-2-12, G-2-13, G-2-14, G-2-15, G-2-16, G-2-18, G-2-19, G-2-20, G-2-21, G-2-22, G-2-23, G-2-24, G-2-25, G-2-26, G-2-27, G-2-28, G-2-29, G-2-33, G-2-34, G-3-1, G-3-2, G-3-3, G-3-4, G-4-1, G-4-4
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	“Children are not miniature adults.”と言われるように、小児は成人と比較して解剖学的にも生理学的にも異なる特徴を有している。本講義では、家族・学校・社会の中でのこどもの健康と幸せを実現するための必須知識を、正常像から連続する病態生理の理解、診断・介入プランの立案、治療効果の評価を通じて学ぶ。また、予防接種や健診などの疾病を予防するための小児保健についても学習する。
授業計画	将来幅広い分野で小児を診療する場合に必要な知識として、1. なごモンディジーズの診断と重症例のトリアージ、2. 各臓器別の専門疾患の概略の理解、3. 疾病を予防したり、早期にスクリーニングするための戦略や政策の理解、4. 1～3を理解するために必要な小児特有の病態生理や発育・発達の特性をカバーする講義を、これらの分野のエキスパートによる参加型の講義を多用しながら行う。小児外科については、特に新生児外科疾患において専門性が高いため、知識獲得を中心とした講義形式にて行う（M4）。
授業時間外の学修（準備学習を含む）	実習にて学習した疾患について、書籍やインターネット等を用いて掘り下げ、実習中に得られなかったことの補完、得たことの検証を行なう。また、これから学習する疾患が分かるときには、あらかじめ概略を調べておく。
成績評価方法（令和元年度までの項目名称「成績評価基準」）	セメスター試験（60）点満点 アクティブラーニング（発表20、積極性20、計40）点満点 本試は以上3項目の合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	Nelson Textbook of Pediatrics, 20th Edition, by Robert M, Elsevier（日本語訳第19版）；標準小児科学 第8版 監修 内山聖 医学書院；標準小児外科学 第6版 監修 伊藤泰雄 医学書院
参考文献	
履修上の注意事項	時間外にも所定のテキストの該当部分を学習すること
履修者への要望事項	小児医療に携わる多職種チームの一員として、病児のプロブレム解消のために責任感を持って取り組み、いかなる困難な局面においても与えられた最善の情報とエビデンスから最善の判断を選択することを実践的に体感してほしい。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングを取り入れ、提示された症例から問題点を設定、情報収集、予測、介入法の提案ができるようにする。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	臨床経験豊かな教員が症例を多く取り入れた実践的な講義を行う。
備考	授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
関連URL	

成長と発達／発生ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
新生児・小児医学分野 教授	齋藤 伸治
新生児・小児医学分野 准教授	岩田 欧介
新生児・小児医学分野 准教授（東部医療センター）	服部 文子
新生児・小児医学分野 講師	野村 孝泰
新生児・小児医学分野 講師（東部医療センター）	伊藤 孝一
新生児・小児医学分野 助教	青山 幸平
新生児・小児医学分野 助教	亀井 美智
新生児・小児医学分野 助教	津田兼之介
新生児・小児医学分野 助教	根岸 豊
新生児・小児医学分野 助教	神農 英雄
新生児・小児医学分野 病院助教	岩田 幸子
新生児・小児医学分野 病院助教	大橋 圭
新生児・小児医学分野 病院助教	横井 暁子
小児外科 病院准教授	近藤 知史
小児外科 病院講師	高木 大輔
救急科 講師（東部医療センター）	今井 一徳
あいち小児保健医療総合センター 腎臓科 内科部長	藤田 直也（非常勤講師）
名古屋西部地域療育センター 所長	宮地 泰士（非常勤講師）
豊橋市民病院 小児科	戸川 貴夫（非常勤講師）
あいち小児保健医療総合センター 予防診療科 医長	岩田 直美（非常勤講師）

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	5	月	1	小児と小児医療の特徴	齋藤 伸治
			2	乳幼児健診と小児保健	齋藤 伸治
6	6	火	3	性腺・副腎疾患	青山 幸平
			4	小児糖尿病	青山 幸平
6	12	月	1	ウイルス感染症・予防接種	岩田 幸子
			2	消化管閉鎖症および直腸肛門奇形	高木 大輔
6	13	火	3	頭頸部、腹壁形成異常	近藤 知史
			4	肝・胆・膵	戸川 貴夫
6	19	月	1	免疫不全	齋藤 伸治
			2	小児の診療と治療～概論	神農 英雄
6	20	火	3	アレルギー疾患（喘息以外）	野村 孝泰
			4	新生児総論 胎児疾患	岩田 欧介
6	26	月	1	食道・上部消化管疾患および腹膜炎	高木 大輔
			2	リウマチ性疾患	岩田 直美
6	27	火	3	小児固形悪性腫瘍	近藤 知史
			4	虐待と児童福祉	宮地 泰士
7	3	月	1	小児の事故・救急	今井 一徳
			2	その他の感染症（ウイルス他）	津田 兼之介
7	4	火	3	肝胆膵、脾疾患	近藤 知史
			4	消化管	伊藤 孝一
7	10	月	1	小児血液・腫瘍（総論・小児固形腫瘍）	亀井 美智
			2	早産と新生児疾患	岩田 欧介
7	11	火	3	細菌感染症	横井 暁子
			4	小児の成長と発達	岩田 欧介
7	18	火	3	遺伝・先天異常	齋藤 伸治
			4	神経発達症とその関連疾患	大橋 圭
7	19	水	1	腎	藤田 直也
			2	小児の水・電解質と脱水	岩田 欧介
			3	神経疾患～てんかんを中心に	根岸 豊
			4	筋疾患	服部 文子
7	21	金	3	神経系の先天奇形	齋藤 伸治
			4	新生児症例の臨床推論	岩田 欧介

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・麻酔科学・集中治療医学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	祖父江和哉
講義期間・曜日・時限	1月10日（火）、1月17日（火）、2月21日（火）

授業目的・目標	【授業目的】患者の病態を全臓器にわたって包括的に理解する医師と足るために、急性期の患者の全身管理を理解する。 【授業目標】麻酔科医が関与する周術期管理と集中治療の基本知識を身につけ、全身管理を理解した医師となる基礎を固める。
キーワード	麻酔、周術期管理、周産期麻酔、集中治療
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	I-a、I-d、II-b
学習到達目標	1. 術前の患者評価の方法について述べるができる。 2. 麻酔を概説できる。 3. 麻酔科医が行う術後管理について述べるができる。 4. 集中治療が必要な患者を判断し、必要性を述べるができる。 5. 集中治療で行われる治療を概説できる。 6. 医療における痛み管理の重要性を説明できる。 7. 周産期医療における麻酔科医の役割を説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 F-1-5)、F-1-6)、F-2-9)、F-2-10)
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	急性期の患者の全身管理を理解するため、麻酔科医が関与する周術期管理の基本と集中治療に必要な生理学と治療法について解説する。
授業計画	授業計画表に示す通り 講義 10回 症例検討 2回
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	事前に講義テーマについて概要を学習して講義に臨むこと。 毎回講義の最初に前回授業内容に係る小テスト（レスポンスカードへ記載）を実施するので、それらの問いを中心に復習すること。
成績評価方法	1. セメスター試験80%、症例検討20% 2. 講義参加度、講義中の態度、発言頻度、質問頻度、毎講義後の小テスト（レスポンスカード）の内容により評価する。 3. 症例検討は、参加度、取り組み態度、発言頻度、質問頻度、グループ活動の成果により評価する。
教科書・テキスト	「ミラー麻酔科学」編集 ロナルド・D・ミラー 監修 武田純三（MEDSi） 「ICUブック第4版」ポール・L・マリノ 翻訳 稲田英一（MEDSi）
参考文献	
履修上の注意事項	講義資料は、事前にPDFで配布する。 レスポンスカードの提出は、当該講義終了まで。期限を超えた提出は、認めない。
履修者への要望事項	講義はBSLで最低限の知識を身につけることを目的とする。よって、講義内容は、基本的として学べき項目を提示する。さらに、より詳細な内容は自己学習で補完すること。
アクティブ・ラーニング	症例検討は、グループワークおよびプレゼンテーション
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

麻酔科学・集中治療医学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
麻酔科学・集中治療医学分野・教授	祖父江和哉
麻酔科学・集中治療医学分野周産期麻酔部門・教授	田中 基
看護学部・教授	薊 隆文

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	10	火	1	<麻酔・ICU>麻酔科学とは、周術期医学とは(総論)	祖父江和哉
			2	<麻酔>術前管理 患者の術前評価・前投薬	祖父江和哉
			3	<麻酔>臨床薬理 鎮静薬、筋弛緩薬	祖父江和哉
			4	<麻酔>区域麻酔、局所麻酔薬	祖父江和哉
1	17	火	1	<麻酔>術後管理	祖父江和哉
			2	<麻酔>気道管理	薊 隆文
			3	<麻酔・ICU>臨床生理 重症患者の管理に必要な呼吸生理学	薊 隆文
			4	<麻酔>周産期麻酔	田中 基
2	21	火	1	<麻酔・ICU>臨床生理 循環生理学・ショックの病態と生理	祖父江和哉
			2	<ICU>感染症 ICUの感染症・感染予防	祖父江和哉
			3	<麻酔>症例検討：症例提示とグループワーク	祖父江和哉
			4	<麻酔>症例検討：発表と討論	祖父江和哉

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・疼痛医学（痛みと行動科学）ユニット
専門・教養	専門
担当教員	太田晴子、酒井美枝、徐 民恵、杉浦健之
講義期間・曜日・時限	セメスター1（2023/2/7～2022/2/14）、火曜日、1～4限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】 疼痛医学の専門領域における医学、医療、福祉に関し、この分野の専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るために、本講義を学ぶ。また、その過程で、行動科学の視点を知ることが目的とする。</p> <p>【授業目標】 疼痛疾患に関わる広範な領域の解剖、生理、病態、疾患、標準的治療法、行動科学の理論や技法に関して基礎的知識を習得し、全人的医療に対する理解を深める。さらに、痛みを持った患者に対して、集学的な対応の重要性を理解し、基本的な対応ができる医療人となることを目標とする。</p>
キーワード	急性痛、慢性痛、生物心理社会モデル、行動科学
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域Ⅰ-a, c, d、Ⅱ-a、Ⅲ-c、Ⅳ-b, d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疼痛科学の概念を理解し説明できる 2. 医療における痛み管理の重要性を説明できる。 3. 侵害受容・痛み認知に関する基盤構造と機能ならびに検査法を説明できる 4. 急性痛の代表疾患の疫学・病態・治療を説明できる 5. 慢性痛の評価を説明し、実践できる 6. 慢性痛に対する集学的治療を概説できる 7. 行動科学に関する理論や技法を理解し説明できる 8. 痛み診療を含む様々な医療現場において、全人的理解に基づく基本的な対応ができる <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】A-1-2, A-3-1, A-5-1, B-1-5, C-2-3, C-4-5, C-5, D-2, D-4, D-15, F-1, F-2, G-2</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・疼痛医学総論：痛み医療総論（杉浦） ・診断：痛みの分類と評価（太田） ・治療法（1）：痛みの運動療法（杉浦） ・治療法（2）：痛みの薬物療法・インターベンショナル治療（徐） ・医療現場における行動科学（酒井） ・慢性痛と精神・心理・社会的要因（酒井） ・行動の基本原則（酒井） ・慢性痛への行動科学的アプローチ（酒井）
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	<p>セメスター試験（100）点満点</p> <p>*セメスター試験が60点未満の場合、講義レスポンスカード、アクティブラーニングをそれぞれ10点を上限としてプラスする。講義レスポンスカードの内容の妥当性・独自性、アクティブラーニングの発表・参加態度を参考とする。</p>
教科書・テキスト	疼痛医学（医学書院）、神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン（真興交易）、慢性疼痛診療ガイドライン（真興交易）、ペインクリニック治療指針（真興交易）
参考文献	Bonica's Management of Pain, Wall & Melzack's Textbook of Pain、行動分析学入門、行動医学テキスト
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	後半の行動科学に関する一部の授業で、グループワークもしくはロールプレイを行う。その際は積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師、公認心理師・臨床心理士としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://itami-net.or.jp

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

疼痛医学(痛みと行動科学)ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
麻酔科学・集中治療医学分野	杉浦健之
麻酔科学・集中治療医学分野	徐 民恵
麻酔科学・集中治療医学分野	太田晴子
麻酔科学・集中治療医学分野	酒井美枝

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
2	7	火	1	疼痛医学総論: 痛み医療総論	杉浦健之
			2	診断: 痛みの病態と評価	太田晴子
			3	治療法(1): 痛みの運動療法	杉浦健之
			4	治療法(2): 痛みの薬物療法・インターベンショナル治療	徐 民恵
2	14	火	1	医療現場における行動科学	酒井美枝
			2	慢性痛と精神-心理-社会的要因	酒井美枝
			3	行動の基本原理	酒井美枝
			4	慢性痛への行動科学的アプローチ	酒井美枝

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース 食事と栄養療法ユニット
専門・教養	専門
担当教員	濱野高行、田中智洋、高木大輔、山田悠史 非常勤講師：土岐祐一郎、三井章、山下純世
講義期間・曜日・時限	セメスター2 (2023/2/28～2023/5/25)

授業目的・目標	栄養療法の重要性を認識し、経口食事療法、強制栄養法を理解する。
キーワード	栄養評価、外科代謝、食事療法、輸液、経腸栄養
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	領域Ia、I Ib
学習到達目標	1: 食品と栄養素の関係を説明でき、代表的食品の蛋白、エネルギー量を計算できる。 2: 栄養評価ができる。 3: 腎疾患、糖尿病、高血圧、肥満症の食事療法を説明できる。 4: 外科代謝栄養及び、外科術後の栄養障害について理解する。 5: 静脈・経腸栄養法を理解する。 6: 小児、成人の輸液を理解する。 【該当するモデルコアカリ】D-7,D-8, D-12, F-2-11
成績評価基準	秀：セメスター試験90点以上 優：セメスター試験80点以上 良：セメスター試験70点以上 可：セメスター試験60点以上
授業概要	1: 臨床栄養管理（食事の基本） 2: 小児輸液管理 3: 高血圧に対する食事療法 4: 慢性腎不全に対する食事療法 5: 糖尿病・肥満症に対する食事療法 6: 総合科学としての分子病態栄養学 7: 高齢者の栄養管理 8: 消化器外科術後の栄養障害
授業計画	小児～成人の栄養管理、経管栄養と経腸栄養の違い、補液の原則、電解質管理を実例を中心に説明する。
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業時間外の学習（授業概要項目参照） 1: 受講前に1日分の食事記録を書いてみる 2: 小児外科学の教科書（例：標準小児外科学）にて復習 3: 第一セメスターで学習した高血圧各論の復習 4: 第一セメスターで学習した腎不全各論の復習 5: 授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと 6: 授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと 7: 授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点 アクティブラーニング（参考）点満点 その他（具体的に）（参考）点満点 本試はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングとその他項目については参考とし、成績には加味しない。
教科書・テキスト	セメスター試験（100）点満点 アクティブラーニング（参考）点満点 その他（具体的に）（参考）点満点 本試はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングとその他項目については参考とし、成績には加味しない。
参考文献	
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師・管理栄養士としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

食事と栄養療法ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
腎臓内科 教授	濱野高行
内分泌・糖尿病内科 准教授	田中智洋
小児・移植外科 病院講師	高木大輔
栄養管理係・係長	山田悠史
非常勤講師 大阪大学 消化器外科 教授	土岐祐一郎
非常勤講師 名古屋市立大学附属西部医療センター 消化器外科 教	三井 章
非常勤講師 名古屋市立大学附属西部医療センター 循環器内科 教	山下 純世

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
3	1	水	1	臨床栄養管理(食事の基本)	山田悠史
3	1	水	2	高血圧に対する食事療法	山下 純世
3	1	水	3	慢性腎不全に対する食事療法	濱野高行
3	1	木	4	消化器外科術後の栄養障害	土岐祐一郎
3	8	水	1	糖尿病・肥満症に対する食事療法	田中智洋
3	8	水	2	総合科学としての分子病態栄養学	田中智洋
3	8	水	3	小児輸液管理	高木大輔
3	8	水	4	高齢者の栄養管理	三井 章

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・放射線等を用いる診断と治療ユニット
専門・教養	専門
担当教員	樋渡昭雄、富田夏夫、下平政史、中川基生、河合辰哉、小川正樹、浦野みずぎ、川口毅恒、太田賢吾、鈴木一史、山本達仁、中山敬太、高岡大樹、岡崎大、木曾原昌也、中島雅大、丹羽正成、鳥居暁、大場翔太、荻野浩幸、岩田宏満
講義期間・曜日・時限	Semester 4 (2023年9月8日～10月13日)

授業目的・目標	医療における放射線医学の役割を理解するために（目的）、放射線治療、画像診断、IVRそれぞれの基本的考え方を修得する（目標）。
キーワード	放射線治療、画像診断、IVR
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 Ia、Ic、IIa、IIb、IIc、IId、IIe、IVd
学習到達目標	<p>【学習到達目標】 放射線治療の基本的知識を説明できる。 治療中及び治療後の患者管理を述べるができる。 画像診断：画像の成り立ちを理解し、各領域ごとに基本的読影方法を説明できる。 IVRの適応と内容、合併症・副作用を述べるができる。</p> <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 E-6：放射線の生体影響と放射線障害、F-2-5：放射線等を用いる診断と治療</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	講義
授業計画	放射線医学M4講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、参考文献等により該当箇所を予習した上で、実習に臨むこと
成績評価方法	<p>Semester試験 90点満点 アクティブラーニング 10点 *アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする。</p>
教科書・テキスト	
参考文献	標準放射線医学 第7版（医学書院）
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

放射線等を用いる診断と治療ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
放射線科 教授	樋渡昭雄
放射線科 准教授	富田夏夫
放射線科 准教授	下平政史
放射線科 講師	中川基生
放射線科 講師	河合辰哉
放射線科 講師	小川正樹
放射線科 助教	浦野みすぎ
中央放射線部 助教	川口毅恒
中央放射線部 助教	太田賢吾
放射線科 助教	山本達仁
放射線科 助教	中山敬太
放射線科 助教	木曾原昌也
放射線科 助教	中島雅大
放射線科 助教	大場翔太
高度医療教育研究センター 教授	荻野浩幸
西部医療センター陽子線治療科 准教授	岩田宏満

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	8	金	1	CT・MRIの基本/小児画像診断	中川基生
			2	核医学	川口毅恒
			3	放射線治療概論	富田夏夫
			4	放射線生物学	岩田宏満
9	15	金	1	胸部画像診断1	中島雅大
			2	泌尿生殖器画像診断	木曾原昌也
			3	X線・CT・MRIの基礎 放射線総論	樋渡昭雄
			4	粒子線治療	荻野浩幸
9	29	金	3	IVR1	中山敬太
			4	IVR2	下平政史
10	6	金	1	放射線治療各論1	高岡大樹
			2	高精度放射線治療	岡崎大
			3	救急画像診断	小川正樹
			4	乳腺画像診断	浦野みすぎ
10	13	金	1	放射線治療各論2	富田夏夫
			2	心血管画像診断	鈴木一史
			3	腹部画像診断	河合辰哉
			4	放射線治療各論3	丹羽正成

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・輸血と移植ユニット
専門・教養	専門
担当教員	近藤知史、鈴木達也、藤原 圭、田村哲也、李 政樹、松浦健太郎
履修期間・曜日・時限	2023年9月4日～2023年10月2日・火曜日・3限4限

授業目的・目標	<p>【授業目的】輸血および移植医療について、臨床実習に必要な知識だけでなく将来臨床医となった場合に応用できるための基本事項を身につける。また医療や医療行政による健康被害の歴史から教訓を学ぶ。</p> <p>【授業目標】目標は、輸血に必要な検査および副作用について学び、血液浄化療法から細胞治療、最近の輸血製剤に関する問題点までを理解する。また臓器移植について脳死と臓器移植に関連する法律を理解する。臓器移植の対象となる基本的な病態と適応、移植免疫に関する基礎知識から肝移植を中心とした臓器移植の実際と、術前術後管理および移植に伴う倫理面に関する事項を理解する。集団予防接種等によるB型肝炎感染被害拡大の歴史と教訓について認識・理解する。</p>
キーワード	日本の臓器移植の現状と肝移植、輸血と細胞治療にまつわる諸問題、肝炎virus、肝不全と治療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅱe、Ⅲc、Ⅳa、Ⅳb、Ⅳd
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輸血管理業務の概念を理解し、輸血関連検査項目の内容、意義を説明できる。 2. 輸血療法の適応の判断、実施に関する注意点、血液製剤の適正使用について理解し、説明できる。 3. 輸血施行時におこる合併症・副作用について理解でき、その対応方法について述べることができる。 4. 移植免疫の概要について理解でき、造血幹細胞移植をはじめ細胞治療について述べることができる。 5. 脳死判定と脳死臓器移植の手続きについて述べることができる。 6. 臓器移植の対象となる病態と適応について述べることができる。 7. 移植免疫および移植に伴う感染症の特徴を述べることができる。 8. 肝移植の実際について理解し、説明できる。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>A-1-1) 医の倫理と生命倫理、A-2) 医学知識と問題対応能力、 B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度、B-2-1) 死と法、C-3-1) 生体と微生物、C-4-4) 循環障害、臓器不全、D-1) 血液・造血器・リンパ系、D-7) 消化器系、E-2) 感染症、F-1-24) 黄疸、 F-2-13) 輸血と移植</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<p>(講義要目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臓器移植総論と臓器移植に関わる法律 移植適応となる小児疾患 2. 臓器移植に伴う感染症（肝移植を中心に） 3. 輸血管理業務・輸血検査 4. 輸血療法・適正輸血 5. B型肝炎ウイルス感染要因と再活性化 6. 重症肝不全の治療 7. 血液浄化療法 8. 肝移植、生体肝移植 9. 輸血合併症・副作用 10. 移植免疫・細胞治療
授業計画	<p>授業概要を参照</p> <p>あらかじめ授業概要から得られる情報を基に、教科書や参考文献・各種ホームページを参照しながら予習した上で、講義に臨むこと。内容と時間配分によっては、討議形式も随時行う。なお、講義内容を講義後にクラウドにアップロードする場合もある。</p>
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	<p>セメスター試験（100点）で、6割以上を合格とする。再試験も同じとする。</p> <p>[以下の項目について評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輸血管理業務の概念、輸血関連検査項目の内容、意義を理解できているか。 2. 輸血療法の適応の判断、実施に関する注意点、血液製剤の適正使用について理解できているか。 3. 輸血施行時におこる合併症・副作用、その対応方法について理解ができているか。 4. 移植免疫の概要、造血幹細胞移植をはじめ細胞治療について理解ができているか。 5. 脳死判定と脳死臓器移植の手続きについて理解ができているか。 6. 臓器移植の対象となる病態と適応について理解ができているか。 7. 移植免疫および移植に伴う感染症の特徴について理解ができているか。 8. 肝移植の実際について理解ができているか。
教科書・テキスト	<p>(テキスト)</p> <p>血液型と輸血検査 第2版 大久保康人著、医歯薬出版 輸血ハンドブック 関口定美著、医学書院 分子細胞免疫学 原著第9版 中尾篤人監訳、エルゼビア・ジャパン 標準外科学 第14版 畠山勝義著、医学書院</p>
参考文献	<p>(参考図書)</p> <p>血液製剤の使用にあたって 第4版 血液製剤調査機構編集、(株)じほう イラストレイテッド免疫学 原書2版 リッピンコットシリーズ 免疫ペディア～101のイラストで免疫学・臨床免疫学に強くなる！ 羊土社 サイトカインの最新線-疾患とのかかわりを探る 野俊夫編、羊土社 Annual Review 免疫 2008 菊池浩吉他編、中外医学社 実践・輸血マニュアル～自己血輸血療法全般の理解を求めて 脳本信博編、医薬ジャーナル 日本急性血液浄化学会標準マニュアル 日本急性血液浄化学会編集、医学図書出版 ICU/CCUの急性血液浄化療法の考え方、使い方 中外医学社 (公社)日本臓器移植ネットワークホームページ https://www.jotnw.or.jp/ 一般社団法人 日本移植学会ホームページ http://www.asas.or.jp/jst/</p>
履修上の注意事項	やむを得ない事情が無い限り遅刻・欠席をしないこと。
履修者への要望事項	講義前に、該当内容部分についてテキスト等により予習をしてください。
アクティブ・ラーニング	学習内容が複数の専門領域に渡るため、自己学習と講義を中心とする。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	自己学習が視野・視点を広げることにつながる。
関連URL	https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/yuketsu/ https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/icu/

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

輸血と移植ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
腫瘍・免疫外科学 病院准教授 小児外科 部長	近藤知史
輸血・細胞療法部 副部長 講師	李 政樹
麻酔科 副部長 講師	田村哲也
消化器・代謝内科学 講師	藤原 圭
肝・膵臓内科 副部長	松浦健太郎
消化器・代謝内科学 講師 肝疾患センター 副室長	安井稔博
藤田医科大学 小児外科学	

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	5	火	3	臓器移植総論と臓器移植に関わる法律 移植適応となる小児疾患	近藤知史
9	5	火	4	臓器移植に伴う感染症(肝移植を中心に)	近藤知史
9	12	火	3	輸血管理業務・輸血検査	李 政樹
9	12	火	4	輸血療法・適正輸血	李 政樹
9	19	火	3	B型肝炎ウイルス感染要因と再活性化	松浦健太郎
9	19	火	4	重症肝不全の治療	藤原 圭
9	26	火	3	血液浄化療法	田村哲也
9	26	火	4	肝移植, 生体肝移植	安井稔博
10	3	火	3	輸血合併症・副作用	李 政樹
10	3	火	4	移植免疫・細胞治療	李 政樹

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・膠原病ユニット
専門・教養	専門
担当教員	難波大夫、前田伸治、爲近真也、山邊 徹、上原幸治、磯谷俊太郎
講義期間・曜日・時限	セメスター4 (2023/8/31、9/7、9/14、9/28)、木曜日、3～4限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】関節リウマチなどの膠原病の診療を含めリウマチ科の専門領域における医学、医療、福祉に関しこの分野の専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るため</p> <p>【授業目標】リウマチ学が扱う領域の解剖学、免疫学およびそれらの知識に基づく筋骨格系身体診察、自己抗体など検査、X線や超音波、MRIなどの画像診断ならびに膠原病の疾患概念、代表的なりウマチ性疾患の病態、臨床像、分類基準、グルココルチコイド薬、免疫抑制薬、生物学的製剤など分子標的学リウマチ薬の適応や副作用及びその管理に関する基礎的知識を修得し理解を深める。</p>
キーワード	筋骨格、自己免疫疾患、膠原病、関節炎、多臓器疾患、免疫調整薬、グルココルチコイド
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a、I b
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リウマチ学・膠原病学の概念を理解し説明できる 2. 筋骨格系の構造や機能、免疫系の構造や機能を概説し、自己抗体など検査法を説明できる 3. 膠原病と自己免疫疾患を概説し、その種類を列挙できる 4. 関節腫脹や圧痛をきたす原因と病態生理ならびに疾患を列挙できる 5. 膠原病に特徴的な皮疹やその他の臓器症候を説明し、関連する疾患を列挙できる 6. 関節リウマチの病態生理、症候、診断、治療とリハビリテーションを説明できる 7. 関節リウマチ、脊椎関節炎の関節外症状を説明できる 8. 成人スチル病の症候、診断と治療を説明できる 9. 全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、全身性強皮症、多発性筋炎、皮膚筋炎、全身性血管炎、ベーチェット病の病態生理、侵されやすい臓器病変、症候、診断や分類基準を説明できる 10. グルココルチコイド薬や免疫抑制薬、生物学的製剤など分子標的薬の作用機序、効果、適応、副作用など安全管理について説明できる 11. リウマチ性疾患患者の管理における多職種チーム医療の必要性を説明できる 12. 患者中心の視点の必要性を説明できる <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>A-1-2)、A-1-3)、A-4-1)、A-4-2)、A-5-1)、C-3-2)、C-4-1)、C-4-5)、D-4、E-4-1)、E-4-2)、E-4-3)、F-1-1)、F-1-2)、F-1-27)、F-1-29)、F-1-34)、F-1-35)、F-1-36)、F-2-1)、F-2-2)、F-2-3)、F-2-5)、F-2-7)、F-2-8)、F-3-1)、F-3-2)、F-3-3)、F-3-4)、F-3-5)-(1)、F-3-5)-(2)、F-3-5)-(7)</p>
成績評価基準	<p>秀：90%以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80%以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70%以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60%以上（学修到達目標を最低限達成している）</p> <p>不可：60%未満</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. リウマチ性疾患の診断に必要な診察や検査 2. 関節リウマチ、脊椎関節炎、成人スチル病、結晶誘発性関節炎 3. 血管炎症候群、ベーチェット病、抗リン脂質抗体症候群 4. 全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、線維筋痛症 5. 皮膚筋炎、多発性筋炎、全身性強皮症、混合性結合組織病 6. リウマチ性疾患の治療 7. 症例検討（アクティブラーニング） 8. 症例検討（アクティブラーニング）
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	<p>【授業時間外の学習】</p> <p>講義の前までに、講義項目に関する事前配布資料や下記の参考文献（教科書）の該当箇所を熟読すること。不明な点があれば積極的に質問をすること。授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。</p>
成績評価方法	セメスター試験にて成績判定を行い6割未満を不合格とする。再試も6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・リウマチ病学テキスト 改訂第3版 診断と治療社 ・関節リウマチ診療ガイドライン2014 メディカルレビュー社 ・関節リウマチ治療におけるメトトレキサート(MTX)診療ガイドライン 2016年改訂版 羊土社 ・全身性エリテマトーデス臨床マニュアル 第3版 日本医事新報社 ・シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル 改訂第2版 ・多発性筋炎・皮膚筋炎診療ガイドライン 診断と治療社 ・ANCA関連血管炎診療ガイドライン2017 診断と治療社 ・全身性強皮症診療ガイドライン - 公益社団法人日本皮膚科学会 <p>https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/guideline/1372907289_3.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膠原病学 改訂第6版 塩沢俊一、丸善 ・膠原病診療ノート 第3版 三森明夫、日本医事新報社 ・リウマチ病診療ビジュアルテキスト 第2版 上野征夫、医学書院 ・日本リウマチ学会 ガイドライン <p>http://www.ryumachi-jp.com/guideline.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・European League Against Rheumatism (EULAR) Recommendations: Recommendations for management https://www.eular.org/recommendations_management.cfm ・American College of Rheumatology (ACR) Clinical Practice Guidelines https://www.rheumatology.org/Practice-Quality/Clinical-Support/Clinical-Practice-Guidelines ・Arthritis and Allied Conditions: A Textbook of Rheumatology 15th ed. Koopman WJ, Moreland LW. Lippincott Williams and Wilkins. ・Practical Rheumatology 3rd ed. Hochberg MC, Silman AJ, Smolen JS, Weinblatt ME, Weisman MH. Mosby.
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークによる症例検討を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

膠原病ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	難波大夫
呼吸器・免疫アレルギー内科学 講師	前田伸治
呼吸器・免疫アレルギー内科学 病院助教	爲近真也

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	31	木	3	リウマチ性疾患の診断に必要な診察や検査	難波大夫
8	31	木	4	関節リウマチ、脊椎関節炎、成人スチル病、結晶誘発性関節炎	爲近真也
9	7	木	3	血管炎症候群、ベーチェット病、抗リン脂質抗体症候群	難波大夫
9	7	木	4	全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、線維筋痛症	前田伸治
9	14	木	3	皮膚筋炎、多発性筋炎、全身性強皮症、混合性結合組織病	難波大夫
9	14	木	4	リウマチ性疾患の治療	前田伸治
9	28	木	3	リウマチ性疾患の検討1(グループ発表)	爲近真也
9	28	木	4	リウマチ性疾患の検討2(グループ発表)	爲近真也

開講年度	2023年度
科目名	臨床医学コース・臨床腫瘍学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	学内：奥山 徹 木下 史緒理 小松 弘和 鈴木 貞夫 鈴木 奈々 高橋 智 遠山 竜也 富田 夏夫 前野 健 松尾 洋一 外来：安藤 正志 近藤 豊 三田 貴臣 前田 徹 室 圭 吉田 達哉
講義期間・曜日・時限	2023年10月4日(水)～2023年10月23日(月)

授業目的・目標	医師として、がん患者の診療に必要な基本的知識や集学的治療の重要性を理解するために（目的）、がんの疫学、がん細胞の分子・生物学的特性や病態、診断学、標準的治療法に関する基礎的知識を臓器横断的に習得する。さらにはがん検診の意義や、がん患者およびその家族の心理的、社会的問題や新しい診断・治療法の開発に関する理解を深める（目標）
キーワード	エビデンスに基いた医療、集学的治療、チーム医療、患者中心の医療、先端のがん医療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1d, 2d, 3a, 3d, 4d
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 臨床腫瘍学の概念を説明できる。 がんの疫学の定義と動向を説明できる。 がん細胞の生物学的特徴、分子病態や遺伝・環境要因について説明できる。 がんの浸潤や転移のメカニズムについて説明できる。 がんの病理診断、遺伝子診断の特徴とその限界について説明できる。 抗癌剤の薬物動態、薬力学的解析とその遺伝的多様性について説明できる。 化学療法の基本理論、作用機序、主な副作用と支持療法を説明できる。 分子標的療法の特徴、種類、開発法について説明できる。 放射線生物学、がんの放射線治療の基本理論と適応について説明できる。 がんの手術適応、根治手術と縮小手術の原則について説明できる。 腫瘍抗原、細胞免疫療法の概念が説明できる。 がんの臨床試験の特徴について説明できる。 がん診療における標準的治療の確立過程を理解しEBMを利用できる。 がんの予防や集団検診の意義と臨床疫学方法論について説明できる。 精神腫瘍学の概念を理解し、全人的医療に貢献できる。 癌性疼痛について理解し、緩和医療、終末期医療について説明できる。 Oncologic emergencyについて理解し、説明できる。 がん患者と向き合う基本的姿勢、インフォームドコンセントについて説明できる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 B-1-3 根拠に基づいた医療<EBM>、B-1-4 疫学と予防医学、 C-4-6 腫瘍、E-3 腫瘍、E-6 放射線の生体影響と放射線障害、E-9 人の死、F-2-4 病理診断、F-2-5 放射線を用いる診断と治療、F-2-6 内視鏡を用いる診断と治療、F-2-8 薬物治療の基本理、F-2-9 外科的治療と周術期管理、F-2-16 緩和ケア</p>
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> がんの記述疫学・がんの予防 がんの病理診断 がんの細胞生物学 がんのゲノミクス 抗がん剤の薬物動態・薬力学 がん診療における現状と諸問題（倫理を含む） がんの臨床試験 がんの放射線治療 がんの手術療法 希少がん（化学療法を含む） 疼痛緩和 分子標的療法 がんの免疫療法 がん治療におけるEBM 精神腫瘍学 Oncologic Emergency（腫瘍随伴症候群を含む） Active learning
授業計画	2022年度臨床腫瘍学授業予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	各講義までに、「入門腫瘍内科学」の該当ページ（目次参照）を読んでおくこと。さらに知識を深めるためには、「新臨床腫瘍学」の該当ページを読むとよい。英文に親しむ意味では、「The MD Anderson Manual of Medical Oncology」（臨床）、「The Genetic Basis of Human Cancer」（基礎）も利用するとよい。
成績評価方法	セメスター試験 80点満点、アクティブラーニング20点（発表・レポート10点、参加態度10点） 満点 本試は以上2項目の合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	「入門腫瘍内科学」監修 日本臨床腫瘍学会 篠原出版社
参考文献	「新臨床腫瘍学」第5版 日本臨床腫瘍学会 南江堂 「The MD Anderson Manual of Medical Oncology」Edited by Kantarjian HM, Wolf RA and Koller CA., Mc Graw Hill Co. Inc. 「The Genetic Basis of Human Cancer」Edited by Vogelstein B & Kinzler KW., Mc Graw Hill Co. Inc. 講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	各講義までに、「入門腫瘍内科学」の該当ページ（目次参照）を読んでおくこと。さらに知識を深めるためには、「新臨床腫瘍学」の該当ページを読むとよい。英文に親しむ意味では、「The MD Anderson Manual of Medical Oncology」（臨床）、「The Genetic Basis of Human Cancer」（基礎）も利用するとよい。
アクティブ・ラーニング	積極的に議論を取り入れる。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

臨床腫瘍学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
臨床腫瘍部 教授	小松弘和	化学療法部 助教	木下史緒理
公衆衛生学 助教	中川弘子	西部医療センター緩和ケアセンター 助教	鈴木奈々
実験病態病理学 教授	高橋 智	外来講師 (名古屋大学)	近藤 豊
乳腺外科学 教授	遠山竜也	外来講師 (金城学院大学)	前田 徹
西部医療センター精神科・緩和ケアセンター	奥山 徹	外来講師 (愛知県がんセンター)	室 圭
呼吸器・免疫・アレルギー内科学 准教授	前野 健	外来講師 (愛知県がんセンター)	安藤正志
消化器外科学 教授	松尾洋一	外来講師 (シンガポール大学)	三田貴臣
放射線医学 准教授	富田夏夫	外来講師 (国立がん研究センター)	吉田 達哉

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	4	水	2	がん診療における現状と諸問題(倫理を含む)	安藤正志
10	10	火	1	希少がん・難治がん・高齢者がん/(化学療法を含む)	木下史緒理
10	10	火	2	がん治療におけるEBM	遠山竜也
10	10	火	3	がんの臨床試験	室 圭
10	10	火	4	がんの細胞生物学	近藤 豊
10	11	水	1	緩和ケア	鈴木奈々
10	11	水	2	がんの記述疫学・がんの予防	中川 弘子
10	12	木	1	精神腫瘍学	奥山 徹
10	12	木	2	がんの免疫療法	吉田達哉
10	16	月	1	がんの手術療法	松尾洋一
10	16	月	2	がんの病理診断	高橋 智
10	16	月	3	分子標的療法	前野 健
10	16	月	4	がん薬物療法の支持療法(腫瘍随伴症候群含む)	小松弘和
10	19	木	1	癌のゲノミクス	三田貴臣
10	23	月	1	抗がん剤の薬物動態・薬力学	前田 徹
10	23	月	2	がんの放射線治療	富田夏夫
10	23	月	3	Active Learning	小松/木下
10	23	月	4	Active Learning	小松/木下

開講年度	2023年度
科目名	臨床医学コース・救急科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	服部友紀、笹野寛、松嶋麻子、山岸庸太、三浦敏靖、今井一徳、間瀬則文、竹内昭憲
講義期間・曜日・時限	2023年1月24日1-3限、1月31日1-3限、2月2日1限、2月9日1限（計8限）

授業目的・目標	授業目的：COVID-19に救急医がどのように対応したか、需要が増加する一方の救急医療をどのような仕組みで対応しているのか、救急医の役割とは何かを学ぶ。診療に時間的余裕のない救急患者の緊急度と重症度を如何に見分けて診療するかその診療手順を学ぶ。心停止、外傷、中毒など救急患者に特有の疾患について学ぶ。災害時の特殊な考え方と医療体制について学ぶ。 授業目標：救急診療に必要な考え方について理解を深める
キーワード	心肺蘇生術、多発外傷、急性中毒、災害医療、プレホスピタルケア、COVID-19重症者の対応
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	I c, II b, IV a, IV b
学習到達目標	【学習到達目標、該当するモデルコアカリキュラム】 ・日本及び愛知県の救急診療体制を理解する；A-7-1) 地域医療への貢献 ・救急医の役割について理解する；A-1) プロフェッショナルリズム ・日本の災害時の医療体制と多数傷病者の診療の考え方を理解する；A-7) 社会における医療の実践、A-5) チーム医療の実践 ・心停止患者に対する救急処置(2次救命処置：ALS)を理解する；F-1-6) 心停止、A-5) チーム医療の実践、F-2-2) 根拠に基づいた医療(EBM)、F-3-6-4) 救命処置、G-4-4) シミュレーション教育 ・種々の中毒疾患の診療を理解する；E-5) 物理・化学的因子による疾患、F-1-7) 意識障害・失神、F-1-8) けいれん ・外傷患者の診療について学習する；F-1-37) 外傷・熱傷、F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療 ・プレホスピタルケアの重要性を理解する；A-7) 社会における医療の実践、A-7-1) 地域医療への貢献、F-3-6-4) 救命処置 ・ショックの鑑別法を学習する；F-1-5) ショック、F-2-7) 超音波を用いる診断と治療、F-1-10) 脱水 ・症状から必要な検査を行い診断から治療までグループ討論する；F-2-1) 臨床推論、F-2-3) 臨床検査、F-3-1) 問題志向型システムと臨床診断推論、F-3-4) 臨床判断、F-3-5-2) 全身状態とバイタルサイン
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	・プレホスピタルケア、外傷、熱傷、中毒、2次救命処置、内科救急疾患について講義を行う ・シミュレーション形式で2次救命処置；ALSを実践する ・提示した症状から、緊急性の判断、検査、診断、治療について議論する
授業計画	授業計画表に別途記載
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点
教科書・テキスト	救急診療指針（へるす出版）、DMAT標準テキスト（へるす出版）、JRC蘇生ガイドライン（医学書院） 講義・実習に臨む前に上記教科書の該当する項目を熟読しておくこと 昨年の救急科講義資料を再確認しておくこと
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します
履修上の注意事項	止むを得ず遅刻・欠席の場合は理由を添えて報告すること
履修者への要望事項	M1, M3で習得した一次救命処置(BLS)についてはしっかり復讐しておくこと
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ロールプレイを取り入れた講義を行う
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	シミュレーション形式では動きやすい服装で。最初の講義で救急総論の他、オリエンテーションを兼ねて以降の講義内容についても解説する
関連URL	なし

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

救急科ユニット 担当教員

所属・職名	担当教員
救急科・教授	服部友紀
救急科・教授	笹野寛
東部医療センター 救急科・教授	松嶋麻子
災害医療センター・センター長	山岸庸太
東部医療センター救急科・准教授	三浦敏靖
東部医療センター救急科・助教	今井一徳
江南厚生病院・副院長、救急科・部長、救命救急センター長	竹内昭憲
中津川市民病院病院前救急科・部長	間瀬則文

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	24	火	1	救急医療～救急医の役割～	服部友紀
1	24	火	2	救急患者の評価と診療	今井一徳
1	24	火	3	内科救急疾患の見方	三浦敏靖
1	31	火	1	外傷患者の診療～緊急度と重症度を見極める～	松嶋麻子
1	31	火	2	ERでよく見る中毒疾患	笹野寛
1	31	火	3	災害時医療～大災害時の医療体制と多数傷病者への診療～	山岸庸太
2	2	木	1	ガイドライン2020に基づく2次救命処置	竹内昭憲
2	9	木	2	プレホスピタルケアの重要性～ドクターカー&ドクターヘリ	間瀬則文

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・漢方医学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	野尻俊輔、木村和哲、牧野利明、松尾洋一、種村光代、戸澤啓一、有馬菜千枝、加藤利奈
講義期間・曜日・時限	8月29日3、4限目。 8月30日1、2、3、4限目
授業目的・目標	【授業目的】 診療に必要な漢方薬治療の基本(漢方医学の基本概念、診療方法、漢方処方法の運用)を学ぶ。 【授業目標】 全人的視野を養い、漢方薬を含めた患者のための最良の治療指針を選択できる
キーワード	漢方、証、生薬、気・血・水
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	1a, 11b, 111b, 1Va
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 漢方医学と西洋医学の基本的相違を説明できる。 2. 漢方医学の特徴・基本的概念を説明できる。 (気・血・水・陰陽・虚実・表裏・寒熱を理解する) 3. 漢方医学の診断方法を説明できる。 (四診<望診・聞診・問診・切診>を理解する) 4. 漢方医学の「証」について説明できる。(随証治療を理解する) 5. 漢方方剤の構成生薬、薬理作用、適応症を説明できる。 6. 漢方処方法の代表的副作用や使用上の注意事項を説明できる。 7. 漢方医学のEBMと東西医学の統合について概説できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 F-2-1 臨床推論, F-2-8 薬物治療の基本原則
成績評価基準	合格：60点以上(学習到達目標を達成している)。レポートと出席で総合的に判定する。
授業概要	1. 漢方医学総論・歴史 2. 漢方医学の概念 3. 漢方医学の薬物治療 4. 漢方医学の診断法と治療 5. (消化器)内科、外科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻科、いたみ における漢方治療の実際
授業計画	別紙のとおり、90分を2名ないしは1名の講師で担当する。 授業のなかで、実際の煎じ薬を調整し、服用体験を行う。
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと
成績評価方法	出席とレポート提出
教科書・テキスト	基本がわかる漢方医学講義 日本漢方医学教育協議会、羊土社 学生のための漢方医学テキスト 日本東洋医学会編、南江堂 入門 漢方医学 日本東洋医学会編、南江堂 実践漢方医学 日本東洋医学会編、南江堂 EBM漢方 寺澤捷年他、医歯薬出版 和漢診療学 寺澤捷年、医学書院
参考文献	医学生のための漢方医学【基礎】 安井廣迪、東洋学術出版社 漢方・中医学講座シリーズ 入江祥史ほか、医歯薬出版 女性の顔用漢方イラストレイテッド 川口恵子、永井書店
履修上の注意事項	静粛に受講すること
履修者への要望事項	静粛に受講すること
アクティブ・ラーニング	漢方薬を実際に煎じて服用体験をする
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	漢方薬への知識が豊かな教員および臨床経験をもつ教員が講義・実習を担当する
備考	授業時間外の学習は授業開始前に「基本がわかる漢方医学講義 日本漢方医学教育協議会、羊土社」を一読しておくことと理解がしやすい。
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

漢方医学セミナーユニット 担当教員

所属・職名	氏名
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 病院助教	有馬菜千枝
臨床薬剤学分野 教授	木村和哲
種村ウィメンズ クリニック 院長	種村光代
腎・泌尿器科学分野 准教授	戸澤啓一
地域医療教育研究センター 教授	野尻俊輔
薬学部生薬学分野 教授	牧野利明
消化器外科学分野 臨床教授	松尾洋一
麻酔科 助教	加藤利奈

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	29	火	3前半	漢方医学の歴史と概要	木村和哲
8	29	火	3後半	漢方医学の診断と証の概念	野尻俊輔
8	29	火	4前半	内科と漢方	野尻俊輔
8	29	火	4後半	いたみと漢方	加藤利奈
8	30	水	1	泌尿器科領域における漢方診療	戸澤啓一
8	30	水	2前半	外科と漢方	松尾洋一
8	30	水	2後半	耳鼻咽喉科(睡眠)と漢方	有馬菜千枝
8	30	水	3	生薬学入門	牧野利明
8	30	水	4	女性医療と漢方	種村光代

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床処方学セミナー
専門・教養	専門
担当教員	日比陽子、堀田康弘
講義期間・曜日・時限	セメスター2 2023年5月23日（火）・5月24日（水）、1・2限

授業目的・目標	【授業目的】投与される薬剤が安全かつ効果的に使用するため。 【授業目標】適正な薬物治療をするために処方せんの書き方を習得する。また、薬剤の使用手法や医療制度に関する理解を深めるため、臨床薬理学、処方学の知識を修得する。
キーワード	処方箋、麻薬・向精神薬、治療薬物モニタリング、後発医薬品
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	領域2b, 2c, 2d, 2e
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 処方せんの種類を説明できる。 2. 処方せんの記載事項を理解し説明できる。 3. 内服薬・外用薬・注射薬の種類を概説できる。 4. 麻薬および向精神薬の管理を説明できる。 5. 治療薬物モニタリング(TDM)の必要性を説明できる。 6. PK/PD理論を概説できる。 7. 病院における調剤と医薬品管理を説明できる。 8. 後発（ジェネリック）医薬品の特徴を説明できる。 9. レジメンによるがん化学療法における申請、治療の過程を説明できる。 10. 包括医療費支払い制度(DPC)、クリニカルパスにおける薬物治療を説明できる。 【該当するモデルコアカリキュラム】 B-2-2) 診療情報と諸証明書、F-2-8) 薬物治療の基本原則
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	1. 処方設計の考え方 2. 処方せん発行とその注意事項 3. 処方解析の仕方 4. 薬物動態学的の応用 5. 医薬品安全管理の実際
授業計画	講義、演習 5月23日（火）1限・2限 5月24日（水）1限・2限
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	3回以上講義へ出席し、受講時の態度、提出物等を評価する。
教科書・テキスト	(テキスト) 配布資料にて行う
参考文献	(参考図書) 「調剤指針」日本薬剤師会編（薬事日報社） 「臨床薬理学」日本臨床薬理学会編（医学書院） 「臨床薬物動態学」澤田康文編（医学書院） 「疾患と今日の処方」福田保他編（医歯薬出版） 「和漢診療学」寺澤捷年（医学書院）
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	静粛に受講すること
アクティブ・ラーニング	議論型授業を取り入れた授業を行う。議論型授業では積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	薬剤師としての実務経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	「授業時間外の学習」授業前に「調剤指針」の5章、6章を読んでおくこと。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

臨床処方学ユニット 担当教員

所属・職名
臨床薬学分野・教授
臨床薬学分野・講師

氏名
日比 陽子
堀田 康弘

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
5	23	火	1	臨床処方学の講義	日比陽子
5	23	火	2	臨床処方学の講義・確認テスト	日比陽子
5	24	水	1	臨床処方学の講義	堀田康弘
5	24	水	2	臨床処方学の講義・確認テスト	堀田康弘

開講年度	2023年度
科目名	社会医学（予防医学基礎）
専門・教養	専門
担当教員	鈴木貞夫、西山 毅、大谷隆浩、中川弘子、上島通浩、伊藤由起、金子佳世、加藤沙耶香、ハレツキス ロマナス、細野晃弘、玉腰浩司、森 亮太、永谷照男、小嶋雅代、鷺見 学、榎原 毅
講義期間・曜日・時限	2023年5月12日（金）～7月24日（月）

授業目的・目標	社会医学は、人間の健康問題を宿主要因（性・年齢、心理的要因、遺伝要因などの個人の特性）、環境要因（物理・化学的環境、生物学的環境、社会的環境）との関連で捉え、個人および集団における疾病予防と健康増進のあり方を明らかにする総合的な実践科学である。将来、医師として、現実社会の中で健康問題を解決し予防医学的活動を展開する際に必要な基礎的な知識や考え方を講義・実習を通して習得する。
キーワード	社会保障、地域保健、産業保健、環境保健、保健統計、疫学、根拠に基づいた医療（EBM）
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 I b, II d, III a, III b, III c, III d
学習到達目標	1. 社会医学の目的、意義、歴史、政策等を理解する。 2. 保健医療制度と医療資源・保健統計・保健指導の現状と動向を説明できる。 3. 地域保健・学校保健・産業保健・環境保健・国際保健等の概要を説明できる。 4. 健康問題の集団的解析に必要な統計学手法を理解する。 【該当するモデルコアカリ】 A-7社会における医療の実践、B-1集団に対する医療、B-4医療に関連のある社会科学領域 C-5人の行動と心理、E-5物理・化学的因子による疾患
成績評価基準	秀: 学習到達目標を越えたレベルを達成している 優: 学習到達目標を十分に達成している 良: 学習到達目標を達成している 可: 学習到達目標を最低限達成している 実習は積み上げ式で行うため全回出席を求める。課題レポートの提出は必須である。
授業概要	授業は担当教員が行う講義と各実習から構成される。担当教員・講義予定を参照
授業計画	<講義項目> 1. 社会医学総論（歴史・政策等） 2. 保健統計（現状と動向、各種指標の計算等）と疫学総論・各論（EBM手法を含む） 3. 地域保健・学校保健・産業保健・環境保健・国際保健等の総論・各論 4. 地域医療問題、医療経済 5. 疫学データ処理の実例 6. 保健所・市町村保健センターの活動と役割 *講義内容についての小テスト <社会医学テーマ実習> テーマごとに形成する自主グループでの実地見学・調査・解析・討論とその結果の発表・レポート作成 <疫学統計実習> 1. 地域の保健指標、疫学データ解析、疾病診断・スクリーニング等の基礎 2. 基礎医学実験における実験計画の立て方、サンプルサイズの決め方 3. 統計解析ソフトを用いたデータ処理
授業時間外の学修（準備学習を含む）	教科書の該当箇所を読み込むことが望まれる。「疫学統計実習」では、ハンドアウトを確認し、あらかじめ内容を理解し、実習に臨むこと。解析後、得られた解析結果について十分に考察して、レポートにまとめること。
成績評価方法	定期試験成績100%。学習到達目標が達成できているかを評価する。レポート提出状況・内容は、定期試験の点数の一部を構成する（最大10%）。なお、履修規定に規定された回数の出席が確認できない場合は定期試験の受験資格を失うので、注意すること。
教科書・テキスト	原則として、毎回、資料を配布する。参考書（(1)、(2)はいずれかで可）を手元において予習復習に活用することが望ましい。(3)は通読する必要はなく、辞書的に使用する。統計数値、政策は毎年アップデートされるため、国家試験前には最新年度のものを参照すること。
参考文献	<参考書> (1) NEW予防医学・公衆衛生学 南江堂、(2) シンプル衛生公衆衛生学 南江堂、 (3) 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 (4) Basic Epidemiology WHO（日本語版あり）
履修上の注意事項	疫学統計実習は遅刻すると授業についていけなくなるので注意すること。
履修者への要望事項	また、テーマ実習における学外施設の訪問などの実習は、訪問先の方々のご厚意により成り立っている。医学生として見られていることを自覚し、遅刻・欠席しないことはもちろん、挨拶・服装・私語等に注意を払うこと。
アクティブ・ラーニング	「社会医学テーマ実習」では、テーマごとにグループを形成し、実地見学、調査、データ解析、グループ討論を行い、その結果をまとめ、報告会においてプレゼンテーションを行う。また、グループごとにレポートを作成し、「社会医学テーマ実習報告書」として製本する。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	
備考	不明な点があれば積極的に教員に質問し、十分な理解を得るよう努めること。
関連URL	

社会医学(予防医学基礎)コース 担当教員

所属・職名	氏名	非常勤講師	氏名
環境労働衛生学・教授	上島 通浩	名古屋市保健福祉局	小嶋 雅代
環境労働衛生学・准教授	伊藤 由起	厚生労働省 医政局	鷺見 学
環境労働衛生学・特任講師	金子 佳世	名古屋市名東保健福祉センター	細野 晃弘
環境労働衛生学・助教	加藤 沙耶香	医療法人八事の森(理事長)	森 亮太
環境労働衛生学・特任助教	ハレツキス ロマナス		永谷 照男
公衆衛生学・教授	鈴木 貞夫	名古屋大学	玉腰 浩司
公衆衛生学・准教授	西山 毅	産業医科大学	榎原 毅
公衆衛生学・講師	大谷 隆浩		
公衆衛生学・助教	中川 弘子		

授業計画

講義・社会医学テーマ実習:研究棟11階 講義室B、統計実習:基礎教育棟3階 情報処理室

月	日	曜日	時限	内 容	担当者		
5	12	金	1	社会医学総論	鈴木		
			2	EBMの理論と実践(1)-治療・予防	西山		
			3	保健統計(1)-疾病頻度の評価と比較	大谷		
			4	疫学(1)-因果関係とEBM	鈴木		
	23	火	3	社会医学テーマ学習(1) オリエンテーション	全教員		
			4	環境保健(1)-総論	伊藤		
	26	金	1	産業保健(1)-総論	上島		
			2	産業保健(2)-有機化学物質と健康	上島		
			3	産業保健(3)-無機化合物と健康	伊藤		
			4	地域保健・地域医療(1)-保健所・市町村保健センター	細野		
	29	月	1	EBMの理論と実践(2)-予後予測	西山		
			2	保健統計(2)-厚生指標	大谷		
3			環境保健(2)-大気・水環境汚染と廃棄物対策	伊藤			
4			環境保健(3)-食品衛生と国民栄養	伊藤			
30	火	1	EBMの理論と実践(3)-診断検査	西山			
		2	疫学(2)-疫学研究のデザイン	鈴木			
		3	保健医療論	上島			
		4	社会医学テーマ学習(2) 計画	全教員			
6	9	金	1	統計実習(1): 疫学データ解析	鈴木・西山・大谷・中川		
			2	記述等計量、計数値の解析、相関と回帰、交絡の補正、多変量回帰(線型回帰、ロジスティック回帰)分析			
			3	地域保健・地域医療(2)-街医者発信: 医師の資格でできること	森		
			4	疫学(3)-国際保健	鷺見		
16	金	1	統計実習(2): 疾病診断とスクリーニングの基礎	鈴木・西山・大谷・中川			
		2	感度、特異度、ROC曲線				
		3	社会医学テーマ学習(3)		全教員		
		4					
23	金	1	統計実習(3): 地域の保健指標	鈴木・西山・大谷・中川			
		2	人口、死亡率、粗死亡率、年齢調整死亡率、生命表、平均寿命、平均余命				
		3	行動科学(1)-意思決定と行動変容の理論と実践		榎原		
		4	産業保健(4)-作業態様と健康		榎原		
29	木	1	EBMの理論と実践(4)-系統的レビュー	西山			
		2	疫学(4)-世界の疾病とSDGs達成に向けた公衆衛生活動	中川			
		30	金	1	産業保健(5)-交代制勤務・過重労働と健康	上島	
				2	行動科学(2)-社会行動医学と意思決定	鈴木	
		3	学校保健	加藤			
		4	母子保健	玉腰			
		7	6	木	1	統計実習(4): 実験デザイン概論、統計解析基礎、小レポート	上島・伊藤・加藤
					2	(実験計画基礎、記述統計量、サンプルサイズ、検定力、効果量、乱塊法、誤差、バイアス、変動係数、 α/β エラー、統計的仮説検定、多重比較)	
	7	金	1	統計実習(5): 統計解析応用、論文精読、実験計画立案	上島・伊藤・加藤		
			2	(実験計画応用、一元配置、二元配置、欠損値、外れ値、対数変換、経時測定分散分析、主効果、交互作用、傾向検定、ICC/Kappa係数)			
				3	社会医学テーマ学習(4)	全教員	
				4			
13	木	1	地域保健・地域医療(3)-フレイル予防、医療と福祉の一体的実施	小嶋			
		2	疫学(5)-長寿・少子社会と健康	永谷			
		3	環境保健(4)-室内環境・衛生動物と健康	伊藤			
		4	環境保健(5)-災害と健康	伊藤			
14	金	1	統計実習(6): 課題演習、レポート作成	上島・伊藤・加藤			
		2					
		3	社会医学テーマ学習(5) まとめ、報告会準備		全教員		
		4					
20	木	1	多様な文化的背景をもつ個人・集団における疾病予防	金子			
		2	疫学(6)-循環器疾患、肥満とその関連疾患	永谷			
		3	健康増進と障害者福祉	加藤			
		4	産業保健(6)-物理的要因 まとめ	上島			
21	金	1	社会医学テーマ学習(6) 報告会	全教員			
		2					
24	月	1	社会医学試験	全教員			
		2					

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床能力養成コース 基本臨床技能実習
専門・教養	専門
担当教員	高桑 修、植田典浩、兼松孝好、川北大介、菊池祥平、上村剛大、藤原 圭、大喜多賢治、岡本秀貴、山本惇貴、小川 了、中村 敦、笹野 寛
講義期間・曜日・時限	基本臨床技能コース担当教員・スケジュールを参照

授業目的・目標	診療参加型臨床実習において診療に主体的に参加し、診療チームの一員として実質的な診療機能を担うことができるために、一般診療に必要な医師としての態度および診療技能を修得する。
キーワード	医療面接、臨床技能、身体診察、基本的臨床手技
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	IIb、IIc
学習到達目標	<p>医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)の「F-3 基本的診療技能」に示されている以下の項目について修得することを目標としている。</p> <p>【医療面接】</p> <p>①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。②医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。</p> <p>③病歴(主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー)を聞き取り、情報を取捨選択し整理できる。④診察時に患者に適切な体位(立位、座位、半座位、臥位、砕石位)を説明できる。</p> <p>【身体診察】</p> <p>〈基本事項〉</p> <p>①患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。②患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。</p> <p>③患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。④感染を予防するため、診察前後の標準予防策(standard precautions)ができる。</p> <p>⑤身だしなみ、言葉遣い及び態度等に気を配ることができる。</p> <p>〈全身状態とバイタルサイン〉</p> <p>①身長・体重を測定し、body mass index <BMI>の算出、栄養状態を評価できる。②上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。</p> <p>③両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。④呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。⑤腋窩で体温を測定できる。</p> <p>⑥下肢の動脈の触診を実施できる。⑦全身の外観(体系、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声)を評価できる。</p> <p>〈頭頸部〉</p> <p>①頭部(顔貌、頭髪、頭皮、頭蓋)の診察ができる。②眼(視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜)の診察ができる。</p> <p>③耳介およびその周囲を観察できる。④耳鏡で外耳道、鼓膜を観察できる。⑤口唇、口腔、咽頭、扁桃の診察ができる。</p> <p>⑥鼻(全体の形状や皮膚の所見)、副鼻腔の診察ができる。⑦甲状腺、頸部血管、唾液腺の診察ができる。⑧頭頸部リンパ節の診察ができる。</p> <p>〈胸部〉</p> <p>①胸部の視診、触診、打診ができる。②呼吸音と副雑音の聴診ができる。③心音と心雑音の聴診ができる。④背部の叩打痛を確認できる。</p> <p>〈腹部〉</p> <p>①腹部の視診、聴診ができる。②区分に応じて腹部の打診、触診ができる。③腸雑音、血管雑音の聴診ができる。</p> <p>〈神経〉</p> <p>①意識レベルを判定できる。②脳神経系の診察ができる(眼底検査を含む)。③腱反射の診察ができる。④小脳機能・運動系の診察ができる。</p> <p>⑤感覚系(触覚)の診察ができる。⑥髄膜刺激所見(項部硬直)を確認できる。</p> <p>〈四肢と脊柱〉</p> <p>①四肢と脊柱(弯曲、疼痛)の診察ができる。②関節(可動域、腫脹、疼痛、変形)の診察ができる。</p> <p>〈基本的臨床手技〉</p> <p>①静脈採血をシミュレータで実施できる。②手指衛生等の標準予防策(standard precautions)を実施できる。③12誘導心電図を記録できる。</p> <p>④経皮的酸素飽和度を測定できる。⑤手術や手技のための手洗いができる。⑥手術室におけるガウンテクニックができる。</p> <p>〈救急救命処置〉</p> <p>①緊急性の高い状況かどうかをある程度判断できるようになる。②一次救命処置を実施できる。</p> <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】F-3-2、F-3-5、F-3-6</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している)</p> <p>優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している)</p> <p>良：70点以上(学修到達目標を達成している)</p> <p>可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)</p>
授業概要	医学部4年次に実施。1学年を2グループに分け、グループ毎に基本臨床技能の実習を行う。
授業計画	2023年度基本臨床技能実習担当教員・スケジュールを参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	下記サイトからDVD映像を視聴して講義・実習に臨むこと。 https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/kyouyousiken/
成績評価方法	形成的評価を各ユニットの中で適宜行い、共用試験 臨床実習前客観的臨床能力試験(Pre-Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination: Pre-CC OSCE)による総合的評価を行う。 OSCE本試験：2023年9月23日(土)および24日(日) 追・再試験(兼本試予備日)：10月21日(土)および22日(日)
教科書・テキスト	<p>①診療参加型臨床実習に参加する学生に必要なとされる技能と態度に関する学修(学習)・評価項目(臨床実習前OSCE)((公社)医療系大学間共用試験実施評価機構) https://www.cato.or.jp/cbt/medical-osce/index.html</p> <p>②診療参加型臨床実習に必要な技能と態度 教育・学習用DVD ((社)医療系大学間共用試験実施評価機構) 医学部Webサイト>学生教職員の方>共用試験(OSCE・Post-CC OSCE)のDVD映像視聴 https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/kyouyousiken/</p>
参考文献	<p>・医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)</p> <p>・共用試験ガイドブック(ほぼ一年ごとに改訂されます)←4年生の全員に配付予定</p>
履修上の注意事項	臨床実習と同様の服装・身だしなみで参加すること(清潔な白衣を着用。ハイヒール、ブーツ、サンダル等の履物は禁止)。各回の会場、持ち物等は掲示等により指示するので、各自で必ず確認すること。時間厳守。
履修者への要望事項	基本臨床技能実習で使用する聴診器(膜型とベル型が分かれたタイプ)を実習開始までに購入すること。
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、プレゼンテーション、シミュレーション学習、グループ・ディスカッション
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	https://www.cato.or.jp/

臨床能力養成コース 基本臨床技能実習 担当教員

科目責任者
科目調整担当者

医学・医療教育学 高桑 修 教授
医学・医療教育学 植田典浩 講師

領域名		領域責任者	
医療面接		地域医療学	兼松孝好 教授
頭頸部診察		耳鼻咽喉・頭頸部外科学	川北大介 准教授
全身状態とバイタルサイン		循環器内科学（中央臨床検査部）	菊池祥平 助教
胸部診察（循環器）		呼吸器・免疫アレルギー内科学	上村剛大 助教
胸部診察（呼吸器）		消化器・代謝内科学	藤原 圭 准教授
腹部診察		神経内科学	大喜多賢治 講師
神経診察		整形外科学	岡本秀貴 准教授
四肢と脊柱		循環器内科学	山本惇貴 助教
基本的臨床手技		消化器外科学（中央手術部）	小川 了 講師
感染対策	外科手技	臨床感染制御学	中村 敦 教授
	一般手技		
救急救命処置		先進急性期医療学	笹野 寛 教授

授業計画

		全身状態とバイタルサイン 胸部診察1（循環器）	胸部診察2（呼吸器）
2月1日（水）	3・4限	講義 全員（3限）	講義 全員（4限）
2月8日（水）	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
2月15日（水）	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
		医療面接（1回目）	四肢と脊柱
4月11日（火）	3限	講義 全員（3限）	
4月18日（火）	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
4月25日（火）	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
		神経診察（1回目）	
4月12日（水）	3・4限	講義 全員（3限）	
4月19日（水）	3・4限	実習 Aグループ	
4月26日（水）	3・4限	実習 Bグループ	
		医療面接（2回目）	腹部診察（1回目）
4月11日（火）	4限		講義 全員（4限）
5月9日（火）	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
5月16日（火）	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
		神経（2回目）	基本的臨床手技
5月10日（水）	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
5月17日（水）	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
		感染対策（外科手技）	頭頸部の診察
5月11日（木）	3・4限	講義 全員（3限）	講義 全員（4限）
5月18日（木）	3・4限	実習 Aグループ	
5月25日（木）	3・4限	実習 Bグループ	
7月12日（水）	3・4限		実習 全員
		救命救急処置	
6月28日（水）	1限	講義 全員（1限）	
7月5日（水）	1・2限	実習（1～2限）	
		神経診察（3回目）	
6月28日（水）	3・4限	実習 Aグループ	
7月5日（水）	3・4限	実習 Bグループ	
		腹部診察（2回目）	
8月28日（月）	3・4限	実習 Aグループ	
9月1日（金）	3・4限	実習 Bグループ	
		感染対策（一般手技）	
9月1日（金）	1・2限	実習 全員	
		総復習	
9月20日（水）	3・4限	各実習の復習	
		本試験	
9月23日（土）	終日	全員	
9月24日（日）			
		追再試験（兼 本試験の予備日）	
10月21日（土）	終日	追再試験対象者（予備日として実施の場合は全員）	
10月22日（日）			

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床診断推論 (Basic) および臨床診断推論 (Advanced)
専門・教養	専門
担当教員	兼松孝好, 赤津裕康, 鈴木幹三, 大原弘隆
講義期間・曜日・時限	[Basic] 1月5日, 12日, 19日, 26日の各3・4限 計8コマ [Advanced] 10月5日, 10月12日, 10月19日の各3・4限 計6コマ

授業目的・目標	【授業目的】医師として適切な臨床診断が下せるよう、自己研鑽とチームダイナミクスの双方を用いて模擬体験をしながら、臨床診断推論の方法を習得する。 【授業目標】臨床診断がより正しくできる為に、問題志向型システムを用いた病歴聴取やカルテ記載ができると共に、臨床診断推論の具体的な手法を学ぶ。また、グループ討論の中から、より妥当な診断を得る経験を通して、チームダイナミクスの有用性や他者の意見の尊重などを重ねて学ぶ。
キーワード	臨床診断推論, カルテ記載, 医療面接
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域I abc, 領域II abod, 領域IV ad
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 問題志向型システムを意図したカルテ記載ができる。(F-3-1, F-3-3) 2. 診断推論に必要な病歴聴取や身体所見, 検査項目の確認ができる。(F-2-1, F-3-5-(1)) 3. 全身倦怠感, 腹痛, 頭痛に対し, 診断推論を図ることができる。(F-1-2, F-1-20, F-1-33) 4. 課題に対して小グループ討論により論理を展開し, 解決するための手段を提示できる。 5. チームダイナミクスを理解し, 他者との比較により自己学習課題を見つけることができる。 6. 診断推論に基づいて, 議論を行うことができる。(F-3-4) 7. 自発的な生涯自己学習を行うことができる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 (F-1 診療の基本) F-1-2) 全身倦怠感, F-1-20) 腹痛, F-1-33) 頭痛, (F-2 基本的診療知識) F-2-1) 臨床推論 (F-3 基本的診療技能) F-3-1) 問題志向型システムと臨床診断推論, F-3-2) 医療面接 F-3-3) 診療録 (カルテ), F-3-4) 臨床判断, F-3-5) 身体診察 (G-4 診療科臨床実習) G-4-4) シミュレーション教育
成績評価基準	秀: 学習到達目標を越えたレベルを達成している 優: 学習到達目標を十分に達成している 良: 学習到達目標を達成している 可: 学習到達目標を最低限達成している
授業概要	双方向講義, シミュレーション学習, TBL学習などのアクティブ・ラーニングを行う。 TBL形式によるグループ討論と学習を行った後, 診断の絞り込みを行う。最後にまとめの講義が行われる。(オンライン形式であっても, 同様の手法で実施する。)
授業計画	【Basic】 (予定) 1月05日 (木) 1-2限 双方向講義 (「腹痛」の症例提示, ディスカッション) 1月12日 (木) 1-2限 シミュレーション学習 (「腹痛」のカルテ学習) 1月19日 (木) 1-2限 TBL形式 (「腹痛」の症例提示, ディスカッション) 1月26日 (木) 1-2限 TBL形式 (「頭痛」の症例提示, ディスカッション) 【Advanced】 (予定) 10月05日 (木) 3-4限 TBL形式 (「全身倦怠感」の症例提示, ディスカッション) 10月12日 (木) 3-4限 TBL形式 (「腹痛」の症例提示, ディスカッション) 10月19日 (木) 3-4限 TBL形式 (「頭痛」の症例提示, ディスカッション) ・双方向講義については, 腹痛を題材として, 基本的な診断推論の手法を学ぶ。 ・シミュレーション学習では, カルテの書き方について, カルテの1例を題材に学習する。 ・TBLでは症例が主訴, 医療面接情報, 身体所見, 検査所見の順に提示され, それぞれのところでのような疾患・病態が考えられ, その鑑別にはどのような情報があればよいかを検討する。議論の中で自分達の理解できていない項目が明確になるため, これを学習課題とし, 分担して学習し, これを持ち寄って次週にグループ学習を行う。最後にまとめの講義で診断が提示されるとともに, 考えるべき重要な項目が指摘される。 ・一部または全講義を, オンライン形式で行う可能性があります。(内容については対面形式でもオンライン形式でも変更はありません。)
授業時間外の学修(準備学習を含む)	・講義実習について, 遅刻・欠席・早退の場合には理由を付して連絡すること。 ・連絡のない遅刻・欠席・早退については最大3倍の遅刻・欠席・早退時間として算定する。 ・学生自身にとって不利益が大きいため, 理由がない遅刻・欠席・早退は履修を認めない。
成績評価方法	各講義において, 課題を提出し採点する。課題は, 学習に対する理解度の確認の他, 参加態度なども点数化する。複数回の課題を評価し, 基準点を満たすものを合格とする。
教科書・テキスト	テキスト・適切な参考文献を自ら探して選択することも学習課題のひとつとする。
参考文献	例示 ・医学生からの診断推論～今日もホームランかつばそうぜ (山中克郎) (羊土社) ・診断推論Step by Step 症例提示の6ステップで鑑別診断を絞り込む (酒見英太) (新興医学出版社)
履修上の注意事項	・講義実習について, 遅刻・欠席・早退の場合には理由を付して連絡すること。 ・連絡のない遅刻・欠席・早退については最大3倍の遅刻・欠席・早退時間として算定する。 ・学生自身にとって不利益が大きいため, 理由がない遅刻・欠席・早退は履修を認めない。
履修者への要望事項	事前に「扱う症候 (腹痛, 頭痛, 全身倦怠感)」を指定された場合は, 独自に予習を行うこと。 予習の方法は各自で選択するため, 参考図書などの指定はない。
アクティブ・ラーニング	双方向講義, シミュレーション学習, TBL (チーム基盤型学習) 学習
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	実際の症例をベースとした症例提示を行うため, 極めて実践的である。 臨床教員が, 外来診療を行う経験を疑似体験できる。 医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

臨床診断推論ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
地域医療学(寄附講座) 教授	兼松孝好
地域医療教育学 教授(診療担当)	赤津裕康
地域包括医療学(寄附講座) 講師	鈴木幹三
西部医療センター 病院長	大原弘隆

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	5	木	1, 2	双方向講義(「腹痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
1	12	木	1, 2	シミュレーション学習(「腹痛」のカルテ学習)	兼松孝好
1	19	木	1, 2	TBL形式(「腹痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
1	26	木	1, 2	TBL形式(「頭痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
10	5	木	3, 4	TBL形式(「全身倦怠感」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
10	12	木	3, 4	TBL形式(「腹痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
10	19	木	3, 4	TBL形式(「頭痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	コミュニティヘルスケア卒前教育 行動科学・地域医療学コース コミュニティ・ヘルスケア発展 (IPE)ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：赤津裕康、川出義浩
講義期間・曜日・時限	Semester 2 2023/4/5(水)、2023/4/17(月) 3～4限目

授業目的・目標	【授業目的】 認知症終末期症例から超高齢社会、認知症の現実を把握する 【授業目標】 1) 主治医意見書の概要が説明でき作成できる、2) 認知症高齢者を理解する、3) ACPについて提案できる
キーワード	超高齢社会、介護保険、アドバンスケアプランニング (ACP:人生会議)
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	2a, 2d, 3c, 3d, 4a, 4b
学習到達目標	【学習到達目標】 SBO 1: 高齢者個別のニーズを把握することができる。 SBO 2: 高齢者の課題に対し、多職種・地域で対応する方策を提案できる。 SBO 3: 認知症予防や介護のためのコミュニティ・ヘルスプロモーション活動を提案できる。 SBO 4: Advance care planningの必要性を説明できる。 SBO 5: AIP社会における医療者の役割を説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-1-1, 2, 3) プロフェッショナルリズム、B-2-1) 死と法、 B-4-1) 医師に求められる社会性、E-8-1) 老化と高齢者の特徴、E-9-1) 生物学的死と社会的死、F-2-15) 在宅医療と介護、F-2-16) 緩和ケア、G-2-32) 物忘れ
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	本科目は、超高齢社会における、認知症、多死の問題に焦点をあてつつ、具体的症例に関して検討するとともに、自らの問題としてもとらえつつ、医師としての向き合い方をともに学びたい。
授業計画	1) 高齢者の特性を把握し、その身体的・精神的・社会的状況の理解を進める。 2) 症例を取り上げつつ、主事意見書の概略を把握し高齢者のニーズにあった介護サービスの提供を理解する。 3) 認知症の進行とその末期の状況を学び、末期高齢者の問題を具体的に捉え、終末期の状態に向けたアドバイスができる素養を習得する。
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	超高齢社会を迎えての国の施策に関する情報収集を行っておく。自らの人生に関しても将来の社会情勢を見据えて考え、医師になったときにアドバイスが行える準備を進めておく。
成績評価方法	主治医意見書の記載と提出：45点満点、3コマは講義後のレスポンスカードの提出：各5点満点の計15点満点、最終講義最後の30分で試験を行う：40点満点 合計100点で評価する。
教科書・テキスト	
参考文献	なごや認知症あんしんナビ (http://n-renkei.jp/index.html) ACPトレーニングパッケージ (http://www.ncag.go.jp/zaitaku/eol/acp/acp_training_p.html)
履修上の注意事項	本科目は、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの選択科目であり、医学部・薬学部・看護学部横断型プログラムとして履修する。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア基礎」「コミュニティ・ヘルスケア応用」「コミュニティ・ヘルスケア発展」「コミュニティ・ヘルスケア実践」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第4学年

コミュニティ・ヘルスケア発展(IPE) ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
地域医療教育学分野教授(診療担当)	赤津 裕康
地域医療教育学分野特任准教授	川出 義浩
みどり訪問クリニック院長	姜 琪鎬

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	5	水	3	主治医意見書の書き方	赤津
			4	死の体験授業	姜 琪鎬
4	17	月	3	老年医学概論	赤津、川出
			4	アドバンスケアプランニング、最後30分で試験	赤津、川出

(5) 6 年次

開講年度	2023年度
科目名	社会医学コース・予防医学応用1ユニット
専門・教養	専門
担当教員	上島通浩、伊藤由起、加藤沙耶香
講義期間・曜日・時限	2023年9月11日(月)～9月15日(金)3.4限

授業目的・目標	第6学年における社会医学（予防医学応用）コース(1)では、これまでに学んだ医学の知識を総合して医師としての実践活動に生かせるようになることが目標となる。症例・事例検討とそのプレゼンテーションを通じ、社会医学的な諸問題を医療の現場を意識しつつ学び、応用力を養う。
キーワード	労災保険法、健康管理手帳、産業医学、両立支援、安全配慮義務
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1c, 2a, 3a, 3b, 3c, 4a, 4b
学習到達目標	1. 症例・事例検討を通じて医療の現場における社会医学の視点や実践活動を理解する。 2. 課題解決に向けた説得力あるプレゼンテーションが患者や医療関係者にできるようになる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-3-1) 全人的実践的能力、A-4-1) コミュニケーション、A-4-2) 患者と医師の関係、B-1-6) 社会・環境と健康、B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度、B-4-1) 医師に求められる社会性、C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション、D-6-4)-(3) 閉塞性換気障害・拘束性換気障害をきたす肺疾患
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 症例・事例の検討：症例・事例を社会医学的側面からグループで検討し、発表する。また、必要な手続きに用いる診断書の作成練習を行う。 2. 講義：症例・事例検討に関連した内容の講義を行う。
授業計画	全5回（症例・事例の提示および関連内容の講義、学生による検討・レポート作成、プレゼンテーション）
授業時間外の学修（準備学習を含む）	初回の授業で示す授業目的をふまえ、レポートやプレゼンテーション資料の作成に臨むこと。発表については、十分準備を行うこと。
成績評価方法	レポート提出及びプレゼンテーションへの参加は必須。それぞれ以下の基準で評価し、合計点数で成績評価を行う。配点割合はレポート50%、プレゼンテーション50%（グループ発表のため、グループ評価を各人の評価と読み替える）とする。
教科書・テキスト	NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版（南江堂）。シンプル衛生公衆衛生学（南江堂）。
参考文献	その他、必要な資料は講義時に配布します。
履修上の注意事項	遅刻・欠席をしないこと。
履修者への要望事項	臨床実習を通じて学んだ患者・患者家族に対する姿勢をプレゼンテーションに活かすこと。
アクティブ・ラーニング	初回の授業で提示された症例・課題について、グループごとに担当テーマを決め、調査学習およびプレゼンテーションを行う。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	産業医としての実務経験を有する教員が講義・演習を担当する。
備考	不明な点があれば積極的に教員に質問し、十分な理解を得よう努めること。
関連URL	

2023年度 第6学年

予防医学応用1ユニット 担当教員

所属・職名
環境労働衛生学 教授
環境労働衛生学 准教授
環境労働衛生学 助教

氏 名
上島通浩
伊藤由起
加藤沙耶香

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	11	月	3	症例・事例検討	上島・伊藤・加藤
9	11	月	4	症例・事例検討	上島・伊藤・加藤
9	14	木	3	症例・事例検討	上島・伊藤・加藤
9	14	木	4	症例・事例検討	上島・伊藤・加藤
9	15	金	4	症例・事例検討	上島・伊藤・加藤

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	社会医学（予防医学応用）コース（2）
専門・教養	専門
担当教員	鈴木貞夫、西山毅、大谷隆浩、中川弘子
講義期間・曜日・時限	9月12日（火）1・2限、13日（水）1限、14日（木）1・2限

授業目的・目標	第6学年における社会医学（予防医学応用）では、これまでに学んだ医学の知識を総合して医師としての実践活動に活かせるようになることが目標となる。症例・事例検討やプレゼンテーションを通じて、社会医学的な諸問題について、医療や予防の現場を意識しつつ学び、コミュニケーション能力を含んだ応用力を養う。また、臨床疫学手法について理解し、EBMIに活かせるようにする。
キーワード	臨床疫学、生存解析、メタアナリシス、ROC解析
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 I b, II d, III a, III b, IV d
学習到達目標	1. 症例・事例検討を通じて予防・社会医学分野における実践活動を理解する。 2. 臨床疫学の基本的事項について説明できる。 3. プレゼンテーション及びコミュニケーション能力を向上させる。 【該当するモデルコアカリ】 B-I 集団に対する医療
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	1. 症例・事例の検討：症例・事例を社会医学的側面から検討する。 2. 臨床疫学実習：コンピュータ室等において講義および実習を行う。 3. 講義：症例・事例検討に関連した内容の講義を行う。
授業計画	<臨床疫学> 1. 予防医学基礎の復習 2. 生存曲線 3. 生存分析、コックスの比例ハザードモデル 4. 検査の正確さの評価、ROC曲線 5. 系統レビューとメタアナリシス
授業時間外の学修(準備学習を含む)	配布された資料を理解し、講義・実習に臨むこと。 演習において、理解が不十分であった項目については、繰り返し復習し修得するとともに、結果について考察すること。
成績評価方法	演習・実習・講義における取り組み、態度、レポートの提出状況・内容等により評価する。
教科書・テキスト	初回に全ての資料を配布する
参考文献	フリー統計ソフトEZR (Easy R) で誰でも簡単統計解析 (南江堂)
履修上の注意事項	毎回の講義内容について配布資料・参考書を基に復習し、不明な点があれば積極的に教員に質問し、十分な理解を得るよう努めること。課題レポートの提出は必須である。
履修者への要望事項	実習は積み上げ式で行うため全回出席を求める。
アクティブ・ラーニング	興味のあるテーマについて論文を選び、メタ解析を行い検討する。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第6学年

予防医学応用2(公衆衛生学) 担当教員

所属・職名	氏名
公衆衛生学 教授	鈴木 貞夫
公衆衛生学 准教授	西山 毅
公衆衛生学 講師	大谷 隆浩
公衆衛生学 助教	中川 弘子

授業計画

基礎教育棟3階 情報処理実習室

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	12	火	1	予防医学基礎の復習	鈴木・西山・大谷・中川
9	12	火	2	生存曲線	鈴木・西山・大谷・中川
9	13	水	1	生存分析、コックス比例ハザードモデル	鈴木・西山・大谷・中川
9	14	木	1	検査の正確さの評価、ROC曲線	鈴木・西山・大谷・中川
9	14	木	2	系統レビューとメタアナリシス、社会医学のまとめ	鈴木・西山・大谷・中川

開講年度	2023年度
科目名	社会医学コース 法医学診断学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	青木康博, 加藤秀章, 菅野さな枝, 福田真未子
講義期間・曜日・時限	9月11日(月) 1, 2限, 12日(火) 3, 4限, 14日(水) 2~4限, 15日(金) 1~3限

授業目的・目標	ICD-10(疾病分類)および死亡診断書(死体検案書)の構造およびその医学的・社会的意義についての理解を深めること, ならびに法医学的問題を有する症例の検討を通じ, 法医学実務への更なる理解を深めることを目的とし, 医師の活動現場において応用可能な法医学的考察力を身につける。
キーワード	死亡診断書, 死体検案, 法病理学, 法中毒学, 法鑑定
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1a, 1b, 1c, 111b, 1Vd
学習到達目標	1. 法医学分野の実践活動を理解する。 2. 医療現場において生ずる法医学的問題を説明できる。 3. 総合的に死因・死亡の種類を判断し, 死亡診断書(死体検案書)が適切に作成できる。 【該当するモデルコアカリ】A-1-3) 医師としての責務と裁量権, A-2-1) 課題探求・解決能力, A-6-1) 安全性の確保, A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防, A-9-1) 生涯学習への準備, B-2-1) 死と法, B-2-2) 診療情報と諸明書, B-4-1) 医師に求められる社会性, D-1 血液・造血器・リンパ系, D-2 神経系, D-5 循環器系, D-6 呼吸器系, D-7 消化器系, E-9) 人の死 F-1-37) 外傷・熱傷, F-2-4) 病理診断
成績評価基準	合格:60点以上(学修到達目標を達成している)
授業概要	死亡診断書作成演習。法医学症例検討演習・発表
授業計画	授業計画表参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	与えられた課題に対し, 臨床医学的観点からも考察が行えるよう, 臨床各科で学んだ内容等を再確認すること。
成績評価方法	提出物・レポート(1/3), プレゼンテーションおよび討論(2/3) 授業参加度, グループ活動の成果等により評価する。
教科書・テキスト	教科書は特にしないが, 内外の法医学, 中毒学等のテキストを参照されたい。
参考文献	
履修上の注意事項	資料は当日または前もって配布する。レポートはLiveCampusを利用して提出すること。
履修者への要望事項	積極的な取り組みを期待する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, グループディスカッション, 調査学習, 全体討論を実施する。
連絡先・オフィスアワー	
実務経験を活かした教育の取組	法医学実務の経験を有する教員が担当する。
備考	
関連URL	

法医診断学 担当教員

所属・職名	氏名
法医学分野・教授	青木康博
法医学分野・准教授	加藤秀章
法医学分野・講師	菅野さな枝
法医学分野・助教	福田真未子

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
9	11	月	1	症例検討演習ガイドンス・死亡診断書作成(講義, 講義室A)	青木康博
9	11	月	2	死亡診断書作成演習(講義室A・B)	青木康博
9	12	火	3	死亡診断書作成演習(講義室A)	青木康博
9	12	火	4	症例検討演習(講義室A・B)	青木康博
9	13	水	2	症例検討演習(講義室A・B)	全教員
9	13	木	3	症例検討演習(講義室A・B)	全教員
9	13	金	4	症例検討演習(講義室A・B)	全教員
9	15	金	1	症例検討(全体発表, 講義室A・B)	全教員
9	15	金	2	症例検討(全体発表, 講義室A・B)	全教員
9	15	金	3	症例検討(全体発表, 講義室A・B)	全教員

10. 規程・資料集

(1) 医学部履修規程（2022年1月発布版）

名古屋市立大学医学部履修規程

目次

- 第1章 総則（第1条）
- 第2章 教養教育科目（第2条―第13条の4）
- 第3章 専門教育科目（第14条―第20条の2）
- 第3章の2 他学部との単位互換（第20条の3―第20条の8）
- 第4章 進級及び卒業要件（第21条―第25条）
- 第5章 雑則（第26条）
- 附則

（一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号、平成22年達第37号、平成23年達第1号、平成23年達第16号、令和2年達第11号）

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この規程は、名古屋市立大学学則（平成18年公立大学法人名古屋市立大学学則第1号。以下「学則」という。）第41条の規定に基づき、医学部（以下「本学部」という。）の授業科目、授業時間数（教養教育科目にあつては単位数）及び履修方法等（以下「履修方法等」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（一部改正 平成20年達第41号、令和2年達第11号、令和5年達第24号）

第2章 教養教育科目

（授業科目及び単位数）

第2条 授業科目、配当年次、単位数及び必修・選択・自由の区分は、別表1のとおりとする。

（一部改正 平成27年達第10号）

（単位の計算の基準）

第3条 授業科目の単位数は、45時間の学修内容をもって1単位とし、授業形態に応じて次の各号に定める基準により計算する。

- (1) 講義 15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習 15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技 30時間の授業をもって1単位とする。

（一部改正 平成30年達第19号、令和5年達第24号）

（修得必要単位数）

第4条 教養教育科目における修得必要単位数は、別表2のとおりとする。

（履修の届出）

第5条 学生は、年度の始めにおいて、前期及び後期に履修しようとする授業科目について指定された期間内に、所定の手続きにより届け出なければならない。

2 前項の規定により届け出た後期の授業科目については、後期において指定された期間内に所定の手続きにより変更（授業科目の追加を含む。）することができる。

（履修の取消）

第6条 学生は、指定された期間内に所定の手続きにより履修の取り消しをすることができる。

（履修方法）

第7条 必修科目は、配当年次において履修しなければならない。

2 授業時間の重なる授業科目（専門教育科目の授業科目を含む。）は、重複して履修することはできない。

3 第5条の規定により届け出た授業科目以外の授業科目は、履修することができない。

4 既に単位を修得した授業科目は、再履修することはできない。

5 授業科目によっては、履修者数及び履修資格を定めることがある。

6 授業科目のうち、履修するクラスを指定する科目（以下「指定科目」という。）は、原則として指定されたクラス以外で履修することはできない。ただし、指定科目を再履修するため、同一授業時間の別の指定科目が履修できない場合は、指定されたクラス以外で履修できることがある。

（一部改正 平成19年達第52号、令和5年達第24号）

(試験)

第8条 試験については、名古屋市立大学試験及び成績に関する規程（令和5年公立大学法人名古屋市立大学達第8号。以下「試験及び成績に関する規程」という。）第2条に定める。

(一部改正 令和5年達第24号)

(追試験)

第9条 追試験については、試験及び成績に関する規程第4条に定める。

(一部改正 令和5年達第24号)

(再試験)

第10条 試験に不合格となった授業科目については、再試験を受けることができる。

2 再試験を受けることができる学生は、試験の成績が50点以上の者とし、指定された期間内に再試験受験願を提出し、再試験料を納付しなければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号)

(成績)

第11条 成績及び成績評価については、試験及び成績に関する規程第5条及び第6条に定める。

(一部改正 平成19年達第52号、平成22年達第37号、令和5年達第24号)

(再履修)

第12条 不合格又は失格となった授業科目については、再履修しなければ受験資格を与えない。

2 再履修をしようとする学生は、事前に担当教員の許可を受けなければならない。

3 再履修をする場合、指定科目については原則として前年度所属クラスにおいて履修しなければならない。ただし、授業編成の都合でその授業時間に履修できない場合には、異なる学期又は他のクラスで履修できることがある。

(一部改正 平成19年達第52号)

(入学前の既修得単位の認定)

第13条 入学前の既修得単位の認定は、学則第40条の規定に従い、教授会の議を経て行う。

2 既修得単位の認定を受けようとする学生は、指定された期間内に既修得単位認定申請書を提出しなければならない。

(一部改正 令和5年達第24号)

(学外における学修の単位認定)

第13条の2 学則第40条の2の規定により単位を認定することのできる学修及び単位数は、別表2の2のとおりとする。

2 前項に規定する単位の認定を受けようとする学生は、指定された期間内に学外における学修に係る単位認定申請書を提出しなければならない。

(一部改正 平成20年達第41号)

(履修登録単位数の上限)

第13条の3 1つの学期に履修科目として登録できる単位数の上限は、別に定める場合を除き26単位とする。

(一部改正 平成22年達第37号、平成30年達第19号)

(単位の取消)

第13条の4 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

(一部改正 平成23年達第1号)

第3章 専門教育科目

(授業科目及び授業時間数)

第14条 授業科目は、別表3のとおりとする。

2 授業科目の時間数及び配当年次は、別に定める。

3 授業科目は、選択制コースを除き必修とする。

4 学校推薦型選抜（中部圏活躍型・名古屋市高大接続型）により入学した学生は、MD-PhDコースを履修しなければならない。

(一部改正 平成31年達第9号、令和3年達第8号)

(試験)

第15条 試験については、試験及び成績に関する規程第2条に定める。

2 試験及び成績に関する規程第2条第3項の規定にかかわらず、実習にあっては、当該授業科目の全時間数への出席がない場合は失格とし、成績評価を行わないものとする。平常の履修実績等により、教授会の議を経て、学部長が当該授業科目を修了する見込みがないと判断した場合も同様とする。

3 前2項に定めるもののほか、試験の実施については別に定める。

(一部改正 平成27年達第47号、平成31年達第9号、令和3年達第98号、令和5年達第24号)

(試験の時期等)

第16条 定期試験は、原則として学期末又はその授業の構成単位を終了するときに行う。

2 随時試験は、その授業科目の担当教員が必要の都度行う。

(再試験)

第17条 試験に不合格となった授業科目については、担当教員の許可を得て、再試験受験願を提出することにより、再試験を1回受けることができる。

2 前項の規定にかかわらず、第5年次及び第6年次に配当又は構成された専門教育科目の試験に不合格となった者のうち、不合格の授業科目が4科目以下の場合、授業科目ごとにさらに1回に限り再試験を受けることができる。

(一部改正 令和5年達第24号)

(再試験の時期等)

第18条 再試験は、担当教員の定めるところにより行う。

2 再試験は、遅くとも学年末までには終了し、成績評価を行う。

(追試験)

第19条 追試験については、試験及び成績に関する規程第4条に定める。

2 試験及び成績に関する規程第4条第2項に規定する追試験受験願の提出については、事前に担当教員の許可を得て、試験欠席届と併せて提出しなければならない。

3 追試験を行う場合の時期等については、前条第2項の規定を準用する。

(一部改正 平成19年達第52号、令和5年達第24号)

(成績)

第20条 成績及び成績評価については、試験及び成績に関する規程第5条及び第6条に定める。

(一部改正 平成19年達第52号、平成22年達第37号、令和5年達第24号)

(単位の取消)

第20条の2 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

(一部改正 平成23年達第1号)

第3章の2 他学部との単位互換

(一部改正 平成19年達第52号)

(授業科目)

第20条の3 学生は、別に定めるところにより、他学部の授業科目を履修することができる。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(履修の届出)

第20条の4 他学部の授業科目の履修を希望する場合は、指定された期間内に所定の様式により届け出なければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(履修の取消)

第20条の5 他学部の授業科目の履修を取り消す場合は、指定された期間内に所定の様式により届け出なければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(履修方法)

第20条の6 学生は、他学部の授業科目を履修する場合には、他学部の履修規程等の規定に従い、履修しなければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(単位の認定及び取消)

第20条の7 他学部の授業科目を履修した学生の単位の認定は、当該学部より送付される成績証明書等に基づき、本学部が行う。

2 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(その他)

第20条の8 単位互換に関し、この規程に定めのない事態が生じた場合には、その対処の方法について、教授会の議を経て、学部長が決定する。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

第4章 進級及び卒業要件

(進級判定)

第21条 各学年の進級判定は次に定めるところによる。

(1) 次のいずれかに該当する者は、第2年次に進級できない。

ア 第1年次終了時において、第4条に定める修得すべき単位を修得できない者

イ 第1年次に配当された専門教育科目を1科目でも修了できない者

(2) 第2年次以降、各年次に配当又は構成された単位の専門教育科目（各年次において総合試験が実施される場合は、当該試験を含む。）を1科目でも修了できない者は、次年次に進級できない。

(3) 前号の規定にかかわらず、第2年次終了時及び第3年次終了時において、未修了科目が2科目以下の者については仮進級とする。

(4) 仮進級した学年において、前学年の未修了科目が当該学年の終了時までには修了できない場合は、次年次に進級できない。

（一部改正 平成23年達第16号、令和5年達第24号）

（原級留置及び再履修）

第22条 第2年次から第5年次までの次年次に進級できないと判定された者及び第6年次において卒業が不可と判定された者は、原級に留まり、その学年に配当された全科目を再履修しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、教授会の議を経て、学部長が指定した専門教育科目については、再履修を要しない。

（一部改正 平成23年達第16号、平成27年達第47号、令和5年達第24号）

第23条 削除

（一部改正 平成23年達第16号、平成27年達第47号）

（除籍）

第24条 学則第30条第2項の規定に基づき、次のいずれかに該当する者は、除籍する。

(1) 入学あるいは進級後3年に至っても、なお、次年次に進級できない者

(2) 在学年数が入学後8年に至っても、なお、第5年次に進級できない者

（一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第16号、令和5年達第24号）

（卒業の認定）

第25条 所定の期間在学し、第4条に定める修得すべき単位及び第14条に定める全ての授業科目を修得した者は、卒業資格を認定する。ただし、第14条第4項に定める場合においては、MD-PhDコースを修得することを卒業要件に含めない。

（一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第16号、令和3年達第8号）

第5章 雑則

（その他）

第26条 この規程に定めるもののほか、履修方法等に関し必要な事項は、教授会の議を経て、学部長が定める。

（一部改正 平成23年達第16号、平成27年達第47号）

附 則

（略）

附 則（令和5年公立大学法人名古屋市立大学達第24号）

（施行期日）

1 この規程は、令和5年4月1日（以下「施行日」という。）から施行する。

（経過措置）

2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）第3条第3号並びに別表1及び別表2の規定は、令和5年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、令和4年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、なお従前の例による。

3 前項の規定にかかわらず、令和4年度以前に入学した学生に係る履修方法等について、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会の議を経て学部長が別に定める。

4 改正後規程第21条第3号及び第4号の規定は、施行日以後において第2年次又は第3年次に属する学生について適用する。

5 令和5年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。

6 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な経過措置は、教授会の議を経て学部長が定める。

別表 1

区 分		授 業 科 目	授業 形態	配当 年次	単 位 数		
					必修	選択	自由
共 通 科 目	大 学 特 色 科 目	NCUラーニング・コンパス	講義	1	1		
		ヘルシーライフ	講義	1		2	
		キャリアデザインA	講義	1		2	
		キャリアデザインB	講義	1		2	
		SDGsを考える：医療系	講義	1			2
		SDGsを考える：自然系	講義	1		2	
		SDGsを考える：数理情報系	講義	1		2	
		SDGsを考える：社会科学系	講義	1		2	
		SDGsを考える：人文系	講義	1		2	
		名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題	講義	1		2	
		科学館・博物館・美術館から知る名古屋	講義	1		2	
		近世名古屋の歴史	講義	1		2	
		大学生から始めるESD	講義	1		2	
		まちづくり論	講義	1		1	
		キャリアデザイン（実践編）	講義	1		2	
		起業家になる	講義	1		2	
		地域社会で活躍する女性	講義	1		2	
		ワークライフバランスとダイバーシティ	講義	1		2	
		多文化共生と国際貢献	講義	1		2	
		持続可能な社会と私たち	講義	1		2	
		ESDと地域の環境	講義	1		2	
		次世代エネルギーワークショップ	講義	1		2	
		現 代 社 会 の 諸 相	日本国憲法	講義	1		2
	なぜ憲法が必要なのか		講義	1		2	
	現代社会と法		講義	1		2	
	知的財産権入門		講義	1		2	
	人と法と医療		講義	1		2	
	国民所得はどう決まるか？		講義	1		2	
	ゲーム的狀況を科学する		講義	1		2	
	公共政策：健康と暮らしの社会科学		講義	1		2	
	はじめての経営学		講義	1		2	
	企業診断ABC		講義	1		2	
	社会科学のデータ分析		講義	1		2	
	社会学A		講義	1		2	
	社会学B		講義	1		2	
	社会学C		講義	1		2	
	新聞報道の現場から		講義	1		2	
	人間の行動・心理と建築		講義	1		2	
	平和論		講義	1		2	
	私たちの暮らしと政治・行政・地方自治		講義	1		2	
	国際政治		講義	1		2	
	比較政治史		講義	1		2	
	シティズンシップ入門	講義	1		2		
地域力を高めるひとづくり	講義	1		2			
探 求 文 化 と 人 間 性 の	日本文化の理解	講義	1		2		
	人類学	講義	1		2		
	日本語コミュニケーション	講義	1		2		
	囲碁に学ぶ	講義	1		2		
	ヨーロッパの文化と歴史	講義	1		2		
	文化に見る歴史	講義	1		2		

		アメリカ史入門	講義	1		2	
		都市と地域構造の地理学	講義	1		2	
		音楽と文化	講義	1		2	
		デザインと情報	講義	1		2	
		人間と表現	講義	1		2	
		自分とみんなで考える哲学	講義	1		2	
		応用倫理学	講義	1		2	
		心理学概論	講義	1		2	
		心理学入門	講義	1		2	
		西洋の教育と哲学	講義	1		2	
		次世代育成と地域の課題	講義	1		2	
		デジタル時代の人文学	講義	1		2	
		世界を理解するための宗教学	講義	1		2	
		日本の宗教の歴史と文化	講義	1		2	
		キー・コンピテンシー	講義	1		2	
	人間と自然	科学史	講義	1		2	
		環境と社会・制度・政治・経済	講義	1		2	
		環境科学	講義	1		2	
		植物の多様性と環境	講義	1		2	
		動物とヒトの進化多様性	講義	1		2	
		社会と医学	講義	1		2	
		くすりと社会	講義	1		2	
		都市と自然	講義	1		2	
		健康と生活	講義	1		2	
		行動生態学	講義	1		2	
	自然と数理の探求	教養として知っておきたい様々な病気の実態	講義	1			2
		創薬と生命	講義	1		2	
		宇宙のなりたち	講義	1		2	
		植物とバイオテクノロジー	講義	1		2	
		エネルギーのサイエンス	講義	1		2	
		バイオサイエンス入門	講義	1		2	
		情報と数理の世界	講義	1		2	
		データサイエンスへの誘い	講義	1		2	
		地球史入門	講義	1		2	
		地域生態学	講義	1		2	
語学科目	英語	IS: Community	演習	1		1	
		IS: Social Justice	演習	1		1	
		IS: Life & Work	演習	1		1	
		IS: Health & Well-being	演習	1		1	
		IS: The Arts	演習	1		1	
		AE: Make a Difference in Your Community	演習	1		2	
		AE: Interact Internationally	演習	1		2	
		AE: Improve Life Skills	演習	1		2	
		AE: Raise Health/ Environmental Awareness	演習	1		2	
		AE: Produce a Movie	演習	1		2	
		CS: Presentation	演習	1		2	
		CS: Grammar and Usage	演習	1		2	
		CS: TOEIC Preparation	演習	1		2	
		CS: Writing	演習	1		2	
		EM: World News	演習	1		2	

		EM: Popular Culture	演習	1		2	
		EM: Reading for Inspiration	演習	1		2	
		EM: Online Articles and Videos	演習	1		2	
	その他の言語	ドイツ語初級1	演習	1		2	
		ドイツ語初級2	演習	1		2	
		フランス語初級1	演習	1		2	
		フランス語初級2	演習	1		2	
		中国語初級1	演習	1		2	
		中国語初級2	演習	1		2	
		韓国語初級1	演習	1		2	
		韓国語初級2	演習	1		2	
		スペイン語初級1	演習	1		2	
		スペイン語初級2	演習	1		2	
		日本手話初級1	演習	1		2	
		日本手話初級2	演習	1		2	
		ポルトガル語入門	演習	1		2	
		ロシア語入門	演習	1		2	
		イタリア語入門	演習	1		2	
		アラビア語入門	演習	1		2	
		ドイツ語初級会話1	演習	1			2
		ドイツ語初級会話2	演習	1			2
		フランス語初級会話1	演習	1			2
		フランス語初級会話2	演習	1			2
	中国語初級会話1	演習	1			2	
	中国語初級会話2	演習	1			2	
	情報科目	情報リテラシー	講義・演習	1	1		
		医療統計学基礎	講義・演習	1	1		
		データサイエンス・リテラシー	講義・演習	1		1	
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学	講義	1	1		
	ボランティア科目	ボランティア科目1	実習	1			1
		ボランティア科目2	実習	1			1
基礎科目	物理学	力学	講義	1		2	
		電磁気学	講義	1		2	
		波動・熱力学	講義	1		2	
	化学	有機化学	講義	1		2	
		生体分子化学	講義	1		2	
	生物学	基礎生物学	講義	1		2	
		生物学	講義	1		2	
	自然科学実験	自然科学実験	実験	1	1		
	数学・統計学	微分積分学	講義	1		2	
		線形代数学Ⅰ	講義	1		2	
線形代数学Ⅱ		講義	1		2		
地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習	演習・実習	1	2			

注 本表に掲げる授業科目のほかセミナー及び開放科目を、教授会の議を経て開設し単位を与えることがある。

(一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号、平成21年達第29号、平成22年達第37号、平成23年達第16号、平成24年達第18号、平成25年達第16号、平成26年達第11号、平成27年達第10号、平成28年達第10号、平成30年達第19号、平成31年達第9号、令和2年達第11号、令和3年達第8号、令和4年達第18号、令和5年達第24号)

別表2

区 分			最低修得必要単位数
共 通 科 目	一般教養 科目	大学特色科目	5 単位
		現代社会の諸相	* 8 単位
		文化と人間性の探求	
		人間と自然	
		自然と数理の探求	2 単位
	語学科目	英語	6 単位
		その他の言語	4 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		1 単位
	ランティア科目		
基 礎 科 目	物理学		8 単位
	化学		
	生物学		
	自然科学実験		1 単位
	数学・統計学		4 単位
	地域参加型学習	医 薬 看 連 携 地 域 参加型学習	2 単位
教養教育科目合計			43単位

注 単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て4単位まで本表*印欄の必要単位数に算入することができる。

(一部改正 平成20年達第41号、平成21年達第29号、平成22年達第37号、平成24年達第18号、平成25年達第16号、平成26年達第11号、平成28年達第10号、平成30年達第19号、令和5年達第24号)

別表2の2

検定試験の種類	語学科目[英語]	
	2単位	4単位
実用英語技能検定	準1級	1級
TOEIC / TOEIC L&R	730～799点	800点以上
TOEFL (iBT)	77～88点	89点以上

注1 申請はいずれか1種類に限る。

注2 認定の対象科目は「CS: TOEIC Preparation (2単位)」又は「CS: Grammar and Usage (2単位)」とし、認定単位は4単位を上限とする。
(一部改正 平成20年達第41号、平成23年達第16号、平成30年達第19号)

別表3

区分	授業科目		授業形態
	コース名	ユニット名	
基礎医学	解剖学コース	肉眼解剖学	講義・実習
		組織学・発生学・神経解剖学	講義・実習
	生化学コース	物質と代謝	講義・実習
		分子と細胞	講義・実習
	生理学コース	植物的機能系	講義・実習
		動物的機能系	講義・実習
臨床基礎医学	病理学コース	病態病理	講義・実習
		臨床病理	講義・実習
	薬理学コース	薬理学	講義・実習
	感染微生物コース	医動物学	講義・実習
		細菌学	講義・実習
		ウイルス学	講義・実習
免疫学コース	免疫学	講義・実習	
社会医学	社会医学コース	予防医学基礎	講義・実習・演習
		予防医学応用	講義・実習・演習
		法医学	講義・実習
		法医診断学	講義・演習
		医学・医療倫理	講義
		医学情報学	講義
臨床医学	臨床医学コース	血液・造血器・リンパ系	講義
		神経系	講義
		皮膚系	講義
		運動器系・リハビリテーション	講義
		循環器系	講義
		呼吸器系	講義
		消化器系・内視鏡	講義
		腎・尿路系	講義

		生殖機能	講義
		妊娠と分娩	講義
		乳房	講義
		内分泌・栄養・代謝系	講義
		眼・視覚系	講義
		耳鼻・咽喉・口腔系	講義
		精神系	講義
		臨床感染症学	講義
		成長と発達／発生	講義
		麻酔科学・集中治療医学	講義
		食事と栄養療法	講義
		放射線等を用いる診断と治療	講義
		輸血と移植	講義
		膠原病	講義
		臨床腫瘍学	講義
		救急科	講義
		漢方医学	講義
		臨床処方学	講義
臨床実習	臨床実習コース	臨床実習	実習
		選択制臨床実習	実習
統合教育	総合医学コース	医学入門	講義
		水平統合基礎	講義
		水平統合病態	講義
	行動科学・地域医療学コース	行動科学	講義
		神経科学	講義
		疼痛科学	講義
		疼痛医学（痛みと行動科学）	講義
		コミュニティ・ヘルスケア基礎（IPE）	講義
		コミュニティ・ヘルスケア応用（IPE）	講義・実習
		コミュニティ・ヘルスケア発展（IPE）	講義
		コミュニティ・ヘルスケア実践（IPE）	実習
	研究能力養成コース	学術論文入門	講義・実習
		Scientific Writing and Presentation	講義
		先端研究	講義
		遺伝医学	講義
		基礎自主研修	実習
	臨床能力養成コース	救命救急	講義・実習
		臨床診断推論	講義・演習
		基本臨床技能実習	講義・実習
	選択制コース	MD-PhDコース	実習
BRJ活動		実習	

注1 必要がある場合、授業科目及び授業時間数は、教授会の議を経て変更することができる。

注2 コミュニティ・ヘルスケア実践は総合内科臨床実習の一部として行う。

注3 上記科目以外に各段階の評価として以下のものを行う。

臨床前教育（臨床実習資格認定試験、共用試験CBT、共用試験OSCE）

卒業試験（共用試験Post-CC OSCE、総合客観試験）

注4 臨床医学コース（漢方医学及び臨床処方学を除く。）及び疼痛医学（痛みと行動科学）の評価は、臨床実習資格認定試験によって行う。

注5 基本臨床技能実習の評価は、共用試験OSCEによって行う。

注6 IPE：Interprofessional Education

（一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号、平成21年達第29号、平成22年達第37号、平成23年達第16号、平成26年達第11号、平成27年達第10号、平成30年達第19号、平成31年達第9号、令和2年達第11号、令和3年達第8号、令和4年達第18号）

(2) 医学教育モデル・コア・カリキュラム

以下は、医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成 28 年度改訂版）の項目を抜粋したものである。詳細は、文部科学省ウェブサイトを参照すること。

医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成 28 年度改訂版) (項目抜粋)

A 医師として求められる基本的な資質・能力	C-4 病因と病態	D-9-2) 診断と検査の基本
A-1 プロフェッショナリズム	C-4-1) 遺伝的多様性と疾患	D-9-3) 症候
A-1-1) 医の倫理と生命倫理	C-4-2) 細胞傷害・変性と細胞死	D-9-4) 疾患
A-1-2) 患者中心の視点	C-4-3) 代謝障害	D-10 妊娠と分娩
A-1-3) 医師としての責務と裁量権	C-4-4) 循環障害、臓器不全	D-10-1) 構造と機能
A-2 医学知識と問題対応能力	C-4-5) 炎症と創傷治癒	D-10-2) 診断と検査の基本
A-2-1) 課題探求・解決能力	C-4-6) 腫瘍	D-10-3) 症候
A-2-2) 学修の在り方	C-5 人の行動と心理	D-10-4) 疾患
A-3 診療技能と患者ケア	C-5-1) 人の行動	D-10-5) 産科手術
A-3-1) 全人的実践的能力	C-5-2) 行動の成り立ち	D-11 乳房
A-4 コミュニケーション能力	C-5-3) 動機付け	D-11-1) 構造と機能
A-4-1) コミュニケーション	C-5-4) ストレス	D-11-2) 診断と検査の基本
A-4-2) 患者と医師の関係	C-5-5) 生涯発達	D-11-3) 症候
A-5 チーム医療の実践	C-5-6) 個人差	D-11-4) 疾患
A-5-1) 患者中心のチーム医療	C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション	D-12 内分泌・栄養・代謝系
A-6 医療の質と安全管理	C-5-8) 行動変容における理論と技法	D-12-1) 構造と機能
A-6-1) 安全性の確保	D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療	D-12-2) 診断と検査の基本
A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防	D-1 血液・造血器・リンパ系	D-12-3) 症候
A-6-3) 医療従事者の健康と安全	D-1-1) 構造と機能	D-12-4) 疾患
A-7 社会における医療の実践	D-1-2) 診断と検査の基本	D-13 眼・視覚系
A-7-1) 地域医療への貢献	D-1-3) 症候	D-13-1) 構造と機能
A-7-2) 国際医療への貢献	D-1-4) 疾患	D-13-2) 診断と検査の基本
A-8 科学的探究	D-2 神経系	D-13-3) 症候
A-8-1) 医学研究への志向の涵養	D-2-1) 構造と機能	D-13-4) 疾患
A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	D-2-2) 診断と検査の基本	D-14 耳鼻・咽喉・口腔系
A-9-1) 生涯学習への準備	D-2-3) 症候	D-14-1) 構造と機能
B 社会と医学・医療	D-2-4) 疾患	D-14-2) 診断と検査の基本
B-1 集団に対する医療	D-3 皮膚系	D-14-3) 症候
B-1-1) 統計の基礎	D-3-1) 構造と機能	D-14-4) 疾患
B-1-2) 統計手法の適用	D-3-2) 診断と検査の基本	D-15 精神系
B-1-3) 根拠に基づいた医療<EBM>	D-3-3) 症候	D-15-1) 診断と検査の基本
B-1-4) 疫学と予防医学	D-3-4) 疾患	D-15-2) 症候
B-1-5) 生活習慣とリスク	D-4 運動器(筋骨格)系	D-15-3) 疾患
B-1-6) 社会・環境と健康	D-4-1) 構造と機能	E 全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療
B-1-7) 地域医療・地域保健	D-4-2) 診断と検査の基本	E-1 遺伝医療・ゲノム医療
B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度	D-4-3) 症候	E-1-1) 遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性
B-1-9) 国際保健	D-4-4) 疾患	E-2 感染症
B-2 法医学と関連法規	D-5 循環器系	E-2-1) 病態
B-2-1) 死と法	D-5-1) 構造と機能	E-2-2) 診断・検査・治療の基本
B-2-2) 診療情報と諸証明書	D-5-2) 診断と検査の基本	E-2-3) 症候
B-3 医学研究と倫理	D-5-3) 症候	E-2-4) 疾患
B-3-1) 倫理規範と実践倫理	D-5-4) 疾患	E-3 腫瘍
B-4 医療に関連のある社会科学領域	D-6 呼吸器系	E-3-1) 定義・病態
B-4-1) 医師に求められる社会性	D-6-1) 構造と機能	E-3-2) 診断
C 医学一般	D-6-2) 診断と検査の基本	E-3-3) 治療
C-1 生命現象の科学	D-6-3) 症候	E-3-4) 診療の基本的事項
C-1-1) 生命の最小単位－細胞	D-6-4) 疾患	E-3-5) 各論
C-1-2) 生物の進化	D-7 消化器系	E-4 免疫・アレルギー
C-2 個体の構成と機能	D-7-1) 構造と機能	E-4-1) 診断と検査の基本
C-2-1) 細胞の構成と機能	D-7-2) 診断と検査の基本	E-4-2) 症候
C-2-2) 組織・各臓器の構成、機能と位置関係	D-7-3) 症候	E-4-3) 病態と疾患
C-2-3) 個体の調節機能とホメオスタシス	D-7-4) 疾患	E-5 物理・化学的因子による疾患
C-2-4) 個体の発生	D-8 腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)	E-5-1) 診断と検査の基本
C-2-5) 生体物質の代謝	D-8-1) 構造と機能	E-5-2) 症候
C-3 個体の反応	D-8-2) 診断と検査の基本	E-5-3) 疾患
C-3-1) 生体と微生物	D-8-3) 症候	E-6 放射線の生体影響と放射線障害
C-3-2) 免疫と生体防御	D-8-4) 疾患	E-6-1) 生体と放射線
C-3-3) 生体と薬物	D-9 生殖機能	E-6-2) 医療放射線と生体影響
	D-9-1) 構造と機能	E-6-3) 放射線リスクコミュニケーション

- E-6-4) 放射線災害医療
- E-7 成長と発達
 - E-7-1) 胎児・新生児
 - E-7-2) 乳幼児
 - E-7-3) 小児期全般
 - E-7-4) 思春期
- E-8 加齢と老化
 - E-8-1) 老化と高齢者の特徴
- E-9 人の死
 - E-9-1) 生物的死と社会的死
- F 診療の基本
 - F-1 症候・病態からのアプローチ
 - F-1-1) 発熱
 - F-1-2) 全身倦怠感
 - F-1-3) 食思(欲)不振
 - F-1-4) 体重減少・体重増加
 - F-1-5) ショック
 - F-1-6) 心停止
 - F-1-7) 意識障害・失神
 - F-1-8) (けいれん
 - F-1-9) めまい
 - F-1-10) 脱水
 - F-1-11) 浮腫
 - F-1-12) 発疹
 - F-1-13) 咳・痰
 - F-1-14) 血痰・喀血
 - F-1-15) 呼吸困難
 - F-1-16) 胸痛
 - F-1-17) 動悸
 - F-1-18) 胸水
 - F-1-19) 嚥下困難・障害
 - F-1-20) 腹痛
 - F-1-21) 悪心・嘔吐
 - F-1-22) 吐血・下血
 - F-1-23) 便秘・下痢
 - F-1-24) 黄疸
 - F-1-25) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘍
 - F-1-26) 貧血
 - F-1-27) リンパ節腫脹
 - F-1-28) 尿量・排尿の異常
 - F-1-29) 血尿・タンパク尿
 - F-1-30) 月経異常
 - F-1-31) 不安・抑うつ
 - F-1-32) もの忘れ
 - F-1-33) 頭痛
 - F-1-34) 運動麻痺・筋力低下
 - F-1-35) 腰背部痛
 - F-1-36) 関節痛・関節腫脹
 - F-1-37) 外傷・熱傷
 - F-2 基本的診療知識
 - F-2-1) 臨床推論
 - F-2-2) 根拠に基づいた医療<EBM>
 - F-2-3) 臨床検査
 - F-2-4) 病理診断
 - F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療
 - F-2-6) 内視鏡を用いる診断と治療
 - F-2-7) 超音波を用いる診断と治療
 - F-2-8) 薬物治療の基本原則
 - F-2-9) 外科的治療と周術期管理
- F-2-10) 麻酔
- F-2-11) 食事・栄養療法と輸液療法
- F-2-12) 医療機器と人工臓器
- F-2-13) 輸血と移植
- F-2-14) リハビリテーション
- F-2-15) 在宅医療と介護
- F-2-16) 緩和ケア
- F-3 基本的診療技能
 - F-3-1) 問題志向型システムと臨床診断推論
 - F-3-2) 医療面接
 - F-3-3) 診療録(カルテ)
 - F-3-4) 臨床判断
 - F-3-5) 身体診察
 - F-3-6) 基本的臨床手技
- G 臨床実習
 - G-1 診療の基本
 - G-1-1) 臨床実習
 - G-2 臨床推論
 - G-2-1) 発熱
 - G-2-2) 全身倦怠感
 - G-2-3) 食思(欲)不振
 - G-2-4) 体重減少・体重増加
 - G-2-5) ショック
 - G-2-6) 心停止
 - G-2-7) 意識障害・失神
 - G-2-8) (けいれん
 - G-2-9) めまい
 - G-2-10) 脱水
 - G-2-11) 浮腫
 - G-2-12) 発疹
 - G-2-13) 咳・痰
 - G-2-14) 血痰・喀血
 - G-2-15) 呼吸困難
 - G-2-16) 胸痛
 - G-2-17) 動悸
 - G-2-18) 胸水
 - G-2-19) 嚥下困難・障害
 - G-2-20) 腹痛
 - G-2-21) 悪心・嘔吐
 - G-2-22) 吐血・下血
 - G-2-23) 便秘・下痢
 - G-2-24) 黄疸
 - G-2-25) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘍
 - G-2-26) 貧血
 - G-2-27) リンパ節腫脹
 - G-2-28) 尿量・排尿の異常
 - G-2-29) 血尿・タンパク尿
 - G-2-30) 月経異常
 - G-2-31) 不安・抑うつ
 - G-2-32) もの忘れ
 - G-2-33) 頭痛
 - G-2-34) 運動麻痺・筋力低下
 - G-2-35) 腰背部痛
 - G-2-36) 関節痛・関節腫脹
 - G-2-37) 外傷・熱傷
 - G-3 基本的臨床手技
 - G-3-1) 一般手技
 - G-3-2) 検査手技
 - G-3-3) 外科手技
- G-3-4) 救命処置
- G-4 診療科臨床実習
 - G-4-1) 必ず経験すべき診療科
内科、外科、小児科、産婦人科、精神科
総合診療科、救急科
 - G-4-2) 上記以外の診療科
 - G-4-3) 地域医療実習
 - G-4-4) シミュレーション教育

(3) 成績疑問票

成績疑問票取扱要綱

(目的)

第1条 この要綱は、成績疑問票の取扱いについて必要な事項を定めることにより、本学における成績評価の透明性を担保することを目的とする。

(疑問票)

第2条 成績疑問票は、別紙様式1とする。

(提出期間)

第3条 成績疑問票の提出期間については、教養教育推進機構（教養教育科目）、各学部及び各研究科（以下「学部等」という。）において適切な時期を定める。

2 申請場所については、学部等を所管する事務室（教養教育科目については教務課）とする。

(回答期間)

第4条 提出された成績疑問票に対しては、受け付けてから1週間以内に回答するものとする。

(周知方法)

第5条 提出期間等の学生への周知方法として、履修要項、掲示板及びポータルサイトへ掲載することとする。

(疑義)

第6条 回答の内容について疑義を申し出た学生に対しては、原則として担当教員が直接説明をすることとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、成績疑問票について必要な事項は、教養教育推進機構、各学部及び各研究科において定めるものとする。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

別紙様式1

令和 年 月 日 提出

成績疑問票

(医学部専門科目用)

学部・学年	医学部	年
学籍番号		
氏名		

※太枠内は、必ず記入してください。

試験科目名	
担当教員	
試験実施日	令和 年 月 日
内容	

※学生は、以下の欄は記入しないでください。

回答者氏名	
回答	

医療人育成課

(4) 再（追）試験受験願・試験欠席届

再（追）試験受験願用紙

医学部長 医療人育成課長 医療人育成課

担 当
教授印

再（追）試験受験願

令和 年 月 日

医学部長様

医学部 学年 番

学籍番号

氏 名

令和 年 月 日施行された 学試験に不合格
() のため欠席) となったので、再（追）試験を受験したく
許可下さいますようお願いいたします。

(注) 再・(追) のいずれか不要の文字は抹消すること。
追試験の場合は、試験欠席届を併せて提出すること。

試験欠席届用紙

医学部長 医療人育成課長 医療人育成課

担 当
教授印

試験欠席届

令和 年 月 日

医学部長様

医学部 学年 番

学籍番号

氏 名

下記のとおり、試験に欠席（しましたので・しますので）お届けします。

記

欠席の理由

欠席の日時

欠席の試験科目

(注) 欠席の理由は詳しく記入し、病気の場合は診断書等、事故の場合は事故を証明する
書面をそえること。
追試験を希望する場合は、追試験受験願いを併せて提出すること。

(5) 名古屋市立大学医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項

名古屋市立大学医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項

名古屋市立大学医学部
カリキュラム企画・運営委員会

1. セメスター試験について

4年生の臨床医学は4つのセメスターに分かれ、各セメスターはいくつかのユニットから成り立っている。各セメスターの最後にユニット毎の試験が行われる。試験は情報処理実習室における computer-based testing (CBT)形式で実施されている。試験の可否等については次のように定められている。

- ・ 60点を合格点とする。
- ・ あるセメスターにおいて全ユニットの平均点が60点に満たない場合、そのセメスターの全ての試験を不合格とする。
- ・ セメスター試験の追再試験は年度末に1回行う。追再試験に対する追再試験は行わない。
- ・ 試験問題は、共用試験 CBT や医師国家試験に準拠した形式で作成される。
- ・ 試験の時間割は、セメスター毎に掲示にて発表する。

2. 医学系共用試験

医学系共用試験は、臨床実習開始前の医学生が一定以上の能力と適性を持つことを確保するために、全国共通の基準に基づき行われる試験である。共用試験に合格すると、全国医学部長病院長会議から、Student Doctor の資格が付与され、認定証が発行される。共用試験は、臨床基本技能と態度をみる OSCE と医学・医療に関する知識をみる CBT という2つの試験で構成される。追試験・再試験は1回のみ行う追試験に対する再試験は行わない。

令和3年5月28日医政発0528第1号が公布され、医学系は令和5年4月から臨床実習前共用試験が公的な試験となる。

3. 共用試験の可否基準・成績としての利用方法について

OSCE は、一般診療に関する基本的臨床能力を客観的に評価する試験である。評価項目ごとの得点の合計と、6段階の概略評価で可否を判定する。

CBT は、基礎医学・臨床医学知識の総合的理解力を評価するコンピューターを用いた客観試験である。問題は共用試験実施評価機構にプールされている1万題を越える問題から出題され、受験者ごとに異なる。ただし、採点されるのは過去に一度出題され難易度が分かっている問題のみである。統計的な処理によって全体の難易度は標準化されて、受験者ごとの難易度が等しくなっている。なお、全国医学部長病院長会議はCBTの全国一律の合格ラインを能力値 IRT 359 としているが、本学では能力値 IRT 378 以上であることを合格基準とする。

平成27年度より、全国医学部長病院長会議の通達により、前年度の共用試験結果を次年度に持ちこして利用を認めないこととなった。ついては、他の進級要件を満たせず原級留置となった際には、共用試験も再履修しなければならない。

4. 共用試験の内容に関する守秘義務について

OSCE および CBT からなる共用試験は、医師免許を保持しない医学生に診療参加型臨床実習を行わせることに対する社会や患者の理解を得るために、日本の医学部・医科大学が自主的に行っているものであることから、試験の公正さと厳正さも自ら保証する必要がある。これに基づき、医学生には、受験の前後を問わず、共用試験の運営や受験を通じて知り得た内容についての守秘義務が課されており、この試験の信頼性を損なう行為やそれを疑わせる行為は厳しく禁じられている。

5. 著作権の問題について

本学医学部内の試験問題は、医学部が著作権を有する。昨今こうした問題を収集する外部業者があつて、問題文や画像が流出する事例が相次いでおり、全国的に問題になっている。許可なく学外に漏洩した場合、カンニングと同様、不正行為扱いとするので注意すること。特にインターネット上で自由に閲覧可能なサイトに掲載した場合、大きな問題が起きる可能性がある。

許可を得ずに試験問題文を利用できる範囲は原則として同一学年のみとする。

6. 過去の問題の解答について

過去の問題について一部の正解が公表されているが、問題の適切性や正解は、日進月歩の医学・医療環境において、常に変化している。疫学・統計的なデータはもちろん、診断や治療についても同様である。解答のみを丸暗記する愚行は厳に謹んでもらいたい。

以上

(6) 共用試験についての留意事項

共用試験についての留意事項

共用試験 CBT と OSCE は、医学生に臨床実習をさせてよいかどうかの学生の能力と適性を評価するために実施されている全国的規模の試験です。この試験が適正に行われ、合格できなければ、医学生に医行為をさせてよいという、医師法の違法性を阻却する事由になりません。そのため、入学試験や国家試験と同じような厳正さが求められている試験です。また、この問題を外部に漏洩することも禁じられており、そのことが明らかになった場合には、学生本人の責任が問われるばかりでなく、大学としての責任も問われ、CBT の参加資格が取り消される可能性があります。さらに臨床実習にご協力いただく患者さんからは、そのような大学や学生には協力しないどころか、そのような学生は医師にすべきではないとの意見が出るでしょう。皆さんはそのことを十分認識して、よい成績を収められることを期待します。

共用試験実施機構

* 医師ではない医学生が医行為をすることは、医師法で禁じられています。それにも関わらず学生に医行為を許可するためには、次の事由(違法性の阻却要件)を満たす必要があります。

学生が医療行為を行うことの違法性の阻却要件

1. 必要な能力を有していることの保証
2. 医師が行う場合と同等の安全性の確保

医学教育を行う大学は、CBT と OSCE に合格していることを、学生が必要な能力を有している証拠として、社会に呈示しようとしている。共用試験の公正性の保障がその基盤となる。

共用試験の公平性を妨害する不正な行為が認められた場合は、退学を含め厳正な処分が下されることがある。

共用試験 CBT および OSCE の守秘等に関する説明ならびに同意書より

1. 共用試験 CBT および OSCE の守秘等についての説明

未だ医師免許や歯科医師免許のない医学生や歯学生在臨床実習で医行為をするに当たっては、事前に適切な評価を受けて、十分な能力があることが確認されていなければなりません。その目的のための重要な全国規模での試験が共用試験です。

そのため、この共用試験では、医師国家試験や歯科医師国家試験並みの厳正さが要求され、試験問題は厳重に管理される必要があります。試験問題の漏洩や営利目的利用への加担等、試験の公平性が損なわれるような行為は固く禁止されています。これらの遵守事項違反が認められた場合には、当該学生の共用試験 (CBT, OSCE) 試験結果は取り消され、当該年度の共用試験の受験資格を取り消します。

なお、CBT および OSCE の内容につき万一漏洩等が起こった場合は、平成 31 年 2 月 22 日付の「遵守事項」に準じ、本大学が共用試験に参加できなくなる等の可能性があります。

(7) 卒業試験 総合客観試験について

卒業試験 総合客観試験について

I. 試験の目的

学習の到達度が、必須最低限のレベルに達しているか否かを評価する。

II. 試験の方法

1. 直近4年間の国家試験問題およびその類題を選別・作成し、そこから出題する。各科目の問題数は、最新の国家試験に準ずる割合とする。類題については選択肢の順番の入れ替えや選択肢の一部変更のみとし、試験問題の趣旨や難易度を大きく変えないように配慮する。禁忌問題は設定しない。
2. 合否判定基準は、国家試験のそれに準ずる。不合格者及び欠席者に対しては再試験を実施する。
3. 総合客観試験1の再試不合格者及び欠席者については、総合客観試験2の再試を総合客観試験1の再々試験とみなす。
4. 総合客観試験2の再々試験は行わない。
5. 総合客観試験1および2の両者の合格をもって総合客観試験の合格とする。
6. 最終合否判定は、総合判定会議をもって行う。

III. 2023年の総合客観試験日程

【総合客観試験1】

本試 2023年3月23日(木)、3月24日(金)

対象：全員（2グループにわかれて受験）

再試 2023年8月25日(金)

対象：総合客観試験1本試不合格者及び欠席者

【総合客観試験2】

本試 2023年11月9日(木)、11月10日(金)

対象：全員（2グループにわかれて受験）

再試 2023年12月15日(金)

対象：総合客観試験2の本試不合格者及び欠席者、総合客観試験1の再試不合格者及び欠席者

(8) 名古屋市立大学医学部 臨床実習資格基準

次の基準をすべて満たしていること。

ア. 履修規程で定められた4年生までの教養、専門科目を全て履修していること。

イ. 共用試験OSCE、CBTに合格していること。

ウ. 必要な感染症対策を行っていること。

次の感染症の抗体検査を受け、実習開始までに抗体のないものについては必要な予防接種を受けていること。(接種の記録を大学へ提出すること)

B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、ムンプス

また、結核についてはT-SPOTを受けること。

このうち、B型肝炎抗体検査・T-SPOTは大学で実施する。

エ. 学生賠償責任保険に加入していること。

(2017.02.28 医学部教授会決定)

(2021.12.14 医学部教授会決定)

(9) 名古屋市立大学医学部 医療系実習参加資格基準

次の基準を満たしていない学生は医療系実習への参加を認めない。

1. 必要な感染症対策を行っていること。

次の感染症の抗体検査を受け、抗体のないものについては入学年度の6月末日までに必要な予防接種を受けていること。(接種の記録を大学へ提出すること)

- ・検査結果を提出するもの；麻疹、風疹、水痘、ムンプス
- ・ワクチン接種を各自行うもの；麻疹、風疹、水痘、ムンプス
- (・大学で検査およびワクチン接種を行うもの；B型肝炎)

2. 学生賠償責任保険に加入していること。

(2016.02.23 医学部教授会決定)

(10) アンプロフェッショナルな行動・態度のみられた学生の評価と対応

カリキュラム企画・運営委員会

臨床実習小委員会

2021年12月

名古屋市立大学医学部医学科では臨床実習の評価の一つとして、アンプロフェッショナルな行動・態度の評価を行います。「アンプロフェッショナルな学生」は以下のように定義します。

診療参加型臨床実習において、学生の行動を臨床現場で観察していて、特に医療安全の面から、このままでは将来、患者の診療に関わらせることが出来ないと考えられる学生

患者さんの診療に現場であたる臨床医としての視点で、今後この学生が臨床医になって診療に関わる上で、特に医療安全の面から、明らかに不適切と思われる行動や態度が見られた場合、その事例について別紙にできるだけ詳しく記述下さい。その際に、直接ご自身で観察された情報と間接的に得た情報とを可能な限り区別していただくようお願いいたします。

本評価は、各診療科での臨床実習の合否判定とは独立して運用します。臨床実習小委員会で内容を確認し、メンターや臨床実習小委員会委員から注意と指導を行います。

問題行動が繰り返してみられ、改善の認められない場合は、在籍している学年の最初からのやり直しを検討します。決定は、カリキュラム企画・運営委員会、教授会の審議によります。

精神疾患も含め疾病の関与が懸念される場合は、臨床実習小委員会やメンターから保健管理センターの医師に相談し、適切な医療機関を受診するように指導します。

以下にアンプロフェッショナルな学生の例を提示します。京都大学医学部学務委員会臨床実習倫理評価小委員会が提示しています。参考にさせていただいて評価し、報告ください。

- ・初日の集合時間（朝9時）に、連絡なく大幅に遅刻して午後（13時）にしか出てこなかったのみならず、以後毎日、病院の職員が学生宿舎まで迎えに行かなければ、実習に出てこなかった。【診療チームの一員としての責任感】
- ・診療チームの一員として、毎朝、担当患者さん（1名）を回診して、9時からの指導医回診でその状況を報告する役割を与えているが、全く患者さんのところに行かないばかりか、指導医回診で虚偽の報告を行った。【診療チームの一員としての責任感+誠実な行動】
- ・臨床実習に殆ど出席せず、遅刻した症例発表会での発表内容、症例報告レポートの内容が非常に乏しかったため、追加レポートを求めたところ、真夜中に病棟に現れて、カルテのプリントアウトを大量に行った。プリントアウトの最中にナースステーション内でゲームをしていたため、夜勤の看護師が指摘したところ、素直に従わないどころか、「看護師のくせに偉そうなことを言うな」と逆ギレした。【診療チームの一員としての責任感+知識・技能の向上に対する努力+他職種との協働+患者に関する情報の守秘義務】
- ・実習中に何処で何をしているのか分からない上に、PHSで連絡をしても繋がらない。なんとか見つけだして担当患者さんの病状説明（がんの告知）に同席させたところ、居眠りをしてしまい、患者さんが激怒した。【診療チームの一員としての責任感+患者さん/家族に対する態度】

- ・実習中に、連絡なく欠席・遅刻を繰り返した。最終日に、レポートの内容が乏しいことを指摘すると、ふてくされた態度になった。無断欠席・遅刻に関して医学生としてふさわしくないことを伝えると、謝るところか、無言のままプイとそばを向いて部屋を出て行った。【診療チームの一員としての責任感+知識・技能の向上に対する努力+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢】
- ・指導医・他の医療スタッフに対して、基本的な挨拶（おはようございます。ありがとうございます。すみません。など）が全くできず、また十分なコミュニケーションもとれない。担当患者さんに対しても同様の態度であったため、患者さんからクレームが来た。そのことを学生に伝えると、「あんな患者は京大病院に来なくていい」と言い出した。【患者さん/家族に対する態度+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢+礼儀と基本的な挨拶および服装】
- ・臨床実習で担当した外国人の患者から、担当学生の態度がよくないとのクレームがあった。これを学生に伝えたところ、「こんなことで文句言うなんて絶対おかしい。あいつら〇〇人って、やっぱり、価値観、変」と、ナースステーションで、患者さんに声が聞こえることも気にせず大声で叫んだ。【患者さん/家族に対する態度+社会的カテゴリーに基づく差別】
- ・Twitter®に「〇〇病院の呼吸器内科で実習中なう。めっちゃ稀な△△病の患者さんの担当になったので勉強が大変(><)。でも若い女の子（しかも家が下宿の近所！）なのでいつも以上に頑張っています！」とツイートし、さらにはFacebook®（自分の下宿の住所が閲覧可能）に友達限定で同じ内容をレントゲン写真つきでアップした。【患者に関する情報の守秘義務】
- ・ある勉強会に参加したところ、製薬会社が後援しており、とても高価な弁当をごちそうになった。以後、製薬会社の後援する弁当付き勉強会に診療科を問わず全て出席した。さらに、どの製薬会社がどの程度の値段の弁当を提供しているかについてのランキング表を写真付きで作り、「こんな弁当がただで食べられるなんて、やっぱ医者ってすげー。でも□□製薬さんにはもうちょっと頑張ってもらわないとね」とのコメントをつけて自身のブログにアップした。【利益相反による弊害】
- ・一緒に住んでいる甥が3日前に病院でインフルエンザと診断された。昨日から自分も熱が出てきたが、次の実習先の診療科は厳しいとの評判を聞いていたので、休まずに臨床実習に出席し、担当患者さん（免疫抑制状態）のベッドサイドに毎日足を運び、看護師とのカンファレンスにも積極的に出席した。「熱っばいの？大丈夫？」と指導医に言われたが、「大丈夫です」とだけ答えた。【院内指針の遵守】
- ・〇〇診療科では、毎朝、担当患者を診察して、その内容をカルテに記録し、指導医に内容を確認してもらうことになっていた。ある日、寝坊して、朝、病院に行けなかった。指導医にはたまたま（寝坊したことが）見つからなかったが、患者さんは検査に行ってしまうと、朝の回診はできなかった。その診療科の教授がとっても怖いという評判だったので、電子カルテの記載時間を修正して（調整して）、午前中に診察したかのように電子カルテに記録した。【不正行為への関与】
- ・朝のカンファレンスにギリギリにやってきたかと思えば、寝ぐせだらけの頭に無精髭、ダメージジーンズ、裸足にクロックス®、実習が始まってから1回も洗濯に出してなさそうな白衣を羽織って前のボタンもとめずに現れた。患者さんやスタッフから苦情が来たため、服装を正すように本人に伝えたが、本人は気にしている様子は全くなく、実習中、ずっと同じような格好で病棟に現れた。【服装+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢】

※「これまでに国内外の大学医学部においてアンプロフェッショナルと評価された行動などを参考に、あくまで評価をする際に参照する目的で作成しました。よって、京都大学医学部医学科にこのような学生が在籍しているというわけではありません。」とのコメントがあります。

(出典：<http://cme.med.kyoto-u.ac.jp/sd/unprofessional.pdf> 京都大学医学研究科 医学教育・国際化推進センター)

(11) 定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針

(平成27年4月1日 学長決定)

名古屋市立大学学生懲戒規程（以下「懲戒規程」という。）第23条の定めるところにより、同規程第3条第1項第4号に掲げる試験等における不正行為に関し、以下のとおり定める。

（定期試験における不正行為の定義）

第1 定期試験において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) カンニング（カンニングペーパーを所持し又は見ること、持込みが許可されていないテキスト等を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- (2) 試験時間中に、答えを教えるなど他の受験者を利するような行為をすること。
- (3) 試験時間中に、携帯電話等を使用すること。
- (4) 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。
- (5) 試験開始の指示の前に問題を見たり解答を始めること。
- (6) 試験終了の指示に従わず、解答を続けること。
- (7) 試験時間中に、携帯電話、時計等の音（着信、アラーム、振動音等）を長時間鳴らすなど、試験の進行に多大な影響を与えること。
- (8) 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- (9) 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- (10) その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

（定期試験に代わるレポート課題における不正行為の定義）

第2 定期試験に代わるレポート課題において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) 既に公表されている著作物やウェブサイトに掲載された他人の文章や図表等の全部又は一部を、引用・出典を明示せずに、故意にあたかも自分自身の作成した文章や図表であるかのように利用すること。
- (2) 他人が作成したレポートの全部又は一部を、あたかも自分自身の作成したレポートであるかのように提出すること
- (3) その他、定期試験に代わるレポート課題の公平性を損なう行為をすること。

（懲戒等及び措置）

第3 第1又は第2に規定する不正行為を行ったものとみなされた学生に対しては、懲戒規程に基づき、懲戒処分（戒告、停学若しくは退学）又は学部長等による嚴重注意（以下「懲戒等」という。）を行う。

2 前項に規定する懲戒等とあわせて、学部長等は、学部等の教授会の議を経て、不正行為の態様に応じて次の各号のいずれかの措置を行うものとする。

- (1) その学年における全ての科目の履修及び成績を無効とする。
- (2) その学期における全ての科目の履修を無効とする。ただし、通年科目の取扱いは、学部長等が教授会の議を経て決定する。
- (3) 当該科目の履修を無効とする。なお、不正行為により教養教育の英語科目が無効となった場合は、当該懲戒等が行われた年度には英語検定試験による単位認定は行わない。

3 前項の規定にかかわらず、その学年における医学部専門教育科目のうち、不正行為を行った時点において、既に履修を終えている科目についてはその履修及び成績を無効とし、現に履修中の科目についてはその取扱いを学部長等が教授会の議を経て決定する。

(懲戒等の通知及び公示)

第4 第3に基づき懲戒等及び措置を行うときは、懲戒等の種類に関わらず、当該学生に通知し、及び公示するものとする。

2 前項の通知については、懲戒処分である者にあつては懲戒規程第14条に定めるところにより、学部長等による嚴重注意である者にあつては同条の例により、それぞれ行うものとする。

3 第1項の公示については、懲戒処分である者にあつては懲戒規程第15条に定めるところにより、学部長等による嚴重注意である者にあつては同条の例により、当該学生の所属、学年、懲戒等の種類、懲戒等の理由を掲げるほか、措置の内容を明らかにする。

4 第1項および前項の公示は、次の各号に掲げる場所に掲示することにより行う。

- (1) 当該学生が所属する学部等の掲示板
- (2) 教養教育科目における不正行為の場合、前号に加えて教養教育の掲示板
- (3) 懲戒処分を行う場合、前2号に加えて他の学部及び研究科の掲示板

(その他)

第5 第3に定める懲戒等及び措置の基準については、別に定める。

付 記

1 この指針は、平成27年4月1日から施行し、平成27年度に実施する定期試験及び定期試験に代わるレポート課題から適用する。

2 定期試験に準ずる試験及び集中講義に係る試験についても、この指針を準用する。

3 定期試験に準ずる試験に代わるレポート課題及び集中講義に係る試験に代わるレポート課題についても、この指針を準用する。

【レポート課題作成時の注意】

レポートは、自分で調べたことや考えたこと等を自分の文章で記述するものです。

他の文献等を調べ学ぶことは非常に重要ですが、それを引用する場合はルールがあります。引用する場合は、引用した部分とそれに関する自分の考えの部分をはっきりと区別して示す必要があります。

他人の文章、図表をあたかも自分のオリジナルであるかのように利用することは、「剽窃」(盗作)であり、定期試験等に代わるレポート課題に関しては、「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」に基づき、試験におけるカンニングと同様に不正行為とみなされ処分等の対象となります。授業においても指導されるレポート作成に当たってのルールを守ってレポートを提出して下さい。

(12) SNS 利用時の注意事項

名古屋市立大学医学部 SNS 利用時の注意事項

1. 一般的注意事項

ソーシャルメディア（インターネット上のブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）、電子掲示板、動画投稿サイト等、特定または不特定の人に情報共有を行うメディア。Facebook、Twitter、Instagram、LINE 等）への投稿・情報発信は、当事者の学生間では問題無いような書き込みでも、第三者との関わりにより、重大なトラブルになる可能性がある。公開した内容、事案によっては懲戒処分の対象となりうるため、下記に十分に注意すること。

誹謗や中傷になることを投稿しない。

不当に対象者の社会的評価を貶めた場合、名誉棄損として損害賠償の対象になりうる。

個人情報等に関する投稿をしない。

実名でなくても、所属、行動、居住地域など他の人の情報、写真、動画等により、個人を特定できれば個人情報となる。

法やモラルに反する内容を投稿しない。

悪ふざけで投稿した内容でも法やモラルに反していれば、第三者に発見・特定され、処罰の対象となりうる。

大学や職務上（アルバイト等）で知り得た情報を投稿しない。

大学や職務上で知り得た情報を無断で発信することは、守秘義務違反となりうる。また、講義資料等を SNS に投稿することや他のインターネットサイトにアップロードすることを禁止する。

2. 実習における注意事項

カルテの内容など患者情報を漏らしてはならないことは当然であるが、実習の内容、病院等の内部情報（建物、宿舎、指導医や医療関係者の様子など）を投稿しない。実習先施設においても重大な問題となる場合がある。指導内容についての感想などはたとえ良い内容であっても、信頼を損ねることもある。

学生間では問題ないような投稿であっても、個人情報の漏洩、名誉毀損、プライバシー侵害、守秘義務違反となる可能性があるため、

実習にかかわる内容についてソーシャルメディアに投稿することは、個人の感想や関係者への謝辞等も含め、禁止とする。

2020年12月18日

カリキュラム企画・運営委員長

名古屋市立大学 医学部長

(13) 名古屋市立大学医学部学生代表委員会規約

名古屋市立大学医学部学生代表委員会規約

第1章 総則

第1条(規約)

本規約は、名古屋市立大学の医学部学生代表委員会の諸活動を、公正かつ円滑に行うための手段、諸手続きを規定することを目的とする。

第2条(名称)

本会の名称を名古屋市立大学医学部学生代表委員会(以下代表委員会)とする。

第3条(所在地)

本会の事務局を名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄一旧厚生会館2F代表委員会室に置くものとする。

第4条(用語の定義)

この規約において次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定める所による。

(1) 代表委員会会議

代表委員会によって行われる会議。名古屋市立大学医学部の学生組織の学生大会に次ぐ意思決定機関。

(2) 代表委員

医学部の各学年より3名ずつ選出されるものとする。1年生の11月に選出を行うものとする。

(3) 代表委員会執行部

会長、副会長、会計、カリキュラム部門、川澄キャンパス改善部門より成立し、本会を運営することを職責とする。

第2章 目的及び活動

第5条(目的)

本会は、本学医学部学生の学生間の交流を深め、大学教職員と連携して有意義な学生生活を送る環境を育み、もって名古屋市立大学の発展のみならず、地域社会、日本社会の発展に寄与することを目的とする。

第6条(活動内容)

本会は第5条の目的を達成するため、次に掲げる活動を行う。

(1) 本会に所属する団体への支援

(2) 各学年への連絡事項の伝達

(3) 学生生活の向上に関する活動

(4) 医学教育の向上に関する活動

(5) 学生間で調整が必要な事案についての協議

(6) その他目的を達成するために必要な活動

第3章 会員

第7条(会員)

本会は、名古屋市立大学医学部の学生全員を以て組織する。

第8条(会員の権利)

本会の会員は次の権利を有する。

(1) 本会の活動によって生ずる権利を平等に受けること。

(2) 本会のあらゆる組織に意見や要求をすること。

(3) 本会のあらゆる会議に出席すること

(4) 本会の各組織の記録文章を閲読すること。

(5) 本会の諸組織へ、本規約にしたがって参加すること。

(6) 本会執行部に対して解職請求を行うこと。

第9条(会員の権利の保護)

本会の会員は本規約以外のいかなる規約によって、本会の会員たる権利を失わない。

第10条(会員の義務)

(1) 本規約に従うこと

(2) 本会の決定に従うこと。不服がある場合は本規約の規定に伴い、不服申し立てを行うこと。

第4章 団体

第11条(団体)

本会は以下の団体を有する。各団体に関する細則は別記する。

- (1) 代表委員会
- (2) 代表委員会執行部

第12条(代表委員会)

(1) 代表委員の選任

1年次の11月に各学年から3名を選任し、代表委員とする。

(2) 任期

代表委員の任期は原則6年生の卒業時までとする。ただし原級措置を受けた場合はその限りではない。

(3) 解職請求

各学年の構成員の1割の署名があった場合、代表委員に対して解職請求を行うことができる。解職に至った場合、その後1か月以内に新規の委員を選任する。

第13条(代表委員会執行部)

(1) 役職

本執行部は以下の役職より成立するものとする。任期はいずれも選出された当日から次期執行部が選出されるまでの1年とする。

1) 会長

定員を1名とする。諸会議の招集、および議事運営、その他全業務を担当する。ただし、同じ者の再任はこれを認めない。

2) 副会長

定員を1名とする。会長の補佐、全体の調整及び、諸会議の運営。会長が何らかの理由で職務を執行できない場合、その職務を代行する。

3) 会計

定員を1名とする。予算の作成及び執行、決算書の作成を行うものとする。

4) カリキュラム部門

医学部各学年のカリキュラムの改善を目指し、各学年からカリキュラムについて要求を吸い上げ、教員側に提案するなどの活動を行う。

5) 川澄キャンパス改善部門

川澄キャンパスの美化・改善に努める。具体的にはロッカーなどの定期清掃、キャンパス環境・設備改善に対する提案を行う。

(2) 役職の選任

毎年度4月に代表委員による公正な選挙を行うこととする。本選挙の管理は前年度会長が行い、出席委員の過半単を以て選任される。ただし、候補者が定員数であった場合、信任投票を行い、出席委員の過半数の賛成によって信任とする。

(3) 被選挙権

会長は代表委員から選出されるものとする。他の役職はこの限りではない。

(4) 任期

執行部の任期は1年間とする。

(5) 解職請求

名市大医学部代表委員会全構成員の1割の署名があった場合、執行部に対して役職ごとに解職請求を行うことが出来る。解職請求があった場合、学生大会を開催し、解職請求に伴う選挙を行い、過半数の賛成により解職される。解職された場合、1か月以内に再選挙が行われるものとする。

第5章 会議

第14条(会議)

本会は以下の会議を有する。

- (1) 学生大会及び学生投票
- (2) 代表委員会会議

第15条(委任状)

本会の諸会議に欠席する場合、委任状を提出することが出来る。委任状がある場合、会議に出席したものとみなし、議決に際しては委任状を有する代理人が代行するものとする。

第16条(代表委員会会議)

(1)代表委員会 学生大会に次ぐ本会の意思決定機関である。

(2)会議の種類

1)代表委員会会議は、定例会議及び臨時会議とする。

2)定例会議の、次回開催日時は、各定例会議において決定するものとし、必ず1か月に1回は開催するものとする、ただし、夏季・冬季・春季休暇中はこの限りではない。

(3)議長

本会議の議長は代表委員会会長が兼任し、やむを得ず不在の場合は副会長が行うものとする。

(4)会議の招集

1)代表委員会会議は、議長がこれを招集するものとする。

2)代表委員は第16条(2)第3項に関わる事態が発生した場合、議長に対し全委員の1/3以上の賛成を以て臨時会議召集の要請を行うことが出来る。

3)議長は前項に基づく臨時会議召集の要請がある場合で、定例会議の日程では事態の収拾に対し、避けがたい事態が発生すると判断した場合、速やかに臨時会議を招集しなければならない。

(5)成立条件

本会議は全代表委員の過半数の出席を以て成立するものとする。ただし、医学部の実習等で出席できない場合はこの限りではない。

(6)採決

本会議の議決権は代表委員のみが有し、議案は本規約に特別な記述があるものを除いては出席者の過半数を以て議決され、賛否同数の場合、議長が採択するものとする。

第17条(規約)

(1)学生大会

本会の最高意思決定機関であり、本会全会員をもって構成される。

(2)開催

学生大会は代表委員で特別に全委員の2/3以上が必要であると判断した場合及び、代表委員執行部に対する解職請求がなされた場合に開催されるものとする。

(3)議長

学生大会の議事運営は代表委員会会長が兼任し、やむを得ず不在の場合は副会長が行うものとする。

(4)成立条件

学生大会は全構成員の1/3以上が出席した場合、成立するものとする。また、出席できない場合は委任状の提出により出席とみなすものとする。ただし、医学部の実習等で出席できない場合はこの限りではない。

(5)採決

学生大会の議案は本規約に特別な記述があるものを除いては出席者の過半数を以て決議され、賛否同数の場合、議長が採択するものとする。

第6章 会計

第18条(収入)

本会の収入は学友会による援助金、その他によって成り立つものとする。

第19条(予算承認)

本会予算は、執行部会計が立案し、代表委員会会議の出席代表委員の過半数の賛成によって承認されるものとする。

第20条(監査)

本会の決算は毎会計年度3月に代表委員会会議において監査するものとする。

第21条(公開)

本会の予算書、決算書は要求があれば全て学生用掲示板において公開されるものとする。

第22条(会計年度)

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、3月31日に終了する。

第8章 罰則

第23条(代表委員会による処分)

代表委員会は本規約に違反した個人、及び諸団体に対し、代表委員会会議の会一致を以て以下の処分を下すことができる。

- (1) 本会における権利の停止
- (2) 警告、訓告

第24条(処分理由の通知)

代表委員会が前条の行為を行った場合、関係者に対して速やかに処分内容、処分理由を通知しなければならない。

第9章 異議申し立て

第25条(不服申し立て)

(1) 不服申し立て

名古屋市立大学医学部学生、名古屋市立大学医学部が代表する団体は代表委員会の議決、または処分行為により不利益が生ずることが予測されるまたは生じた場合、当該議決・処分行為に対する不服の申し立てを行うことができる。

(2) 不服申し立てに対する対応

不服の申し立てを受けた場合、代表委員会は10日以内に当該人物または当該団体に対し、当該処分行為についての説明または再処分を行わなければならない。

第26条(不服申し立ての際の処分執行の停止)

(1) 処分の執行停止

前条に基づく不服の申し立てがなされた場合、代表委員会は当該処分についての解決がなされるまでの間、当該処分の執行の停止をしなければならない。

(2) 緊急時の処分

前項において、その処分の執行を停止することにより、更に大きな不利益が生ずると判断される場合、当該処分の執行は出席委員の全会一致を以てこれを行うことができる。

第27条(規約違反行為への異議申し立て)

(1) 規約違反行為への異議申し立て

代表委員会の行為について本規約に対して重大な違反の有ることを知った者は議長に対し、当該行為の取り消しを求める直接請求を行うことができる。

(2) 規約違反行為への異議申し立てへの対応前項の直接請求を受けた場合、代表委員会は直ちに当該行為を取り消す、または当該行為の再検討を行わなければならない。

第9章 補則

第28条(規約の改廃)

本規約の改廃は代表委員会の発議により、代表委員会会議出席者の2/3を以て行われるものとする。

第29条(規約の適用範囲)

本規約は名古屋市立大学医学部学生のみ適用するものとする。

附則

本規約は2008年10月1日より発効する。

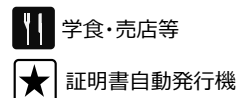
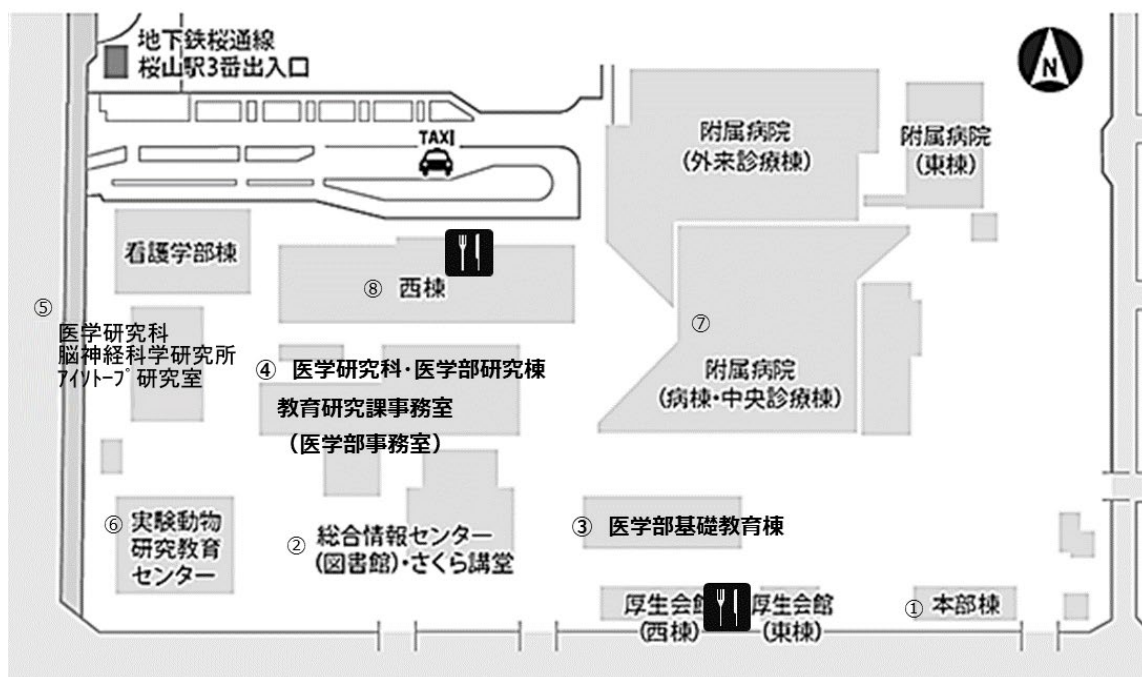
附則

本規約は2017年6月21日より発効する。

11. キャンパスマップ

(1) 桜山（川澄）キャンパス建物配置図

桜山（川澄）キャンパス



①本部棟

- 4 F 多目的ホール 施設課
- 3 F 学長室
総務課
監査室
- 2 F 学術課
財務課
- 1 F 入試課
企画広報課

②総合情報センター 川澄分館 (図書館)

- 2 F さくら講堂

③基礎教育棟

- 6 F 解剖学実習室
- 5 F 大学院セミナー室
講義室 3
- 4 F 微生物実習室
生体機能学実習室
- 3 F 情報処理実習室 (PC)
顕微形態実習室
- 2 F 講義室 1
講義室 2
セミナー室
談話室
- 1 F 生化・法医実習室
更衣室 (M1-3 ロッカー)

④研究棟

- | | | |
|----------------------------|------------------------------|---------|
| 11 F 特別会議室 | 講義室 A | 講義室 B |
| 10 F 環境労働衛生学
公衆衛生学 | 麻酔科学・集中治療医学
精神・認知・行動医学 | |
| 9 F 細菌学
ウイルス学 | 腎・泌尿器科学
放射線医学 | |
| 8 F 薬理学
免疫学 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
加齢・環境皮膚科学 | |
| 7 F 細胞生理学
脳神経生理学 | 産科婦人科学
視覚科学 | |
| 6 F 病態生化学
細胞生化学 | 整形外科学
脳神経外科学 | |
| 5 F 実験病態病理学
臨床病態病理学 | 消化器外科学
腫瘍・免疫外科学 | |
| 4 F 統合解剖学
機能組織学 | 循環器内科学
新生児・小児医学 | |
| 3 F 法医学
神経内科学 | 消化器・代謝内科学
呼吸器・免疫・アレルギー内科学 | |
| | 心臓血管外科学 | |
| 2 F 地域医療教育学
リハビリテーション医学 | 血液・腫瘍内科学
会議室 共同研究室 | |
| | 更衣室(M4-6 ロッカー) | 臨床セミナー室 |
| 1 F 研究科長室
防災センター | 情報管理・教育センター
共同研究室 | |
| | 保健室 | |
| B1 F 中央監視室 | 法医解剖室 | 病理解剖室 |

⑤脳神経科学研究所

- 医学研究科アイソトープ研究室
- 7 F 認知症科学
- 6 F グリア細胞生物学
- 5 F 神経発達症遺伝学
- 4 F 神経毒性学
- 3 F 神経発達・再生医学
- 2 F アイソトープ研究室
- 1 F アイソトープ研究室

⑥実験動物研究教育センター 病態モデル医学

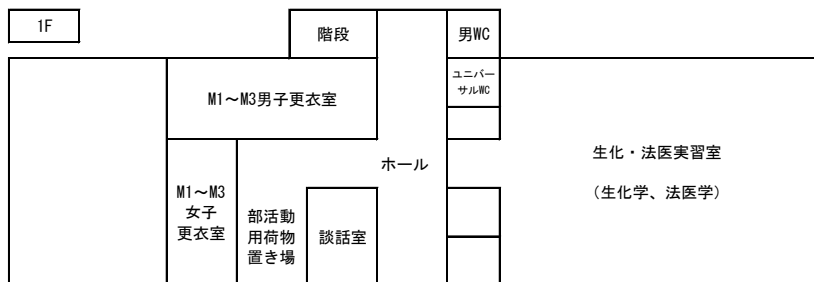
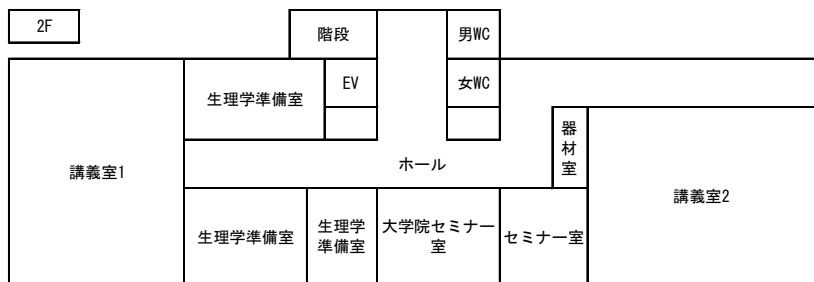
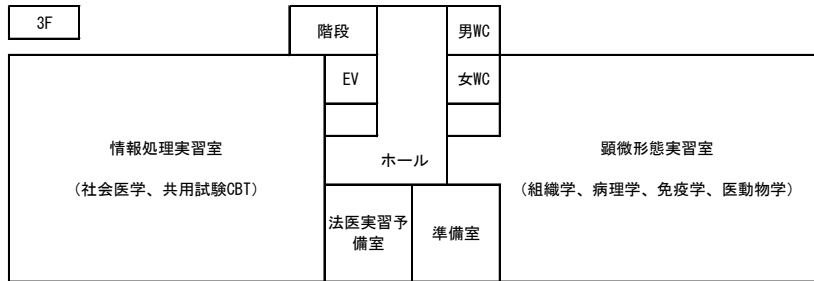
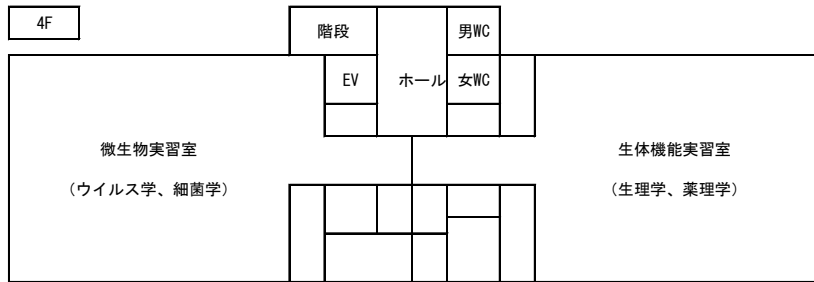
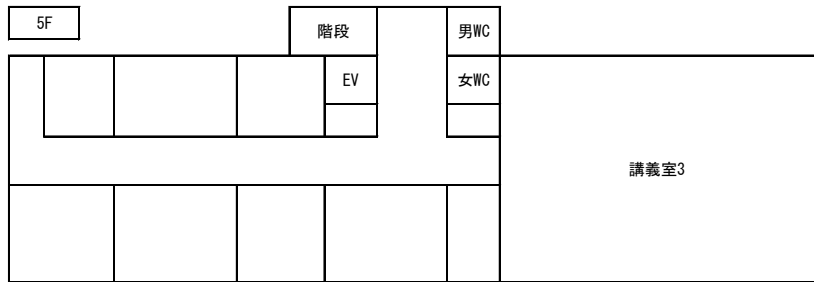
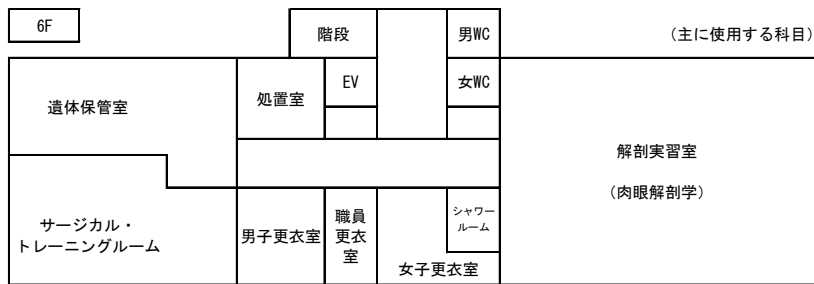
⑦病棟・中央診療棟

- 7 F 口腔外科学
- 4 F 腎臓内科学
- 1 F 臨床薬剤学

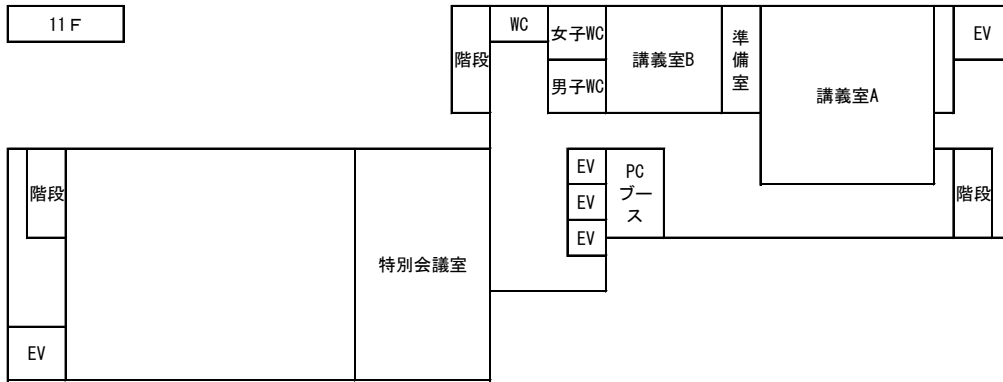
⑧西棟

- 3 F 研修室1~12
多目的研修室
- 2 F 乳腺外科学
小児泌尿器科学
- 1 F 臨床シミュレーションセンター
サクラサイドテラス

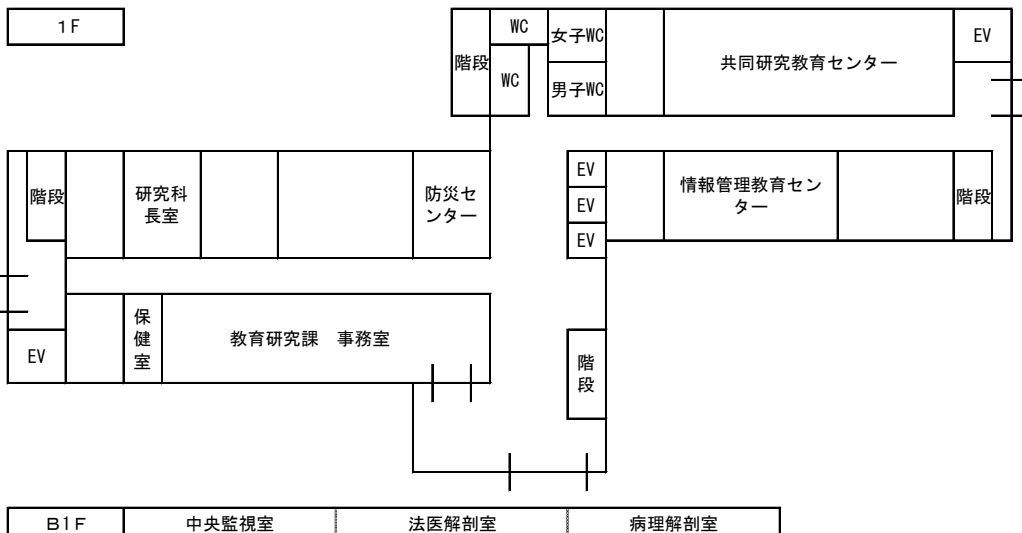
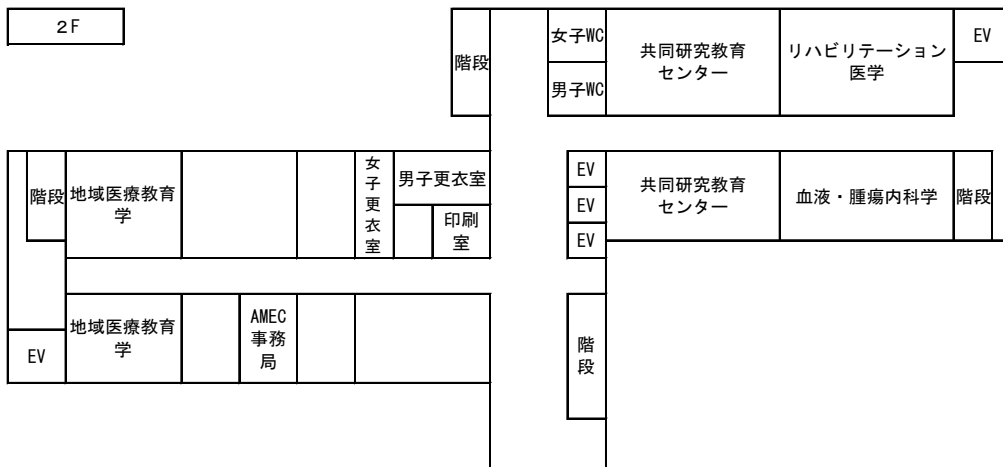
(2) 医学部基礎教育棟



(3) 医学研究棟



10 F	環境労働衛生学	公衆衛生学	麻酔科学・集中治療医学	精神・認知・行動医学
9 F	細菌学	ウイルス学	腎・泌尿器科学	放射線医学
8 F	薬理学	免疫学	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	加齢・環境皮膚科学
7 F	細胞生理学	脳神経生理学	産科婦人科学	視覚科学
6 F	神経生化学	細胞生化学	整形外科科学	脳神経外科学
5 F	実験病態病理学	臨床病態病理学	消化器外科学	腫瘍・免疫外科学
4 F	統合解剖学	機能組織学	循環器内科学	新生児・小児医学
3 F	法医学	神経内科学	心臓血管外科学	消化器・代謝内科学
				呼吸器・免疫・アレルギー内科学



B1 F	中央監視室	法医解剖室	病理解剖室
------	-------	-------	-------

(4) 西棟

3 F												
多目的研修室					階段							
					EV							
階段		倉庫		男子WG						男子WG		階段
				女子WG						女子WG		
研修室1	研修室2	研修室3	研修室4	研修室5	研修室6	研修室7	研修室8	研修室9	研修室10	研修室11	研修室12	

1 F												
					階段							
					EV							
階段		WG		臨床シミュレーションセンター						WG		階段
		模擬病室		内視鏡室	超音波・腹腔鏡	研修室 I		周産期・新生児室		多目的室		

2F は、看護学部が使用

